前田日明尾崎社長を暴行?or説教?"事件"の胸中をド激白!

28

2000

紙のプロレス RADICAL

マット界が乱れ、混乱した時こそ、
オーちゃんの出番!!
ヒクソン戦に照準OK!!
小川直也

田村が牙を剥きだした!
無差別対戦表明、咆吼!
田村潔司

桜庭vsホイス、ヒクソンvs船木
が生み出した「格闘リンク」の渦

驚愕! ヒクソン戦の話もあった
山ちゃんが、また言っちゃった!
満を持して登場!!
山崎一夫

仰天の張り手人生!
プロレス入りの噂を
真正面から語り倒す
旭道山

面白ェものに
リンクしまくる、
宇宙で唯一の
マット界の
総合誌!

ヒクソン、船木に完勝!
この決着が次のスタートを生んだ!

小川ッ出てこーいッ!!

持ってけドロボー!
「ヒロ杉山の格闘芸術ピンナップ」です!

ヘンゾ・グレイシー!
K・カシンを語りまくる!

アラン・ゴエスが
猪木さんの
秘話を語りまくる!

衝撃の登場!
TK秘話をしゃべり倒す!!
高阪"おかん"フミ

新日合宿所、ジャパン、
決起軍の秘話を大放出!
『紙プロ』スーパースター列伝
仲野信市

バト卒業後のビジョン
池田大輔

無念のリタイア! 次の道が
どうなるものか危ぶむなかれ
豊永稔

故・J鶴田夫人、衝撃の真実を独白!!

どうするどうなる全日、新日! 老舗の動向を刮目せよ!

紙のプロレス RADICAL 2000 NO.28
一つの決着は次のスタートを生んでいる!

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体800円

一つの決着は、次のスタートを生んでいる!!

サク、ホイスを撃沈!!
次なる笑顔は8・27!!
➡P2、P73へ～

何が起こったんだ!!
リングス前田総帥
パンクラス尾崎社長と
正面衝突!!
➡P42へ

船木完敗➡引退!!
ヒクソンの次の勝負は?
➡P2、P7、P73へ

大スキャンダル!
三沢、退団!!
どうなる全日!!
➡P2、P88へ

カシン、ヘンゾ戦へ!!
➡P18へ

7・30大仁田戦に出陣!
長州はどう動く!!
➡P38、P88へ

5月6月と、マット界に大激震が続いている。まさに「大スキャンダル続行ーーッ!」(アントン調)といった感じである。表面上はそれぞれのフィールドで起こっている出来事に見えても、インターネット時代を象徴するかのように、これが実は目に見えない部分でリンクしまくっているのである。この一連の流れは非常事態なのか？　新時代への予兆なのか？　まったく予断を許さない状況になってきたことこの上なし！　である

1R11分46秒、ヒクソンのチョークによって、船木が落ちた！　歴史に残る戦慄のシーンがドームに現出した

次の物語のスタートを生んだのはヒクソンだった!!

着流しに日本刀といういでたちで入場した船木。ヒクソン・ワールドに入ったかのような錯覚を覚えさせた

まるでコブラ・クラッチのような体勢で船木の身動きを止め、効果的にパンチを降り下ろしていくヒクソン

桜庭殺法を彷彿とさせる船木のローキック攻撃。直前のパンチもあって、「行けるか？」と思わせた瞬間だった

コーナー際の攻防から、一瞬上になった船木はパンチを2発。これによってヒクソンは目が見えなくなっていたという

山口日昇のサブウェイ「格闘リンク」トーク

次の「○○vsヒクソン」は、次の10年へのスタートになる!!

語り／山口日昇
text by Noboru Yamaguchi
写真／乾晋也(5・26)
photographs by Shinya Inui
写真／平工幸雄(5・1)
photographs by Yukio Hiraku

「5・26ヒクソン・グレイシー戦における船木誠勝の敗因はいろいろいわれているが、私は、船木がアントニオ猪木的でなかったことに尽きる――と結論づけた」。

『ファイト』6／15号に掲載されたコラムの冒頭で、I編集長こと、『週刊ファイト』前編集長の井上義啓さんが、こう書いてました。賛成です! このひと言に、「船木vsヒクソン戦」の本質のようなものが隠されていると思います。どうですかーーッ!

読者のみなさんも、そのへんをジックリ考えてみてください。以上!

と、終わってしまうわけにはいかないので、I編集長に敬意を表し、『ファイト』の往年の名連載「喫茶店トーク」の形を借りて、今回は進めさせていた……いきますかーーーーッ!

人は歩みを止め、闘いを忘れたときに老いて……いや、どーにも眠いもんで、ちょっと自分に喝を入れてみました。ところで、全日本プロレスの内紛が遂に表面化しました。6月16日には三沢光晴を筆頭にした全日離脱派が会見を開き、新団体を結成することを発表した。全日本に残るのは川田、渕のたった2名だけです。新団体名は、ノアの箱舟の「NOHA」(ノア)になるのが有力で、8月には始動するでしょう。あまりその名称は評判よくないですけどね(笑)。

いま、根も葉もない噂から始まって、将来的に三沢派が蝶野派とリンクするとか、川田派が天龍らを含んだ長州派とくっつくとか、秋山が『PRIDE』に参戦するとか、驚くべき超ド級の話まで含めて、いろんな憶測が飛び交っています。中には、そうなるだろうとの話はあるにはあるんですが、現時点で(6月17日) 100%確実なものはありません。

でも、これだけは言える。この激震は、全日本だけでは絶対に止まらない。いわゆる「純プロレス」のフォルムそのものにまで影響を及ぼしてきます。

新日本のほうも6月の第4週に行われる株主総会の結果を受けて、大きな地殻変動が表面化するでしょう。もうこの号が出る頃には大騒ぎになっているかもしれない。

「純プロレス」も、政治的な面、試合スタイルなどのソフトの部分、それらの〝膿〟が一気に吹き出てくる。猪木の引退、馬場・鶴田の死去によってこうなることはわかっていたけども、ここで一気に様変わりしていくでしょう。膿を出し切れば生体は蘇りますが、「純プロレス」自体は、これまでのやり方ではもう通用しない。「プロレス」を理解してくれるマニアに向けてだけ発信していてもダメだということです。

戦後、「プロレス」が果たしてきた役割、つまり力道山からアントニオ猪木に脈々と受け継がれてきた「プロレスを通じて、終生大衆に尽くす」という部分が肝心になってくる。

力道山やアントニオ猪木、また前田日明らが、なんであれだけの熱狂的な渦を起こせたかというと、ズバリ言えば、エネルギーを送りに行った観客に、それ以上のエネルギーを送り返していた。それに尽きるんです。人と人とのコミュニケーションというのは、エネルギーの交換ですから。猪木などは、プロレスに興味ない人にまで、〝エネルギーの素(もと)〟を気前よく配り続けて、よく〝素〟が尽きないものだと感心しますよね(笑)。でも、それも「闘い」なんですよ、プロとしての。自分のためにやっているのに、それが結果的に他人にエネルギーを与えている。それが超一流のプロの仕事です。自分のやっていることに理解を示してくれる人にしかエネルギーを使わない。そういうマニアックなプロ観では生き残っていけませんよ。「俺のことをわかってくれるやつは好きだけど、わかってくれない人は嫌い」というのは本音でしょうけど、〝いわゆる本音ってやつ〟には限界がある。その〝いわゆる本音ってやつ〟の壁を突破しない限り、ファンタジーは生まれてこねぇんです。

いま一度、「プロレスとは何か?」というものと向き合うことができる能力と体力が、まだ「純プロレス」に残されているのか。時代に対してエネルギーを突き刺していけるのか。いずれにしても、その答えは先延ばしにはならない。今年中にハッキリと結論は見えます。その一連の地殻変動の走りが全日分裂だということです!

あ、アイスコーヒー、おかわり。

●

一方、「新プロレス」のほうでは、5・1の『PRIDE・GP』では、桜庭和志がホイス・グレイシーを破り、5・26の『コロシアム2000』では、船木誠勝がヒクソン・グレイシーに完敗を喫しましたね。このふたつは、いまだに見た人の間に巨大な余韻を残してる。それだけ大きなターニング・ポイントだったということですよね。

この「桜庭vsホイス戦」『ヒクソンvs船木戦」を比較してみると、面白いことがわかります。

桜庭、船木は2人とも、ファン時代には「タイガーマスク」が好きだった。憧れの存在だったわけです。もちろん新日本で一世を風靡した佐山タイガーのことなんですけど、いまの佐山を思い浮かべちゃうとなんなんで、「タイガーマスク」という概念として捉えてください(笑)。

で、ズバリ言って、桜庭は「タイガーマスク」になったけども、船木は「タイガーマスク」にはならなかった! その違いがあるわけですよォォォ!

は? なにを言ってるかわからない? えーと、ちょっと待ってくださいね。いま、私も自分でなにを言ってるんだろうと思って、整理してるとこですから。

桜庭は〝いわゆる本音〟を突破した!!
小川、田村、近藤も名乗り!!

桜庭は、バーリ・トゥードというデンジャラスな勝負の場で、ローリング・ソバットやモンゴリアン・チョップをやったりする。ホイス戦では道着を脱がしたり、サンダーボルトを繰り出した。おまけにまんぐり返しの体勢から顔面パンチまで叩き落としたりね（笑）。これはもう、いくらホメてもホメきれないくらい凄いことなんですよ。
なぜかと言えば、桜庭は、〝いわゆる本音ってやつ〟の壁を突破して、我々に「ファンタジー」を見せてくれたからです。
佐山が〝虎の仮面〟を脱いだときに、『ケーフェイ』という奇書を出しましたよね。ま、本人は「ボクが書いたんじゃないで〜す。（ターザン）山本さんが書いたんで〜す」と言ってますがね（笑）。その本にはダブルアーム・スープレックスも四の字固めもブレーンバスターも、「相手の協力がなければ、なかば永久に決まらない技だ」と書かれている。極端に言えば、プロレス技は「相手の協力がなければ、なかば永久に決まらない」と言ってるわけです。つまり、格闘技の場ではリスクのある派手な技はできませんよと言ってる。
でも、桜庭は「それはそうだけど、できますよ。ニコニコ」とやってしまうわけです。
「タイガーマスク」の幻想を支えていたのは、「ただのお子さまランチではない凄玉としての資質」でしたよね。華麗な飛び技を繰り出すファンタジックな姿の裏で、格闘技的なリアリティを滲み出していた。当時、本格的な蹴りを使ってたのは「タイガーマスク」くらいですからね。華麗でいて、強い。おそらく桜庭も船木も、そこにビンビン来るものがあったんだと思います。
でも、桜庭と船木の間には、厳然たる「リアリティ観」の違いがある。
桜庭は、「ファンタジー」と「リアリティ」が地続きだということを本能的にわかってる。だから、技術と対応力を極限まで磨いて、派手な技も効果的に使えることを発見できたわけですよね。
一方、船木は「リアリティ」というものを、「地面に近い部分での事実」として捉えている。それこそが「本物だ」と捉えてるわけです。
船木は以前、「タイガーマスクになるためには、グラウンドが必要だと思った」と言ってました。それでプロレス流のセメントを学んで、UWFに行き、パンクラスを設立してブラジリアン柔術というものをプロレス界でいち早く導入して研究した。
でも、もうその頃には「タイガーマスク」は別物として認識されてたと思うんです。「タイガーマスク」という「ファンタジー」は「プロレス」だからできた、という割り切りですよね。だから、船木の場合は「ファンタジー」と「リアリティ」は地続きではなく、別物なんですよ。
船木はプロレスという「漫画」の世界がいやになって、格闘技という「劇画」の世界に身を置いた。で、その「劇画」の世界でいちばん強いと言われてるヒクソンと闘い、敗れた。その「船木物語」が完結したから、ヒクソン戦後に引退を表明したんでしょうね。あくまでも自分の辿ってきた道程に「矛盾」を生じさせず、一貫性と整合性を持たせたいとする美学ですよね。
それはね、勝負として考えれば、派手な技を繰り出してリスクを背負うより、徹底的にリスクを少なくして勝ったほうがいいに決まってます。本音を言えば、桜庭だってそう思ってますよ、きっと。
でも桜庭は、清濁あわせ飲む度量でもって、「矛盾」をも呑み込んで、「劇画」に対して、あくまで「漫画」の表現方法で勝負したわけです。マシン風マスクを被ってきたり、あれはもう「漫画」の世界ですよね。世間的にはまだまだ「漫画」のほうが「劇画」より一段低いと見られてる。でも、桜庭がホイスを破ったという事実は、「『劇画』だろうが『漫画』だろうが表現方法には貴賎はない。凄いもんは凄いんだよ」ということを証明してしまった（笑）。つまり、プロレスという「漫画」をバカにすんなよというエネルギーが、自分の憧れだった「タイガーマスク」がやったようなシーンを、リアルな勝負の場に立ち昇らせたんです。
桜庭はプロレスファンからもらったエネルギーを倍以上にして返した。船木は、ファンからのエネルギーを自分の物語のなかに吸収した。こういった違いが結果に繋がったんでしょうね。それが、桜庭は「『タイガーマスク』になったけども、船木は『タイガーマスク』にはならなかった」という意味です。こう言うと、桜庭を絶賛して船木を貶めてるように聞こえるかもしれませんが、そういうことを言いたいわけじゃないんです。船木がやってきた功績は素直に評価したいし、ヒクソン戦に賭けた逼迫した思いも十分伝わってきましたからね。
でも、船木は一体、「プロレス」から何を学んだんだろう、「プロレス」になにを見ていたんだろうと思うと少し寂しい気分になりますね。

●

その船木と対戦したヒクソンですが、やっぱりただ者ではないですよね。ホイラーやホイスらが続々と敗れていくプレッシャーの中で、結果を出した。これは凄いことですよ。猪木イズムの中に「ひとつの決着が、次の物語のスタートを生んでいる」というものがありますが、次のスタートを生んだのは、船木ではなくヒクソンでした。ヒクソンは、船木戦後に小川直也の名を口にして、「次の物語」の種をしっかり落としていった。
流れからいけば、当然、桜庭ということになるけども、『PRIDE』と『コロシアム』に闘うステージが別れていることを考えると実現は難しいかもしれない。船木のリベンジで近藤有己、『コロシアム』繋がりで田村潔司という線もある。いずれにしても、この〝グレイシー〟のボスキャラは「プロレス」にとっては敬意を持って倒しておかなければならない存在でしょう。
マット界全体の歴史を見渡してみると、10年単位で大きな波がきているのがわかります。1954年（昭和29年）にシャープ兄弟が来日して力道山&木村政彦が迎えうってからの10年は「力道山の開墾&闘魂プロレス」の時代、力道山が死去した翌年の64年（昭和39年）から73年（昭和48年）までは、ジャイアント馬場の「クラシック・アメリカン・プロレス」の時代。74年（昭和49年）から83年（昭和58年）まではアントニオ猪木の「闘魂ストロング・スタイル」の時代。84年（昭和59年）から93年（平成5年）までは「UWF」の時代。じゃあ、アルティメットが出現した翌年の94年（平成6年）から03年までの10年間はなんの時代なのか。いまのところは「格闘技」の時代、あるいは「グレイシー」の時代といえます。
ヒクソンが次の刺客を迎撃すれば、その10年は「グレイシー」の時代になるでしょう。でも、次に小川なり桜庭なりがヒクソンを倒し、「新プロレス」を形成していく強力な足掛かりにすれば、これはもう、「新プロレス」の時代、あるいは「プロ格」の時代を決定づけることになる。その時代の旗手になるのは、小川なのか桜庭なのか。桜庭vsヒクソンは、もう目から手が出るほど見たい。でも、「UWF」を象徴する高田、船木が敗れた以上、プロレスの歴史をもう10年遡って「闘魂ストロング・スタイル」の絶対的な旗手であった、猪木。その弟子である小川が出ていくのも実に夢がある。どっちが対戦権を手に入れるかこれも楽しみです。そういった意味でも「次の物語のスタート」をヒクソンが生んでくれたというわけです。ンムフフフ。
いずれにしても、いまは10年単位の象徴が外人勢にとって替わられるかどうかの瀬戸際なわけです。言ってみれば、次のヒクソンの試合は、94年から03年までの10年単位の「タイトル」を賭けた大一番ということですよォォオ。
ダーッ、もう時間がありません。これについてはもっと言いたいことはあったんですが、またの機会に。それじゃあ最後に、やっぱりいっときますか、例のやつを？……いきますかーーッ！　イーチ、ニーッ、サンッ……どこへ？

小川直也

最前線に出てこいッ!!

マット界が、乱れ、混乱した時こそオーちゃんの出番!!

ヒクソン戦、行きますかーッ!?

世間様まで巻き込む形となった4・7の破壊王戦。その一戦で負った肩の怪我を押してまで出場した5・5福岡ドーム——。村上一成を従え、おまけに〝謎の白覆面〟まで引き連れて中西学&永田裕志の持つIWGPタッグ選手権に挑戦したわけだが、それ以来、そのキャラに似合わず、オーちゃんは静寂を保っていた。

そして大激震が起こった。5・26、船木誠勝を〝落として〟勝ち名乗りをあげたヒクソン・グレイシーが、試合数日後、「小川直也」の名を口にしたのである。

事実上の対戦表明と取られてもおかしくないその発言に、オーちゃんはすぐにでも食いつくかと思われたが、意外にも、オーちゃんは、まだ鳴りを潜めていた。

「小川vs長州戦」へ傾いた流れから、急転直下の「長州vs大仁田戦」実現、K・カシンの『PRIDE』への接近遭遇、全日本の分裂騒動——『格闘環境』が刻一刻と変化して行く中で、オーちゃんはいったい何を考えているのか。

6月某日、こういうときだけは、「UFOの機関誌」に早変わりする本誌は、さまざまな情報源からオーちゃんが茅ヶ崎の浜辺にいることをキャッチした!

そこで見たオーちゃんは、とても肩を負傷しているとは思えないほど精悍で迫力あるたたずまいをかもし出していた。

遂に〝猪木イズム〟と〝グレイシー〟は邂逅をはたすのか?

オーちゃんはヒクソン発言をどう捉えているのか?

オーちゃんが言い放った「トカゲの胴体」とは何か?

とにかく、オーちゃんの精神は、とてつもなく元気だった。

小川ッ、出てこーいッ!!(アントン調)。

「トカゲのシッポじゃなく〝胴体〟を捕まえるよ!!」

感じたら走り出せ

マット界に非常ベル

2000

聞き手/山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影/森“モーリー”鷹博
photographs by Takahiro Mori

——なんか、日焼けしてますね。

小川 日に焼けないとね、夏は。

——ブラジル人のようで、実に精悍ですね(笑)。

小川 肩を壊して練習できないのを幸いに焼いとかないと、ちょっと恥ずかしいから。

——なぜだ!

小川 夏だから(笑)。

——ガハハハ! 前号は恒例のインタビューがなかったので、「オーちゃんはどうしてるんだ?」って声が殺到してますよ(笑)。

小川 嬉しいねぇ!

——普通、第一線の選手に「どうしてるんだ?」って声はないですよね、橋本選手のようなケースは別にして(笑)。

小川 ダーッハッハッハ。最近、『紙プロ』さんにはお世話になってないから、寂しかったですよ(笑)。

——また始まった(笑)。ぶっちゃけた話、5・5(福岡)以降、なにをやって、なにを考えてたんですか?

小川 いや、肩が予想以上に悪くなっちゃったから、しっかり治そうと思ってね。

——いま現在の状態はどうなんですか?

小川 けっこう長引いちゃってますね。でも、いまのとこ次の試合も決まってないし、いまだったらゆっくり治せるから。あと、今後どうやって行こうかっていう方向性も決めたかったしね。

——そこですよ! ファンがホントに知りたがってるのは。最近「インターネットは見ない」とかいう発言もあったし、小川さんのHPの日記を見てもプロレスに関することが書き込まれてないですからね(笑)。

小川 そうそう。最近競馬にハマってる

から（笑）。

――あ、日刊スポーツの競馬予想。「当たった」とか、「外れた」とか喜怒哀楽が実に激しいですよね（笑）。

小川　まあ、しばらくね、ちょっと現場から離れたほうがいいのかなぁと。そういう時期だったのは確かかな。

――それはまた、なぜですか？　状況を見つめ直すため？

小川　やっぱりね、入り込んじゃうと、自分の「枠」を自分で作っちゃうから。一回その枠を取っ払って、リセットしてね。「空白の時間」を作りたかったから。あと福岡に無理して出場して、その後、いい話になるのかなって思ってたのも潰れたしね。だから、逆にそれも空白の時間を作るにはよかったかなって。

――ズバリ聞きますけど、「小川vs長州戦」への流れは、完全に潰れたと見ていいわけですか？

小川　潰れたでしょ！（キッパリ）。

――「長州vs大仁田戦」（7・30横浜）が決まりましたよね。

小川　ある意味で、いいリセットですよね。あのまま、そういう流れになったらね、こっちも突っ走って行けたんだろうけど、ひと呼吸置かれちゃったから。向こうがなにを考えてるか、わかんないけどね。

――それに対して小川選手は、腹が立つという部分は？

小川　立たない、立たない。ファンの期待するポイントっていうのは、俺が思ってる中では、少なからず世代が違うのかなぁ？　その大仁田戦っていうのは、世代によって期待する世代と、「だったら見ない」っていう世代もいるだろうし、評価の分かれるとこだから。そこんとこが微妙にわかんないな。少なくとも俺の感覚から言えば「なに考えてんだ？」っていう（笑）。福岡でできた流れっていうのは、凄く大きなひとつの山が動いた、そういうものだったはずなんだけどね。ミスターXも登場したにも関わらず、なんかスカされちゃったよね。

――〝謎の白覆面〟を含んだ抗争が膨らんでいきそうだったんですけどね。

小川　要するに、見て面白いものが、どっちかっていうことだよね。

――小川選手が現場監督だったら、「小川vs長州」を選ぶということですね（笑）。

小川　そういうことです！　もうあっちは監督じゃないけどね、選手になったら。ひとつのエリアに降りて来たんだから。

――小川選手は、「（長州力が）選手のエリアに降りて来た場合は、張り返すよ」って言ってましたよね。去年の1・4で張られたお返しという意味もありますけど。

小川　ね？（含み笑い）。ただ、「張り返して、武力行使するのと、黙ってるのと、どっちが効果あるのかな？」って考えたら、「いまは黙ってたほうが効果あんのかな？」って思ってね。

――新日本全体の流れっていうのは、興味あるんですか？

小川　いや、これで完全にプッツリ切れました！

――「と、昼下がりの茅ヶ崎でつぶやく小川直也であった」（笑）。

小川　プッツリきたね。藤波社長が一番しんどいんじゃないのかな？（長州vs大仁田戦を）「やりました」「じゃ、その後どうすんの？」って話じゃない。「その後、新日本にとっていいことあるの？」という部分も含んでね。

a Ogawa

――「ノーピープルマッチにする」とかいう話もありましたよね。

小川　「じゃあ、すればいいじゃねえか！」って話でさ。

――ガハハハ！　猪木流に「やりゃあいいじゃねえか！」と（笑）。

小川　そうそう。やりゃあいいじゃねえか！って（笑）。

――でも、もうチケットは売り出されてるそうですけどね。並行して新日本だけじゃなく、全日本に出撃という夢のような話もありましたよね。

小川　それも面白いなっていうのもあるけど、全日本さんはいろいろ大変みたいだしね（※このインタビューは、三沢辞任劇が表面化する前に行われた）。あとヒクソンがいい方向に結果を持っていってくれたから！

――いま、計らずも小川さんの口から「ヒクソン」という名前が出ましたけど、小川さんは以前から「やるんだったらヒクソン」って言ってましたよね。

小川　そうですね。「ヒクソンとやりたい」と言ってた時期は、「変わり者だな」って思われてたようでね。「なんでヒクソンとやる必要があんだよ？」とかね。でも、ようやく、そう呟いてた人間が、聞いてくれるようになったかな、と。そういう状況ですよ。だから嬉しいですよ。

――ヒクソンが船木（誠勝）戦後に、小川選手の名前を出したのは知ってますよね？

小川　知らない！（笑）。出そうが、出すまいが、俺は言うこと変わんないから。だって、そのために3年間かかって言ってきたことなんで。関係者もファンも俺の言ってきたことをひっくり返して検証してみればいいんだよ。俺は「やりたくない」なんて一度たりとも言ってないんだから！

――ヒクソンは、小川さんのことを「本物の侍」と絶賛してますよ。

小川　侍？　侍じゃないけどね～。俺は詐欺師だから！（笑）。

――ガハハハ！「サ」しか合ってない（笑）。

小川　「侍」と「詐欺師」はね、正反対だよ！

――ガハハハ！　そりゃ、正反対ですよ、イメージとしては。

小川　かたや「侍」、かたや「詐欺師」。それでいいんじゃないですか？

――でも、「詐欺師」の中にも本物の「侍」はいるかもしれないし、「侍」と名乗る中にも「詐欺師」はいるかもしれないですからね（笑）。

小川　侍と名乗ってる詐欺師のほうが多いんじゃないかなぁ？（微笑）。

――ヒクソンは何度も小川選手のことを「リスペクトしてる」と繰り返したり、「柔

俺は「サムライ」じゃないから！
俺は「サギ師」だからね（笑）

道世界一の偉大な男だ」とホメちぎってますね。

小川　ギャラ上げるための手段でしょ（キッパリ）。

――ワ〜オッ！　いきなり現実的（笑）。

小川　ギャラ上げて、盛り上げるために俺の名前を出して、「やります！　さあギャラの交渉だ！」っていうことじゃないの？（笑）。

――小川選手は、どこのリングにも上がれるわけだけど、実際に『コロシアム2000』からオファーがあった場合には、前向きに行くわけですか？

小川　オファーがあれば考えたいですね。考えるって言ってもさ、例えばヒクソンのギャラが莫大な金額で、オイラが10万とかだったら嫌だけどね。俺が「考えさせて欲しい」っていうのはそこだけですよ、ぶっちゃけた話（笑）。

――ガハハハ！　10万！

小川　それはないかもしれないけど、それならそれで、次の方法がある。「勝ったほうがファイト・マネーの総取りだ」っていうね。

――日刊スポーツで競馬予想してる立場としては、ギャンブルも辞さないと（笑）。

小川　でも彼らはギャラの総取りルールは無しらしいからね。

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

――ギャラへのこだわりはともかく（笑）、一連の桜庭vsホイス戦や船木vsヒクソン戦でもわかる通り、〝グレイシー〟はルールへのこだわりを見せますよね。

小川　それについてはね、「時代は繰り返される」じゃないけど、ウチの師匠（もちろん、アントン総帥のこと）も、向こうから要求されたものをすべて飲み込んで、制限だらけの狭い中でやってきたから。それを乗り越えてやったわけだから。

――がんじがらめでしたからね、（モハメド・）アリ戦も。

小川　アリ戦みたいながんじがらめっていうのは、さすがにないだろうからね。スタイル的に融合する部分が多すぎるから、それは助かってるんだけど。ヒクソンから「寝技は3秒じゃなきゃダメ」とか、そういうことはないからね（笑）。

――ガハハハ！　そうですね。「寝技3秒でスタンドで再開」だったら、グレイシーには勝ち目ないですからね（笑）。

小川　そう。だからそういうルールはあり得ないから、そこは安心なの。でも、そういった部分でも、面白いんじゃないですか？　ルール問題にしても、それをいかにうまく盛り上げられるかっていうね。

――「いつ何時、どんなものでも盛り上げる」（笑）。ヒクソンの次に関しては、桜庭戦が噂されたり、船木誠勝の弟子筋の近藤有己選手が「行きたい」って言ってみたり、「コロシアム」繋がりで田村（潔司）選手にも目はあるし激選区ですよね。さらに、長州監督も「俺が行くよ、とノド元まで出かかってる。やらないけどね」と発言してますからね。

小川　「やらないけどね」って、やりたいならやればいいじゃねえか。やらねえんなら、口出すな！ってことです（キッパリ）。

――さらにさらに、前田日明総師までが「1億円くれるんだったら、俺がやってもいい」って言ってます（笑）。

小川　ヒクソン喜ぶね（笑）。いろんな意味で。ギャラを釣り上げる材料にもなるだろうし。いまはね、俺が釣り人だと設定したら、「あんなとこじゃ誰も釣れねえよ！」って言われながら、「いや、俺は釣れる」っていう信念でやってるじゃないですか？　そうするとデカイ魚が来るわけですよ！　それで周りは「来てるじゃねえか、竿上げてくれよ！」って言うんだけど、「……まだまだ」っていう状態でしょう。ようやくエサを見て「このエサは本物か？　偽物か？」って、そのデカイ魚が考えてる状況でしょうね。いままでは、デカイ魚は、こっちの竿の前を素通りしてたんで。

――うまい！　さすが、日焼けしながら海を見てるだけあるなぁ（笑）。

小川　八百屋でも、そうでしょ。毎日素通りしてたのに、あるとき突然「なんだ、あれは？」って思うおいしそうなものがあったら、それを見てしまう。その客の様子をチラチラ見ながら、店の番人は、売り込むわけでもなくジーッと待って「来た、来た」って思ってる。それで店にグッと来たときに売り込むと。そういう類いの緊張関係はどこの世界にもあるじゃない。駆け引きというか。

――はっは〜、タイミングですね。では、ズバリ聞きますけど、いま言ったみたいに、ヒクソンには、いろんな対戦候補が出てますけど……。

小川　（力強く遮って）俺に関しては、3年前から言ってることだから！　いまさらなにを言っても、なるようにしかなんないし。高田（延彦）選手の件で懲りてるからね。「やる！」とか「オリャーッ！」とかこっちが散々吠えてたら、「アラ？　いなくなっちゃった」みたいな（笑）。俺もエサを撒きすぎて、怪しまれて逃げられたっていう。逃げられたじゃて言葉が悪いや、去られてしまった（笑）。撒きエサだけ食われて、竿につけたエサだけ残っちゃった、みたいなね。その残ったエサが腐っちゃって、「もうこのエサじゃできねえな」っていう状態でしょ。

――ガハハハ！　エサを撒くどころか、花束まで投げつけたのに（笑）。

小川　ねぇ？　某団体のいい宣伝になってしまったと。まだボクは、あの頃は若かったんでしょう。

――あの頃って、花束投げつけたのは、去年の暮れですよ（笑）。

小川　だから、俺は〝待ち人〟になりました。待つのも大事！　いままでは、吠えることによって、みんながわかったけど、吠えないでおいたらおいたで、逆にみんなが聞きたがって来るっていう。そういう風に変えてみました（笑）。

――いや、でも小川さんの声は、いま一番聞きたいはずですよ、ファンは。

小川　わざと言わないの。言わないことによって、みんなの妄想が膨らんで、その妄想の中から、たまにいい案が出て来るじゃないですか。それを期待してね。

――ところで、ヒクソンはなんで小川さんの名前を出したんですかね？

小川　利口ですからね、調べてるんでしょうね。誰とやることによって、一番お金を取れるかっていう。プロですから。

――一方では、「ヒクソンは勝てる相手としかやらない」っていう声もあるじゃないですか。

小川　それをズッと言い続けられてるけどね。それが本当なのかウソなのかは闘ってみればわかる。俺は「やりたい」と前から言ってきて、要望があれば行くだけ。だから、要求されたときに行くっていうのは、消防車と一緒ですよ！

――消防車！

小川　ボヤだったら「ボヤくらいで呼ぶなよ、コノヤロー！」ってなるけど、いまは大火事になっちゃってんだから。マンションの一室で済んだとこがね、隣の部屋にも燃え移っちゃったっていう状況だからね。

――ああ、連続で高田部屋、船木部屋と燃えてしまいましたからねぇ（笑）。

小川　そう！　二つのデカイ団体が食われたみたいなもんだからね。かたやパンクラスでしたっけ？　トップでしょ？　あと高田道場の長ですからね。二つ食われちゃいましたから。

――実際には、ホイス戦からの流れもあるし、ウエイト的にも近いし、「桜庭vsヒクソン」を望む声も大きい。それは正直言ってボクも見たいんですよ。ただ「小川vsヒクソン」というのも、〝猪木イズム〟vs〝グレイシー〟という部分も含んで、見たいことこの上ない。どーにも欲が深いもんで（笑）。

小川　そうなると、「どっちが面白いか？」ってなるじゃないですか。

いま思えば、あのときヒクソンに花束ぶつけときゃよかったな、と

――ズバリ言って、小川さんのいう〝待ち人〟じゃないですけど、名乗りを上げてくれるほうを待つしかないって心境のファンは多いでしょうね。

小川　そうね。でも、いまさら名乗りを上げるって見られるのもシャクというか、俺は前から言ってますからね。まるで俺が名乗りを上げない、「嫌がってる」「怖がってる」とか、そういう風なことを思われても、困るんだけどさ。

――いままで名乗り過ぎてると（笑）。

小川　「いまさら言っても」っていうのがあるからさ。第一、『PRIDE』に上がった理由もそれなんだから！

――去年の『PRIDE5』（99・4・29名古屋）では、ヒクソンに花束を渡すという第一次接近遭遇もありましたからね。

小川　俺ね、「あのときは若かったな」って思うのはね、花束ぶつけときゃ、よかったなと！

――ガハハハ！　バツグンです!!（笑）。

小川　いまだに後悔してますよ（笑）。

――普通、逆ですけどね。「あの頃は若かった、花束ぶつけて申し訳ない」と後悔するもんだけど、「あの頃は若かった。ぶつけとけばよかった」っていうのは面白すぎます（笑）。

小川　やらしてくれるっていう約束みたいなもんがあったからね。ついつい、そのつもりで紳士になっちゃった俺がバカだったな。まだ若かったなぁ（しみじみと）。

――ガハハハ。いま『PRIDE』って名前が出たけど、桜庭選手がホイスに勝ったり、藤田選手がマーク・ケアーに勝ったり、そういう一連の流れに対するジェラシーみたいなものは感じないですか？

小川　全然感じない！　いろんな選手が、いろんな図式になれば面白いと思うし、一人で突っ走ってもしょうがないと思うしね。でも結局は、虚しいことに「対世間」ということを考えると浸透するのが厳しいかな、と。いま一つメジャーになり切れないっていうのは、なぜかなって。

――猪木さんが5・1の『PRIDE・GP』を観戦後、「当分はこの流れだろうな」ってポツリと呟いたそうなんですよ。「当分は」というのが、またいろいろ考えてしまうんですけど（笑）。

小川　いや、そういう流れだと思いますよ。いまは、そういうのがいいと思うし。ただ、その流れに乗って行くより、「プロレス」っていうものの火を消さないためには、どうすればいいか。いまの流れにそっくりそのまま乗っちゃうとね、逆に「プロレス」を攻めなきゃいけない立場になっちゃいますからね。攻撃しつつ、世間に「プロレスありき」って提示するのか、最初に「格闘技ありき」で、「プロレス」とまったく反対になってしまうのか。

――考えてみると「純プロレス」って言われてるものも見直される時期ですよね。インターネット時代になって、いろんなところにアクセス&リンクしていく時代観の中で、閉じているだけじゃ発達しないですからね。だから、ズバリ言って、「純プロレス」だけでも、「純バーリ・トゥード」だけもダメなんですよね。

小川　そういう問題もあるんだけど、逆に格闘技の世界が、いま〝流れ〟てるけども、その流れがどこまで続くのかもわかんないですよ。やっぱ、プロレスを守っていくって言い方はあれだけど、攻め

99・7・4、『PRIDE6』。満を持して登場した人間UFO。暴走タイフーン、ゲーリーなんとか（オーちゃん談）をアームロックで斬って落とし、館内を興奮のルツボに叩き込んだ。試合後には「プロレスの試合をしただけ」と豪語した

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

ながら守っていくっていうのかな。大きな意味では守るんだけど、守るためには、攻撃も必要ということだと思う。だから、浸透させるのが先だと思うんですよ。こないだの橋本戦っていうのは、実際にそういう意味ではいままでやってきた中で一番効果があったから。去年『PRIDE』に出たり、『K—1』の前座に出たり、いろいろやったけど、なんだかんだ言ってもゴールデンタイムで、テレビ局が一丸となってひとつの試合に賛同してくれたときの力っていうのは、やっぱり違うなって。

——船木vsヒクソン戦も視聴率12パーセントぐらい行ったらしいですね。

小川　なんで「ヒクソン、ヒクソン」て言うかというと、やっぱりあの時間にやったからこそですよ。前回は「ヒクソンって誰？」って感じが半分はあったと思うんだけど、この頃面白いことに、タクシーの運ちゃんでも「ヒクソンとやってください」っていうような流れになってきてるんですよ。だからテレビというものは世間を騒がす手段としては最高にいい場なのかなっていうか、ヒクソン自身が出てくれて、助かってる（笑）。

——助かりましたか（笑）。〝グレイシー〟っていうのは、思いのほか世間に届いてるんですよね。

小川　「素材を生かす」という言い方はよくないかもしれないけど、みんなが知ってるんだから。実際「400戦無敗」とか、そういうキャッチフレーズも付いてるし。

——この間は、「400戦以上無敗」になってましたね（笑）。

小川　ダーッハッハ。そういった意味で、非常にわかりやすいでしょ、誰が見ても。

——マニアだけがわかっても、しょうがないですからね。マニアだけ相手にするのはラクといえばラクですからね（笑）。

小川　マニアも大切にしなきゃいけない部分もあるんだけど、いまはそういう時期じゃないじゃない。広める時期なんですよ。マニアが揃ってると壁になっちゃって、マニアのピラミッドみたいになっちゃってさ（笑）。一番しんどいのは専門誌の人たちですよね。

——は？　どういうことですか？

小川　一般の人たちに呼びかけることによって、広めていくっていうのがマスコミの役目じゃないですか。でも専門誌は、一般の人が読んでもわけのわからないピラミッドを作っちゃってるから、そこで浸透が止まっちゃう。例えば、俺に言わせりゃ「ミスターXは誰だろう？」とかね、マニアはわかってても「この人、誰？」って作ってもらいたかったかな。なんのために大物が被ったかという、被ったことの大切さっていうんですか？　それを考えてもらいたかった。それを簡単に「俺は知ってるんだから書いちゃえ」みたいなことじゃなくて、一緒になって「誰だろう？」っていうね。ファンが「決まってんじゃねえかよ！」って言っても専門誌が書かないことによってファンは半信半疑になってしまうでしょ。ファンもわかってんだけど、「ホントはどうなの？」って聞きたいんですよ。でも答えがそこに出ちゃうと、「な〜んだ」ってなる。でも、専門誌で答えが書いてないと「あれ？　専門誌まで？」っていうのが、いままでのプロレスの原点みたいなものじゃないですか。「タイガーマスクは誰だろう？」「メキシコ人かもしれない」「スペイン人かもしれない」とか、いろいろ出てきて、でもマニアにしてみりゃ「佐山聡に違いない、でも……」っていう、その半信半疑な部分。

——昔のマスコミは、そうでしたよね。

小川　そういった意味で夢の広がる、夢を売る商売っていうのがプロレスの基本じゃないですか。もちろん、「強い」っていうイメージも含めて。

——でも、インターネットのような媒体が出てきて、実際に噂が一般に広まるのも、いまは早いですよね。

小川　その一般がね、どこまでの一般なのかっていうのが問題なんですよ。俺が思ってるのは、小学生とか、お婆ちゃんの世代まで全部入れて一般だと思うし、そういったものを全て含まないことにはね。なぜかと言うと、30代とかを相手にすると、他の世代に移らないんですよ。全体的な幅が広がっていかない限り、派生していく率が遅いじゃないですか。そういった意味じゃ、ヒクソンって素材は、自分に鞭打ってもう一回「どうやったら面白い展開ができるのかな？」っていう励みにはなるよね。

——なるほど、マスコミも古いものと新しいものをリンクさせていかなきゃならないわけですね。ちょっと話は変わりますけど、小川さんは、柔術ってものに関しては、どう思ってるんですか？

小川　柔術は柔術、柔道は柔道！

——簡単だ（笑）。

小川　なにが違うんだって、根本的に違うんですよ。それを融合させたのが総合格闘技でしょ。だから、いち早く総合格闘技っていうものにマッチした方が勝つんですよ。その点ヒクソンは何年も先輩だけど、俺としては年齢が若いほうが絶対有利だと思う。経験だと圧倒的に俺は少ないから、なんとも言えないけど、そこは、あくまでも年齢でカバーできるし、柔道で培ったものでカバーできる。そういった意味じゃ面白いんじゃないかと。って前から言ってんだけどね（笑）。

Naoya

00・5・5福岡ドーム、村上と組み、中西＆永田のIWGPタッグに挑戦。4・7で脱きゅうした右肩が響き、オーちゃんは、ほとんど出番なし！（白覆面は出番あり）村上が集中放火を浴び、王座奪取はならず！

——でも、ファンも、小川選手が沈黙を守るっていうのは、初めての経験じゃないですか。この1ヶ月くらいは。ヒクソンにもすぐに食い付いていかなかったし。

小川　沈黙っていうのは、気付いてほしいっていうのがあるんですよね。前から言ってるっていうのを。ファンって昔っからほじくり返すの好きじゃないですか（笑）。

——逆に、忙しい世の中だから、昔の発言とかをひっくり返さずに「小川は絶対バーリ・トゥードはもうやりたくないんだ」とか「逃げてる」とか、そういう方向に行っちゃうんですよね。

小川　そう思われるんだったらそう思われるで構わないんだけど、やっぱりなるようにしか、なんないし。「あれとやったら面白い」「これとやっても面白い」ってさ、面白いのはわかるけど、それをやることによって、どうなるのかっていうのが大きいわけでしょ。まずは、みんなに楽しんで見てもらいたいっていうのがあるんですよ。「どっちが強いか」だけの世界じゃないんだから。

——でも小川さんとヒクソンがやったら、それは「どっちが強いか」ってなりますよ。

小川　うん、でも逆にそれがあるからこそ、「純バーリ・トゥード」がつまんないっていうのに当てはまるんじゃないですか？「あの試合、よかったよ」っていうのは、また別問題じゃないですか。だから俺は犠牲になって、面白くしなきゃいけない。ホイスvs桜庭戦もね、いろんなことやったとか話は聞いてるけど、敢えて桜庭選手が「プロレスラー」としてやってんだろうなって思うけどね。

——その桜庭選手にしても、藤田選手にしても、肩書きは「プロレスラー」ですよね。でも、そういう場に出ていける存在感の大きい「プロレスラー」である小川さんが沈黙したから、「オーちゃんはなにやってんだ?」っていう声が出てくるんですよ（笑）。

小川　「なにやってんだ?」って……俺は……生きてるよ！

——ブフォーーッ（口に入れたアイス・コーヒーを吹き出す）。

小川　ダーッハッハッハ。吹き出しちゃダメですよ！

——（吹き出したコーヒーを拭いながら）思いっきり吹いちゃいました（笑）。

小川　でもね、プロレスラーと名乗る以上、「プロレスの試合」って言ってほしいなって思うんですよ。「バーリ・トゥード」という言葉は使いたくないな。

——ウチでは、「純プロレス」「純バーリ・トゥード」がリンクして、パワーのあるジャンルになってる。それを暫定的に「新プロレス」って言い方してるんですけどね。

小川　うん。「新」でも「旧」でも、「プロレス」ってカテゴリーは絶対必要だと思うしね。第一おかしいじゃない、猪木の弟子ってことで出てる藤田選手が「僕はプロレスやりません！」て言ったらさ。それこそ全く矛盾した話で。ある意味、それも偽善ですよね。いま格闘技系の人は、見たくない光景を見てるんじゃないですか？　次々にプロレスラーにやられてしまうという。

——その格闘技系の人やマニアも入ってこれるような「新プロレス」の世界をつくりあげちゃえば、一緒に盛り上がっていけるんですけどね。

小川　「これはこれ」「それはそれ」って分けて、それぞれで同じ闘い方をしててもつまんないけど、プロレスのひとつとして「こんなもんがある」っていうのは、面白いじゃないですか。

Naoya Ogawa

——そのプロレスラーがバーリ・トゥードに出て行くってことで言えば、ケンドー・カシンこと石沢常光選手が、『PRIDE.9』の会場に姿を見せましたね。

小川　まぁ、俺が逆の立場だったら見に行かねえだろうな、と思いますね。

——それは、なぜですか?

小川　新日本というプロレスの会社の自覚の問題ですよ。業界一のとこが、リサーチするのは大切だと思うけど、会場まで行くのはねぇ。うしろのほうでこっそり見るならいいけど、バチバチ撮られるとこに行くのは、どうもね。自分のとこが不安だから見に来ると思われてもしょうがないからね。俺なんかそう思いますけどね。

——そういう見方もあるんですね。

小川　だって老舗だし、業界で「一番」と謳ってるわけじゃない。相手を研究するのも大切だけど、それはあくまで陰でコソコソとやってればいい（笑）。レスラーってそうじゃないですか。新しいヤツが出てきてもコソッと見に行ったり。そのコソコソっていうのは駆け引きでもあるんだけど、堂々と来るのは、どうかなって。

——柱の陰から覗いてればいいと（笑）。

小川　自分に自信があったり、自分で「業界ナンバー1」という自負があれば、自分で金払ってでもコッソリ見て研究するもんだし。

——コッソリじゃないからこそ、8月27日の西部ドームはカシンvsヘンゾ戦が事実上決定という見方もある。藤波（辰爾）社長は「絶対やらせせない」とは言ってますけどね（笑）。

小川　「組まれた」とか言うけど、まずあり得ないでしょ？　逆にさ、新日本のリングに来させるみたいな感じを取らないとね。誰でしたっけ？

——石沢選手です！（笑）。

小川　石沢選手に限ったことじゃなくて、新日本の選手が行くってこと自体に「新日本は自信ないのかい？」って話になるじゃないですか。例えば自分の会社を脅かす一つの大きな会社がある。そこに堂々と行っちゃうのは、認めたことになるじゃないですか、行くこと自体が。要は驚異でもなんでもないんだったら行かないし、相手にしないでしょ。そんだけ新日本さんは、自信ないのかなぁってね。俺が『PRIDE』に行ったっていっても、あれは呼ばれて違う名目で行ったわけだし。

——花束贈呈ですからね。

小川　あれ以外は行ったこともないし。逆に来させるぐらいしないと。俺が『PRIDE』で試合やる前は大阪まで来させたしね。名前忘れちゃった。ゲーリーなんとか。

——ガハハハ！　グッドリッジです！

99・4・29、『PRIDE5』。名古屋の地に人間UFOが着陸。この日は高田延彦を"襲撃"したが、別のシーンでは、弟ホイラーと柔術のデモンストレーションを行ったヒクソンに花束を贈呈。館内＆関係者に緊張が走った一瞬だ

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

「来るなら来いや！」っていう姿勢
それが本来のプロレスの王道だと思う

しかし、よく名前忘れますね（笑）。

小川　最近、もの覚えが悪くてね。競馬の予想のしすぎかな（笑）。あとは、「どうしようかな？　撒餌（まきえ）していいのかな？　まだかな」とか、そればっか考えてるから（笑）。

――小川さんは、猪木さんが言うように「当分はこの流れだろうな」というのを把握していながらも、やっぱりドンと構えていたいということですか。

小川　ドンと構えていなきゃいけない。

――本来そうあるべきですけどね。

小川　そうあるべきだと思うし、「来るなら来いや」っていう、俺はそういう姿勢が一番王道だと思うんですよ。「今後はどうすんのか」って言ったって、来るべきときは来ると思うしね。いまは「休め！」という流れに乗ってるだけ（笑）。今後、「誰とやる」ということとは別の意味で、大きなものをやりたいなと。でも、僕の中ではいい流れなことは確かです。

――そのいい流れの中で日焼けをしていたと（笑）。

小川　ダーッハッハッハ。そうそう。やる、やらないは別にして、いい流れじゃないですか。あそこで船木選手が食っちゃった場合はね、俺にとっちゃ流れが悪いんですよ。

――その船木vsヒクソン戦は見たんですか？

小川　見てない！（笑）。

――ガハハハ！　見てない！　船木選手は、今度映画に出るらしいですけどね。

小川　ホントに？　俳優さんになっちゃうんですね。いいな～。

――ガハハハ！　「いいな～」って（笑）。「15年間ありがとうございました」って言った瞬間に、いきなり俳優になっちゃいましたね。

小川　男らしいですよね（笑）。おいおいおいお、そういえば、俺の4・7の相手はどうなっちゃったんだよ？　福岡には来ないのに、なんだっけ？　見に行ったんでしょ？　『PRIDE』だっけ？

去る5・26、船木を返り討ちにしたヒクソン。桜庭が実弟・ホイスを下しているとはいえ、この男を倒すことはプロレス界にとっても非常に重要な歴史の転換点となるはずだ。「コロシアム2001」来年夏開催予定だと聞くが……

橋本選手には何かしてほしいね
負けの美学の"美"がなくなってるよ

――『コロシアム2000』です（笑）。

小川　あ、そうだ。『コロシアム』は見に行ったんでしょ。人づてに聞くからさ。ホント、橋本選手にはね、なにかしてほしいっていう希望がありますよね。闘った相手でしょ。「『コロシアム』に出んのかよ」と思って。お互いが光らなきゃいけないっていうのが基本だから、プロレスっていうものは。勝つことの大切さもある反面、負けることの美学ってのもあるじゃないですか。美学の"美"がなくなっちゃってるからね。

――ガハハハ。"学"しかない（笑）。

小川　学ぶのも大切だけど、美しくないよ！　これは毒舌じゃなくて、ホントに。橋本選手とさんざんやった中でね、片方が輝いてくんない限り、こっちも光んないから。仮に橋本選手が復帰して、vsヒクソン戦が実現したとするでしょ。

――橋本vsヒクソンですか！

小川　で、橋本選手がヒクソンに勝ちましたと。そしたら俺がまた輝くし、逆に俺がヒクソンに勝つことによって橋本選手も輝いてくるし、お互いが、お互いの頑張りによっては、対戦相手が光る。それがプロレスの面白さじゃないですか。

――それはプロレスに限らず、プロ格闘技も一緒だと思うんですよね。というか、プロはそういう世界ですからね。

小川　そういった意味ではね。

――格闘技は相手の光を消すものだっていう刷り込みもファンの中にはあるかもしれないですけど、プロ格闘技としてみれば、グレイシーにここで消えてもらっちゃ困るし。

小川　だからヒクソンは、今回凄いプレッシャーかかったと思いますよ。ホイスもやられちゃってね。でもあれはね「ホイス、もう一回見たいな」って人もいるわけですよ。……ただ1時間半はな。俺も弁解しようがないわな。

――ガハハハ！　いや、小川さんが弁解しなくてもいいです。

小川　解説しようがないもんね。「次、見に行こう」っていう説得力がないもんなぁ。みんなに文句言われるんだもん。マニアックな人から電話が入ってね、「オーちゃん、なんとかしてよ、あの1時間半！」って。あれ、しんどいよね、解説。ウチ（UFO）の社長なんか痺れまくってたらしいよ。「痺れたよ～」って。普通さ、違った意味で痺れるじゃない。

――痺れを切らせちゃったと（笑）。でも、桜庭選手はそういう部分を突き抜けて頑張ったと思いますけどね。

小川　桜庭選手は凄いと思いますけど、ファンが望むことはもっと……。わかりますよ、やってる本人にしては辛いことはすごいわかりますよ。勝つことも大切っていうのがありますからね。だけど、そういう苦情も多いっていうのは事実で（笑）。

――ああいう大一番だからこそ我慢できたっていう部分もあるでしょうからね、ファンも。これまでの「プロレスvsグレイシー」という物語や桜庭選手のヒストリーがなかったら、とても90分は耐えられないですよ。でも、そう言うってことは、仮に小川さんがヒクソンとやったら、90分はやらないってことですよね？

小川　というか、そんなふうになんのかな？

――あ、そうか（笑）。

感じたら走り出せ

マット界に非常ベル
2000

小川　90分って、スタミナ的にどう考えたって俺のほうが有利じゃない。でもいま、原点に戻ってもう一回、肩が治ってリハビリしたら、母校の明治大学で柔道の練習もしなきゃいけねえなって自分でも思ってるしね。

——ヒクソン戦をやる、やらないは別にしてということですか。

小川　いや、やる確率が1パーセントでもあれば、こっちは出撃の準備をしなきゃいけない！　そりゃそうじゃないですか。どこの国だって「戦争はない」って言ってても、「じゃあなんで戦闘機とかレーダーとか作ってんの？」って話じゃない。日本だって、戦争しないのに防衛費があるし、自衛隊ってもんがあるんだから。

——「プロレスラー」には、そういう姿勢が求められてるんですけどね。

小川　俺はそれが「プロレスラー」だと思ってるし。そういうふうにオイラの師匠に言われてますから。だから「いつ何時、誰の挑戦でも受ける」ってことの裏返しですよ。だからこないだ猪木会長に言いました。「いま肩が悪くて沈黙してます」って。そしたら「そうだろ、調子悪いときは吠えれねえだろ」って言われたんで、「ハイッ」って言っときました。さすが会長、心の中まで読まれてる！って思いましたよ。「早く良くなってガンガン吠えまくれ！」ってね。でもね、ここのところ、半分以上は肩が悪いってことで吠えれなかったことも事実ですよ。「肩、痛ェなぁ」って気になっちゃうから。身体が順調で、練習もバッチシして、絶好調のときだと「いつでも来いや！」って気になるじゃないですか。

——肩は完治するまで、あとどれくらいかかりそうなんですか？

小川　肩を治して、筋力つけて、練習しなきゃいけないですから。そう考えたら3〜4ヶ月はかかるんじゃないかと。

——そんなにかかっちゃうんですね。

小川　大物選手とやるならだよ（笑）。

——はっは〜、大食いするなら（笑）。なんか、肩は悪いんでしょうけど、ガ然元気ですね、小川さん！

小川　元気が一番！　でも俺、ホントに肩痛いんだけど、まだ（笑）。

——そういえば、5・5で闘った中西学、永田裕志っていうのは、相手としてはどうだったんですか？

小川　いい選手じゃない、基本的に。

——二人とも？

小川　うん。魅力あるし。ただ、レスリングの次元がね、ちょっと……付き合いたくねえなっていう（笑）。

Naoya Ogawa

——ガハハハ！「次元が付き合いたくない」。中西選手は盛んに吠えてましたよね。

小川　だからね、寿司屋でも旬のものが美味しいじゃないですか。

——ヘイ、お待ち！　と威勢いよく出してくれたほうが、なおいいですね（笑）。

小川　彼の場合は、旬の時期っていうのは今年の1・4でしょ。こっちが煽ってさあ。ネタはすぐ腐っちゃうんですよ、それがいまの世の中じゃないですか。

——そうですね、1日、2日でコロコロ変わりますからね。

小川　そうそう。

——永田選手に関しては？

小川　永田選手はね、コメントとか見ると、「凄く面白いな」って思ってね。やっぱアメリカ仕込みだなって。いい意味で、プロレスの味が出てるから、選手としては好きですけどね。ただ、もう少し新日本でトップクラスに上がってもいい選手なんだけど、上がってない現実っていうのが寂しいなって感じがします。あ、中西とは外でだったらやりたい。新日本ではやりたくない。以上！

——意味シンですね、それは。バーリ・トゥードルールでやりたいってことですか？

小川　ノーコメント。ンムフフフフ。

——なるほど（笑）。でも、「一つの決着は次の物語のスタートを生んでる」っていうのが、プロレスの轍だと思うんですよ。偶然生まれた劇をどう演出していくかが肝心で、決して単発勝負じゃないんですよね。一流レスラーは、必ず次の物語を生んでいきますからね。これは、ホイスが負けた時点で、もう次のグレイシー物語が始まってるというのも一緒ですよね。

小川　俺、なんだかんだ言っても、なんとかグレイシーを倒すのも結構だけど、「胴体を倒さない限り、グレイシーっていうのはズッと残るよ」って前から提唱し続けてることなんですよ。トカゲを捕まえに行って、尻尾だけ持って帰っても、それはトカゲじゃないじゃないでしょ。シッポはまた生えてくるんだから。だから、日本人がグレイシーを倒したっていっても、いまはまだトカゲの尻尾しか持って帰ってないでしょ！

——うまい！

小川　トカゲの胴体を捕まえないと！

——で、小川さんも橋本戦でひとつの決着を見ましたよね。でも次の小川選手の物語のスタートがなかなか見えにくいっていうのがあるんですよね。

小川　でもね、思ってもない長州さんが来たまでは、いい具合に来てたんですよ。で、長州さんのほうに「オッ？」と思ったんだけど、なんかこういう風になっちゃってね。「マイッタな」なんて思って、横を見たら、いい具合にトカゲの胴体が残ってるんですわ。

——ガハハハ！　いい具合に。

小川　それもね、さらにカッコいい、デカイ、大トカゲみたいなのが。尻尾はいらない！　トカゲの胴体を掴みたい！

——いや、それを聞けただけで十分です。ところで、プロレスの試合のほうは、どうなるんでしょう？

小川　対新日本に関しては、いまはコメントしようがない。そもそも、藤波さんにも直に会って、会長の提唱するプロレスというものに対して、藤波さんも「それを目指してやりたい」ってことで、みんなで新日本を盛り上げようとやってたじゃない。そうしたら、まぁ、火炎放射が出てきてね。

——ガハハハ。火炎放射！

小川　消すの大変なんだから、消防車は。俺はいろんなところを消防してまわんなきゃいけないんだから、大変だよ！

――格闘消防車、小川直也（笑）。

小川　さっきの話に出てきた、マンションの二室が燃えたのも消さなきゃいけないしさぁ。そっちのほうは消すだけじゃなくて、消して再建しなきゃいけないんだから。火炎放射はさ、放射しっぱなしだからいいよ。だって、みんな、燃やされっぱなしだからね。佐々木（健介）選手やら、蝶野（正洋）選手にしろね。名前が残るのは、放火した火炎放射だけって感じですからね。まぁ7月30日、元・監督が消してくれんのか、どうなのかわかんないですけどね。

――確かに消防車は大変でしょうけど、それだけ緊急時にはなくてはならないという存在ですからね。小川選手への期待が、膨らむだけ膨らんでるってことですよ。

小川　膨らむだけ膨らんでね、それを利用するのは主催者側だから（笑）。

――猪木さんは、いつ何時でも上位概念を作って来たと思うんですよ。相手が強い、弱いは別として。小川さんにもどんどん上位概念を自分で作っていってほしいんですよね。

小川　俺、作ったにしろ、やれないからね（笑）。そこがちょっとね、時代背景が違うんですよね。

――確かに、小川さんはいろいろ相手を見つけてますよね（笑）。

小川　俺はね、やれないだけの話なんだよ（笑）。みんな通り過ぎちゃうだけであって。「喉元過ぎれば……」ってヤツですよ。道を作ってんだけど、俺ひとりじゃどうにもならない。相手あってのことだから。

――それは、相手が脅威に思ってるってことですよ。それだけ脅威に感じてるんでしょうね、周りが。

小川　やっぱり、やることの大切さっていうのが一番。それがわかってもらえないんですよ、なかなか。というか、やっぱり闘いってもので食ってるんだから、やれよって（笑）。

――バーリ・トゥードそのものとか、柔術そのものを上位概念には置きたくないんですよね？

小川　俺、柔術の人間じゃないし、バーリ・トゥードの人間でもないし。新しいものを作っていこうということでやってるわけだから。バーリ・トゥードならバーリ・トゥードだけやってればいいんですよ。競技としては大変だけど、ある意味でそんな簡単なことはないですよ。でも、それだったら、一時のブームで終わ

やる可能性が1％でもあれば、こっちは出撃の準備をするだけ

っちゃうじゃないですか。何故プロレスは残ってるかってことですよ。俺はプロレスに転向しただけであって、バーリ・トゥードに転向した覚えもないし、柔術に転向した覚えもないから。

――でも、「せっかく強いんだから」っていう部分がファンにはあると思うんですよね。プロレスを底上げしていくためには、対バーリ・トゥード、対柔術を上位概念に置くのもひとつの手ですよね。

小川　底上げというよりも、自分の仕事が誇れる仕事だったら、最高じゃないですか。そうしたくてやってるんだから。だから、自分の勤めてる場所が超メジャーになるか、なんないかの違いですよ。みんな、そういう目標みたいなものがあってやってる部分あるんじゃない。そう思わない人もいるのかもしれないけどさ。例えば『紙プロ』さんもね、『週刊・紙プロ』にして……編集は大変だけど（笑）、どこに行っても買える、みたいなものにするとかさ。

――いいですねぇ……っていいのか？（笑）。

小川　いや、どうせやるんであればね。「え、あの雑誌社に勤めてるの？」とか、人からも尊敬されるようにしたいじゃないですか、いい意味でね（笑）。

――かつ、中身が伴ってれば、バッグンですよね。

小川　うん、それはそうでしょ。例えば新聞でもね、言い方は悪いけど、朝日とか読売に勤めてるのと、違う新聞社に勤めてるの差って、世間様の見る目がこ～んなに（手を大きく広げて）違いがあるじゃないですか。

――そうですね、ましてや『朝日新聞』と『紙プロ』じゃ、中国大陸と灰皿くらいの違いがありますからね（笑）。

小川　ダーッハッハッハ。要は「プロレス？　ワハハハ」って笑われたりすることもあるわけでしょ、いまは。一番ショックに思ったのは、去年、ヒクソンに花束渡したとき、ヒクソンに花束投げつけなかった後悔っていうのもあるけど、それは置いといて（笑）、格闘技ファンの人がプロレスってものに対して、まだ「お前の来るとこじゃねえ！」とか、そういうのがあったじゃないですか。そういうのはが非常に大きかったですね。「コノヤロー！」と思ってね。要は、それほどバカにされてるようなジャンルだったんですよ、言い方は悪いけど。

――格闘技ファンは、プロレスに対して近親憎悪に近い感情を持ってますからね。そういう声を黙らせるために、バーリ・トゥード出陣というのも視野の中に

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

入ってきたたと。

小川　やんなきゃいけないなって思って、去年やったわけでしょ。だけど、やる必要がないんだったら、やらないし。去年は、こっちのやりたいようなことで参加はしたけど、先に進まないし、全然ストーリー的に自分たちのやりたいものができないし。「だったら」ってことで、新日に行って、橋本選手とやった。だから、強い、弱いじゃなく、業界全体が上がればいいという思いで動いてるんだけど、どうもそうは見てくれないんだよね（笑）。

――そりゃあしょうがないですよ、侍ならぬ、詐欺師ですから（笑）。

小川　ダーッハッハッハ。そうか、そりゃそうだ。でもどう見てもね、いまの業界を見渡すと、足を引っ張るという、日本人の悪い現象があるのかなって思いますよ。

――そういうとこは、確かにありますね。

小川　要するに島国根性が出ちゃうんだろうね。日本人の気質って足の引っ張り合いじゃないですか。でも、プロレス業界の中でお互いに盛り上げるんじゃなくて、お互いに足引っ張ったって、しょうがねえじゃねえかって。だから、そういった意味で、藤田選手、桜庭選手が「うわっ、凄いことだ！」と業界がグワァーッとね。勝ったときは必要以上にガーッとやっちゃっていいんですよ（笑）。昔の8時台の時代にそれをやればね、凄い効果あるんだけど、いま乗っかるまでの作業でしょ。そんな時に、なんか、足引っ張り合ってってね。どうすんだよって？

――いま、みんなどこも抜けてないから、ちょっとでも抜け出ると、ジェラシーですぐに足を引っ張られるんでしょうかね。

小川　キチンとした土台を作って、それに乗っかって、「足を引っ張る人は、いくらでもどうぞ」って足を差し出してやればいいんですよ。向こうが引っ張れば、引っ張る分だけこっちが頑張んなきゃいけないし。いまはちょっとしたミスや、細かいことなんてどうでもいいじゃないですか。いま、なにをすべきかっていうことですよ。やっぱりメジャーにしていきたい。「プロレス見に行くんだ」「あ、いいな！」ってみんなに羨ましがられるような業界にしたいじゃないですか。関係者にしたって、「え、プロレスの会社に勤めてるの？　すっご〜い」って驚かれるようなね（笑）。

――キャバクラでもモテるような（笑）。

小川　キャバクラ行っても、「え、プロレスの会社に勤めてるの？　すっご〜い」みたいなさ（笑）。「あそこの会社に勤めたらモテる」みたいな。

――ガハハハ！『紙プロ』に勤めてたらモテる！……永久にないな（笑）。ウチも、小川さんに言われるまでもなく、プロレスファンだけじゃなくて、一般の人が読んでも面白いような雑誌作りにはしてるんですけどね（笑）。

小川　いや『紙プロ』さんは、実際そうだと思いますよ。でも、UFOの機関誌のまんまでもいいんだけどね（笑）。

――ズコッ！　またそのネタですか（笑）。

小川　いまはね、専門誌の方々がファンになっちゃってるから。ファン代表じゃないですか。ファンに売るのが商売なんだからっていうのは、ありますよね。見てて。

――今日は勉強になりますねぇ（笑）。

小川　だからこっちも、今後どうするかって考えてるんですよね。例の胴体をどうやって捕まえるかって。自分にも励みになりますから。仮に勝っても、負けても、自分で満足できて、業界のためになればいいと思うんですよ。いまのバーリ・トゥードの選手の多くは背負ってるもんがないじゃないですか。ポリシーがない。ただ試合やって勝った負けたって。その点、ヒクソンっていうのはポリシーがある。それを、みんな悪いほうに捉えるけど、なかなか僕たちが言えない部分を言ってくれるとか、プロとして見習うべきところが多すぎるよね。

――ヒクソンは、実にいい〝プロレスラー〟ですよね。この間の船木戦を見て、あらためて感じましたね。

小川　ヒクソンに感謝してるのは、プロってもらってるお金が価値基準でしょ。プロ野球だったら、彼は落合並みですよ。

――ヒクソンには、昔、理想としてたプロレスラー像みたいな雰囲気はありますよね。

小川　逆に日本人選手、安く雇われちゃうからね（笑）。安く雇われるから、バカにされちゃうんですよ。かえってヒクソンなんか、ギャラが高いっていう部分で恐れ多いっていうイメージがついちゃってる部分もあるでしょう。だから、そういうことも含めていろんなことは考えてますよ、日焼けしながら。で、トカゲの胴体をどう捕まえるのかもね（笑）。

――でも、実にいい感じじゃないですか、小川さん。

小川　肩の痛みが引いたら、また吠えますよ〜。そして、いつ何時でも消防車として火を消しにいけるようにしとかないとね。ダーッハッハッハ。

Naoya Ogawa

【6月8日・神奈川県茅ヶ崎のとある喫茶店にて収録】

ヒクソンが「現役続行ーッ」（アントン調）を宣言した以上、ここはやはり誰かに出て行ってもらわなければならない。敬意をもって潰してもらわなければならない。流れから行けば「桜庭vsヒクソン」が妥当なところだろうが、『コロシアム』と『PRIDE』という、闘うステージの違い、両者がお互いに「興味がない」と言っている関係上、現時点では実現は難しいかもしれない。

しかし、ヒクソンがオーちゃんの名前を口にし、オーちゃんがヒクソンのいるステージに着陸すれば「小川vsヒクソン」実現の可能性は残されている。

プロレスvsグレイシーの最終戦争！
猪木イズムvsグレイシー！
柔道出身者vs柔術の究極のデスマッチ！
「小川直也vsヒクソン・グレイシー」。
それは、行われるとしたら、いつ、どんな形で行われるのか？
こうなったら、この流れがどう転がるか、死ぬ気で見守ってやるぜ！　あー（よだれと唾しぶきを飛ばしながら）。
格闘ロマンを突き進め、小川ーーッ!!

闘いの大海原に新たな大津波!!

ヒクソン・グレイシー、船木に完勝!!
プロレスvsグレイシー続行!! そして……

新日本プロレスvs“グレイシー”遂に開戦!!

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル2000

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

『PRIDE・9』のリングに突如姿を現したヘンゾ・グレイシー。そこで彼の口からマット界にまたもや風雲急を告げる言葉が発せられた。

「『PRIDE・10』では一族の名誉のために闘う。サクラバと闘いたい。サクラバは最近、一族の何人かを倒して天狗になっているようなので、ボクがその鼻をへし折ってあげよう。しかし、サクラバの次の対戦相手はもう決まっているみたいだね。それなら……いま、スクリーンにケンドー・カシンが映ったみたいだ。対戦相手が彼になっても、ならなくても『PRIDE・10』では頑張るつもりだよ」

ヘンゾvsカシン!

ヒクソンが船木に完勝したことにより、再び追い風が吹き始めた〝グレイシー〟と新日本プロレスのレスラーが遂に初遭遇するという、まさにプロレスvsグレイシーの新シリーズ幕開けを告げるに相応しいカードである。

本誌では、この衝撃の対戦アピールの翌日、渦中のヘンゾを直撃。ヘンゾはリングス出場の直後『アブダビ』に優勝した、「一つの決着が常に次のスタートを生む男」だけに、当然のことながら、既にカシン戦への臨戦態勢に入っていた。

――遅ればせながら、というか遅れ過ぎなんですけど（笑）、『アブダビ』優勝おめでとうございます!

ヘンゾ サンキュー（ニッコリ）。

――今年の『アブダビ』はいかがでしたか?

ヘンゾ すごくいい大会だったね。試合内容も選手のレベルもいままでで一番良かったと思うよ。

――リングスの金原選手は「アブダビ最

RENZO GRACIE

ヘンゾ・グレイシー

8・27
『PRUDE.10』西武ドーム
ヘンゾ・グレイシー vs ケンドー・カシン
実現濃厚!!

ケンドー・カシンとは?

本名・石沢常光、S43年8月5日青森県出身。早稲田大学レスリング部で活躍し、88年から全日本学生選手権3連覇。91年に新日本プロレスのアマレス部「闘魂クラブ」に所属し、92年には世界選手権にも出場。94年にプロレス入りした後も藤原喜明と"謎の30分フルタイム戦"で注目され、2度のブラジルVT修行を敢行するなど、マーク・ケアーを破った藤田和之以上にVT出陣が望まれていた選手。現在はマスクマン、ケンドー・カシンとして新日ジュニア戦線で闘っているが、キレ味鋭い腕ひしぎを武器に他の選手とは一線を画している。182cm、94kg。

悪！」ってボヤいてましたけど（笑）。

ヘンゾ　彼は1回戦で終わってしまったから、彼にとっては最悪なのは仕方ないね（笑）。

――ヘンゾ選手は2月にKOKで田村選手に負けてしまったわけですが、その直後に『アブダビ』で優勝したので、その実力を再確認しましたよ。

ヘンゾ　いまは試合の結果が一瞬で世界中に広まってしまうからね。優勝できて良かったよ（笑）。

――その田村選手との試合なんですけど、ヘンゾ選手は試合直後は「ジャッジは100％正しい」と敗戦を認める発言をしていたのに、アブダビでの別のインタビューでは「やっぱりドローだった」と前言を翻していたようなんですけど（笑）。

ヘンゾ　ハハハ。よく知ってるね（笑）。

――ズバリ言って本心ではどちらだと思っているんですか？

ヘンゾ　試合直後は興奮していたし、2ラウンドが劣勢だったから判定負けだと思ったんだよ。でも、アブダビの前にビデオを見たら、1ラウンドはボクが取って、2ラウンドはタムラが取ってる。だから判定はドローにして、もう1ラウンド延長すべきだったと思ったんだ。別に日本で嘘をついたわけじゃないよ（笑）。

――では、いまは「判定負け」というジャッジには納得していないんですね？

ヘンゾ　いや、ジャッジっていうのは、その場の雰囲気、観衆の盛り上がりによってどうしても左右されるものなんだ。それは人間がジャッジをするんだから仕方のないことさ。ボク自身、試合後に負けを認めたのは確かだし、あのジャッジが間違いとは言えないよ。

――相変わらず物わかりがいいというか、ナイスガイな発言ですね（笑）。

ヘンゾ　ボクはいつも素直な気持ちを話しているだけだよ。別に人気者になりたくて媚びを売っているわけじゃなくてね（笑）。

――では、またアブダビの話に戻ります。

タムラ戦はいまビデオで見直してみるとドローだと思う

90キロ級で優勝したヒカルド・アローナ選手が「アブダビはブラジルの予選や、柔術の大会に比べたらイージーだった」と感想を述べていて、実際に重量級以外はブラジル人が総なめしましたけど、ヘンゾ選手はどう思いましたか？

ヘンゾ　ヒカルドの言うことはよくわかるよ。というのも柔術のブラジル全国大会には2000人もの選手が参加するんだよ。

――2000人！

ヘンゾ　うん、それだけの規模だからブラジルではその全国大会に優勝した選手が、その時点の事実上の世界チャンピオンと認められるんだ。だからこの大会と比べたら『アブダビ』はイージーといえるかもしれないね。

――ヘンゾ選手はそのブラジル全国大会選手権にも優勝したことがあるんですか？

ヘンゾ　うん、93年と94年のブラジル全国大会で優勝しているよ。

――ヘンゾ選手ってホントにすごい柔術家だったんですね（笑）。

ヘンゾ　ハハハハ。いまごろ気づいたのかい？（笑）。

――ヘンゾ選手のVTの実績は有名なんですけど、柔術での戦績はあまり知られてないんですよ。

ヘンゾ　全国大会以外の大きな大会ではリオ・デ・ジャネイロ大会とブラジルの州の大会で10回ずつ優勝しているよ。

――とんでもない実績ですね！

ヘンゾ　まぁ、ボクは7歳の頃から全国大会に出場しているからね（笑）。

――7歳！　そりゃ強いわけです（笑）。

ヘンゾ　子供の頃から柔術の大会にはさんざん出たから、いまはあまり出ずに、違うルールの大会に積極的にチャレンジしてるんだ。『アブダビ』やリングスもそのひとつだね。

――その『アブダビ』というと、やっぱり賞金がすごいというイメージがあるんですけど、実際はどうなんですか？

ヘンゾ　確かに優勝賞金もいいけど、それ以外にも勝者にはスポンサーが付くんだ。それが大きいいね。

――当然ヘンゾ選手にもたくさんスポン

PLAY BACK PRIDE.9 REVIEW

1st MATCH

○ヒース・ヒーリング
（1R0分48秒、チョークスリーパー）
×ウイリー・ピータース

アイブルに続いて"オランダの暴れん坊"ピータースも「PRIDE」に登場！……というのがまったく話題に上らないのが悲しい。試合の方もVTのセオリーが知られていないUFC初期のような闘い方で、何もできず秒殺。寂しさだけが漂った。

2nd MATCH

○カーロス・バヘット
（2R判定勝ち）
×トレイ・テリグマン

グランプリのリザーバーで組まれていたこのカード。中止になっても客から何の苦情も出ないくらい注目されていないカードだったが、実際実現しても案の定盛り上がりに欠ける展開になってしまった。

3rd MATCH

○アラン・ゴエス
（2R判定勝ち）
×ヴァーノン"タイガー"ホワイト

「PRIDE」でサクを苦しめた者同士の対戦。メッツアーを加えたこのサク・キラーに共通しているのは守りが堅すぎてつまらないこと。面白い試合がしたいサクにとってはまさに天敵と言えるだろう。ゴエスは実力とスター性があるのに実にもったいない。

サーが付いたんですか？

ヘンゾ　いや、ボクはスポンサーは友人だけに付いてもらってるんだ。だから他のスポンサーは断っているよ。

――そうなんですか。そういえば、ブラジルの有名選手はみんな柔術着にたくさんスポンサーのマークを付けていますけど、ヘンゾ選手を含めてグレイシー一族の選手はほとんど付けませんよね、なぜなんですか？

ヘンゾ　ブラジル人選手の多くはスポンサーからの収入が生活の基盤なんだ。その収入のおかげでファイター一本で生活できるようになって、トレーニングに集中できる環境が整うんだ。

――グレイシー一族は違うんですか？

ヘンゾ　うん。ボクらグレイシー一族の生活の基盤はあくまで道場経営の利益なんだ。だから他のファイターは試合に出ることでスポンサーの宣伝になるけど、ボクらはスポンサーじゃなくて自分達の道場の宣伝のためという部分がある。だから基本的に友人や弟子以外のスポンサーをつけないんだよ。

――なるほど、そういう意味ではグレイシー一族は「団体」を背負ってるとも言えるわけか。

（ここで無差別級を優勝したマーク・ケアーの話や、モスト・ビューティフル・テクニック賞を受賞した話など、『アブダビ』をより深く掘り下げて話を聞いたが、スペースの都合等により、これらの話はまたの機会に）

――金原選手は『アブダビ』にも例によって不満だらけだったみたいなんですけど（笑）、ヘンゾ選手は何か不満はなかったんですか？

ヘンゾ　う～ん、不満というか改善して欲しい点は、『アブダビ』には棄権制度がないことかな。

――ケガしても試合をしなくちゃならないんですか？

ヘンゾ　いや、同門対決を回避できないってことだよ。ボクら柔術家は伝統的に同門で闘うことはまずありえないんだ。柔術の大会だと自分の先生や、兄弟と組まれた場合は、生徒の方が不戦敗で勝ちを譲るのがしきたりなんだよ。でも『アブダビ』では決勝以外は必ず試合をしなくてはならない決まりだったから、ボクも仕方なく弟子と闘ったよ。

ホイスとヒベイロは、VTで勝つための練習があまりに不足してるよ

――やっぱりやりにくいものですか？

ヘンゾ　普通の試合と同じ訳にはいかないね。だからアブダビのタハヌーン王子には、来年からは同門対決を無くすように頼んだんだ。王子も納得してくれたから、おそらく来年からはなくなるはずだよ。

――ところで、その『アブダビ』でヘンゾ選手別階級で優勝したサウロ・ヒベイロ選手とアローナ選手がそれぞれ『コロシアム２０００』とリングスに出場したんですけど、その試合はご覧になってますか？

ヘンゾ　ああ、見たよ。ヒカルドはリングスではパーフェクトだね。あのルールで彼を倒すのは非常に困難だよ。

――それはスタミナの問題ですか？

ヘンゾ　そう、５分２ラウンドというルールは若くて爆発力がある選手にとっても有利なんだ。だからＫＯＫルールでヒカルドに勝てる選手は現時点ではいないと思う。だからアンドレィ（・コピィロフ）はよくヒカルドの猛攻をしのぎきったと思うよ。ヒカルドだったらＫＯＫチャンプのダン・ヘンダーソンだって簡単に倒してしまうだろうね。

――ではヒベイロ選手と近藤有己選手の試合はどう思いましたか？

ヘンゾ　サウロは寝技になれば強いけど、あまりにもＶＴに出る準備ができていなかったね。やはりノールール系のファイトでは、打撃は絶対に必要だよ。

――エリオ・グレイシーさんは「グレイシー柔術さえあればＶＴで勝てる」と言っていたんですけど、ヘンゾ選手は昔から打撃の重要性を感じていたんですか？

ヘンゾ　と言うより、ボクはもともと相

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル2000

RENZO GRACIE

4th MATCH

○カーロス・ニュートン
（1R40秒、腕ひしぎ十字固め）
×佐野なおき

豊永の代打として１週間前に急遽出場が決まった佐野にとって、やはり大物ニュートンは厳しい相手だった。ニュートンが「罠かと思った」というほど、あっさりとマウントを取られ十字固めでタップ。なんとか佐野がＶＴで勝つところが見たい。

5th MATCH

○小路晃
（1R6分44秒、腕ひしぎ十字固め）
×ジョン・レンケン

グランプリに出場した選手がほとんど欠場する中、コールマン戦の疲れも見せず一本勝ちした小路に脱帽。相手のレンケンは船木とノールールで闘ったことのある選手。メッツアー、ブラガに続いてこれで“対パンクラス”３連勝となった。

6th MATCH

○リコ・ロドリゲス
（2R判定勝ち）
×ゲーリー・グッドリッジ

ケアーのスパーリングパートナーであり、アブダビ重量級準優勝のロドリゲス。グッドリッジに20分間何もさせない実力はさすがだが、あまりにも判定狙いすぎ。試合後にＰＲＩＤＥガールズを抱き上げたのもマイナス。羨ましいじゃないか。

7th MATCH

○イゴール・ボブチャンチン
（1R5分3秒、ドクターストップ）
×松井大二郎

豊永の引退でますますその期待の比重が重くなる松井。今回は５・１でサクを破ったボブチャンチンが相手だけに、上位戦線にくい込む大きなチャンスだったが、ボブチャンチンのセオリー通りの「Ｋ戦法」の前に出血ＴＫＯ負けを喫してしまった。

カシン戦の準備は十分できている　明日にでも闘いたいくらいだよ

手を殴るのが大好きなんだよ（笑）。

――アハハハ！　単に殴りたかっただけなんですか！（笑）。

ヘンゾ　そう、でもそのおかげで自分自身が進化したと思うよ。やはりVTで勝つためにはどんな競技のテクニックでも取り入れていくべきなんだ。

――では先日、桜庭選手にホイス選手が負けてしまったのも、打撃を取り入れるのが遅かったからだと思いますか？

ヘンゾ　それだけが原因じゃないけど、ホイスもサウロもVTで勝つための的確なトレーニングに欠けていたと思う。もっと打撃を学ぶべきだったし、テイクダウンの練習も足りなかった。

――なるほど。では船木vsヒクソン戦の感想もお聞きしたいんですけど。

ヘンゾ　いい試合だったと思うよ。フナキも前半は非常にクレバーな闘い方をしていたと思うしね。でも、寝技の技術においてはヒクソンの方がフナキよりも遥かに優れていたよ。

――あの試合はグラウンドになったら、船木選手が無抵抗に思えるほど一方的な展開になってしまったんですけど、あれはヒクソン選手が強すぎるからなんでしょうか？

ヘンゾ　グラウンドでヒクソンの域まで達するというのは並大抵な事ではないんだよ。だからフナキが弱いんじゃなくて、ヒクソンが強かったんだよ。

――でも今回ヒクソン選手が対戦相手に船木選手を選んだことで、桜庭選手から逃げてるという声があるんですけど、ヘ

RENZO GRACIE

ンゾ選手はどう思いますか？

ヘンゾ　いや、逃げてるとは全然思わないね。ヒクソンならサクラバサンを極めることは難しいことじゃないよ。

――やはり一族の中でもヒクソン選手は特別なんですか？

ヘンゾ　うん、やはり彼は最強だよ。だからサクラバサンがヒクソンに倒される前にボクが倒したいね（笑）。

――桜庭選手に勝つことによって一族の名誉を取り戻そうという気持ちですか？

ヘンゾ　別に名誉を失ったわけではないから、「取り戻す」という表現は的確ではないね。もし、ホイスの敗戦でグレイシー柔術の強さに疑いを持った人がいるなら、ボクたちの道場はいつでもオープンだから道場に来てみたらわかるよ。

――ところでホイス選手も、ヒクソン選手も試合前にルール問題で揉めたんですけど、「どんなルールでもOK」というヘンゾ選手から見て、彼らがルールにこだわることについてはどう思いますか？

ヘンゾ　それぞれ好きなルールはあるからね。ボクも好きなルールはあるんだよ。

――どんなルールですか？

ヘンゾ　完全ノールール（笑）。ヒジも頭突きも噛みつきもOKのルールだよ。

――噛みつきまで！（笑）。

ヘンゾ　ボクも結構噛みつきは得意なんだよ（笑）。まぁ、それはファンに見せるファイトじゃなくなるけどね。

――でも、ナイスガイのヘンゾ選手にそういう面が潜んでいるということは、プロとして魅力的ですよ。では、ここからが今日の一番大事な話なんですけど、ケンドー・カシン選手への突然のアピールには驚きましたよ。

ヘンゾ　ボクも驚かせようと思ってたからね（笑）。成功だったかな。

――実はカシン選手との試合は、3ヶ月くらい前からネット上などでは噂になっていたんですけど、実際にそのころから対戦の話はあったんですか？

ヘンゾ　「闘うかもしれない」という話は聞いていたけど、具体的な話ではなかったよ。

――カシン選手の試合は見たことがあるんですか？

ヘンゾ　何度かビデオで見たよ。

――プロレスの試合ですか？

ヘンゾ　そう。サクラバサンは入場だけだったけど、ケンドー・カシンは試合中までマスクを被っていたんで驚いたよ（笑）。

――アハハハ！　でも、プロレスラーの対戦相手をビデオで研究するのは難しいんじゃないですか？

ヘンゾ　ホントにそうだよ。だからホントは対策のためにビデオを見ていても、途中からはいつのまにかファンの視線で楽しんでしまうんだよ（笑）。

――では、対策はこれからなんですか？

ヘンゾ　いや、プロレスの試合でも彼のテイクダウンの技術の高さはわかったよ。でも、あまりにもアームバー（腕ひしぎ）が1試合に何度も極まりすぎるね（笑）。

――ではカシン選手がプロレスラーになる前に、レスリングの強豪だったことは知っていますか？

ヘンゾ　うん、88年から全日本学生選手権3連覇してるだろ。アジア大会でも活躍してるし、92年には世界選手権にも出ている。

――メチャクチャ詳しいじゃないですか！

ヘンゾ　ハハハ、独自の情報網で調査済みだよ（笑）。

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

──ブラジルで柔術やルタを習ったことがあるのも知ってますか?

ヘンゾ ああ、ペドロ・オタービオのジムで練習してたんだろ?

──ホントに詳しいなぁ。

ヘンゾ 昨日は握手をしたけど、リング上の彼は非友好的なのも調査済みだよ(笑)。

──ケンドー・カシンのキャラクターまで知ってるんですか!(笑)。

ヘンゾ まぁ、あんまり言うと彼が警戒するから、このくらいにしておくよ(笑)。だからホントは明日にでも闘いたいくらいなんだ。待ちきれないね。

──ボクも早く見たくなりました(笑)。ところでそのカシン選手やアレク選手のように、プロレスラーがVTに出てくることについてはどう思いますか?

ヘンゾ プロレスはビッグビジネスだし、彼らが参加することによって大会のスケールも大きくなるわけだから大歓迎だよ。それにプロレスラーといっても、ボクらと同じようにリアル・ファイトで闘うのだからなんら差別することもないし尊敬しているよ。

──桜庭選手たちの活躍で、プロレスラーのイメージは以前と変わりましたか?

ヘンゾ 確かに以前は軽視していた部分はあるけど、いまはプロレスは試合はリアルじゃなくても練習はリアルだってことがわかったよ。

──ヘンゾ選手は将来的にプロレスのリングに上がろうとは全く考えていませんか?

ヘンゾ ボクがプロレスのリングに上がることは、これからもないだろうね。

──それはどうしてですか?

ヘンゾ ボクがリアルファイトと担う旗手だからだよ。ボクがプロレスのリングに上がることによって、ここまで築き上げたリアル・ファイトの世界を壊したくないからね。ボクを信頼してついてきてくれる生徒のためにも、自分が信じている美しいものを守りたいんだ。どんなにお金が貰えても、それは変わらないよ。

──でも、プロレスラーとVTで闘うと、実際にはリアルでも「フェイクではないか」という見られ方をされる危険性があると思うんですけど、それについてはどう思いますか?

ヘンゾ そういうことがあるからこそ、ボクはプロレスのリングには上がらないんだ。もしボクが一度でもそれをやってしまったら、今後ボクがVTで勝っても負けても、「フィックス・ファイト(八百長)じゃないのか」と疑われることになるからね。ボクがフィックス・ファイトをすることはこれからもないし、ケンドー・カシン戦が正式に決まったら、そんな声が出ようがないくらいの試合をするよ。

96・4・19大阪　新日本とUインターの対抗戦時代、素顔の石沢常光としてサクと一騎打ちで闘っているカシン(結果はヒザ十字で石沢の勝利)。カシンが加入したら人材充実の『PRIDE』ミドル級戦線もますます面白くなる。

──もうすっかり臨戦態勢に入ってるんですね。

ヘンゾ うん。これからビッグマッチが続きそうなんで期待してくれよ。

──え!? 具体的な考えがあるんですか?

ヘンゾ まだ個人的な希望なんだけど、ケンドーに勝ったらサクラバサンとやって、その後はグランプリに出たいね。

──『PRIDE・GP』ですか! でもあの大会にヘンゾ選手のような80キロの選手が出場するのは無謀なんじゃないですか?

ヘンゾ あのトーナメントを勝ち抜くのは確かに難しいけど、それはボクが80キロしかないから難しいわけじゃないんだ。VTにおいてはボクは軽量はハンデだとは思わないし、80キロしかないからこそ、肉体的にそれだけの負担しかないんだ。重ければそれだけ負担がかかるからね。

──自信はありますか?

ヘンゾ もちろん。グレイシー柔術を信じているし、自分の技術も信じているよ。

──これからのヘンゾ選手はますます目が離せませんね。では、まずはカシン戦が実現することを願ってます。

ヘンゾ サンキュー。実現したらファンには最高の試合を約束するよ。じゃあ、『PRIDE・10』で会おう!

【00年6月5日　名古屋市内某ホテルにて収録】

超ド級のカード連発必死のオールスター戦!!

PRIDE.10 8・27(日) 西武ドーム

サクvsフランク、藤田vsケン・シャムロック実現か!?

サクと藤田という豪華なダブル解説となった、今回の『PRIDE』TV中継。ふたりはいまや完全に『PRIDE』2大エースだ。

"オールスター戦"と銘打つだけあって、超ド級のカードが目白押しになりそうな『PRIDE・10』。カードはまだ発表されていないが、サクと藤田がリングに上がり藤田が「ボクと桜庭さんがシャムロック兄弟とやるのはどうですか」と発言したことから、サクvsフランク、藤田vsケンが有力視されている。また高田の出場も噂され、正式発表が楽しみだ。

ヘンゾ兄貴からなんと、
サイン入り試合用スパッツプレゼント!!

今回も抜群のいい人ぶり、兄貴っぷりを存分に見せてくれたヘンゾから太っ腹プレゼント。なんと田村戦で使用した(と思われる)スパッツをサイン入りで提供! これは家宝モノだ。宛先はP159参照。

PRIDE. ハリケーン上陸失敗

アイブル、ボコられる!!

試合後のアイブルのコメント

イェ〜イ（とおどけて登場）。いや〜、負けちゃってゴメン。ビクトーは強くて戦略があったよ。目の腫れはどうってことない。青タンつくったのは初めてだけど、この方が貫禄が出ていいよ。やっぱり立ち技だけじゃ無理だな。オレも寝技の練習はしてるんだけど、実戦じゃなかなか使えないモンだ。これからもっと寝技の練習するよ。今日は片目が見えなくて苦労したよ。ああなると守ることしかできないな。まぁ、これは子供が新しい学校に転向して決まり事の違いに戸惑っているのと一緒だと思う。今回は勉強するいい機会だった。だから次に期待してくれよ。

20分間殴られ続けて見るも無惨なアイブル。しかし最後まで試合を捨てなかったのはさすがだ。

一発狙いの打撃で反撃に出るが、ビクトーに読まれてすぐにグラウンドに持ち込まれてしまった。

序盤は倒されてもいつもの通り粘り付いて防御していたが、ブレイクの少ない『PRIDE』では不十分だ。

サクに敗れて以来、1年ぶりに復帰したビクトーは、実によくアイブルの戦法を研究していた。

試合前のボディーチェックで、舌ピアスまでチェックさせるアイブル。相変わらずオチャメだ。

「ハッキリ言ってアイブルは『PRIDE』に行っても一回も勝てませんよ！」

前田の言う通りの結果となってしまった。「オイオイ、そんな奴が王者なのか」と思う向きもあると思うが、アイブルは打撃一辺倒という「KOKなら誰も勝てない」、でも「VTだと誰にも勝てない」という非常に偏った強さであり、それがアイブルの魅力なのだからしょうがない。

対戦相手のビクトーもアイブルをよく研究していた。田村戦、ヘンダーソン戦を見てもわかる通り、アイブルは顔面のガードが甘くカウンターのストレートが入りやすい。ビクトーは開始早々見事にそこを突いて倒した後は、関節を極められない自信はあるアイブルに、ひたすら上から殴って判定勝ちを狙ってきた。完全な作戦勝ちである。

この完敗には、さすがのアイブルも「勉強になったよ」と肩を落としたが、アイブルには必要以上に反省して欲しくない。タックルを切る技術や寝技の上達は確かに必須だが、キモのように寝技を覚えたことで牙を抜かれた野獣になって欲しくないからだ。

翌日、ホテルのロビーで会ったアイブルは昨日よりさらに腫れ上がった顔でこう言った。「写真撮ってくれよ。オレのこんな顔は2度と見れないから貴重だぜ」

アイブルにはまだまだ期待できる！

（ガンツ）

Uスタイルでジェレミー・ホーンを撃破！ そして無差別級表明、咆吼！

死ぬまで赤いパンツの頑固者

田村潔司

ファンが望むなら、船木、ヒクソン、桜庭、それと藤波さんともやってみたいです

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

聞き手／チョロ&ガンツ
interview by Choro & Gunts
撮影／吉場正和
photographs by Masakazu Yoshiba
試合写真／乾 晋也
photographs by Shinya Inui

今回で『紙プロ』には、な、なんと7号連続で登場となる田村潔司。
その間、ヤマケンから噛みつかれたり、打倒グレイシーを果たしたり、はりMON！に急襲されたり、前田社長から金無垢のロレックスをもらったり、アイブルに敗れベルトを失ったり、突然船木へ対戦表明をしてみたりと田村の周りでは常に目まぐるしく何かが起こっていたのだ。
田村にとって初ドームとなる『コロシアム2000』では、ヒクソンに敗れ引退を発表した船木の陰に隠れてしまった感もあるが、J・ホーンに勝利し、見事『コロシアム』というキャンバスに〝UWF〟という絵を描ききったのだった。
これからの田村はどこへ向かって突き進むのか？　話を聞くと、歯切れのいい言葉がポンポン飛び出した。この日の田村はちょっと違う。読めばわかるさっ！

前号での約束通り、今回はうまいメシを食いながらの取材となった。取材前の「格闘技セミナー」には渋滞に巻き込まれ10分遅れて登場した田村だったが、レスラー時間ではノー問題とのこと。

——今日は焼き肉食べながらいきましょう！（と1人で盛り上がるチョロ）
田村　でも、よっく取材してくれますねぇ（投げやりに）ホンッと相変わらず！
——ヒャハハハ（笑）。そんな言い方することないじゃないですか！（笑）。
田村　僕は嬉しいんですけどっ！（笑）。
——やっぱ需要がありますからね。まず最初に、デビューから11年と5日目での初ドームの感想から聞かせて下さい。
田村　ドームはね、花道からお客さんの顔があんまり見えないんですよ。多分下から照明が当たってるからだと思うんですけど、（手をかざして）こうやって見るのも変じゃないですか（笑）。
——ヒャハハハ。永田（裕志）さんじゃないんですから（笑）。でも個人的には、あの日の興行の中で田村さんの入場シーンが一番グッときたんですよ。別に持ち上げるわけじゃないですけど（笑）。
田村　（疑った目で）ホントに？
——ホントですよ！　着流しに日本刀の船木さんより、赤パンにレガースの田村さんの方が良かったですよ。〝赤いパンツの頑固者〟全開って感じで（笑）。
田村　また言ってるよ（笑）。
——あの入場っていうのは前から考えてたんですか？
田村　試合の4日ぐらい前にひらめいたんですよ。それまでは普通にやろうと思ったんだけど、普通にやってもしょうがないし。みんなが「なんだ田村？」って思うか、「いいぞ！」って思うかは別として、ちょっとふと思いついたんで。やっぱり元々UWFを好きな人とかは、レガースとか、あの格好に憧れてる部分もあるじゃないですか？
——それはありますよね。宇野薫選手もレガースに憧れたって言ってましたし。
田村　そうでしょ？　あれっ、『紙プロ』だっけなぁ？　これ何の取材？
——ウチは『格通』ですよ！（笑）。
田村　ハッハッハッ。どこだっけなぁ？　桜庭と僕がレガース履いた表紙のヤツ。
——う～ん（考え込む）あぁ、それは『プロレスの達人』（NO21）ですね。
田村　そうだっ！　あの表紙で桜庭のレガース姿が載ってたんだけど、いま見ると何か凄い斬新だと思ったんですよ。
——あの本が並んでた時は、いつの雑誌かなって意味で斬新でしたけどね（笑）。でも、レガースを付ける付けないでは、どういった違いがあるんですか？
田村　一言で言えば見た目（キッパリ）。
——見た目ですか（笑）。威力が半減するとかはないんですか？
田村　威力は半減するでしょうね。
——よくグローブを付けて殴ると脳が揺れてKOしやすいって言いますけど、レガースを付けた方がKOしやすいっていうのはないんですか？
田村　ないと思うなぁ。ないです（笑）。
——そういうリスクを背負ってまで、見た目を重視したってことですね。
田村　そうですそうです……はい。
——トランクスとスパッツも、よく掴まれる掴まれないとか言いますけど、どのような違いがあるんですか？
田村　そんなに変わりはないと思いますよ。ただ、KOKの最初の時にファールカップを付けようと思ったんだけど、ファールカップ付けると、ショートだと、ちょっと咬み目っていうか、ファールカップ用のショートじゃないんで、しっくりこないんですよ。でも今回は見た目重視にしたんで、（打撃を）もらっても、いいかなと思って付けなかったんです。
——ファールカップってこれまではほとんど付けてなかったんですか？
田村　はいはい。付ける人と付けない人といましたけど……まあ付けなくても僕のはデカいから（笑）。
——ヒャハハハ。何の話してるんですか

KIYOSHI TAMURA

5・26『コロシアム2000』ジェレミー・ホーン MINI REVIEW

❶ジェレミー・ホーンのパンチ有り、グローブ有り、パンツはスパッツというKOKスタイルと、田村のパンツは赤、グローブなし、レガース有りというUWFスタイルが激突！❷❸先の代々木大会でアイブルにKO負けを喫し、そのダメージが心配される田村に対し、ヤマヨシを破り勢いと体格差に勝るジェレミーの打撃が猛威を奮う！❹しかしながら、田村も鋭い左ハイキックをはじめとする打撃で応戦！　ジェレミーにダメージを与えると、すかさず片足タックルからテイクダウンを奪いポイントを優位に進める。グラウンドで何とか極めに行こうとする田村だったが、ガードの堅いジェレミーを攻めあぐねた。

（笑）。まあ有名ですけどね。

田村 えっ、有名？ どこで？

――いや適当に言っただけです（笑）。

田村 わっけわからん、この人！（笑）。

――付ける付けないで一番影響があるのはグローブでしょうけど。試合後は「多少支障があった」って言ってましたね。

田村 そうですね。掌底とグローブ付けるのとでは10センチ近くリーチが違ってくるんですよ。もしかしたら、グローブ付けてたらKO出来たかもしれないし。

――判定とはいえ、それでジェレミー・ホーンに勝つってところが凄いですよ。

田村 いやいや（苦笑）。でも僕もねぇ、まあある意味賭けでもあったんですよ。まあファンの人はそこまで細かくはわかんないと思うんで、僕も細かいことは言いたくないんですけどね。

――ただ試合後、田村さんは首を傾げてましたし、会場では、「延長してくれ！」っていう雰囲気だったんですよ。

田村 あ、延長しろと？ あぁ～、なるほどね（と言ってテープを止め、延長に関して、もっともな意見を言う田村だったが、本人の希望によりカット）

――いまのは載せてもいいですよね？

田村 ダメダメダメ（笑）。

――でも、前田さんも「選手の身体を考えると、あんまり延長はさせたくない」みたいなことは言ってましたよ。

田村 身体のこと考えると、（なぜか笑い出し）延長は良くないですよ（笑）。

――そういえば、ヤマケン（山本喧一）さんが「田村さんに花束を渡したい」って言ってましたけど。

田村 そんなん貰うのイヤ！ 絶対イヤッ!! それ聞かされてたんですよ。もしね、そういうことになってたら試合しなかったですよ。入場しても帰ってた！（突然）あぁ～、テープ止めるの忘れてた（笑）。でも、これはいいや！

――はぁ～。そんなに嫌いなんですか。

田村 いまさら何で？って感じ。イヤッ、ホントに関わりたくない！

――でも、来年の『コロシアム2001』では、田村対ヤマケン戦が決定したみたいなんですよ（笑）。

田村 え、マジですか？

――ヤマケンさんが会見で、「来年のコロシアム2001では田村対山本戦を」って言ったら、テレビ東京の吉村プロデューサーが勢いで「はい」って言っちゃったんですよ。それで翌日の田村さんの会見でそういう話が出たんですけど。

田村 そういうことね。（不機嫌そうに）んなわけねえだろ。……もう山本の話は止めましょう。エスケープするわ（笑）。

――エスケープ！ インタビューまでUスタイルを貫きますか（笑）。

田村 でもどうですか、見たいですか？

――そこまで田村さんが嫌がってるのを見たら逆に見たいですよ（笑）。

なんであのコスチュームを選んだかっていうと……ひと言で言えば見た目!!

8 7 6 5

❺この試合ではジェレミーのＫＯＫスタイルと田村のＵスタイルが激しく交差。ジェレミーも「タムラの掌底は想像以上に威力があった」❻田村に対抗してか、なんと腹固めまで繰り出したジェレミー。田村のＵＷＦ魂がジェレミーに伝承？ 腹固めを掛けられた感想を聞くと「感想っていったって、まあ一つの技ですからねぇ」と苦笑い❼判定で勝利が告げられた瞬間、首を傾げた田村。「あれは一本取れなかったのと、後半押されてたかなって思って」とのこと❽判定ながら、強豪ジェレミー・ホーンをＵＷＦスタイルで撃破した田村。次なる標的は誰だ？

田村　でもいくつか、船木（誠勝）さん絡み、近藤（有己）選手絡み、僕絡み、あと誰だ？　まあ金原（弘光）絡みとかね、色々な選手絡みで並べて、その中で田村対山本があっても面白くないよ。田村対船木の方がファンは見たいでしょ。
——船木さんが引退したいまとなっては、それも難しいですけどね。
田村　まあそうだけどさぁ。
——田村さんは、『コロシアム』では、リングスというものを十分に観客にアピールできたと思ってますか？
田村　どうですかねぇ。例えば、僕があそこでマッチメークするんであれば、変な意味じゃなくて、相手は弱い選手か凄い格下の選手と当てますよ。
——あぁ、確かにそっちの方がアピールは出来たでしょうけどね。
田村　そうそうそう。だから、ねちっこくいくよりも秒殺でいいんですよね。だって大部分の人はジェレミーって言ってもわかんないじゃないですか？
——ですよね。それでいてメチャメチャ強いから厄介なんですけどね。
田村　そうそう。まあでも個人的にはアピール出来たかなとは思いますけどね。
……お客さんは入ってました？
——入ってましたよぉ。4万と420人！　ボクも特製のイスが欲しかったんで無理して18万の席買いましたよ（笑）。
田村　（即座に）18万の席ホントに買ったんだったら10万こっちに渡してよ！
——すいません、嘘付いてました（笑）。

「ヒクソンとやるか？」って言われたら迷わず「やりたい！」って答えます

——田村さんは、船木対ヒクソン戦は会場では見れなかったんですよね。
田村　見てない……いやっ、会場で見ましたよ。シャワー室のとこにモニターが付いてたんで。僕が見た時にはコーナーで組み合ってて、1ラウンドが終わったらシャワー行こうかなと思ってたんですけど、どうしても見ちゃいますよね。
——結果にはそれほど興味ないって試合前は言ってましたよね。
田村　う～ん……でもああいう負け方すると悔しいですよねぇ。実際、試合を見てても船木さんが勝つんじゃないかなって思ってたんですけどね。そういう自信に満ちた表情してたじゃないですか？
——確かに表情は落ち着いてましたけど、でも結果としては完敗でしたよね。
田村　うん……完敗ですね。
——あの結果はどう受け止めました？　船木さんの力っていうのは田村さんなりにわかる部分もあると思うんですけど。
田村　はい……でもそれはかなり昔のデータだからアテにならないですよね。まあ僕は船木さんには正直勝って欲しかったんですけど、負けちゃったわけだから……もう一回やってもらいたいですね。
——もう一回やったら結果は違ってくるということですか？
田村　う～ん……なんか心情的に、あれで終わりじゃあまりにも寂しすぎますよ。あの試合で「船木は弱い」って言う人もいると思うんですけど、もし勝ってたら「グレイシー神話」なんたらかんたらって、もう騒がれないですからね。
——試合前から、日本人対グレイシーの最終戦って言われてましたからね。
田村　あれはもう本当の意味で対グレイシーの最終戦で、メイン中のメインですよね。どっから始まったんだかわかんないですけど、船木さんが勝ってれば、いままでのツケっていうのがなくなるわけじゃないですか。
——田村さん、桜庭さんと、対グレイシーはいい流れで来てましたからね。
田村　そうそうそう。だからまあ悔しいのは悔しいですよ。ただ、「負けたら、もう引退すればいいや」っていう個人的な問題でもあるとは思うんですけど、それだけじゃない場合もあるじゃないですか、見てる人にしてみれば。
——マット界にとってもそうですよね。
田村　そうそう。僕もやっぱりファンの人みたいな気持ちで、勝ってもらいたいなって気持ちはありましたからね。
——船木さんは負けて引退という道を選んだわけですけど、選手として心情的にわかる部分はあるわけですか？
田村　まあわかんないこともないんですけど……例えばですよ、例えばですけど、船木さんは僕とやればいいと思うんですよ。それで僕が負けて船木さんが勝つ。僕と桜庭がやって、僕が勝って桜庭が負ける。桜庭とヒクソンがやって、ヒクソンが負けて桜庭勝つと。それでいいと思うんですけどね。船木さんが負けて、負けたら辞めるっていう逃げ道を考えてたんだったら、それはちょっとなぁって思いますね。僕は負けたら逆にそれを認めて自分も学ぼうと思いますし、負けたからって簡単に辞めちゃったら会社はどうするんだって話じゃないですか？

PLAY BACK COLOSSEUM 2000 OTHER REVIEW

1st MATCH

○近藤有己
vs
●サウロ・ヘビイロ

ヒクソンの一番弟子のサウロ・ヒベイロと船木の愛弟子の近藤が激突したオープニングマッチ。近藤はヒザ蹴りで倒れたヒベイロにパンチの速射砲を浴びせ衝撃の22秒鮮血ＫＯ！　試合後、近藤は田村との対戦をアピールするものの、数日後には「白紙にします」と発言を撤回。

2nd MATCH

△須藤元気
vs
△アンドレ・ペデネイラス

入場に約50万の費用をかけ「ファイトマネーを越えちゃうかもしれない」と心配顔の元気。菊田早苗、宇野薫、極真の塚本徳臣という豪華セコンドを従えペデネイラスに挑んだ元気は、打撃やアキレス腱固めなどで、あと一歩まで追い込んだものの、規定によりドロー。

3rd MATCH

○魔裟斗
vs
●メルチョー・メノー

この日はキックボクシングルールも１試合行われた。魔裟斗がローキックでメノーに4RＫＯ勝利。

4th MATCH

○鈴木国博
vs
●ルシアーノ・バジレ

場内大歓声の緑健児師範による演武の後に行われた極真ワンマッチ。再々延長の末、鈴木がバジレに勝利。

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

——そうですよね。まあ船木さん自身も「団体に多少は影響が出る」って言って、それは認めてましたけど。

田村　いや認めても、「じゃあ若い選手はどうなるんですか?」って話ですよ。パンクラスにとって船木誠勝っていう看板は大きいワケですから。僕がじゃあ、いま「現役引退します」って言ったら、リングスは成り立たないでしょ?

——ズバリ言ってそうですね。

田村　だから、そういう面でも僕はリングスと頑張って行きたいと思ってるんですよ。自分だけのことを考えたら、僕はリングス辞めても食っていく分には困らないですよ。ただやっぱり、プロっていうのは、それだけで食っていって、お客さんを満足させてっていうことだから。船木さんは辞めても大丈夫なようにパンクラスっていう団体を作ってきたんでしょうけど、僕は個人的にはこれ以上大きくなるとは思わないんですよ。

——ハ、ハァ。前田さんも「死ぬよりも生きることのが大変なんや」ってよく言ってますけど、田村さんも、ヘンゾ戦とかはUのテーマをかけたり、わざわざ自分のリスクを増やすようなことをするじゃないですか。そこでもし負けて辞めちゃうよりも、その後も続けていくってことの方が大変だったでしょうからね。

田村　それは僕も思いますよ。僕はパトスミ戦（パトリック・スミス【95・12・9K—1】）は、負けたら辞めるって心の中で決めてたんですよ。で、本当にそういう状況になると、もう一っ言も喋れないんですよ。「負けたらどうしよう?」って。精神的に喋りたくても喋れないんですよ。だから、船木さんにはそれだけの思いでやってもらいたかったなとは思いましたね。……難しいですね（苦笑）。

——パトスミ戦で、もし負けてたら引退してたってことですけど、そうなってたら当然悔いは残りますよね?

田村　悔いは残りますけど、じゃあ辞めてどこに行こうかなってことを考えると、新日本との対抗戦を蹴ってて新日本のリングに上がるわけにもいかないし、ましてやUインターに戻るわけにもいかないし。だからあの時は本当に死ぬほど練習したし、昼間練習して、他のところで練習して、道場に戻ってきて練習して、もう立ってるのが辛くて、道場のシャワーを浴びる時もパイプ椅子に座りながら浴びるような……それぐらい練習してたんで、引退っていう覚悟でやるんだったら、ホントそれぐらいやんないと気持ち的に伝わってこないですから。

KIYOSHI TAMURA

——田村さんは試合前、「ヒクソンとやりたいとは思わないけど、勝っても負けても船木さんとはやってみたい」って言ってましたけど、あの発言の真意はどういうことだったんですか?

田村　あれはまあ単純に、僕から船木さんへのエールですよ。実際、負けた船木さんに魅力はないんでしょうけど、僕は魅力を感じてましたから。だから万が一船木さんが負けても、ヒクソンより僕は魅力ありますよと。ただ、僕は「ヒクソンには興味がない」って言ったけど、船木さんにヒクソンがああいう勝ち方したのを見て、やりたいっていう気持ちが出てきましたから。僕とヒクソンがマッチメイクされて、「ヒクソンとやるか?」って言われたら迷わず「やりたい」って答えますよ（キッパリ）。機会があればヒクソンとやってみたいです。

——おっ、ヒクソンに挑戦表明ですか! まあ、前から田村さんは「マット界をグチャグチャにしたヒクソンはどかしたい」

FINAL MATCH

○ヒクソン・グレーシー
vs
●船木誠勝

そして迎えたメインイベント。雨の西麻布（byガンツ）ばりの着流し姿で入場してきた船木。片手には日本刀を携え並々ならぬ決意でリングに向かった船木だったが、11分46秒、ヒクソンのチョークスリーパーで失神即引退という結果に終わった。試合後のリング上ではヒクソン軍団が増殖し大はしゃぎ。誰かヒクソンを止めろ!　ヒクソン最後の対戦者は誰だ?

5th MATCH

○マリオ・スペーヒー
vs
●金原弘光

やっぱりマリオは強かった!　初挑戦のKOKトーナメントルールながらマリオは金原をグラウンドで終始コントロール、文句なしの判定勝利を収めた。試合後、思うような試合が出きなかった金原は「あと1、2ラウンドあれば打撃出せたのになぁ」とぼやいた。金ちゃん、もう一丁!

って言ってましたけどね。
田村　どかしたいですね。やっぱりヒクソンはグレイシー、バーリ・トゥードで一番って言われてるわけだしね。ただ、いま流れ的には桜庭の方に行ってるんで、桜庭対ヒクソン戦が組まれたらそれはそれでしょうがないですけど。
――でも田村さんの発言次第で、その流れも変わってくるとは思うんですよ。
田村　まあ「ヒクソン、俺と闘え！」とか、そういう気持ちはないですね。逆に船木さんとやるという、時の流れがあるかもしれないし、わかんないですよね。近藤選手とやる流れかもしれないし。
――近藤選手はドームの試合後「田村さんと闘いたい」って言ってますからね。
田村　でも会社がやらせないでしょ。
――向こうの会社がですか？
田村　そう。それに前田さんと尾崎社長は揉めてるワケだし（苦笑）。ウチもやらせないと思いますよ。
――船木さんとやる流れもあるかもしれないって言ってましたけど、引退を口にしてたいまでも船木さんと闘いたいっていう気持ちはあるんですか？
田村　ありますよ。あるけど、船木さんの性格も僕は知ってるんで……ただ誰かが言ってたけど、「ファンのせいにすればいい」って。僕と船木さんの試合はファンが見たがってるから、一回くらい嘘ついてもいいんじゃないですか？　っていう。それだったら船木さんは悪くないですから。ファンに夢を与えるために一緒のリングに立って試合をやれば、それだけでもいいと思うし、ぶっちゃけた話、勝ち負けはどうでもいいんですよ。
――田村さん的には、いまの船木さんと試合して、いい試合になるっていう予感はあるんですか？
田村　（間髪入れず）いい試合になるでしょう。なります！
――それは引退表明した船木さんに対するアピールとってていいんですか？
田村　アピールというか、さっきも言ったけど、５万人のファンが見たいっていうんであれば、ドームはそれだけでいっぱいになるじゃないですか。そういうニーズがあれば、その時点で船木さんが考えてくれればいいかなと。それでも出てこなかったら……まあ契約してるわけじゃないけど、ファンに対する契約違反になっちゃいますよ、みたいな感じですね。
――例えば、ヒクソンと闘ったらいい試合になるだろうって予感はありますか？
田村　ヒクソンとはいい試合にはならないでしょうね。

KIYOSHI TAMURA

――ちなみに、リングスのホームページに「田村さんはヒクソンから逃げ続けて下さい！　田村さんは顔面パンチありのルールでやったことないんで、ヒクソンとやったら負けちゃうと思います」って書き込みがありましたけど（笑）。
田村　あぁ～、あったあった！
――それに対して田村さんは、「やってみなきゃわかんないじゃん」って、自ら書き込んでましたよね（笑）。
田村　うん、あれはムカついた！　でもファンってそんなもんですよね。ヘンゾとやる前は「グレイシーの強さに完膚無きまでにやられて下さい」みたいな書き込みがあったんですよ。そんなもの「やってみなきゃわかんないじゃん！」って思ったけど、やったらやったで、「あんなんで勝ったと思うなよ！」みたいな書き方されるからね。でも僕が一本勝ちしても何か言われるんですよね、結局は。
――船木さんじゃないですけど「ほっといてくれ！」って感じですよね（笑）。ファンのニーズを考えると、田村さんは誰との対戦を望まれてると思います？
田村　（即座に）船木さんでしょ！
――船木さんじゃないでしょう。
田村　誰ですか？
――船木さんは引退発言をしたんで、田村さん絡みだと桜庭さんでしょうね。
田村　あぁ、そうかぁ。だって向こうはもう、世界だからねぇ（苦笑）。
――また言ってるよ（笑）。田村さんもこの間、UWFスタイルで世界の強豪のジェレミーに勝ったわけだから、間違いなく〝世界のKT〟ですよ！
田村　ハッハッハッ。でも実績で言ったら桜庭の方が上ですよ。環境とか運とか流れは向こうですから。僕も同じことやってるとは思いますけど、向こうはCM、TVとかもたくさん出てるしね（笑）。僕と桜庭が街歩いてれば、「桜庭、桜庭」っていう声が多いでしょうし。
――でも今日、渋谷の街を歩いてたら「田村、田村」ってたくさん声を掛けられてたじゃないですか（笑）。
田村　いやいやいや（苦笑）。だから、桜庭が相手にしてくれるか、してくれないかは向こう次第なんで。ファンが望むんであれば僕は逃げないですよ。まあ向こうが逃げると思うんだけど。
――ほぉ～、今日は言いますね（笑）。やっぱり〝世界のKT〟は違うなぁ。
田村　だから世界じゃないって！（笑）。
――外人だったらヒクソンでしょうね。体重もそんなに変わらないですし。
田村　じゃあ煽って下さいよ。あっ、あと藤波（辰爾）さんともやりたいですね。
――えっ？　藤波さんですか！
田村　一回やってみたいんだよなぁ。
――藤波対田村戦はファンのニーズがありますよ（笑）。ルールはどうします？
田村　無我ルールでいいですよ（笑）。
――ヒャハハハ。それは最高です（笑）。

生ビール１杯だけの田村に対し、調子に乗ってビールをおかわりしまくるチョロ。ちなみにお会計は総額18060円。貧乏人にはかなり痛い金額だが、これも男の約束である。「田村さんはともかく、なんでガンツの分まで俺が払わなきゃいけないんだよ」byチョロ
【取材協力・焼肉「絵のある街」渋谷店　TEL03-3770-8699】

藤波さん、自分の挑戦を受けて下さい。無我のルールでいいんで（笑）

田村　それか、ガッチガチのストロングスタイルでもいいし、ランカシャースタイルとかでもいいです（笑）。

――それは見たいです！　話は変わりますけど、いまリングスは海外での大会も増えて順調に見えますけど、ジャパン勢は怪我人も多いみたいだし、ちょっと厳しい面もありますよね。田村さんはリングスをどうしていきたいと思ってます？

田村　僕は辞めます（キッパリ）。

――ええっ！　リングスをですか？

田村　辞めます。リングスを卒業しま～す。キャンディーズのように……っていうのは冗談ですけどね（笑）。

――あぁ～、ビックリしたぁ。でも、ぶっちゃけた話、田村さんはこれからのリングスでの闘いは、あまり乗り気じゃないって感じなんですか？

田村　う～ん……あんまり乗り気じゃないですね。この半年間は試合ばっかりやってたんで、いまはもう凄いお腹いっぱいなんで、ちょっと休みたいっていう気持ちの方が先になってますね。

――このままのペースで試合に出続けることで価値が上がるかっていったら、逆にしばらく休んで出てきた方が価値が上がる場合もありますからね。

田村　そうそうそう。そうなんですよ。でも実際ね、僕が出ても出なくても、そんなに変わんないと思いますよ。

――そんなことないでしょう（笑）。

田村　いや、だから要は相手ですよ。

――あぁ～、確かにそれは言えますね。

田村　相手によって田村潔司を組み合わせれば光るものになるんですけど、相手もちゃんと光らせる相手じゃないと成り立たないですからね。（ビールを何倍か飲み顔を真っ赤にしたチョロに）ちょっと酔っ払ってんじゃない？（笑）。

――ほんなことなひれすよ！

田村　アッハッハッ。

――そういえば前田社長も、やる気になってるみたいですよ。

田村　はっ、何を？

――ヒクソン戦ですよ。ギャラ次第らしいですけど（笑）、結構やる気になってるみたいなんですよ。

田村　見たくないでしょ、別に（笑）。

――見たいようでもあり、見たくないようでもあり複雑ですね（笑）。あ、それで前田さんといえば、この間ウチでインタビューしたんですけど、取材前に立ち食いそばを食べてたらしいですよ（笑）。

田村　え、立ち食い？

――田村さんにロレックス買ったり、色々大変なんじゃないかと思って（笑）。

田村　ハッハッハッ。でも金持ちでも、別に立ち食いそばは食うでしょ。

――でも天下の前田日明がですよ（笑）。立ち食いそば食べて「ちょっと一服」ってハマキ吸いだしたら抜群ですけどね。

田村　アッハッハッハッハッ！　それ今日一番！（笑）。ガンツ先生百点!!

――あ、ありがとうございました（笑）。

【00年6月3日、渋谷「焼肉・絵のある街」にて収録】

地球(ブラジル)の裏から元気ですかーッ!!

アラン・ゴエス

ALLAN GOES

闘魂が連鎖するインタビュー

“サクが勝てなかった男”は大の猪木信者だった!!

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

喧嘩屋タンク・アボットに喧嘩を売るなど、その気性の激しさで「柔術界のトラブルメーカー」の異名を持つゴエス。しかしその素顔は「猪木信者」という実にプロレスファンに親近感を抱かせるナイスガイであることが判明した。今回は、この闘魂のみならずアゴまで伝承した、ブラジルの猪木信者が語る“アントン衝撃の新事実”を大公開！　それじゃあ、行きますかーッ！

二大スクープ

- ●アントニオ猪木“二重関節”の真実
- ●イワン・ゴメスVSグレイシー秘話

感じたら走り出せ

マット界に非常ベル 2000

ALLAN GOES

イノキさんはブラジルでも英雄だよ ボクは9歳の頃からファンなんだ

ゴエス　ゲンキデスカ——ッ!!

——え!?「元気ですか」? なぜその言葉を知ってるんですか!

ゴエス　日本のプロモーターの人たちから、「ゲンキデスカ」、「ドイタシマシテ」とか、日本語の基本的な言葉を色々と習ったんだ。日本の人たちと仲良くなれるようにね。

——挨拶は大切ですからね（笑）。ところで「元気ですか」と言うと、日本のファンにとっては、アントニオ猪木さんが使う言葉として有名なんですけど、知ってましたか?

ゴエス　それは知ってるよ。ボクはイノキさんの大ファンだからね（ニッコリ）。

——ゴエス選手は猪木ファンだったんですか（笑）。そういえば『PRIDE・7』のときにゴエス選手は猪木さんと一緒に観戦してましたよね。

ゴエス　うん、ボクがカリフォルニアに住んでいたときに、イノキさんとは友人のショーン・マッコーリーが経営しているジムで知り合ったんだ。

——『LAボクシングジム』ですね。

ゴエス　そう。イノキさんは英語は話さないんだけど、ポルトガル語でコミュニケーションを取ることができたよ。そのときからすごく親しくしてもらってるんだ。

——猪木さんのことは『LAボクシングジム』で知り合う前から知っていたんですか?

ゴエス　もちろん知ってたさ。格闘技をやっている人間にとっては、イノキさんは日本だけではなくて、ブラジルでもスーパースターだし、尊敬されているよ。ボクは9歳から格闘技を始めたんだけど、そのころからイノキさんのファンだから、彼のことはすごく詳しいよ。

——9歳から猪木ファンだったんですか（笑）。例えばどんなことを知ってるんですか?

ゴエス　（自慢げに）ボクはイノキさんの歴史について詳しいんだ。

——猪木さんの歴史! 語っていただきましょう!（笑）。

ゴエス　まず、彼は若い頃、家族でブラジルに移民してきたんだ。それからコーヒー園で働いていて、格闘技を始める前は陸上競技をやっていたんだ。

——ホントに詳しいですね（笑）。

ゴエス　それから食べ物の好みも知ってるよ。イノキさんはブラジルにいた頃、ブラックビーンズっていう豆が好きだったんだ。

——やっぱり猪木さんだけに、ミネラルが豊富なものが好きなんですね（笑）。

ゴエス　これはイノキさん本人から聞いた話だから間違いないよ。イノキさんはとにかく豆が大好きで、フェイジアーダーという牛肉と豆を炒めたブラジルの伝統的な料理には目がないらしいんだ。

——ちなみに猪木さんは、日本の伝統的な豆料理の納豆も大好きですよ（笑）。

ゴエス　日本の豆も好きなんだね（笑）。

——でも、なんでそんなに猪木さんは有名なんですか、やっぱりモハメド・アリと闘ったからですか?

ゴエス　もちろんアリと闘ったのは有名だけど、それ以外でもイノキさんは、昔からブラジル格闘技界と関わりを持っていたから有名なんだ。ブラジルの有名な格闘家である、イワン・ゴメスを日本に連れていったのもイノキさんだしね。

——え!? あのイワン・ゴメスをご存じなんですか!

ゴエス　もちろん知ってるよ。ものすごいタフネスで、30年前にはバーリ・トゥード最強とも言われた伝説の選手だからね。

——イワン・ゴメスは日本でも伝説の選手ですよ。彼のことを、もう少し詳しく教えてもらえますか?

ゴエス　オーケー、彼は元々はルタ・リーブリの選手で、とにかく腕っぷしが強くて有名だったんだ。それにボクの元師匠である、カーウソン・グレイシーとも闘ったことがあるんだよ。

——イワン・ゴメスvsカーウソン・グレイシーですか! それは日本の格闘技ファンにとっても興味深いですね。いったいどちらが勝ったんですか?

ゴエス　これは当時のブラジル最強を決めるような一戦で、とても注目されていたんだけど、前半はゴメス優勢で、後半にカーウソンが盛り返して結果はドローだったんだ。ゴメスの評判や人気はこの試合によって凄く高まったんだよ。

——イワン・ゴメスは日本ではヒールホールドを持ち込んだことで有名なんですけど、どんなテクニックを持った選手だったんですか?

ゴエス　彼は元々はパワー・ファイターで、グラウンドの技術はあまり持ってなかったんだ。それがカーウソンと闘ったあとに、ふたりは仲が良くなって、一緒に練習するようになったんだよ。それから寝技もどんどん上達していって、ヒールホールドを開発したんだ。

——ヒールホールドはイワン・ゴメスのオリジナル・ホールドだったんですね。

ゴエス　おそらくイノキさんは、そういうゴメスの柔術やホールドのテクニックを吸収するために、彼を日本に連れていったんだと思うよ。

——確かに"猪木・アリ状態"も、猪木さんがゴメスから盗んだバーリ・トゥード・テ

99・9・12『PRIDE. 7』のリングサイドで、憧れのアントンと一緒に観戦するゴエス。正装して手を前に組み、緊張してそうな姿が印象的だ。はたしてゴエスのUFO入りはなるか?（右は作家の百瀬博教氏）

クニックだって言われてますもんね。

ゴエス　だからイノキさんは昔からクラウンド・テクニックに非常に理解が深くて、知識も豊富だったと思うよ。そんなところもブラジルの格闘家に尊敬されている所以なんだ。

――ゴエス選手は、その猪木さんに足関節を習ってるんですよね。

ゴエス　うん。イノキさんが『ＬＡボクシングジム』に来たときに、直接、足首の関節技を教えてもらったんだよ。あのイノキさんに直接教えてもらえるなんて、すごく光栄だったし嬉しかったね。

――ちょっと猪木さんに関する長年の謎を解き明かしたいんですけど。猪木さんの足首は、昔から二重関節、いわゆるダブルジョイントで足首の関節が決まりにくい人だっていう伝説があるんですよ。それって本当なんですか？

ゴエス　それはボクも驚いたんだよ。ホントに猪木さんは、足首の関節技を掛けられても全然痛そうな顔をしないんだよ。

――やっぱりダブルジョイントはホントでしたか！

ゴエス　極まってるのに全然痛そうな顔しないから「この人の足首はどうなっているんだろう。岩でも入ってるのかな」って思ってね（笑）。とても不思議だったよ。だって、ボクがどんなに力を入れて絞めても、笑いながら「もっと絞めろ！　オレの足を折ってみろ！」って言うんだよ（笑）。

――アハハハ！　猪木 vs 藤波戦だ（笑）。

ゴエス　ボクはダブルジョイントだなんて知らなかったから、きっと長い間の現役生活でその技に慣れてしまったのか、もしくはあまりにもその技を受けすぎて、足の感覚がなくなってしまってるのかとばかり思ってたよ（笑）。

――ダブルジョイントではなく、単に痛みに麻痺してるだけ、というのは新説ですね（笑）。

ゴエス　それにイノキさんはただ技を掛けられても痛がらない人じゃなくて、自分から技を掛けるのもすごく上手いんだよ。ボクはアキレス腱固めと足首固め、それともうひとつ、名前も知らない技を教えてもらったんだ。

――それはどんな技なんですか？

ゴエス　四つんばいになった相手のアキレス腱の上に膝をのせて、足の甲を上げる技なんだけど、これが凄く痛いんだよ。

――カメになった相手への技ですね。

ゴエス　実は昨日の試合でも、ヴァーノン〝タイガー〟ホワイトにその技をかけてやろうと思ってたんだ。でも相手の動きが速くてかけることは出来なかったよ。

――それは惜しかったですね。猪木さん直伝の技で勝ったって言ったら、日本のファンは大喜びしますよ（笑）。

ゴエス　でもいつか近い将来には、必ずこの技で誰かをタップさせるよ。と言うのも、ボク自身イノキさんにこの技を掛けられて、叫び声を上げるほど痛かったんだ。それにタップしなかったとしても、その痛みで相手を仰向けにさせて、自分の優勢なポジションに動かすこともできるんだ。実にいい技を教えてもらったよ（ニッコリ）。

イノキさんに足首固めを掛けても不思議な事に、全然痛がらないんだ

――そういう話を聞くと、猪木さんがもう少し若かったら、『ＰＲＩＤＥ』に出てほしかったと思いますね。

ゴエス　でもボクはイノキさんと闘うのはゴメンだね。痛みを感じない人とは闘いたくないよ（笑）。

――そりゃそうですね（笑）。ところで、猪木さんとは実際会ってみていかがでしたか？

ゴエス　元々イノキさんはボクのヒーローだったから、一緒にいるだけでボクは舞い上がってしまったよ。でも、イノキさんは技だけじゃなく、人間的にも学ぶ点が多い人だから、イノキさんと一緒にいる間はいつも何かを学ぼうとしてるんだ。

――ゴエス選手はイノキさんとは、どんな話をしたんですか？

ゴエス　実際に話してみて、ボクはますますイノキさんが好きになったんだよ。なぜなら彼の心の中には、いまだに〝ブラジル〟が息づいているんだ。イノキさんがブラジルに住んでいたのはもう40年も前の話なのに、ブラジルの流儀っていうものをよく知ってるし、ブラジルの社会の問題についても考えていてくれている。ブラジルの文化や食物のことも尊重してくれるんだ。ボクはそれがブラジル人として、とても嬉しかったんだよ。

――猪木さんは、ゴエス選手たちに対してはどんな風に接してるんですか？

ゴエス　イノキさんはスーパースターなのに、すごく気さくな人なんだ。ボクに対してよく、ポルトガル語でダジャレを言うんだよ（笑）。

――ダーッハハハハ！　ポルトガル語でダジャレ！（笑）。

ゴエス　イノキさんはいつも周りの雰囲気を明るくしてくれるんだ。だからイノキさんがにいると、ジムの中が笑いで絶えないよ（笑）。

――アントン・ジョークを連発する姿が目に浮かびます（笑）。

ゴエス　ブラジルでの生活はだいぶ長い間ブランクがあるのに、それでもブラジルのことを巧く冗談にするんだ。「凄くよく覚えてるんだな」って感心したよ。

――ホントにゴエス選手は猪木さんが好きなんですね。プロレス自体はよく見るんですか？

ゴエス　イノキさんのファンなんだから、もちろんプロレスも大好きだよ。今は『ＰＲＩＤＥ』のことがあるから考えてないけど、

ALLAN GOES

イノキさんみたいにはなれないけど、近い将来プロレスラーになりたい

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

将来的には是非プロレスもやってみたいと思ってるんだ。

――プロレス転向もすでに考えてるんですか。

ゴエス　自分がプロレス界でどれくらいやっていけるか、試してみたいんだ。イノキさんのようなすごい選手になれるとは全く思ってないし、そこまでは望んでないけど、その半分でもなれたらなぁと思ってるよ。

――プロレスラーになるなら、日本、アメリカどちらでも構いませんか？

ゴエス　いや、ボクは日本のプロレスのほうが好きだから、できれば日本でプロレスラーになりたいね。アメリカン・プロレスでは、役者的なことを演じなければならないから、あれはボクには向いてないよ。日本のプロレスの、よりリアル・ファイトに近い見せ方が好きなんだ。

――ゴエス選手は一刻も早くUFOに欲しい人材ですね（笑）。

ゴエス　UFOもビデオで見たよ。ああいう闘いはいいね。ボクはプロレスのビデオをたくさん見てるんだよ。

――他にはどんな試合を見てるんですか？

ゴエス　もちろんイノキさんのビデオは数え切れないくらい見たし、『PRIDE』で活躍してるミスター・オオツカの試合も見たよ。あと、ドン・フライやブライアン・ジョンストンなんかが、ニュー・ジャパンで活躍してるのをよく見るよ。

――それにしてもゴエス選手はどこでプロレスのビデオを手に入れてるんですか？

ゴエス　イノキさんの義理の息子さんのサイモン・イノキさんから、テープを貰うんだ。だから凄く情報に手が届きやすいんだよ。

――ところでゴエス選手とは逆に、プロレスの世界からVTに入ってくる選手もすごく増えていますが、彼らについてどう思いますか？

ゴエス　よく周りの人々は「プロレスラーはリアルファイトでは弱い、闘い方を知らない」って言ってたけど、ボク自身はプロレスのビデオをよく見ていたから、さっきも言ったけど、日本のプロレスはリアルファイトに凄く近いということを知っていたんだ。

――格闘家の間では、プロレスへの偏見はやっぱりあるでしょうね。

ゴエス　『PRIDE』のトップで活躍しているミスター・サクラバや、ミスターオオツカ、あとオリンピックの柔道で活躍した、ミスター・オガワとかもみんなプロレスラーだよね。それでも「プロレスラーは弱い」というのはおかしいよ。それに彼らはお客さんのことをよく考えてるから、彼らにとってはリアル・ファイトで勝てばいいだけだったら、かえって容易いことである場合もあると思うね。

――確かにそれはありますね。彼らはバーリ・トゥードでも、ただ勝つだけじゃなくて、お客さんをいかに楽しませて、その上で勝つかっていうことを考えてますもんね。そういう意識ってゴエス選手はありますか？

ゴエス　みんなが信じてくれるかは別として、ボク自身はエンターテイナーとしての要素は持ってると思うよ。と言うのも、試合の度に、闘い方のスタイルを様々なバリエーションをつけて変えてるし、守り方についても色々変えてるんだ。そういった意味でボクのなかには、エンターティナーとしての血が流れてると思ってるよ。

――でも、ファンからすると、昨日のヴァーノン戦（6・4『PRIDE・9』）は一本勝ちを狙ってほしかったのが正直なところです。

ゴエス　昨日の試合だってボクはタップさせたいと本当に思ってて、アームバー（腕ひしぎ）は狙ってたんだ。でも対戦相手があんまり闘う気持ちがなくて、アームバーを避けることだけに徹していたから、出来なかったんだよ。だからヴァーノンは試合後に謝りに来たんだ。「守り過ぎてごめんなさい」って。でも彼は「タップしないためにも、自分を守りたかったんだ」って言ってたよ。

――そんなことがあったんですか。ではゼヒ次回は一本勝ちを期待してます。

ゴエス　でも、試合は一人じゃできないからね。そうとう実力差があるか、お互いに攻め合わないとバーリ・トゥードでは一本勝ちは難しいんだよ。例えばボクはカール・マレンコにチョークで一本勝ちしているけど、それは彼が弱いんじゃなくて、積極的に闘おうとしてた結果なんだ。でも、昨日の対戦相手は闘おうとしなかったから、ボクも何もすることが出来なかったんだ。

――確かにヴァーノンは守ってばかりいましたね。

ゴエス　それともう一つ。時間制限があるというのが、敵にとって守りに入ってしまう原因だと思うんだよ。だからそれがなければいいなと思うね。

――桜庭vsホイスみたいな、時間無制限試合

ブラジル人選手の大半はTシャツや柔術着で入場してくるが、ゴエスは道着をモチーフにしたオシャレなロングガウンで登場。入場コスチュームにこだわるところも猪木ゆずりか。

ボブチャンチン戦に出てきたサクラバは、真のウォリアーだよ。

ですか？

ゴエス そう。必ず決着をつけるにはそのルールが一番いいよ。

——そうは言っても……。

ゴエス 例えば、海に誰かを放りこんだとして、「明日迎えに行くからね」って言ったら、一日だけでも生き延びようとするだろ？ それがタイムリミットというものさ。もし、そのタイムリミットがなくて、帰ってくるかどうかわからなかったら、自分でなんとか沖までたどり着こうとするだろ。だから決着をつけるには時間無制限が一番いいんだ。

——なるほど。どこかで聞いたことのありそうな例え話ですけど、一応納得しました（笑）。ところで昨日の試合でゴエス選手がマウントポジションからパンチじゃなくて、肩で打撃技を喰らわせてるのを見て、すごくユニークな技だと思ったんですけど、あれはゴエス選手のオリジナルなんですか？

ゴエス あれはボクの自然な、本能的な技だよ。彼を押さえ込みながら打撃を撃ち込みたいと考えたとき、肩で叩くことを思いついたんだ。

——あの技はすごく実用的で、これからバーリ・トゥードで流行しそうですね。

ゴエス 技に特許がないのが残念だね（笑）。

——桜庭選手なんかはガード・ポジションからチョップを打ったりとか、ユニークな発想の技をたくさん使って人気があるんですけど、ゴエス選手もそういうオリジナルの技を、いつも考えてるんですか？

ゴエス ボクはいつも相手と観客をビックリさせようと思ってるんだ。

——そのへんも猪木イズムですね（笑）。ところでゴエス選手は先の『PRIDE・GP』にエントリーされなかったですけど、それは自分自身残念でしたか？

ゴエス 『PRIDE・GP』にはエントリーされなかったんじゃなくて、トレーニング中にケガをしてしまって、招待をキャンセルしたんだ。ケガさえなければぜヒ出場したかったね。

——では、『PRIDE・GP』の試合は、ビデオか何かでご覧になりました？

ゴエス ああ、いままでの『PRIDE』中でも、最も素晴らしい大会だったと思うよ。

——あの日の試合で一番印象に残ったのは、やっぱり桜庭vsホイス戦でしょうか？

ゴエス いや、あの試合だけじゃなく、全ての試合が印象に残ったよ。でもその中でも特に印象に残ったのは、ミスター・サクラバがボブチャンチンとの試合に出場してきたということだね。

——ホイス選手と90分闘ったことより、その次の試合に出てきたことに驚きましたか。

98・10・11『PRIDE. 4』桜庭和志戦。『PRIDE』史上、サクが最も攻めあぐみ、試合後涙を流しノーコメントだったことで知られるこの一戦。サクが“猪木ーアリ状態”からの蹴りが誰より上手くなったのは、このときゴエスのアリキックに終始苦しめられたからと思われる。はたして決着戦が組まれることはあるのか。

ゴエス ボクはまさかミスター・サクラバが出てくるとは思わなかったからね。あの試合に出てきたことによって、彼が本当の戦士（ウォリアー）であることを示したと思うね。

——あ、ゴエス選手はヒクソンと違って桜庭選手をウォリアーとして認めてくれるんですね（笑）。でもホイス戦はそれほど印象に残らなかったんですか？

ゴエス そういうわけではないけど、ボクはミスター・サクラバがホイスより強かったというより、今回勝ったのは、彼がツイてた日だと思ったし、そうでなければ、実力ではなく戦略の勝利だと思ったからね。

——でも桜庭選手はホイス選手に勝ったことによって、いまや「ミドル級世界最強」の声もありますけど、その桜庭選手を破るのはオレだっていう気持ちはありますか？

ゴエス ボクはミスター・サクラバと一度引き分けてるから、もちろん、もう一度闘いたいと思ってるよ。

——前回闘った印象はいかがですか？

ゴエス 前回はもし判定があれば、ボクが勝ってたと思ってる。彼は確かに素晴らしい選手だけど、あの試合に関してはボクの勝ちだというのは彼もわかってることだよ。なぜなら、ボクは彼がリングから出たときに泣いているのを見たんだ。

——でも、あの涙はお客さんを満足させられなかったことに対しての涙みたいですよ。

ゴエス いや、彼自身もボクのほうが戦略が良かったとわかっていたと思うよ。まぁ、彼とはいつか必ず決着をつけたいね。

——ところで、先日、ゴエス選手の日本デビューの舞台であったパンクラスの船木選手とヒクソン・グレイシー選手が試合したんですけど、その試合はご覧になりました？

ゴエス ああ、見たよ。あの試合はミスター・フナキのノールールでの経験のなさがすべてだね。フナキは（旧）パンクラスのルールではでは、すごく素晴らしくて、危険な選手だけど、ノールールでは知らないことが多すぎ

るよ。

——ここまで話を聞いて思ったんですけど、ゴエス選手というと、タンク・アボットと乱闘騒ぎをおこしたりしていたんで、『ケンカ屋』のイメージがあったんですけど、会ってみたら紳士なんでビックリしましたよ（笑）。

ゴエス　でも変なことを聞いてきたら、突然暴れ出すかもしれないよ（笑）。

——それでは細心の注意を払わせていただきます（笑）。『ケンカ屋』と言われるゴエス選手はやはり小さいときから、よくケンカはしていたんですか？

ゴエス　ボクの場合、好きでケンカをしていたわけじゃなくてケンカをしなくては生きていけない生活環境だったんだよ。

——（おそるおそる）どんな生活環境だったんですか？　差し障りなければ話していただけますか？

ゴエス　元々ボクは、凄く貧しい家庭で育ったんだ。ボクのお爺ちゃんがレストランを経営していて、お爺ちゃんが生きているうちは良かったんだけど、お爺ちゃんが亡くなったときに全てを失ってしまったんだよ。それからボクは凄く波瀾万丈な人生を送ってきて、生き残ることが凄く大変だったんだ。

——生きていくことすら大変だったんですか？

ゴエス　ブラジルの社会というのはジャングルみたいな世界だからね。本当にサバイバル・ゲームで、僕たち家族は生き残るということすら凄く大変だったんだよ。だからケンカもするし、盗みにも手を染めたこともある。そうしなければ生きていけなかったんだよ。

——壮絶な子供時代だったんですね。

ゴエス　そういったなかでも、お爺ちゃんから学んだことは忘れなかったよ。それは「自分自身を信じること」、「周りの人々全員を尊敬すること」、そして「自分の心のなかで良いことだと思ってることを、実行すること」。悪さをしてもそれだけは忘れなかったな（しみじみと）。それからボクは、家族すべてに感謝してるんだけど、特に父と母には感謝してるんだ。それは祖父が死んだ後に、ボクの両親は自分たちの食べるものを削って、自分たちは飢えながらもボク達子供にご飯を与えてくれたんだ。

——そんな生活の中、9歳のとき柔術を始めたんですよね。

ゴエス　うん、お爺ちゃんと始めたんだ。

——柔術を習うのにもお金がかかると思いますけど、それは大丈夫だったんですか？

ゴエス　元々ボクはお爺ちゃんに柔術を教えてもらってたんだ。お爺ちゃんが生きてる間は、生活もそんなに苦しくなかったから、柔術を学びはじめることができたんだよ。

——ゴエス選手の最初の師匠はお爺さんだったんですね。

ゴエス　うん。お爺ちゃんは柔道の選手だったから、グランドの知識をたくさん持ってたんだ。しかもボクサーでもあったから、パンチも一緒に学んだんだ。そのあとボクはカーウソンのところに預けられたんだよ。それ以降、ボクにとってカーウソンは親みたいな存在なんだ。

カーウソンは親みたいな存在。でも離れざるをえなかったんだ。

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル2000

——今回カーウソン・グレイシー派から、かなりの選手が離脱したようなんですけど、ゴエス選手もいまはカーウソンの元から離れてしまったんですか？

ゴエス　うん。今はカーウソンのチームには所属してないんだ。それでもカーウソンのことは凄く尊敬してるよ。ホントに感謝してるし、彼にはボクの気持ちも凄く捧げてるんだ。ただビジネスの点で少し問題があって、離れざるをえなかったんだ。

——今は何ていうチームの所属してるんですか？

ゴエス　『ブラジリアン・トップ・チーム』っていうチームをつくって、カーウソンから離れた人たちみんなとやってるんだ。

——そのメンバーというのは今回『PRIDE・9』出場した方々ですか？

ゴエス　カーロス・バヘット、ビクトー・ベウフォート、それから今回はセコンドで来日したムリーロ・ブスタマンチ、ヒカルド・リボーリオもそうだよ。

——もしかしてマリオ・スペイヒーやヒカルド・アローナも同じチームですか？

ゴエス　彼らもそうだよ。カーウソン離れた選手全員、この『ブラジリアン・トップ・チーム』にいるんだ。

——相当な戦力ですねぇ。

ゴエス　うん、ボクは間違いなく世界最強のチームだと思っている。『PRIDE』もリングスもUFCも、ボクらのチームでみんな制覇するよ。

——ところでゴエス選手はもう金髪にはしないんですか？　凄く似合ってましたよね。

ゴエス　髪の毛がかなり少なくなってきたからね（笑）。これ以上、髪の毛を失うようなリスクは犯したくないよ。

——「あれ以上やったら、毛根が死ぬだろ」ってところですね（笑）。では、ロングインタビューありがとうございました。

【00年6月5日　名古屋市内某ホテルにて収録】

PROFILE

あらん・ごえす　1971年4月20日、ブラジル、リオ・デ・ジャネイロ出身。UFCではタンク・アボットに喧嘩を売ったり、ダン・ヘンダーソン相手に反則で判定負けを喫したりで、“柔術界のトラブルメーカー”と呼ばれる。しかし、サクをも苦しめた寝技のテクニックは誰もが認めるところで、今後の『PRIDE』ミドル級戦線の台風の目として注目されている。180cm、90kg。

ALLAN GOES

6・9UFC26

- Ultimate Field of Dreams -

米・アイオワ州 シダー・ラピッズ ファイブシーズンズ　センター

ランデルマン怒号の中、王者防衛

UFCヘビー級タイトルマッチ（5分5R）
○ケビン・ランデルマン（ハンマーハウス）（判定3−0）ペドロ・ヒーゾ×（ファス・バーリトゥード）

『UFC24』で組まれながらも、「ランデルマンが控室で転んで失神したため」という前代未聞の理由で中止になった一戦がようやく実現。しかし、内容はと言うと1Rこそランデルマンが攻め込むも、それ以降はペドロのローを警戒したランデルマンが距離をとり、見合う展開が最終ラウンドまで続いた。結局判定でランデルマンが勝ったが、退屈な試合展開に怒った客がモノを投げ込み、館内大ブーイングがおこる事態となった。その他、パット・ミレティッチがジョン・アレッシオを破りUFCライト級王座を防衛した。

7・30横浜アリーナで世紀末の大一番、決定!!

I元編集長のハイパー喫茶店トーク

長州vs大仁田という名の導火線

～あるいは「プロ格」への反射鏡～

出張版

長州vs大仁田が新たなる大爆発を引き起こす!!

5・5福岡ドームに白覆面が登場して、長州と大乱闘（というか、大ロック・アップ?）を繰り広げて以来、長州vs小川という超目玉カードが急浮上！ そんな最中の決定だけに、唐突な印象を受けたことは否めないが、ようやく決まった7・30横浜アリーナの長州vs大仁田――はじめに断っておくと、これは、勝敗のみにスポットが当たる試合ような類の試合ではない。水面下では、長州と猪木の仁義なき駆け引き合戦が繰り広げられた末の決定だったわけだが、この試合は新日本プロレスという枠の中に収まるものではない。マット界全体に直結する大きな影響力を持つ試合であることをどれだけの人が理解しているだろうか？ というわけで、インタビュー連載も大好評の〝I編集長〟こと井上義啓さんに、今世紀最大最後の超ビッグマッチの〝見方〟を披露して頂いた。必読！

メジャーだった新日、全日が個性を売り物にしたベンチャー企業に細分化される！

「長州が言った『マスコミが、〝ウソだろう！〟と、びっくりすることが起こるぞ』とは、どうい

分裂した全日の二枚看板だった三沢と川田。たもとをわかち、それぞれの道を歩み始めた。

連載インタビューも大好評!!
井上義啓氏激語り!!
（元・週刊ファイト編集長）

〝裏原宿プロレス〟なる用語は、まだ誰も使わないけど（笑）、今年中に、そうなる!!

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

うことなんですか」――。

プロレス者から電話がかかってくるだろうとは思っていましたけど、こんなにひっきりなしとはね。同じことを繰り返すということは、最初の1、2回はイロハのイの字から説明していきますけど、4回目、5回目となると、概略になってしまうということなんです。

「要するに、新日、全日が分裂、細分化されて、橋本組、藤田組、三沢組、小橋組になっていくっていうことですよ。前から、あっちこっちで書いている通りで、皆さんが目くじら立てて電話をしてくるほどのことではないと思いますけどね」

そうは言ったものの、東スポが『三沢社長辞任、退団へ!!』と一面で報じた時は、〝とうとう〟ではなく、〝やっぱり！〟でしたね。馬場さんというより元子夫人の顔が思い出されて、「シンドイなァ」と……。

で、もう一度『週刊ファイト』のコラム（6月15日発売号）のゲラを取り出して、これでよかったんかいな……と。と言うのは、『全体が崩壊して個の集団へ。プロレス→〝プロ格〟だけではない！』といった論調で書いていたからなんですね。「川田vs藤田、藤田vs高山となれば、ワンマッチのPPV（有料放送）が可能だ。この『ワンマッチのPPV』を関係者は真剣に考慮すべきである」（原文）と持って回ったような書き方をしたのは、必ず全日プロは細分化され、一部のレスラーが〝プロ格〟へ走る――との繰り返しだったんです。

長州はこう言いたかったんじゃないんですか。「オレと大仁田の試合をきっかけにして、これまでは考えられもしなかった試合がどんどん出てくるぞ。新日と全日のトップクラスが大会場での目玉になるというな」

砕いて言うと、こういうことでしょう。これまでは団体が試合を企画し、交渉、設営し、興行主となって試合を行ってきた。しかし、これからは、DSE（ドリームステージ・エンターテインメント）のように、所属選手を持たない興行会社が単発で「エエッ！」と驚くマッチメークをどんどん出して行くという……。長州の頭の中には、蝶野vs三沢、健介vs小橋といった対決シーンがグルグル回っていたと思いますよ。

問題はこれなんです。

①・団体という大きな組織が崩壊して個の集団となる。

②・団体がマッチメーカーとは限らない。

③・ワンマッチに近い試合形態となる。

④・ワンマッチのみのPPVがどんどん出てくる。

言ってみれば、メジャーだった新日、全日が個性を売り物にしたベンチャー企業に細分化されるってことなんです。〝裏原宿プロレス〟なる用語は、まだ誰も使わないけど（笑）、今年中に、そうなる。「近いうちにPPVの花盛りになるなんてことは書かない方がいい」って忠告してくれた御仁がいましたけど（笑）、1ヶ月もたたないうちに藤波社長が「全試合を茶の間で見られるようになる」と、PPVをどんどん取り入れると断言した。長州vs大仁田は、こうした新しいプロレス風景のハシリになるってことなんですよ。

白覆面と長州が大乱闘を繰り広げ、真ん中でオロオロする藤波。現在の新日を象徴した写真である。水面下でも駆け引きは続いている。K・カシンの『PRIDE』登場もvs大仁田戦決定への報復だという見方もある。

世はまさに〝プロ格〟時代それなのに、（長州は）プロレス復権を考えている！

長州はU系大嫌い人間ですから、〝プロ格〟も快くは思っていない。全日の選手を呼んでのビックマッチにしても、純然たるプロレスで……と考えているはずです。世はまさに〝プロ格〟時代。それなのに、プロレス復権を考えている。ですから、今度の7・30長州vs大仁田も反〝プロ格〟の、ストロングスタイルのプロレスを演出するんじゃないんですか。アルティメット的な方向とWF的な方向の二つに分かれていくことははっきりしているわけで、プロレスの二極化は避けられない。藤波は〝プロ格〟、長州は純プロレス。それを世に示そうじゃないかとの狙いが、今度の7・30にはある。〝プロ格〟盲者に目にもの見せてくれるぞというね。

7・30には客が入るでしょう。PPVが行われるとすれば、そこそこの数字は挙げられる。しかし、それをもって、〝プロ格〟の旗色が悪くなったとはならない。長州の狙いがどこにあるかは別にして、〝プロ格〟うんぬんとはまるで別次元の〝ワンマッチ興行〟ですからね。7・30以後、どのような論調が広がっていくかが見ものですよ。二極化論を明確にしていく効果は持つと思いますけど……。

今日もあしたもシリーズを打って行くやり方は、もうはやらない！

ベンチャー企業って何なのだろう。クリエイティブな個の存在体。しかし同時に、これまでの常識というか、感覚を打ち破ったミスマッチ的な色合いと匂いが求め

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル2000

7・30が持つミスマッチ的な匂い
――それが7・30以降吉と出るか？凶と出るか？

られるんです。ミスマッチとはミステリアスマッチのことでもあるんですね。そういった平成の感覚が、これからのプロレスには求められる。団体が行うシリーズの最終戦にビックマッチ――大半がタイトルマッチなんですが、そういった、ありふれた持って行き方では労多くして益少なしとなる。プロレスの試合なんだけど、川田に飯塚をぶつけた〝プロ格〟まがいの試合だというね。そういった、ヘェーと驚く試合を三つだけ集めて、スリーカウントなし、レフェリーなし、試合時間制限なしといったプロレスの原点をほうふつさせる試合をするといった具合ですね。無論、きのうも試合やった。今日もやった。あしたもやるという昭和プロレスは排除する。飯塚にしろ天山、小島、大谷、金本にしろ、メーンを張れるだけの実力を持っている。それなのに、毎日のように行われるとシンドイ試合では何も注目されていない。ワンマッチが絶対とは言いません。2試合でも3試合でもいい。PPVを行って、何千人かのファンがアクセスしてくるというビッグマッチに仕立て上げる手立てはあるはずだ。小川が新日にいると仮定してごらんなさい。小川vs橋本で東京ドームを満杯にするなんてできなかったと思いますよ。藤田が新日プロのレスラーで、健介相手にIWGP（ヘビー級戦）をやっていると考えてごらんなさい。新日だけじゃない。全日にしたって、宝の持ち腐れだ。それぞれが個人企業となって、クリエイティブに勝負する方法を考えるべきだ。団体中心のプロレスでは山ちゃん（山崎一夫）のような苦労をすることになるけど、団体が崩壊して▽▽組の花盛りとなると、その道が開けるのじゃないかと……。

言うは易く、行うは難しで、そうそう、うまく行くとは思われませんけど、今日もあしたもシリーズを打って行くというやり方は、もうはやらない。あくまで単発、あくまで個性なんですね。

そのためにも、一人一人が独特のカラーと匂いを強烈に持たねばなりません。▽▽組を設けたのはいいけど、まるで個性がなく、これまでの団体プロレスと同じ試合をやっているだけでは総倒れとなる。アメリカではアルティメットの試合がほとんど行われていない。猪木が「美しくないのだから、そのうちすたれる」と言ってましたけど、その通りになった。このことをよーく頭に入れる必要があります。バーリー・トゥードだとうたとえば、ヒクソンvs船木が簡単にやれると考えてはならない。そんな目玉商品は五つも六つも転がってはいないんです。ヒクソンがひしゃげて、何とかグレイシーが出てきても、もう東京ドームは使えない。時の人である桜庭にしても、何とかグレイシーでは、もう客は呼べない。だから私は『団体、レスラーにとっては恐怖の時代が生じるが、この〝開国〟は誰にも止められない時代のすう勢である』と書いた。ベンチャー企業もインターネット・ビジネスもどんどん倒産しているという過酷な現実を見据えねばならないってことですよ。

「長州vs大仁田にテーマなし」なんて言う人は、さっさとプロレス村から出て行くことですよ

東京ドームでの試合ならテレビ朝日の合意を得なければならない。しかし、それ以外の会場マッチなら、その限りではない。だから、長州は横浜アリーナを選んだ。藤波の引退試合でもないのに、どうして？との疑問はすぐ解けましたよ。テレ朝がガタガタ文句を言っているのは、このためなんですね（6月12日現在）。猪木、藤波連合軍に対する長州の意地、それはわかります。俺の試合なんだから、あんたたちの言いなりにはならないというね。団体プロレスの常識を破った、この7・30が持つミスマッチ的な匂い――それが7・30以後に吉と出るか凶と出るかですよ。

私は、「山が動いた！」との大仁田の言葉をとらえて、〝動かざること山の如し〟なる武田信玄の風林火山を例に引いた。大仁田は「長州戦のテーマは〝風林火山〟じゃ！」と……。動いてはならない山が動いていいのか――このテーマは7・30以後に答えを出してくれます。それは、ひいては今後のベンチャー・プロレスへの指針ともなる。長州vs大仁田はいろいろな意味を含んでいるわけだ。プロレスとは何かとの今日的命題を問いかける場でもある。なぜ船木は31歳だったのかとのすりガラスを通して7・30が語られることにもなるでしょう。「長州vs大仁田にテーマなし」なんて言う人は、さっさとプロレス村から出て行くことですよ。行数がつきたので書きませんけど、これ以外の話はワーッとあるんですね。

（了）

いつのまにかスカイパーフェクＴＶを巻き込んでＰＰＶ生中継となっていた。果たして、大仁田に殴られ続けたテレビ朝日の真鍋アナはこの一戦を実況出来るのだろうか？

No.28 Main-Event

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

ヒクソン戦に照準OK!!

小川直也

NAOYA OGAWA
UFO

紙のプロレス
RADICAL

2000
No.28
CONTENTS

タマリン引退後、無職のはずなのにテープを持って失踪中に一言!

私はすごく忙しいんでござる

Art Director
出田さん●San Ideta

Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
セッキー●Sekky
グッチー●Gutty

Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae

Cover Model
ヒクソン・グレイシー&
小川直也 & 桜庭和志

Cover Photo
乾晋也 & 森鷹博 & 斉藤ユーリ

※「RADICALとは何か?」教えまする! モチのロン!「根源的」、「根本的」って意味でございまする。タマタマ

あの"事件"を激白! 42
前田日明
AKIRA MAEDA RINGS

死ぬまで赤いパンツの頑固者 25
田村潔司
KIYOSHI TAMURA RINGS

ヘンゾ、カシン戦を語る 18
ヘンゾ・グレイシー
RENZO GRACIE

山口日昇の原稿・内容未定 1

編集部緊急座談会 73
ヒクソンvsプロレスラーはまだ終わらない!

「僕はこの業界に恩返しがしたい」 146
豊永稔
MINORU TOYONAGA TAKADA DOJO

スクープ! ゴエスは猪木信者だった! 32
アラン・ゴエス
ALLAN GOES

「アイブル、反省するな!」 24
ギルバート・アイブル
GILBERT YVEL

I編集長入魂のハイパー喫茶店トーク 38
7・30大仁田vs長州という名の導火線

バッチリ大会リポート 52/148
6・11掣圏道&6・15リングス

三沢、退団!! 88
大激震!! 全日本プロレス分裂!!

No.28 Semi-Final

いざ新天地へ! 140
池田大輔
DAISUKE IKEDA

★今月は豪華二本立て
『紙プロ』スーパースター列伝

「やまちゃんが、また言っちゃった」 81
山崎一夫
KAZUO YAMAZAKI

新日、ジャパン、決起軍の秘話を大放出! 57
仲野信市
SHINICHI NAKANO

『相撲多重アリバイ』 65
プロレス入りの噂を語り倒す
旭道山
KYOKUDOZAN

短期集中連載 113
ミスター高橋の『夏だ! チューブだ! ピーターだ!』

追悼特集 129
ボクらのジャンボ鶴田

Scandal & Scoop

本誌独占!! ジャンボ鶴田の死、その真実を語る 138
故・ジャンボ鶴田夫人(鶴田保子さん)
YASUKO TSURUTA

"TKの母"待望のロングインタビュー 89
髙阪フミ
OKAN

芸人魂も連鎖する! 150
プロレスラーは芸人なんだCLIMAX

「首投げ、ごっつぁんです」 145
スモ・ダンディー・フジ200000000
SMO DANDY FUJI 200000000 CRAZY-MAX

Radical Fight

編集長、再度交代! 153
紙の新聞

疾走するインディー情報ページ 106
狂い咲きインディーロード

イベント情報満載 126
格闘笑点

Columns

暇さえあればリニューアル! 97
『BEST OF THE スーパーコラム』
花くまゆうさく/掟ポルシェ/堀越日出夫/井上義啓/村上隆

ザ・検証 118
椎名基樹/せきしろ

吉田文豪人生劇場『書評の星座PART2』 54

Another

紙プロUFO旗揚げ記念、読者ハガキは一切無視の 121
紙プロUFOの読者ハガキコーナー

「気持ちは確かめあった!」 157
……な読者プレゼントコーナー

RADICAL特製ピンナップ

なぜだ! ヒロ杉山が『紙プロ』見参!
アントニオ猪木

RADICALディスコポートレート

『レッスル・ディスコ・フィーバー・デラックス』発売記念
岡元あつこ&ビューティーペア2000
&スギースターダスト

※真樹日佐夫先生の『無比人』は今回はお休みです。次回をお楽しみに。

「お前、ナニ目えパチパチさせてんだよ!!」——お色気仕掛けって難しいね、タマリン? ジャイジャイ♥

※ピンポンパンポーン。世田谷区のO西様、O西様。今後は貴女様のご指摘どおり遊び心のある誌面作りを心がけまする。ピンポンパンポーン。

前田総師、「尾崎社長暴行（?）事件」「ヒクソンVS船木」を語り倒す!!＆「ヒクソンとやってもええで!!」と断言!?

「暴力？振るいようがあらへんやんけ」

聞き手1／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

聞き手2／吉田豪
interview by Go Yoshida

協力／マガジンBang
（マガジンマガジン）
special thanks by Magazine Bang

ジェレミーに「ウチで試合しないか」って渉外に言わせてるんだよ

6月13日、オランダからアメリカを回ってきた前田日明リングス総帥が帰国。成田空港には大挙して報道陣が詰めかけていた。目的は、「前田、パンクラス尾崎社長を暴行（？）事件」のことを聞くためである。「三沢、全日離脱」というスキャンダルが一面に踊った6月13日付けの東スポの裏一面。そこで表面化したこの一件は、業界ではすでに駆けめぐっていたわけである。

空港での前田総帥は「ノーコメント」の姿勢だったが、最後に「ロスに女を囲う金があったら、選手にギャラ払え」という謎の言葉を残し、帰路に着いた（尾崎社長はこの"ロス疑惑"を否定）。

事は「ヒクソンvs船木戦」の前日、つまり5月25日に起こった。尾崎社長が、リングス契約選手のジェレミー・ホーンに引き抜きの話をしたという理由から、前田総帥が激怒（尾崎社長は「引き抜き」に関しても否定）。正面衝突となってしまったのだ。尾崎社長は前田総帥に「暴行」を働かれたとして、民事、刑事両方で告訴する準備をしているという。

本誌は前田総帥がオランダに旅立つ2日前、吉田豪が聞き手の『マガジンBang』さんのインタビューに相乗りさせてもらい、事件についての見解を聞いていた。その模様をお届けする。

（聞き手のYは山口日昇、Gは吉田豪）

Y 今日は『マガジンBANG』さんのご好意で、相乗りさせてもらうことになったんですよ。前田さん忙しくて、なかなかスケジュール取れないから。今月（5月）もほとんど日本にいなかったですよね。アメリカとロシアと……。

前田 このあとオランダ行くでしょ。すぐ次にアメリカでしょ。旅ガラス。股旅モノ。夜桜銀二！（笑）。

Y 全然日本にいないですからね。

G いない割にはいろんな噂が流れてるんですよね（笑）。

Y 「なんで日本にいなくても、こんだけ大騒ぎされるんだろう？」と思って（笑）。

G まずアメリカで『K通』のTさんとモメたというのを聞いたんですけど。

前田 生意気なんだよ、あいつ！ 一番最初にアブダビ・コンバットで会ったんだけど、態度が横柄だったんだよ。マネジャーに聞いたら「『K通』の新しい編集長」って言うから、まあそれならそれで考えもあるんだろうし、我慢しようと思ったんだよ。でも、田村やら高阪のインタビュー載っけてるでしょ。それでそこの社長に対して挨拶ないっていうのはどうなんかなって思ったんだよ。で、よく聞いてみたら、まだ3～4年目のペーペーの、しかもフリーの記者だっていうから頭に来てね。

Y モメたという噂は、またたく間にインターネットで広がりましたよね。

G 最初なんか、KO説が流れてましたからね（笑）。

Y そうそう（笑）。前田さんが「蹴り入れて殴ってKOした」って（笑）。

前田 アホか。素人相手に。蹴り入れるフリして、つま先がチョコッと洋服に当たっただけだよ。あと頭に来たから、カメラのバッグ蹴飛ばした（笑）。

G ダハハハ！ 一体なにがそんなに頭に来たんですか？

前田 ぞんざいなんだよ。挨拶もしないでなんか人のこと訝しげに見てるから、「なんや、その態度？」って言ったら「挨拶したじゃないですか！ 挨拶に気づかないあなたが悪いんですよ！」って言ってきてね。そうなったら「お前、気づかない挨拶なんて挨拶じゃないんだよ！」ってなるやんけ。

Y 一本！ それはその通りです（笑）。

前田 「親の教育が悪いんじゃないか」って真剣に言ったら「お前に親の悪口を言われる覚えはない」とか言い出したから「なにヌカしてるんや！」って。そうしたらさ、「権力を振りかざしやがって！」とか言い出してな。なんの権力や？って（笑）。

Y まあ、その人物は、修斗を作ってきたっていう自負があって、必要以上にプロレス出身者とかを敵視する傾向があるっていう話ですからね。

G で、修斗がらみの判定に納得いかなくて抗議して、アブダビで心象を悪くしたりとかしてるそうですけど。

前田 アブダビもWEFもリングスも、どこも入れないよ、あんなヤツ。

Y ガハハハ！ 前田日明が権力を振りかざして言っております（笑）。

前田 権力は善用しないといけない。逆に考えればね、権力を持ってる人間が、権力を得るために、どれだけ血と汗と涙を流したか。「こいつ、やるんだぜ」って認められないと、その場所で権力は得られない。でしょ？

Y 「力なき正義は無能なり」ですからね。

前田 そうそう。

Y 「また正義なき力も無能なり」ですからね（笑）。

G 難しいとこですねぇ（笑）。

前田 「血のなき生理は妊娠なり」ってね（笑）。

Y ガハハハ！ なにを言ってるんですか。で、「船木vsヒクソン戦」の前日に尾崎社長とひと悶着あったたって聞きましたけど。

前田 前々日にジェレミー・ホーンの部屋に「明日話さないか？」とパンクラスの渉外からコンタクトがあった。その時にたまたま彼の部屋に打ち合わせでウチの事務所のやつがいた。で、ジェレミーがウチのやつに相談したんだよ。それで、ウチのマネジャーを一緒に行かせたら、UFC―Jの坂田君（坂田晶代表）も一緒にいて、坂田君とウチのマネジャーが話をしてる間に、ジェレミーに英語で、「ウチで試合しないか」って尾崎が渉外に言わせてるのが、ウチのマネジャーに聞こえてんだよ。そこまでウチのマネジャーに英語力がないと思ってナメてるんだよ。それで俺がスッ飛んで行ったらさ、「いや、僕は友だちだから挨拶しに来ただけ。ジェレミーから『会いたい』って電話してきた」

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル2000

世界を駆けめぐる前田総帥は、6月13日に帰国。成田には多数の報道陣が待ちかまえていた。尾崎社長は告訴するというが、一体この問題の根っこは誰がどうやって解決するのか

緊急NEWS! 全日本中継終了!

6月19日。日本テレビは、三沢らの大量離脱を受けて、6月21日の放送をもって、「全日本プロレス中継」を終了することを発表した。翌週以降の番組については、「プロレス・格闘技ファンの期待に応えるべく企画検討中」とのこと。伝統に終止符が打たれた。

こっちはパンクラスに対してニュートラルなんだよ。選手には何もない

って得意のすり替えをしてきてさ。

Y ジェレミー・ホーンはパンクラスに上がってたことありましたから、友だちでもおかしくはないんでしょうけど。

前田 最初はジェレミーが「話していいか？」って言うから「ああ、いいよ。行け行け」って言ったんだよ。でも、いまはウチの契約選手だからマネジャー付けたんだよ。そうしたらウチのマネジャー見て「なんでお前が来るんだ」みたいな顔してたらしいからね。それで俺が行って「お前、なにしてんだ？」って言ったんだよ。

Y 警察沙汰になったとかいう話ですけど。

前田 ウダウダやってても、ホテルの中だしカッコ悪いからさ、外に行って話つけたろと思ってね。尾崎は座ってるから「外に行って話をつけよう」って言ったんだよ。そうしたら自分の仲間に「あ、殴られた。警察呼べ！」とか言い出してね。頭に来てさ、「じゃかましい、この詐欺師！」って言ってやったよ。襟を掴んで立たそうとしたら、今度は机にしがみついてね。そしたらコップが倒れた。

Y そこで警察を呼ばれたと。

前田 いや、俺が他の部屋に移ったあとに来た。

Y で、警察はどうしたんですか？

前田 警察が言うには、「いまの法律では触っただけでも、本人が『痛い』と言って医者に行ったら、医者はそれに対して診断書を書かなければいけない」と。だから「触っただけで暴行になったりとかある」んだって。でも警察もよくわかっててね、「全治5日とか全治10日くらいじゃ相手にされないから、心配ない」って言ってたよ（笑）。

Y 僕も、以前ちょっとあって診断書取ったら全治10日だったことありますね。薬も付けないで治るような傷でしたけどね。でも、診断書取らないと相手に怪我さしてたんで僕だけ悪いことになっちゃう状況だったから取りました（笑）。

前田 なにしたの？

Y いや、ただの喧嘩です（笑）。

前田 俺、でも指紋全部採られたからね。

Y 厳しいなぁ。

前田 指紋はね、昔からよく採られたからね。国籍変えるまでは外国人登録証明書があったから、5本の指全部採ってるよ。

Y 「俺の指紋は違うぞ」とか、自慢はしなかったんですか？（笑）。

G 「サイズが違う！」とか（笑）。

前田 あ、でもね、お巡りさんの人生相談にのったよ（笑）。

Y なぜだ!?（笑）。

前田 お巡りさん曰く、「どんどん犯罪が増えてるけど、警察官はどんどん人員削減される」って。ヤクザとか暴走族も頭よくなっちゃって、お巡りさんがちょっとでも触ると「アッ、痛い痛い！ 暴行された」とかやって、どうしようもないんだって。そのお巡りさんも一回、殴った殴らないで、それを証明すんのに8年かかったって言ってたね。裁判だなんだって。そういうことが多くて、みんなやる気なくして辞めちゃうんだって。いまね、東京都下においてはレイプの発生率が倍々ゲームのように増えてるらしいんだよ。女の子が一人で歩いてると、車でさらってヤッちゃうとか、いっぱいあるんだって。それで捕まっても、弁護士連れてきて、その弁護士が女の子のとこに行って、「あなた、レイプ裁判ってどういうのか知ってますか？ 感じたか？ とか、濡れたか？ とか、嫌なこといろいろ聞かれるんですよ。凄く恥ずかしいですよ。それでも訴えますか？」とか言って、みんな示談にさせちゃうらしいんだよ。

Y 確かに裁判は面倒臭いですからね。

前田 弁護士もおかしなヤツが多いし、刑法も不十分だし。いまね、悪いことして捕まるでしょ。そいつが「ちょっと微熱が出た」って言うと病院連れて行くんだよ。おかしなことに犯罪者に対するケアが万全なんだよ、日本の法律って（笑）。俺がもし馳浩みたいに国会議員になったら、人道に基いて、人間が人間を裁いちゃいかんから、死刑は廃止しますよ。そのかわり、仇討ちを復活する！

Y ガハハハ！ 仇討ちときましたか！

前田 で、お巡りさんにそれを言ったら、「俺もその通りだと思う」って言ってたよ。いまな、取り調べしてて、犯人に「お前どこ住んでんだ？ 家族いるだろ？ ウチの組織で調べて、全員皆殺しにしてやるからな。お前も仕事柄、行方不明の人間がみんな見つかるとは限らないってわかってるやろ？ ウチらはそういうの熟知してるから、お前の家族全員やったる！」って脅かされるらしいんだよ。でもお巡りさんの家族になにかが起こらないと警察は動けないでしょ。だから、そういうことにビビッて辞めちゃったお巡りさんがいっぱいいるんだって。その上人員削減されるから、大変らしいよ。

Y そういう人生相談を受けたと（笑）。前田さんも、これから大変なことになるかもしれないじゃないですか。

前田 俺、今年警察行ったの2回目だよ。

G ほかになんかありましたっけ？

前田 ウチの弟を半殺しにしたんだよ。悪さしたから。たまたま通行人に見られて警察に呼ばれて。

G ああ、「スケールのデカい兄弟ゲンカをした」って噂は聞いてましたよ（笑）。

前田 病気の親にまで迷惑かけるようなことやったから、二度と悪さできないようにね。身内の責任としてやった。

Y 過激だなぁ。それも含めて、なんで日本にいなくても、人騒がせなんですか？（笑）。

前田 ダンディズムを貫いてんだよ。周りの人にショックを与えてる。

Y ガハハハ！ 与え過ぎです！ 尾崎社長の件はどうなるんですか、今後は？

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

G　昨日、関係者に聞いた話だと、訴訟するっていう話が出てるらしいですね。

前田　勝手にせい!

Y　暴力は振るってないんですか?

前田　振るいようがないやん。ジェレミーとか、証人はおるやん。見てた人もいっぱいいたし。マネジャーがジェレミーに「止めてよ!」って言ったら「ボク、怖いからヤだ」って言ってたらしいよ(笑)。

Y　ガハハハ。試合じゃないですからね。

前田　マリオ・スペーヒーとかは、そういう話聞くと大喜びでさ、「今度は俺を呼んでくれ」って言ってたよ(笑)。

G　そういうのがあったから、『コロシアム2000』では厳戒態勢だったわけですか?

前田　そう、テレ東がつけてくれたんだって。尾崎が選手を使ってなんかしようとしたりしたら大変だって。

(※このとき、ちょうどクリス・ドールマンの奥さんから「マエダはジェイルに入ってるのか?」という問い合わせの電話が入る)

Y　ガハハハ!　もうすでに世界を駆けめぐってるんですね、誤報が(笑)。

前田　もうなんでもええわ(笑)。

Y　そもそも前田さんは、そのときはなにをしていたんですか?

前田　アブダビの王子様が来る予定やったんやけど、結局王子様が来れなくなって、アブダビ・フィットネスクラブの責任者が、王子様の代わりに来たからその接待で、マリオ・スペーヒーとかと飯を食う予定だったんだよ。

Y　そのときに尾崎社長はジェレミー・ホーンと会ってたと。

前田　で、行こうと思って用意してたら電話があって「よぉ～し!」と思って大急ぎで着替えて、飛ばして行ったんだよ。「どこにいるんや!」って。

Y　止めに入ったリングスのマネジャーも怒鳴られたという(笑)。

前田　尾崎は調書取るとき、「鼻の穴に指入れられた」とかヌカしてたらしいけどね。

Y　でも、そういうときの前田さんはカーッと頭に血が昇るじゃないですか。「ちょっとでも触ったらいけないな」とか、そういう意識は働かないんですか?

前田　襟を持っただけだよ。

Y　でも、そもそも、『コロシアム2000』に前田さんがリングス勢の出場を決断したのは、どうしてなんですか?　普通、「パンクラスがメインだったら嫌だよ」ってなってもおかしくないじゃないですか。

前田　いや、別に。ただ「サミー・プレゼンツ」ってなってたじゃない。サミーの社長かなんかが間にいて、俺の知り合いを通じて「会いたい」って言ってきて、「メインはパンクラスの選手なんだけど、主催は第三者がやるから」って言うからね。

Y　そこらへんの懐が深いんですよね。尾崎さんにも、チャンスがあったら話を聞こうと思ってるんですけど、実際パンクラス自体とは、これから関わり合いを持つのは難しくなりましたよね。

前田　こっちはね、パンクラスに対してはニュートラルなんだよ。例えばね、ウチはヘビー級でしょ。パンクラスだけじゃなく、慧舟會に対しても、修斗に対してもそうなんだけど、ウチの提携してるWEFだとか、5階級あるわけ。だから「ウチが仲介してあげてもいいですよ」っていう話をしてもいいと思ってるんだよ。三者契約で、一個の契約書にあなたの名前と仲介者の俺の名前と、WEFの人間の名前と、3人が同じ契約書残してやりましょうかって。その代わり、ウチが仲介するからには、仲介料はもらいますよっていう、至極健全なビジネスはできるわけ。だから、そういう話に対しては俺はニュートラルだよ。選手に対してはなにも思ってないからね。

Y　パンクラスは絶対に乗ってこないでしょうね(笑)。でも、日本式の団体経営って、ズバリ言って頭打ちですよね。

前田　ダメだよ。もう頭を転換しないと。選手だっていつかは爆発すると思うよ。選手だってさ、みんな今風の子どもやん。いい車も乗りたいし、彼女ができたら結婚もしたいだろうしさ。それでやってることは、毎日毎日ダメージ受けてさ、いつまでできるかって話でしょ。いまのギャラだったらチャンピオンになっても大して貰えないじゃん、パンクラスは。ウチでも勘違いしてるヤツは多いけどね、自分が人気者だと思って。「個人マネジャーつけたい」とかさ(笑)。

Y　最近はプロの教育をされてない人たちが多いですからね。

前田　なんだかんだ言っても、例えば新日本プロレスの選手なんかね、ウチの選手に対しても、俺に対しても、ちゃんと挨拶するよ。でもね、山本(宜久)が、どっかで尾崎と、高橋(義生)か山田(学)かなんかが一緒にいるとこに出くわして、挨拶したら無視されたって。選手だけだったらまだわかるんだけど、尾崎がおってね、なんで尾崎が無視せなあかんねん。選手にどういう躾してんのって思うよ。でもね、高阪の話を聞くと、柳澤(龍志)なんかは、すごいまともなヤツで、そういうのちゃんとできるって。だから浮き上がっちゃうんだろうけどさ。俺らが「礼儀」ってうるさく言うじゃない?　そうするとさ、「なにを封建的な」とか言われるんだけど、それは大きな間違いで、ロシア人でもアメリカ人でもヨーロッパ人でも、なんでも、会うじゃない。それで挨拶されて無視したりしたら、それで終わっちゃうよ、間違いなく。礼儀っていうのはね、コミュニケーションを取って、自分にとって敵なのか味方なのか、そういうのに結びついていく一端なんだよ。それを、いまの若いボウズどもはわかってないんだよ。それは大人が悪いんだけどね。

Y　5月25日のときは、坂田代表とは特別な話はなにもしてないんですか?

前田　坂田君はウチに対して「選手紹介して」とか「協力する」だとか言って来るんだよ。ようわからんわ。

ヒクソンとは日本刀愛好仲間の前田総帥。「コロシアム2000」の2日前にはキム夫人ともなごやかに談笑。人間国宝の研ぎ師による日本刀鑑定の本(英語バージョン)をヒクソンにプレゼントしたという

5・26当日は、前田総帥は厳戒体勢でドーム入り。テレ東の用意した黒人のボディガードまで付いていた。パンクラスとは控室は当然反対側。尾崎社長は、船木の敗戦&引退に複雑かつ感慨深げな表情を浮かべていた

（船木の引退は）もったいないなと思うんだけど、それは本人の問題だからね

AKIRA MAEDA

Y　単純な疑問として、UFC―Jの会場で安生洋二の襲撃事件があった。その主催者の坂田さんは詫びを入れてきたんですか？

前田　一応入れてきた。なにも坂田君が悪いとか、悪くないとかじゃなくってさ、それは当たり前だよ。

Y　主催者ですからね。尾崎社長からはなにもなし？

前田　ない。そういうのがないんだよね。アメリカだったら訴えられるよ。UFC―Jと提携団体なんでしょ？　パンクラスは。尾崎はUFC―Jの会場にもいて、所属選手が俺をチャンスがあったらやる、とかうそぶいてるのを止めもしないでね。「そんなことしたら、減俸するよ」「クビにするぞ」とか言うのが経営者じゃない。それを「選手がそう思ったら俺は押さえきれない。あなたが悪いんです」って、アホかって。そんなことがあった矢先にウチの契約選手のジェレミーが、尾崎、坂田と会ってます。ってなったら怒らないほうがおかしやんけ。でしょ？

Y　う～ん、確かにあの事件は決着ついてないですからね。そういえば、安生さんは全然音沙汰なし？

前田　全然ないね。安生は絶対シバく！　やられてしばらくは、実感がないから全然わかんなかったんだけど、殴られる瞬間の写真見てからだんだん頭に来てね。俺も間抜けだったけどさ、だんだん頭に来てさ。

Y　話は変わりますけど、メンツ的に壮観でしたよね、『コロシアム２０００』は。リングスとパンクラスが同じリングに上がるということも含めて。

前田　近藤（有己）はいい選手だね。その近藤に僅かなギャラしか払ってないらしいから、それを尾崎に言ったら「あなたに言われる筋合いない」とか偉そうなこと言ってたけどね。

Y　いや、当然それは尾崎社長はそう言いますよ（笑）。船木vsヒクソン戦はどう見ましたか。

前田　今回、ヒクソンは相当緊張してたね。

G　スタミナもなくなってきてますね。

Y　船木選手も緊張してたように見えましたけどね。

前田　船木は緊張というよりね、集中力が散漫そうに見えた。なんか、自信があり過ぎたのか、よくわかんないけど。途中までは全然いい展開だったよね。「カーン」って鳴ってロープに詰められて、いろいろ言われたけど全部凌いだしさ。

G　高田さんと桜庭さんがやったことを、ちゃんと学んでやったって感じですよね。

Y　船木選手が負けたことに関しては？

前田　しょうがないね、残念だね。複雑な気持ちですよ。でも、誰も負けると思ってなかったからね。俺も勝つと思ったしさ。

Y　船木選手は、試合後にマイクを持って「15年間ありがとうございました」と言って引退を表明しましたよね。

前田　もったいないなって思うんだけど、それは本人の考えることだから、なんとも言えないね。あとは尾崎がしっかりしないと。テレビ東京の関係者に「あそこは仕事がやりにくい」とか言われてるようじゃダメだよね。みんな選手に皺寄せが行って、「金じゃないだろ、少なくても我慢してね」みたいなのじゃダメですよ。選手だって激しい、辛いことやってるしさ、他団体のヤツがベンツ乗り回してたり、ロレックスしてたりしたら、自分も欲しいしさ。そういう不満も出て来るよ。それで不満が出てきたら、「前田は裏で、お前らのことをこんなふうに言ってるぞ」って襲わせてさ、話になんないよね。

Y　ドームで、ヒクソンとやることだけが最終目標みたいにも映ったんですけど、「そんな低い目標設定でいいのか？」という感じもありますよね。

前田　だから、疲れてんじゃない？　そういう気持ちはよくわかるよ。

Y　前田さんも、いままで疲れたことはたくさんあったと（笑）。

G　話は変わりますけど、日本刀マニアの前田さんから見て、船木さんが日本刀持って出て来たことはどう思いますか？

前田　あれ真剣だったら登録証つけてないとね。真剣なのに登録証つけてないんだったら、「お巡りさ～ん！」って呼ばれるよ（笑）。銃刀法違反で。それに日本刀の持ち方がおかしかった（笑）。

Y　ガハハハハ！　さすが日本刀マニア！　そこまで見抜きましたか（笑）。でもヒクソンの集中力は、やっぱり大したもんですよね。

前田　でもね、リングに上がったときは落ち着きなかったよ。でも、セコンドアウトしたらピシッとなったね。

Y　試合への集中力が違いますよね。

前田　反対に船木は急に不安な顔になった。

Y　前田さんは、ヒクソンとは日本刀以外の話はしないんですか？

前田　……したことないね。

Y&G　ガハハハ！

Y　素敵だなぁ。

G　それのみ！　ちなみに橋本（真也）さんとはどんな話をされたんですか？

前田　「ホントに辞めんの、お前？　アングルでしょ？」って（笑）。

G　ダハハハ！

前田　「ホントのこと言ってみろ！」ってコチョコチョやったけど、「実はいろいろあって、ホントなんですよ」って。で、オシッコしてたら藤波さんに会ったから、「アングルですよね？」って言ったら「違うよ、俺もいろいろやってんだよ」ってわけわかんないこと言ってたけど、な～んか嘘臭いよね（笑）。

Y　ガハハハ！　ファンじゃないんですか

「コロシアム2000」に、リングス勢の出場が発表されたときは、マット界の脳味噌の皺がショックによって刻まれた。写真左は5・26の金原vsスペーヒー戦を審議委員として見守る前田総帥。リングサイドに向かう際には一際大きい声援が飛びまくった

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

ら！

G　バックステージのトイレで前田さんと藤波社長が二人並んだのは壮観でしたよね（笑）。

前田　藤波さんと俺とさ、UFC―Jの坂田君が偶然横にいたんだよ。坂田君に「心配しなくても、誰もお前のチンチン小っちゃいなんて言いふらさないから」って言ってやったよ（笑）。

G　「どっちが大きいか比べっこしよっか？」とか言ってたらしいじゃないですか（笑）。

前田　「ええ〜、僕は遠慮しときます〜」とか言って連れションを拒んでたけどね。だからさ、前の日に尾崎と揉めてたときに、坂田君が「前田さん、向こう行きましょう」とか言うから、「おのれ、このガキ！　お前もグルやろ！」とか言っちゃったんだよ。だから「坂田君、昨日はごめんね、愛してるからね」って言っといた。

Y　ダハハハ。どう出て来るんですかね、尾崎社長は。

前田　尾崎、鈴木（みのる）だよね。でもあの2人っていうのは、船木とかパンクラスがなかったら、まったく光を持たないんだよ。鈴木は船木抜きでは語られへんよ。船木は鈴木抜きでも語れるよ。でしょ？　でも、パンクラスは船木が引退しても、いい選手いっぱいいるから、なんとかなるでしょ。でも、肝心のマネージメントが問題だよね。

Y　『コロシアム2000』というイベント自体はどうでしたか？

前田　成功だったんじゃない。ホントは「終わりよければ全てよし」になればよかったんだけど。

G　金原選手とやったマリオ・スペーヒーは強すぎましたね。

前田　強いっていうかね、「あんなことしてよかったんだ」みたいな感じだね。

G　あれは盲点突かれましたからね。

前田　盲点だね。見ててさ「こういうことしてよかったんなら、俺ももう3年できたのに」みたいなさ。

G　KOKルールだったら、打撃喰らわないで、いかにダメージ受けないでできるかっていう。

Y　こういう言いかたしたら変だけど、金原選手っていうのは、ホント運がないなぁと思って（笑）。実力はあるんだけど。

前田　金原は戦略がないんだよね。

Y　ドームのお客さんはマリオ・スペーヒーを見るの初めてだから「えっ？　こんな強い選手だったんだ！」っていう（笑）。でも、だいぶ総合格闘技の見かたは成熟してきてますよね。試合的に面白いものってありました？

前田　近藤はよかったね、凄く。あとは（須藤）元気君も面白かったし。

Y　元気選手は賛否両論なんですよ。テレビカメラに向かってピースサインしたりとかで、「あれは不謹慎だ」とか一部で言われてて（笑）。

前田　それで負けたわけじゃないんだからいいんだよ。負けたときに言う文句だよ、そういうのは。

G　リングス勢の試合はどうでした？

前田　よかったんじゃない？　金原が勝ったら大金星、マリオが勝ったら、まぁ強かったってなるし。

G　ちょっとKOKの判定は考えなきゃいけないのかなって感じはしたんですけど。

前田　どういうとこ？

G　やっぱり延長見たかったなっていう。

Y　単純に5分2ラウンドだと、少ないっていう感覚はあるでしょうね。

G　トーナメント用だったら、あれでいいんでしょうけど。

前田　でも、整備しないと選手がもたなくなっちゃうんだよね。

Y　確かにヤマヨシ選手にしても、田村選手にしても、試合数多いから、ハラハラしますよね。

前田　ハラハラしてんのにさ、田村はグローブ着けないでニーパット着けてさぁ。

Y　ガハハハ！　見事な意地っぱりですよね、田村さんは。

前田　あれ、グローブ着けて、中盤でパンチをボンボン当てたら勝ってるよ。

G　ドラマを作りたかったっていうのは、わかりますよねぇ。UWFへの思い入れが。

Y　「田村選手の入場シーンが一番グッときた」っていうファンの声は多いですけどね。KOKルールの一方の肝っていうのはそこじゃないですか。敢えて素手で臨むっていう選手も出て来る。

前田　ホントはなにも着けないほうがいいんだよ。でもね、ベアナックルは危険だって言われるけど、拳をちゃんと鍛えてなかったら、殴れないって。連発できへんって。単純に田村は10キロぐらい体重増やせばええんや。そしたらグラウンドだってもっと楽にできるしさ、打撃だって一発でKOできるしさ。

Y　じゃあKOKルールのプロモーションという部分で捉えると、うまく行ったって感じですか？

前田　そうやね。行ったんじゃない？

Y　これからバーリ・トゥードとKOKルールの関係は、どうなるんでしょうね？　どっちが伸びて行くかっていうのは、ファンの間でも議論はありますけど。

前田　ルールという観念は、発展していくものだからね。そのときの状況に合わせて、わかりやすいものを提示するってことだから。「体育館に二人放りこんで、出てきたほうが勝ち」っていうルールになったら……キップ買う人、どうやって観んねんって話でしょ。でもそれでいいって言うんだったらそうするよ。選手もそれでいいって言って、警察も官庁とかもそれでいいって言うんだったら。だから、マネージメント側としては、理想はいいんだけど、空想はダメ。空想では食っていけない。理想と現実の接点というのを、いつも探していかなきゃ。少しでも現実のラインを理想に近づけるように努力しなければならない。そういう話でしょ？

Y　そういえば、桜庭（和志）vsホイスは見たんですか？

前田　まだ、全部見てない（笑）。ダイジェスト版でちょっと観ただけ。

G　あれはホントに面白かったですよ。

前田　でも、なんか、ホイスはすがすがしいじゃない、負けても。大したもんだよ！

2億円くれるんなら、俺、真剣にヒクソンとやってもいいよ（笑）

そういうのを認めてやんないと。

Y　グレイシーはなんだかんだ言っても面白いですよ。

前田　だから、勝っても負けても、ちゃんとしてればいいんだよ。ヒクソンだって、終わったあとにちゃんと挨拶しにいったし、船木も最後ちょっと笑って応えてたしさ。余計なもんがいっぱいくっつきすぎてるからさ。これで船木が引退しなきゃいけないとかね。「前から思ってた」って言うものの、今回のことがなかったら、船木も一線を退くつもりはなかったんだろうし。周りが余計なものを背負わせちゃうから、選手がカッチンコッチンになっちゃうんだよ。

G　ヒクソンって、周りのイメージが悪いせいで、本人のイメージが悪くなってる部分ってありますよね。

前田　もっとシンプルにやればいいのにね。ヒクソンはヒクソンでちゃんとやってるよね。少しずつ、バーリ・トゥードというものをスポーツ化するために、ヒジとヒザをなくそうだとかね。あいつは自分の考え持ってるやん。でも、あの試合の仕方見てると、ヒジがあったらどうかっていうのが、そんなに「変わるんかなぁ?」って気がするんだけど。もうちょっと試合が長引くかもわかんないけどね。彼は型にハメてあるセオリーを何パターンか持ってて、それからちょっと外れたときに、外れてるっていうのを認識できるし、外れたら修正する術を、ちゃんと知ってる。試合中は、いつ何時でも集中力があるからね。日本の選手が悪いのは、「こう来たらこうするんだ、ああ来たらこうするんだ」っていう技術論に走っちゃって、戦略の主幹、つまり幹がないんだよ！　だから、行き当たりばったりだから、ああいうふうなるんだよね。

Y　船木さんはオリジナルの戦略みたいなものが見えなかったじゃないですか。

前田　だから、後手踏んじゃうだよね。「こう来たらああ行こう、ああ来たらこう行こう」って。

Y　「トレーナーの高橋選手が悪い」って意見もファン側から上がってましたけど、どう思いますか?

前田　それは高橋の言うことを聞いてみて、それから考えたらいいんじゃない?　やるだけのことはやったと思うしね。でもさ、ヒクソンとかブラジル人の選手とかにコーナーに詰められて、あんだけビシッと背筋伸ばされてさ、腰を高くさせられて、足掛けたり、ヒジで押されても倒れなかった。あそこまでやられたら、普通倒れますよ！

Y　倒されなかったあとが見たかったですけどね。

前田　でも、いちばん最初に、ヒクソンにコーナーに押し込まれたときに、なんとしてもポジションを入れ替えるように頑張ったほうが、ヒクソンはもっとスタミナの消耗激しかったし、戦略的に船木に有利になったと思うんだよね。そのあとの流れを自分に有利に運ぶための前哨戦として。なまじっか耐えられる自信があったから、そうしちゃったんだろうけどね……と、俺は個人的に思った。ま、俺の意見というのは俺にとって一番正しい意見だから（笑）。他の人が全部「違う」っていっても、俺にとっては一番正しい（笑）。べつに人に押しつけるつもりもないし、説得するつもりもない意見ね。「と、前田日明は考えました」というこっちゃ。

Y　今後、『コロシアム』はどうなっていくと思いますか。

前田　毎年やるとか言ってるね、なんかね。

Y　リングスはどう関わって行くんですか?

6・15代々木！前田総帥がアイブル＆リングスの今後を語る

6月15日、リングス代々木大会の試合前に、「アイブル問題」についての会見がリングス前田日明代表、中村祐二顧問弁護士出席のもと行われた。

そこで①リングスはアイブルと99年8月1日から2000年7月31日までの専属選手契約を結んでいたこと。②DSEから6月5日にリングスに対し、〝解決金〟が支払われ、合意が成立したこと。③アイブルにはペナルティとして、リングス無差別級王座の剥奪と、リングス主催大会への無期限出場停止処分が下されたことが発表された。

また、リングスはDSEに対し、「以前リングスに出場経験がある選手を出場させる場合、リングスに確認を取ってから契約をする」という約束をとりつけたという。これは一種の紳士協定にたいなものと考えられ、これによってリングスーDSE間の〝引き抜き問題〟は今後なくなりそうだ。

さて、この会見は「アイブル問題のみ」と念を押されていたが、案の定前田代表が「最後の一言」という感じで口を開いた。それによると、パンクラス尾崎社長が「ジェ

感じたら走り出せ

マット界に非常ベル
2000

前田　わかんない！

Y　ガハハハ！　わかりませんか！

前田　お金次第！　プロモーターになったら、世の中、ゼニや！（笑）。選手を喰わしていかなあかんからさ。「世の中ゼニやゼニやゼニや！」って感じやね（笑）。

Y　そこらへんは大事ですよね。「世の中金じゃない」って言っててアップアップになってもしょうがないですからね（笑）。

前田　そうそう、金ごときのためにね。金は使うんであって、使われちゃいけない。

Y　ボクはいくら使っても貯金通帳にいくら残ってるかもわかんないぐらいが理想なんですけどね（笑）。

前田　ハッハッハッハ。「100億円？　ハシタ金だよ！」とか言ってるのがいいね。毎年、自分の見たい試合だけ選んでさ、トータル5億円とか8億円ぐらい賭かったトーナメントで、「イッツ・リトル・マイ・ホビー」とかいいながら、真っ赤な顔して、はにかんでみるんだよ（笑）。

G　ダハハハ。そういえば、今日、前田さんが立ち喰いソバ屋で食事してるのを目撃したって人がいるんですけど（笑）。

前田　あ、すぐそこ。富士そば。

G　あ、ホントだったんですか（笑）。そういうの聞くと、「前田さんも大変なんだ」っていうのがわかりますよね（笑）。

Y　ホント、タコ社長化してますよね（笑）。「時間がないから立ち食いソバ屋」って。

前田　だって朝から何も喰ってないんだもん（かわいらしく）。

Y　グレイシーはこれからどうするんですかねぇ？

G　3試合契約してるっていう噂ですよね。

前田　どうなのかなぁ……俺、単発契約だと思うよ。

6・15リングス代々木大会で開催挨拶をする前田総帥。田村、高阪、山本、坂田らがのきなみ出ない興行だったが、館内はまずまずの入り。ハン、ツベトフ、金原のファイトがニューリングスワールドの血と骨を形成した

Y　前田さん的にはヒクソンと田村さんとやらせたいとかはないんですか？

前田　2億円ぐらいくれるんだったら、俺もやってみたいけどね（笑）。

Y　ガハハハ！　現役復帰！

前田　2億円もあったら、アメリカにゼロ戦とムスタングと家が買えるからね。

G　そのためには立ち食いで我慢して（笑）。

前田　立ち食いで我慢して、ゼロ戦にガソリンを入れて。毎日ワックスかけてね（笑）。

Y　でも、この先日本人の選手がやるとなったら、まだ近藤選手じゃ知名度的に難しいですよね。

前田　ドームいっぱいにする人材がいないよね。いちばん最右翼は桜庭でしょう。小川（直也）でも無理だよ。

G　2億円くれるんだったら、前田さんがやってもいいと（笑）。

前田　そう！　2億円くれるんだったら、真剣にやるわ！　1億円でもいい。

G　ヨガ修行とかして（笑）。

前田　葉巻は週に3本ぐらいにして。1日5本から週に3本ぐらいにして！（笑）。

Y　ガハハハ！　立ち食いソバ屋に行ったら、パワーつけるためにコロッケ二つぐらい余計に食べて（笑）。でも「前田さんが出て行くしかない」とかいう声もまだ現実的にありますよね。

前田　ホント？

Y　ありますよ。

G　まだ「猪木しかない」とか、そういう声もありますからね（笑）。

前田　もう、放っといたれや！（笑）。

AKIRA MAEDA

Y　リングスジャパンのほうは、今後どうしていこうと思ってるんですか？

前田　ジャパンのほうは、いまどんどん選手をスカウトしてて、このあいだも自衛隊の体育学校にも行ったし、アマレス関係のいろんな情報を集めてるし。あと、講道館の門戸を開けようとしてる。

G　じゃあ、アマチュアの実績がある人がどんどん入ってくる可能性があると。

前田　入ってくる可能性じゃなくて、入ってくる！

Y　断言！（笑）。

前田　で、軽量級のほうも慧舟會とかにいい選手がいっぱいいるからね。WEFとかアメリカの大会とか階級制があるからさ、そっちのほうにチャンス作ってあげようかなって。修斗にもいい選手がいるから、「やらしてもいいよ」っていう声があるんだったらさ、どんどん仲介したいね。まあ、修斗はどう思うかはわかんないけどね。船頭が多すぎると、わけわかんなくなるから。

G　そういえば、（佐藤）ルミナ選手とも「アブダビで会ってみたら悪いヤツじゃなかった」って言ってましたね。

前田　ちゃんと挨拶もできるしさ、いい青年だよ。

G　『K通』の人と違って（笑）。

Y　『K通』の人とは大丈夫なんですか？　事件には発展しないんですか？

前田　アメリカはいいねえ。「あ、海外でやったらええんか！」みたいなさ（笑）。冗談だけどね（笑）。

Y　ガハハハ！

前田　こうなったらKはアメリカで捕まえるしかないってね（笑）。

G　ああ、（ギルバート・）アイブル問題のKさんですか。Kさんの話も聞かなきゃいけなかったんですよね。

Y　聞かなきゃいけないんだけどね、怖いな（笑）。アイブル離脱っていうのは、前田さん的にはかなり頭に来てるんですよね。

前田　ビックリしたよ。アイブルは前の契約が残ってるんだよ。

（※アイブル問題については、P48の囲み参照）

Y　その契約問題って、ボクらマスコミは前田さんに聞いても、K氏に聞いても全然話が違うから、こっちは細かいところまでわかんないんですよね。

前田　Kにしてもね、ルールを守れない奴は業界から出ていかなきゃダメだよ。

G　挨拶と契約はちゃんとしろと（笑）。

前田　だから、契約終わったら、行ったらええやん！　契約書だなんだって、そんな

レミー・ホーン引き抜き問題」を暴力問題にすり替えていること。J・ホーン本人から誘いがあった事実を確認したこと。暴力を振るった事実はない、ということだ。
**　また前田は全試合終了後にも報道陣に囲まれ、ここでは"事件"については触れず、今後のリングスの展望が語られた。「アイブルから剥脱したタイトルに関しては、暫定的にランキング上位4人位で、暫定王座決定戦をやるかもしれないですね。この8月にリングス・ブラジルが動きだすんで、それでワールド・ネットワーク化するんですよ。世界に広がるリングス・ネットワーク！　目標427店!!（笑）。みんな口ではワールド・フェデューションとか言うんだけど、実際にはやんないんですよ。オレが一番パイオニアですよ、パイオニア！」**
**　何があっても前田は元気だ！**

ん当たり前の話やん。契約書読んで、アグリーして、サインしてるわけだからね。

G　リングスで名前を売って『PRIDE』に流れるみたいな形は困るでしょうからねぇ。

前田　勝てないって！　アイブルがあのルールでビクトー・ベウフォートとやったら、絶対勝てない！

G　KOKルールにはピッタリの選手だったんですけどね。

前田　KOKルールっていうのはアイブルのためのルールみたいなもんだよ。勝てない！　ホントに勝てないって。ビクトーになんて、絶対勝てない！（※前田総帥の予言が当たり、6・4の『PRIDE9』ではアイブルはビクトーに判定で敗れた）

G　前田さんの、その「勝てない」発言が誤解を生んだりとかもしてるんですけど。

前田　実際にそうやんけ！　田村とやっても、高阪とやっても、KOKルールでやるから勝てるわけでさ、あれ、パッと倒された瞬間に、ブレイクさせないっていったら、勝てないって！　おまけにな、グラウンドで打撃があるんやったら、なおさら勝てない！　立ってて殴るのと、グラウンドで殴るのと技術が違うから。体重の乗せかたとか。そんな簡単なもんじゃないよ。

G　ネットとかで、「PRIDEルールよりKOKルールのほうが下」っていう発言もあったりするんですよね。

前田　いや、低いとか高いとかいう話じゃなくて、うちはファンのために、いちばん面白いルールを提供しようという部分でKOKルール設定してるだけの話だよ。

G　新聞で、相当端折られちゃったんですよね。ルールが云々というのが端折られて、「あいつは『PRIDE』じゃ勝てないよ」っていう部分だけ出されちゃったんで。

前田　そんなん、ちょっと冷静になって考えればわかることだよ。

Y　逆に『PRIDE』はそういうイメージをつけたいから、そういうマッチメイクをしてるとも取れますよね。

前田　いいカモじゃん？　K―1が長井とか安生を呼んだりしてさ、プロレスとかUWFより強いとかいってるのと同じだよ。

Y　前田さん、逆に『PRIDE』から引っ張り返すっていうのは、考えてないんですか？（笑）。

前田　考えてないわけでもないけど……その前に、海外でKをつかまえる！（笑）。

Y　ガハハハ！　治外法権。

G　オランダとかで（笑）。

前田　Kに対して今回怒ってんのはね、やり方が可愛げないんだよ。なんでかって言うとあいつは前、ウチの社員だったでしょ。Kがオランダに行く直前に、いろんなもん紛失させてんだよ。

――リングスの書類をですか？

前田　リングス関係とか。調べたら、フライとかナイマンの契約書とかさ、ないんだよ。そういうのをずっとやってるんだよ。そこまで行っちゃうと、ちょっと夜道は危ないですよ、みたいな気持ちになるでしょ。

Y　ま、それはともかく（笑）、（レナート・）ババルがリングス・ブラジルの第一号になったじゃないですか。リングス・ブラジルが広がっていくと、グレイシーとも接点持ってきますよね。

前田　ヒクソンの娘が可愛いんだよ、また。

Y　ガハハハ！　いや、そういう接点じゃなくて。

G　いつもの「俺が若かったら」ってヤツですね（笑）。

前田　俺、まだ独身だから、そのうちアキラ・グレイシーになるかもわかんないね。俺もグレイシー一族になるかもよ（笑）

G　子ども、強くなるでしょうねぇ。

Y　『PRIDE』もあるし『コロシアム』もあるし、そういう中でリングスが今後どうするかっていうのは、ファンにとっての一番の関心事だと思うんですよ。

前田　小っちゃいことをチマチマやらんで、ワールド・タイトル、ワールド・ランキングをブラ下げて、アメリカで勝負だよ、勝負！　で、毎日ラスベガスのダンサーをこうやってはべらせて、「キミ、ちょっとラインダンスやって見せたまえ！」ってさ。「今晩は、キミとキミとキミね！」とか（笑）。

G　ダハハハ！　それが最終目標（笑）。

前田　「ボクの子供産んだら、ボーナスに10万ドルあげよう！」「よくやった！」みたいなね（笑）。

G　ただ、リングスに人材が集まると、それだけ選手の負担も大きくなると思うんですよ。

前田　でもね、それは前から言ってるように、超一流の中で、普通になったら超一流やねん。超一流の中で頭抜きん出たら、超超一流。人間なんてみんなそうやで。格闘技だけじゃなくて、どんな分野でもそうだよ。レベルの高い環境を作ることが逸材を作る。超一流の料理人が、いくら超一流の料理作っても、汚い犬のエサ箱みたいなのに料理が入ってたら、その料理がマズく見えるでしょ。ウチの連中は、みんな半年以上、藤原（敏男）さんとことか、太田（章）さんのとこ行ってみたりとか、日体大に行ってやってみたりとか、みんなそれぞれ自分で努力してやってるんだよね。

Y　いま練習では、あっちこっちと交流してるわけですね。

前田　うん、してる。慧舟會も週にいっぺん練習に来てるよ。でもね、人材を揃えて食わしていくにはジェニがいるんですよ、ジェニが。

Y　ガハハハ。またゼニですか（笑）。普通、前田日明ぐらいになると、お金の話とかはしないじゃないですか。イメージが落ちるから。

前田　食わしていかなあかんもん、しゃあないやん！

Y　そのへんが凄いですよね。

前田　なんで？　当たり前の話やんけ。選手の純粋な部分を利用してね、「おまえ、金じゃないだろ？　金がどうこういう人間は

汚いんだよ、悪いんだよ、ズルいんだよ。リングスはいっぱい払ってるっていうけど、前田ってズルいんだよ、汚いんだよ！」って、アホか？ そんなんやったらプロになる必要あれへんやん！ アマチュアで十分だよ、そんなの！ 普通にアマチュアとして練習して、たまにアマチュアの大会に出て、ちゃんとといい会社勤めて、給料をもらっとけば、カラダも壊れないし、なんの苦労もないやん。それをできないくせに、「できる、できる」って選手にウソついて、そんなもん、詐欺師やん。だから、俺には尾崎が詐欺師に見える。選手に甘えちゃダメですよ。マネージメントは、腕とハートと頭ですよ。

Y 今回、船木vsヒクソン戦でも、交渉ごとが話題になってましたね。

前田 本来ね、尾崎は泣いてる場合じゃないって！ 泣く暇あるんやったら、ヒクソンがルールを譲らないんだったら、ヒクソンのとこに行って、頭丸坊主にして土下座して、「お願いします！」って言って、ヒクソンのヒザにすがりついたりとか、それぐらいやってみいって。サミーとかそういうとこをクッションに挟んだりするから、ちゃんとできないんだよ。フェイス・トゥ・フェイスでやってね、まったく難しいっていうことなんか、たぶんないと思うよ。頑固なヤツだったら、人間関係からまず作って話をするとかさ。やっぱり同じ人間なんだから、見えてくるものがあるはずだよ。そこまでやってたら、泣く暇なんかないって。汚い顔を涙で濡らしてる場合じゃないんだって。顔じゅう○ン○ンのような顔を涙で濡らすんじゃなくて、タ○シチンキで顔を濡らせばいいんだよ。

Y は～。

前田 ま、アメリカからは（6月の）13日に帰って来るよ。

尾崎は泣いてる場合じゃないって。顔を涙で濡らしてる場合じゃないよ

——どうします？ 帰って来て、大事になってたら。

前田 それは、そんとき考えるよ。いまから考えてもしょうがないこと考えても、損だよ。「そのうちなんとかなるだろう」ってね（笑）。

Y もう一度確認しますけど、殴ったりはしてないんですよね。

前田 全然してないよ。第一な、俺は10歳の頃から少林寺拳法と空手やって、それでプロレスに入って、人並以上の力と身体を持ってる人間やん。それがホントに殴る気になって殴って青アザひとつなかったら、それは奇跡だよ。

Y それは、この、リングス事務所の机がよく知ってますかね（笑）。何気なく叩いただけで、何回へこまされたことか（笑）。

前田 この机二台目やもん。俺、去年の春かなんかの武道館のときに、頭に来てガーンってやったら穴がボコッと空いちゃったんだよね。でも、俺は理由がなければ怒らない。ホントにそれだけですよ。

【5月29日・リングス事務所にて収録】

事件が表面化する前だったこともあってか、まったくもって前田は普段以上に元気だった。

しかし、前田総帥が行くところ、常にショックの嵐が吹き荒れる。6月13日に帰国すると、やっぱり大事になっていた。

前田総帥が「暴行は働いていない」という以上、「暴行の有無」については、警察＆裁判に任せるしかない。

現役を退いたとはいえ、どデカイ元・格闘家が、素人である尾崎社長を恫喝したということは決して誉められたことではないのは確かだ。ただ、「前田—尾崎」間の確執は、ズッと以前からのものだし、昨年11月の安生洋二による「前田襲撃事件」についても、パンクラス関与説などを含め、深い部分ではなにも解決していない。

喧嘩両成敗ではないが、こうなる原因を両者で徹底的に話しあわない限り、〝膿〟は出きらないだろう。膿を出し切らなければ生体は甦らない。

前田総帥が「フェイス・トゥ・フェイスで話せば、そんに難しいことなんてないんだよ」と言うように、話し合いができるきっかけがあればと思うのだが、尾崎社長サイドからすれば、「あの人じゃ話し合いにならない」という思いもあるのだろう。

しかし、この確執の原因を究明しなければ、リングスとパンクラスという同じエリアに住むもの同士がチンケな〝縄張り争い〟に終始しているというイメージを与えかねない。いまは、〝縄張り争い〟をするよりも、新しいフィールドをつくっていく時期なのである。

はたしてそれはどちらかが潰れない限り解決しない問題なのか？

今後、本誌は尾崎社長にもコメントをもらうべく、働きかけるつもりである。

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル2000

『紙のプロレスRADICAL』次号は7月下旬発売！

6・15
リングス
代々木第2

現実と幻想、競技性と人間性がリンク
それが新リングススタイルだ!

ヴォルク・ハン39歳
幻想を防衛!!

コピィロフやザザは素手で闘ったが、ハンはリングスの〝いま〟に対応するためパンチに磨きをかけてきた。ハンは本気だ。

コールマンらハンマーハウス勢の十八番〝首ねじ切り固め〟に対してハンは、フランク・シャムロックばりに、口をふさいで応戦。

立ち関節こそ極まらなかったが、ガードからの十字固めでハン激勝! 代々木大爆発! ハンはやっぱり強かった!

「最強のコマンドサンボ戦士、ヴォルク・ハンが遂にKOKルールで闘う」

6・15リングス代々木大会の新聞広告には、このコピーが踊っていたが、これを見て「やったー、遂にハンのKOKが見れるぞ!」などと、ノー天気に喜んだリングスファンは正直言って少なかっただろう。

なんせタリエル、フライ、ナイマンなど、旧リングスのトップで活躍した選手がVTやKOKで次々の敗れるという嫌な〝現実〟を見せられ続けている昨今である。しかもハンは39歳。初来日当時からスタミナ切れをよく起こしていたハンのこと、リングス最大最後の〝幻想〟が、そんな〝現実〟に飲み込まれてしまうのではないか、という不安感を持ち、祈るような気持ちでリングを凝視したファンも多いはずだ。

試合前にロシアでハンとKOKルールで闘っている滑川に話を聞いてみると「ハンはパンチで来るんスよ。リーチ長いからそれが結構当たっちゃうんスよ」という答えが返ってきた。ハンがパンチ? コマンド・サンボの技術を捨て、付け焼き刃のパンチで勝てるのか? 試合前に不安が募る。

結論を先に言えばハンは見事に勝利した。そして強かった。〝リングス最後の幻想〟ハンがKOKで勝つということは、「田村、ヘンゾに勝つ!」に匹敵する喜びである。そしてなにより特筆すべきなのはハンが自らの実績、現在の力を過信することなく、

6.15 リングス代々木 堀辺正史はこう見た!!

リングスは五輪競技になりうる!

KOKは一言で言うと、総合格闘技の最も普遍的なルールですね。総合やノールール系をやっている人なら誰でも参加できる。つまり世界各地に根付く可能性が非常に高いルールだと思いました。ということは、これは興行を超えているんです! これからリングスのネットワークを利用して、軽いクラス、アマチュアを作ってより参加し易い競技にして世界中に根付かせたら、KOKはリングス発のオリンピックになれる要素があるんですよォ! だから前田選手がいう「世界的に見てバーリ・トゥードは禁止の方向に向かっているから」というのは後ろ向きなんです。そうではなくて、「オリンピック競技になりうるルールだ!」というのを打ち出すべきなんです! 五輪競技を目指してるとなったらやってる選手のテンションも違ってくると思う。そうなったときにリングスはますます発展しますよ!

好評 堀辺正史のバーリトゥード講座 特別編 KOKを解き明かす
近日掲載予定 お楽しみに!

リングスUSA大会決定!

7月15日(土)ユタ州オーレム
ヘビー級トーナメントにTKが出場

7月22日(土)ハワイ州ホノルル
ミドル級トーナメントに金原が出場

滑川康仁 プチアピール

「オレ、いま今年で一番体調いいんスよ。なんで試合組まれてないんスか。試合したいっスよ。USA大会もメチャクチャ出たいんスよ! 『紙プロ』さんで煽ってくださいよ。お願いしますよ」(滑川談) お客さん、どーですかーッ!

ゴキゲンなニューキャラ ツベトフ登場!

リングスがまた新たな逸材を発掘した。その名は〝ブルガリアの最終兵器〟グレゴリー・ツベトフ。明らかに強者とわかる下半身の発達ぶり、高度なサンボ技術、そして見よう見まね風の打撃(なぜか当たる)という、早く言えば第2のコピィロフ的な男である。そのツベトフ、初来日ということで大ハリキリ。グラウンドを警戒してパンチオンリーの柔術世界王者トラヴェンに、Mrブッタマンばりのローリングソバット、さらには超低空ドロップキック(しかも藤波ばりの正面飛び!)で対抗し、人気を独り占めした。結果はパンチのポイントで敗れたものの、再来日が楽しみなニューキャラである。

見てみ、このツラ! 見てみ、この腹! 見てみ、この胸毛! ひとめでリングスの外人とわかるこの風貌。最高だ。

次号予告…………… ツベトフの全てがわかる 完全独占インタビュー決定!

"主役"金ちゃん無念! ランキング入りならず!

「相手重すぎますよ!」

「なんでオレ表紙になんないの!」が口癖の金原が、パンフの表紙をGET! 遂に金原が主役となってメインを張る日が来たのだ。しかし、相手は無敵の快進撃を続けるババル。ムエタイと寝技ができる金原と同タイプだけに、20キロの体重差が響き3-0の判定負け。試合後は「あんだけ重いと無理ですよ」といつものようにボヤいたが、試合内容自体はハイレベルかつテンポのいい「これぞKOK!」と呼ぶべきものだった。

金ちゃん、胸を張れ! そして次こそ大ブレイクだ!

KOK用のトレーニングを積み、それでいて自分が培った技術でしとめたこと。つまり旧リングスから新リングスへのアクセスへの成功したのである。

このハンvsヒンクルのような幻想と現実の融合を始めとして、競技の中で人間性によって観客の心を掴んだツベトフ。そして金原vsババルのようなKOKルールならではの、「攻」と「守」が次々と変化するクオリティの高さ。それら相反するものが、いくつも同居できる贅沢な空間がKOKであり、新リングス・スタイルであると確信できた6・15代々木大会であった。こんな大会は何度でも見たい。(ガンツ)

紙のプロレスRADICAL Back Number Information

No.5

★すべてはここから始まった!

高田延彦ロングインタビュー
猪木、Puffyほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想
ドン荒川vs藤原喜明超激対談!
前田日明の「人生は語らず」
世界格闘技連盟を語りおおす!
佐山聡(タイガーキング)
長井満也/柳澤龍志/ディック東郷
愚乱・浪花/ザ・グレート・サスケ
長与千種/ライオネス飛鳥/ビクター・クルーガー
パンクラス旧合宿所誌上大公開!

『コロシアム2000』ラウンドガール
FIGHTING VENUS!

この4人の中に熱烈な上田馬之助ファンがいます(これホント)。それは誰でしょう? 正解者には……んなことぁどーでもいいだろうが、とにかく『紙プロ』を買えっちゅーの!

No.9

★「アントニオ猪木・闘魂連鎖!無礼講大特集!!」

前田日明/ザ・グレート・サスケ
高田文夫/春一番/ターザン山本/石川雄規
衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!座談会
見てみい、この面ッ!!
高阪剛ロングインタビュー
前田日明ラス前インタビュー&炸裂人生相談
日プロOB吉村道明&ユセフトルコ
&遠藤幸吉&駿河海
「格闘家からみたプロレス!」
朝日昇★谷津嘉章/佐野なおき
下田美馬&三田英津子

No.10

★特集「灼熱の地殻変動'98」

大和魂は連鎖する!!
前田日明vsエンセン井上スクープ対談!
とにかく元気!高田延彦ロングインタビュー
またもや大爆発!
谷津嘉章インタビュー第2弾!
社長&会長対談・ザ・グレート・サスケVS松永高司
『紙のプレイボーイ』発進!!
ダイアナ&宮内美穂
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
『紙プロスーパースター列伝』北沢幹之
冬木弘道ロングインタビュー

No.11

★特集「格闘Viagra'98」

高田延彦vsエンセン井上
エネルギーエクスチェンジ烈談!!
前田日明ラストマッチ後初インタビュー
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
「格闘か?芸術か?それとも格闘芸術か!?」
佐山聡/スーパー宇宙パワー(木村浩一郎)
福田雅一
★ザ・グレート・カブキ/ダンプ松本
★バト両国進出記念石川雄規
トンパチ・マシンガンズ
★とうとう語られるSWSの真実
「S多重アリバイ」アポロ菅原

No.12

★特集「格闘TEPODON!!'98」

2度目のヒクソン戦直前!
高田延彦ロングインタビュー
「プロレスファンよ踊れ!
祭り囃子を鳴らせ!!」浅草キッド
人気大炸裂!「S多重アリバイ」
第2弾アポロ菅原
★桜庭和志/アレクサンダー大塚
山本喧一/神取&北尾/八木淳子
ダンプ松本/猪木イズム世界一決定戦
石川雄規&ザ・グレート・サスケ
格闘王から相談王へ前田日明「人生は語らず」
話題騒然!! What is プロ格闘家?
菊田早苗&獅野聡寛

No.13

★特集「四角いジャングルRADICAL」

実写版「1・2の三四郎」降臨!
アレクサンダー大塚インタビュー
「10・11 PRIDE.4」とは何か?
ザマアミロ雑談会!
高田延彦がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
前田日明・エンセン井上が語る
「高田VSヒクソン戦!!」
谷津嘉章・島田裕二・浅草キッドが見た
「10・11 PRIDE.4」
大反響!「S多重アリバイ」第3弾
ケンドー・ナガサキ
★ボブ・バックランド/松永光弘
リッキー・フジ/堀辺正史

No.14

★特集「格闘DREAM CAST」

前田日明独占ロングインタビュー
これがカレリンの発した言葉だ!!
山本美憂・聖子vs父・親子ゲンカ!? 対談
連勝街道爆進中!金原弘光
RADICAL版 ゆく年くる年座談会
谷津嘉章のマット界、目えつぶって30秒!!
「高田道場1999!」高田延彦/桜庭和志
佐野友飛/松井大二郎/豊永稔
「S多重トンパチ」第4弾 折原昌夫
★「虎の尾を踏む男たち'99」小路晃
4代目タイガーマスク/村上一成/宇野薫

No.15

★特集1「格闘MARS ATTACKS!」

橋本戦の核心を語る
小川直也with.S.Sインタビュー
佐山聡/4代目タイガーマスク
UFO襲来緊急座談会
★特集2「格闘LAST VOYAGE」
前田日明USA特訓を直撃!
アレキサンダー・カレリン
浅草キッド/アニマル浜口親子
★ジャイアント馬場追悼特集
本誌初登場!SASUKE
「語ろうマサ・サイトー!」
「S多重アリバイ」2連発!
佐野友飛&Mr.W

No.16

★特集1「格闘ノストラダムス'99」

エンセン井上ロングインタビュー
田村潔司/坂田亘/高阪剛/山本喧一
村上一成/マーク・コールマン
石川雄規/ザ・グレート・サスケ
★特集2「それぞれの旅立ち'99」
アントニオ猪木ロングインタビュー
前田日明引退後初の独占インタビュー
大好評!「語ろう」シリーズ第2弾!
「語ろうジャンボ鶴田」
「S多重アリバイ」第7弾石川孝志

No.17

★特集1「格闘MAKE JUNGLE」

UFO襲撃三昧小川直也インタビュー
桜庭和志/高田延彦/アントニオ猪木
豊永稔/マグナムTOKYO/池田大輔
宮戸優光
★特集2
「新生リングスBone&Blood」
前田日明/山本宜久/成瀬昌由
R・クートゥアー
★タイガー・戸口/矢口壹琅/「怪物通信」
「ターザン山本さん、目を覚ましてください!!」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

No.18

★特集「格闘STAR WARS」

カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
桜庭和志VIVAVIVAロングインタビュー
小川直也e-mailインタビュー/高田延彦
エンセン井上/イーゲン井上/小路晃&宇野薫
格闘STAR WARS座談会
★「S多重アリバイ」第8弾将軍KYワカマツ
「外人さん、いらっしゃ〜い」
F・シャムロック/G・グッドリッジ
R・グレイシー
「怪物通信」G・アイブル
「闘魂猪木塾とは何か?」

No.19

★いま一度高田延彦を注視せよ!

マーク・ケアー戦直前高田延彦インタビュー
リングス、パンクラスにも咆哮三昧!!小川直也
マット界の今後を前田日明CEOが激白!
「紙プロスーパースター列伝」ドン荒川
佐山聡/エンセン井上/成瀬昌由
TARUwith AYAKA/宇野薫
アレクサンダー大塚
「怪物通信」4連発!
M・ケアー&G・グッドリッジ&
E・F・ブラガ&G・メッツアー
上田馬之助/井上貴子/川口健次

No.20

★人間UFO吠えまくる!

小川直也インタビュー
独占!! 公開インタビュー前田日明
アレクサンダー大塚
高田延彦爆弾記者会見/佐山聡とは何か?
「語ろう藤波辰爾」/バス・ルッテン
「S多重アリバイ」第10弾ドン荒川
滑川康仁/カール・マレンコ/高阪剛
山本宜久/成瀬昌由/小路晃&宇野薫
ケビン・ヤマザキ/内藤恒仁
敗者『紙プロ』追放試合!
ジャイ子vsトイレの大西さん(仮)

No.21

★恐怖のプロレス大魔王降臨!

小川直也ロングインタビュー
「紙プロRADICAL」初登場じゃあ!
大仁田厚/前田日明経師激白!
本誌独占! 発見八木淳子
「S多重アリバイ」第11弾鶴見五郎
G・アイブル/R・フィエート
本誌先取りB・コーラー
桜庭和志IN青空プロレス道場
エンセン井上/山本喧一/高瀬大樹
アレクサンダー大塚/モハメド・ヨネ
CIMA/田中健一/平直行
コーラ・パワーズ/本誌独占G・サスケ死す!

No.22

★サク、グレイシーに完勝この上なし!

桜庭和志ロングインタビュー
前田テロ事件サプライズ座談会
ヤマケン?…俺は逃げる!田村潔司
俺は逃がさない!山本喧一
スモーノブ初土俵!大刀光
好評につき第2弾!田中健一/馳浩/小川直也
ゴールドバーグ/坂田亘/木村浩一郎/長井満也
池田大輔/B・コーラー&A・ウォリアー
佐藤耕平/渡辺千晶
ヒクソン&ホイラー兄弟の
「ああ言えばこう言う録」

No.23

★道はどんなに厳しくとも笑いながら歩こうぜ!!

ホイス戦直前!高田延彦インタビュー
超異次元対談大仁田厚VSエンセン井上
つっぱり大刀光
スモーノブがっぷり四つインタビュー佐々木嘉則
ヒクソン・グレイシー/W・ウィリアムス
ジャイアント馬場1周忌追悼座談会
レスラー生活10周年記念ザ・グレート・サスケ
★「リングス『KOK』大特集!」
襲撃事件後『紙プロ』初インタビュー前田日明
ヘンゾ・グレイシー他
刺青女多和田初美/木口宣昭

No.24

★頭打ちすぎたかアレク!!

アレクサンダー大塚
ロングインタビュー&1・30密着ドキュメント
『新プロレス』とは何か?緊急座談会
5・1ホイス狩りに王手!桜庭和志
グレイシー討伐を公約!田村潔司
VTの見方全て私が教えます!堀辺正史
「柔道多重アリバイ」守山竜介
KOK大予想大会!/中西百重
語ろう船木VSヒクソン/村浜武洋
『紙のプロレスAMERICAN』
プチ抜き17ページWWF大特集
ザ・グレート・サスケ×矢追純一UFO対談

No.25

★「新プロレス」へ突き進めーッ!格闘ロマン、続行ーッ!!

猪木イズムを携えた「思考する野獣」誕生ーッ!!
藤田和之ロングインタビュー
ヘンゾ討伐記念!田村潔司
アブダビ・KOK・田村の勝利を語り倒す!!前田日明
椎名基樹のいい日アブダビ紀行文!
「UWF」が立ち昇った座談会
4・7ゴールデンタイムで破壊王と激突 小川直也
UFOの特攻隊長、爆進!!村上一成
石川雄規&小路晃対談
ミスター高橋の新日本セキュリティボディーガード
アカデミー秋父合宿リポート

No.26

★「プロレス」を頼むゾーッ!! やっちゃってくれサク!!

桜庭和志炎のロングインタビュー
本誌独占!金無垢のロレックス贈呈式!!
前田日明&田村潔司
人間UFO、4・7ゴールデンタイムで破壊王を壊滅!!小川直也
プロレススーパースター外伝ミスター高橋
本誌独占!斎藤彰俊
遂に復活!クラッシュ2000/大仁田厚/エンセン井上
TAKAみちのく/山本宜久/村浜武洋
「4・7ドーム」&「格闘ドリームキャスト」座談会
女子総合格闘技ReMiXの全貌!

No.27

★「新プロレス」は連鎖する!

桜庭和志withサクラバマスク
ホイス完封記念インタビュー
ほ乳類最強の男藤田和之ド迫力に降臨!!
タムタム元気!田村潔司
大仁田厚vs馳浩ハイテンション対談
佐山聡vs田中健一師弟対談
G・アイブル/K・シャムロック
本誌独占第2弾!斎藤彰俊/格闘連鎖座談会
金原弘光/M・スペーヒー&R・アローナ&R・ババル
ホイス&ホリオン&エリオのその後/平直行/堀辺正史

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります(バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません)
●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷3-11-3-702(株)ダブルクロス『RADICAL通販』係まで送って下さい。
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130-3-769154(株)ダブルクロスまで。代金はNO.5〜NO.10=680円 NO.11〜NO.19=780円 NO.20=880円 NO.21=840円 NO.22〜NO.23=880円 NO.24〜NO.27=840円 送料1冊=310円 2冊=340円 3冊〜4冊=450円 5冊=520円 6冊以上=700円
●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・横浜"AO"CORNER・下北沢バンバンビガロ・ワールドスポーツプラザKINGS(池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店)

※『紙のプロレスRADICAL』創刊号から NO.4、NO.6〜NO.8は完売したっちゅーの!

聞き手／スモーノブ
interview by Sumo Nobu
撮影／松本崇

昭和新日本イズムを携えて
ジャパン、全日、SWSを
渡り歩いた男が
いま、全てを語る！

伝説の前田寮長時代
新日合宿所話！

初公開！
ジャパンプロレス
秘話

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレスRADICAL
スーパースター列伝

いま語られる
決起軍の真実

おまたせしました。帰ってきた
S多重アリバイ

仲野信市 前編

新日本、ジャパン、全日本、SWS、SPWF,夢ファクトリーという、スタイルもポリシーも異なる団体を渡り歩きながらも常に心に新日イズムを持ち、ストロング・スタイルを貫いてきた男、仲野信市。そんな黒いパンツの頑固者が語る波乱の半生を、2号連続で掲載。前編の今回は前田寮長時代の新日合宿所、ジャパンプロレス、そして決起軍の興味深すぎる話を大公開。80年代というプロレス黄金時代を生きた男の話をじっくり味わっていただきたい。

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida
構成＆撮影／堀江ガンツ
text & photographs by Gunts Horie

骨法は全局面打撃制という

——え～、実はかつて新日本にいた選手の誰に聞いても必ずエピソードのひとつとして仲野さんが登場するので、一度ご本人の話を聞かなければと思いまして今日は伺いました（笑）。

仲野　まぁ、形はどうあれ皆さんの印象に残っているのはありがたいことです（笑）。

——仲野さんはそもそも「プロレスラーになろう」っていう思いはいつ頃からあったんですか？

仲野　プロレスは小さい頃から好きだったんですよ。でも、「プロレスラーになろう」と思ったきっかけは中学3年の時ですね。プロレスが好きでしたから、中3のある日、友達と新日本プロレスの道場に見学に行こうってことになったんです。

——それで上野毛の道場に行ったんですね。

仲野　そしたら道場に山本小鉄さんがいまして、僕らに「アンちゃんたちプロレス好きか？」って聞くんです。それで「ハイ」って答えたら、今度は「勉強好きか？」って聞くんで「嫌いです」って答えて（笑）。そしたら「じゃあ、プロレスに入れ」って（笑）。

——ガハハハ！　そんな簡単に入門が認められたんですか（笑）。

仲野　道場に行くまでは僕はプロレスなんて自分がやれるものだとは思ってなかったですけど、小鉄さんのその言葉を聞いて「やるしかないな」と思っちゃったんです。

——そのあと中卒ですぐ入門したんですか？

仲野　いや、小鉄さんの話を聞いたあと、親に「プロレスラーになる」って言ったんですけど、親は「バカヤロー」の一言だったんです。それで中学の先生にも話したら「高校に推薦で行けるんだから、とりあえず行くだけ行ってくれ」って言われまして、それで高校は野球部の推薦だったですけど、レスリング部に入っちゃったんです。

——推薦だけさせておいて（笑）。

仲野　やっぱり野球部の人には怒られましたけどね。それで一応高校には行ってたんですけど、近所で新日本の試合があれば僕も試合前に一緒に練習させてもらってたんですよ。

——通いの新弟子みたいなものですかね。

仲野　それで親も納得して1年の12月で高校を辞めて新日本に入ったんです。

——小鉄さんには体格が良かったから誘われたんですか？

仲野　そうだと思います。体は細かったですけど、身長は15歳で180近くありましたから。

——でも、ほとんど格闘技経験がなくて始めるのは、結構辛くなかったですか？

仲野　僕らが入った時代っていうのは、今みたいにアマレス出身の人達なんていなかったんですよ。まぁ、やっておけば良かったでしょうけど、学校にいくのが嫌でしたから。

——そんなに勉強が嫌だったんですね（笑）。仲野さんは元々ファンとしては新日派だったんですか？

仲野　当時は全日、新日、国際の3団体でしたけど、新日本というか猪木さんが好きでしたね。

——その辺で高田（延彦）さんと気が合った部分があるんじゃないですか？

仲野　高田とはほとんど同期なんですけど、話してみたら中学は隣の中学だし、家も近いってことが分かったんです。

——しかも野球はやってたし、猪木さんは好きだし（笑）。

仲野　そういう意味で気は合いましたね。

——若い頃はその高田さんと一緒にかなり悪さをしたって噂も聞いてるんですけど（笑）。

仲野　いま思えば悪さなんでしょうけど、その時は人の迷惑も考えずに、楽しけりゃいいって感じでしたね。

——ふたりでよく飲まれてたんですよね？　六本木で記憶を無くして暴れたりとか（笑）。

仲野　そんなのは普通ですよ（笑）。

——飲んで暴れるのが日常でしたか（笑）。

仲野　まぁ、高田とは仲も良かったですけど、ライバルとして意識してるところも凄くあったんです。だから急に口を利かなくなったりしたこともありましたね。あの頃はお互いに刺激し合って、いい関係だったと思いますよ。

酔っぱらって寝ている新弟子の口の中に糞をしたりしてましたね（笑）

——当時はまだ新日本は喧嘩と酒は絶対に負けちゃいけないって教えがあった時代だと思うんですけど、その辺はいかがでしたか？

仲野　全てにおいて負けちゃダメだったんですよ。だからどんなつまんない事でも意地を張ってましたね。

——新日本に入門すると、最初は酒で潰されたりするんですか？

仲野　15歳で入ったんですけど、そこは大人の世界ですからやっぱり飲むわけですよ。

——限界まで飲まされるんですか？

仲野　その頃は限界自体が分からないですから。何回も酔い潰れてやっと分かってくるんです。それに十代の頃は限界とか考えては飲まないですよ。これ以上飲んだらどうなるかとかね、そんなの全然考えてない（笑）。

——それは高田さんとかを見ても分かります（笑）。新日本に入って一番辛かったのはやっぱり道場でいろいろやられたことですか？

仲野　練習は確かにきつかったんですけど、きついってことはわかってましたから。それより大人の社会のことをなにも知らないで入ってきたんで、それに戸惑いましたね。

——仲野さんが入門した頃は寮長が前田（日明）さんだった時代ですよね。

仲野　そうですね。前田さんにはよくイジメられましたよ（笑）。前田さんからすればイジメじゃなくてイタズラなんでしょうけど。

——どんなことをされたんですか？

仲野　僕がモデルガンを買って、みんなに見せびらかしてたら、前田さんが「仲野、見せてみろ」ってヒョイって取り上げたんです。そのモデルガンは火薬を入れて撃つタイプで凄い威力があるヤツだったんですよ。だから「これはやばい」と思いました。

——「撃たれる」と（笑）。

仲野　それで前田さんがモデルガンを持ったら「ニヤッ」っと笑うんです（笑）。それで追いかけられて捕まって、腹の中に突っ込まれてバンって撃ち込まれましたよ。

——危ないですねぇ（笑）。

仲野　あとはあの人が結膜炎にかかって両目に凄く膿が出ていたときがあったんです。そうしたら前田さんは高野俊二（拳磁）を押さえつけて自分の目ヤニを俊二の目に付けたんです。それで次の日から俊二の目がこんなに腫れちゃって（笑）。

——ガハハハ！　前田さんは本当に変わらないですね（笑）。

仲野　そういうのは僕らも受け継いでいきましたけどね。

——新日合宿所の伝統なんですね（笑）。

仲野　やる方はいじめてるって意識じゃないんですよ。だからやられる方もどう受けとめるかですよね。

——そういう新弟子の〝かわいがり〟はライガーさんが一番ひどかったらしいですね。

仲野　僕は新日本を一回辞めて佐川急便で働い

H12・5・30　北沢タウンホール　仲野、タイガー組vsアレク、小坪。つぼプロ1周年記念大会に出場し、久しぶりにリングに上がった仲野はブランクをまったく感じさせない動きで「これぞストロストロングスタイル！」という試合を展開。アレクやタイガーも仲野のコンディションの良さには感心していた。

聞き手／スモーノブ
interview by Sumo Nobu
撮影／松本崇

若手8人衆

平田淳二
昭和31年12月20日生
神奈川県出身
身長　182センチ
体重　105キロ

高田信彦
昭和37年4月12日生
神奈川県出身
身長　184センチ
体重　85キロ

保永昇男
昭和30年8月11日生
東京都出身
身長184センチ
体重　88キロ

小杉俊二
昭和35年2月17日生
新潟県出身
身長　175センチ
体重　98キロ

新倉史樹
昭和32年8月23日生
東京都出身
身長　186センチ
体重　93キロ

山崎一夫
昭和37年8月15日生

荒川 真

仲野信市

83年当時の新日本のパンフレット『闘魂スペシャル』より。実に個性豊かな当時のヤングライオン（明らかに若手でないにも関わらず、ちゃっかり写真に収まっているのが実に荒川らしくて抜群）。こんなメンバーが気合いを全面に出してぶつかり合っていたのだから、当時の新日本前座戦線は面白いはずである。ちなみに仲野と新倉の名前が逆になってるのが、必要以上前座が注目されない当時ならではである。

ていた時期があるんですけど、山田（恵一＝ライガー）が入門したのはその頃だと思いますね。僕は新日本辞めた後も高田なんかとつき合いがあって、よく合宿所で酒を飲んだり泊まったりしてたんですよ。あの頃は山田が入ったばかりで、彼は全然酒が飲めなかったですけどよく高田が「八兵衛（＝ライガーの新弟子時代のアダ名）行くぞ」って言って、酒を飲みに連れて行ってましたね。

——その辺でかわいがりのやり方を覚えて、その後の人は相当大変だったみたいですよ。

仲野　どんなことやってたんですか？

——スパーリングで新弟子を絞め落として風呂に沈めたりしたらしいです（笑）。仲野さんたちはどんなことをしていたんですか？

仲野　僕らがやってたのは、ある日酔っぱらって伸びてる新弟子が口を開けて寝てたんですよ。そこに「先輩より先に寝るのは許せない」ってことで、そいつの口の中に糞をしましたね（笑）。

——ダハハハハ！　口の中に糞！（笑）。

仲野　あとは夏にちゃんこ番だった時に、外でセミが鳴いてたんですよ。そのセミを捕って豚肉に巻いて揚げ物にして新弟子に食べさせたりしましたね（笑）。

——とんでもないものを食べさせるのも新日の伝統らしいですね（笑）。

仲野　そんな話はいくらでもありますね（笑）。

——寮長時代の前田さんと言えば、休日も出かけないでひとりだけ留守番してたことは有名ですよね。みんなそのおかげでどこにも遊びに行けなくて困ったという（笑）。

仲野　確かにあれは困りましたね。僕と高田で休みの日に彼女に会いに名古屋まで行ったことがあるんですよ。それで無断外泊しちゃったんですけど、合宿所に帰ってきたら前田さんにぶっ飛ばされましたね。

——あと、これは佐山さんから聞いたんですけど、タイガーマスクが入場するときに群がってくる子供達を遮る役を仲野さんがやってて、一回、佐山さんが子供にぶち切れて、思いっきり振り返ってぶん殴ったら、なぜか仲野さんが倒れてて（笑）。それで仲野さんがぶち切れて子供相手に暴れてたって聞いたんですけど（笑）。

仲野　殴った本人は覚えてるんでしょうけど、僕らはそんなことしょっちゅうでしたから覚えてないですね（笑）。

——日常的に殴られてたんですね（笑）。

仲野　その時は偶然僕に当たったんでしょうけど、佐山さんが子供を殴りたくなるのもわかりますよ。あの頃は通路は人だらけだし、悪い奴はマジックでガウンに落書きしたりするんで、僕らも必死でしたよ。

——新弟子は通路で周りに気づかれないように客を殴る技術があったらしいですね（笑）。

仲野　殴るだけじゃなくて、かわいい子がいたらお尻を触ったりね（笑）。

——ガハハハ！　新弟子は楽しみがないでしょうから、それぐらいやらないと（笑）。

仲野　本当に毎日が必死だったし、あっという間でしたからね。佐山さんがいた頃は新日本はお客さんが入って、試合も3週間で20試合とかたくさんありましたしね。だからいちいち何があったのかって覚えてる余裕なんて僕ら下っ端はありませんでしたよ。

——多分、その頃の話だと思うんですけど、藤原組長が夢ファクトリーに参戦するとき「昔、仲野をケガをさせたことがあってさぁ。そのお詫びのつもりなんだよ」って言ってたんですよ。

仲野　何かされましたかね？

——それも覚えてないんですか（笑）。腕をケガさせたとかって聞いたんですけど。

仲野　そういうことがありすぎて覚えてませんね（笑）。藤原さんのことで印象に残ってるのは、僕はデビュー前にバトルロイヤルに出させ

骨法は全局面打撃制という

てもらったんですけど、何をしていいかわからないでオロオロしてたんですよ。そうしたら藤原さんに「コノヤロー」っていきなりボコボコに殴られて顔がものすごく腫れたことですね。

――過激なバトルロイヤルですね（笑）。

仲野　あとは合宿所の二階から外を見てたら僕の好きだったマナミちゃんっていう近所のかわいい子が歩いてたんですよ。それでその子に話しかけようと思って玄関を開けて「マナミちゃん！」って言ったら、ちょうど目の前に藤原さんがいて「てめぇ、何がマナミだコノヤロー！」って（笑）。

――ガハハハハ！

仲野　その日は田園コロシアムで試合だったんですけど、試合前に藤原さんに「仲野、ちょっと（リングに）上がれ」って言われて、セメントで2時間スパーリングですよ（笑）。

――極められまくったんですね（笑）。

仲野　ボロ雑巾のようにされましたよ（苦笑）。

――そんな生活が続いていたら、いちいち何があったかなんて覚えてられないですよね。

仲野　だってあの頃は夜になると、怒られた回数が「今日は5回で少なかった」とか、そんな感じでしたから。いろんな人に怒られるから「何で怒られてるんだろう」ってわからなくなるんですよ。

――仲野さんは若手時代一度新日を辞めて、佐川急便で半年間働いていたって聞いたんですけど、それはやはり新弟子の生活が辛かったからなんですか？

仲野　一回辞めた一番の理由なのはケガなんです。道場でセメントの練習をしてたら右肩を脱臼したんですよ。でもその頃はゆっくり治してる余裕なんかありませんでしたから、よく治さないうちに無理してたら脱臼癖になっちゃったんです。それでケガして気分が滅入っているときに巡業先で夜洗濯してたら、外に「佐川急便」って看板があって台車を押して働いてた人がいたんです。それを見てなんか心が動いちゃったんです（笑）。

――そんなに衝動的なものだったんですか（笑）。

仲野　ちょうど落ち込んでた時だったんで、ビビッと来ちゃったんですよ（笑）。

――その頃は新日本と佐川は接点は無かった頃ですか？

仲野　その頃はなかったと思います。それですぐにでも働き始めようと思って、八潮にある佐川急便に行って人事の人に「働かせて下さい」って言ったんですよ。

――履歴書も持たずに行ったんですか？

仲野　15でプロレス入ったんで、どうやって勤めるのかも知りませんでしたから（笑）。案の定「なんだお前は」って言われたんですけど、ちょうど夕方で忙しくなってくる頃だったんで「ちょっとやってみろ」って言われてやったんです。それで10トン車の荷下ろしをやらされたら、ものの10分もしないうちに汗でびっしょりになって、それがもの凄く新鮮に感じたんですね。それでその場でまた「お願いします」って言って、最初の1ヶ月はアルバイトだったんですけど、すぐに採用になったんです。

――その佐川急便時代も俊二さんや高田さんとは会ってはいたんですよね？

仲野　俊二とはその頃は縁がなかったんです。俊二も新日本からボクシングに行って、それから行方不明になって（笑）。新聞を見たら渡嘉敷とハワイに行ったと書いてあるんですよ（笑）。

――俊二さんをヘビー級のプロボクサーにしようとしてたんですよね。

仲野　その記事が載ってしばらくして俊二から電話があったんです。「久しぶり俊二、今ハワイにいるのか」って言ったら「大崎にいます」って言うんです。「頭にきてコーチ蹴飛ばして辞めちゃいました」って（笑）。

――それも俊二さんらしいですね（笑）。

仲野　それでちょうど大崎っていうのは僕の佐川急便で回ってるコースの途中だったんで、また連絡を取るようになったんです。

――そこでプロレスへの欲求がまた出てきたわけですね？

仲野　いや、その時はまだ無かったです。僕は佐川急便でお金を貯めて外国にでも行こうかなと思ってましたから。

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

――それは遊びに行きたかったんですか？

仲野　いや、外国生活がしたかったんです。それでしばらくして新間さんから俊二に「カナダへ行け」って電話があったんです。それを聞いて僕も「それはよかったじゃない」って餞別を渡してね。

――でも、カナダはうらやましいですよね。

仲野　ええ、それでしばらくしたら俊二から電話があって「仲野さん、カナダで日本人の選手を欲しがってます」って言うんですよ。それを聞いて「カナダか、プロレスもできるしいいな」と思って。それで佐川急便をやりながら仕事が終わってから練習してたんですよ。それで半年勤めて辞めさしてもらって、「さぁ、カナダへ行こう」っていうときに、事件を起こしちゃったんです。

――そういえば、高田さんと一緒に警察沙汰になったことがあるって聞いたんですけども、その話ですか？

仲野　そうです。そのときは高田と後藤達俊と渋谷の行き付けの店に行ってたんですよ。そこは店の人も気を使って良くしてくれてたところで、そこで僕らはいつも周りのアベックとかに絡んだりして、周りが逃げていくのが気持ち良かったんです。

――迷惑な客ですね（笑）。

仲野　そしたら大学生の男3人組が戻ってきたんですよ。「なんだコノヤロー」とか言って。それでその中の一人が「お兄さん、静かに飲もうよ」って高田の後ろ襟に手をかけてきたんですよ。そうなるともう待ってましたとばかりにね（笑）。

選手全員を集めて「風車の理論」の勉強会をしていたこともあるんですよ（笑）

――魚が食いついてきたと（笑）。

仲野　3人いたんですけど、そいつだけやっちゃったんですよ。後の2人は逃げて交番に駆け込んじゃって警察沙汰になったんです。結局ひとり45万の示談で済んだんですけどね。

――それはちょっと痛いですねぇ……。

仲野　ただ僕らは顔に手を出したらいけないっていう意識はあったんですよ。顔は目立っちゃうから。

――とりあえずボディーに入れると（笑）。

仲野　そしたら鎖骨が折れてね（笑）。

――よけい酷かったと（笑）。

仲野　その時は高田と後藤が現役だったんで、とりあえずあとの病院に連れて行くのとかの処理は僕がやったんです。結局そのおかげでカナダに行く予定が足止め食っちゃったんです。

――それがなければ、仲野さんがカルガリー・ハリケーンズになってた可能性もあったんですね。

仲野　多分そうなってたと思います（キッパリ）。平田（淳嗣）さんとか（ヒロ）斉藤さんが行ったのはそのあとですから。

――運命的ですねぇ。それからどうしてたんですか？

仲野　僕も示談金でお金も使っちゃったし、「どうしようかな」と思ったんですよ。そしたら高田から「新日本に戻りませんか？」って電話が来たんです。それで坂口さんの自宅前で頭を丸めて待ち伏せして、「もう一回お願いします」って頭下げたんです。そしたらラッキーなことに、あの頃は人もそんなに多くなかったんで戻れたんです。

――1年のブランクは大きかったって当時は言われていたようですけど。

仲野　それはありましたけど、ただまだ19、20歳ぐらいでしたし、休んだことで肩が治ったんでそれはそれでよかったですね。

――仲野さんが新日本に戻って来た頃には、高田さんはもう結構上の方に食い込みつつあったんですよね。

仲野　そうですね。高田は猪木さんと一緒にカナダ遠征に行ったりもしてましたからね。でも帰ってきてしばらくしたらＵＷＦに行ったんですよ。最初に前田さんが抜けて藤原さん、高田も抜けたんで、僕は「これからどうなるのかな」って感じで見てましたね。

――最初はＵＷＦってものにどういう印象がありました？　いわゆるＵＷＦスタイルという試合がでてきましたけど。

仲野　最初はＵＷＦスタイルもなにもないですよ。ラッシャー木村さんとか剛龍馬さんとかがいたんですから（笑）。

――不思議な団体でしたからね（笑）。

仲野　ＵＷＦができた頃っていうのは、新日本内部がおかしかったんですよ。

――クーデターが起こったりとかした時代ですからね。

仲野　僕が佐川急便から新日本に戻った頃はもうアントンハイセルが始まってて、猪木さんがよく会場入りが遅くなったりしてたんです。それと選手全員を集めて勉強会みたいなものもあったんですよ（笑）。

――ハイセルのですか？（笑）。

仲野　「風車の理論」の勉強会でしたね（笑）。

――「風車の理論」の勉強会！（笑）。

仲野　猪木さんの事業とスポンサーとかのいろんな話を聞かされてね（笑）。社債を買い取る話とかね。

――仲野さんは社債を買ったんですか？

仲野　僕は買わなかったです。ＵＷＦができたのはその後ですよ。ＵＷＦは旗揚げする前からフジテレビがいくら出すとかいろんな噂があったんです。あのときは前田さんが突然ＵＷＦに移籍しちゃったんで、どういうことなのかなって不思議に思ってましたね。

――ハイセルと関係があるのかなと（笑）。

仲野　後になってだんだん分かってきましたけど。前田さんも利用されたんなら可哀想ですよね。ただあのころはホントに新日本の雰囲気がおかしかったですから。あれだけお客さんが入っていても、僕ら若手は当然なんですけど、上の人でもギャラが上がらなかったんですよ。

――事業につき込んでるせいだって、みんな疑心暗鬼になってたらしいですね。

仲野　そうですね。その頃僕は新間さんの引っ越しの手伝いに行ったんですけど、三階建ての凄い家になっちゃってね。

――それはいかにも怪しいですね（笑）。

仲野　僕はそういう疑問はちょっとありましたけど、プロレスが好きだったし、新日本が出戻りで入れてくれたわけだから黙々と試合してたんですよ。でも居心地は悪かったですね。

――風当たりが強かったんですか？

仲野　周りからより、自分自身の気持ちの問題ですね。そしてそんなことがあった翌年に今度は長州さんが新日本を辞めるってなったんです。

またまた日本列島を走り抜けた衝撃
カーンら6人も新日プロ興行参加!!
9月25日午後3時＝キャピトル東急ホテル
公約通り第2弾、第3弾を発表！

週刊ゴング

80年代マット界、最大級の衝撃的ニュースだった「維新軍新日本離脱」。まず、長州、浜口、谷津、小林、寺西の維新軍主力が抜けた後、「第2第3の離脱者が出る」というジャパン・プロの大塚直樹社長の言葉通り、マサ、カーン、そして永源ラインで仲野、保永、栗栖、新倉も離脱。その引き抜きのスケールは後のＳＷＳをも凌駕するものだった。これに比べればアイブル引き抜きなどかわいいものか。

――いよいよジャパンプロレスですね。

仲野　僕はどうなってるんだろうと思ってたら、永源さんから「こういう訳でジャパンプロレスを作って全日本とやっていく」っていう電話があったんです。

――誘いの電話が入った、と。

仲野　それでそのあとに長州さんに言われたんですよ。「新日本プロレスを潰すつもりでやるぞ！」って。

――オォ〜！　カッコいいなぁ（笑）。

仲野　僕は潰すとかそういう気持ちは持ってなかったですけど、出戻りで居づらい部分もあったし、その頃の長州さんと言えば維新軍としてプロレス界で一番輝いていた人ですから。その人の新団体なんで僕も話が来たときは嬉しくて、やってみようと思いましたね。

――仲野さんは維新軍の付き人か何かで、その流れでジャパン呼ばれたのかなと思ったんですけど、そうじゃないんですね。

仲野　付き人ではなかったです。新日本の頃に永源さんによくしてもらってたんで、その関係ですよ。

――永源さんとは親しかったんですか？

仲野　特別そういうわけじゃなかったんですけど、当時新日本にプロレスが好きなタニマチのおじさんがいて、永源さんもよく世話してもらってたらしいんです。その人はプロレスファンの娘さんがいて、娘さんもよく会場に来てたんですけど、ある日、その子から「仲野さんのファンです」って電話が入って、僕はその子を食べちゃったんです（笑）。

――ガハハハ！　ついついパクっと（笑）。

仲野　それが永源さんの耳に入ったらしくて、「どうなんだ」ってことになって「その通りです」って正直に答えたんですよ。そういうことがあったから、僕に対する永源さんの印象は良くはなかったはずなんですけど、永源さんはいつも会うたびに「彼女は元気にしてるか」って声をかけてくれたり、よくしてくれましたね。

――ジャパンに入ったのは谷津さんラインかと思ったら、永源さんラインだったんですね。

仲野　谷津さんとは長州さんが全日本から新日本に戻って、谷津さんが残ったとき。つき合いが始まったのはそれからですよ。

――ジャパンプロレスというのは実際、動きだしてみてどうでしたか？

仲野　全日本プロレスに初めて行った時には「こんなにもプロレスが違うものか」って思いましたね。僕らは勢いがありましたから、ハッキリ言って全日本をなめてました（笑）。

――当時は長州さんも「全日本はぬるま湯の中のオナラ」とか言ってましたからね（笑）。

仲野　だから長州さんとか浜口さん、谷津さんが全日勢を圧倒してるのを見て嬉しかったし、僕らも全日本を見下せるというか、「あれがプロレス？　冗談じゃねぇぞ！」って思うことができましたね。

――元々それが新日イズムですしね。ジャパンの方々との練習ってどうだったんですか？

仲野　それは試合前に合同練習を長州さんが音頭を取ってやってました。それこそ全日本の人たちがリングの上でドッタンバッタン受け身とかロープワークをやってる訳ですよ。

――いわゆるプロレスの練習ですね。

仲野　僕らはその周りで「わぁー、わぁー」って声出しながらスクワットしたり走ったり、基礎運動をみっちりやるんですよ（笑）。だから練習の時点でもう勝ってるんです。

――とりあえず練習で一本先取（笑）。

仲野　あの試合前の練習とかを見たら、プロレスってものに対する考え方が違うと思いましたね。僕らは自分達がやってることは正しいと思ってましたし、それで試合前に練習で威嚇しましたから。

骨法は全局面打撃制という

天龍革命以前までは"永久に眠り続ける怪物"と思われ、全盛期の長州力でさえ目を覚まさせることができなかったジャンボをブチ切れさせ、周囲を驚かせた仲野。あの試合はジャンボ・ファンにとっても心の名勝負であろう。

全日本に対して「あれでもプロレスかよ！」って思ってましたね

——でかい声を出すことで（笑）。

仲野　その代わり僕らは新人というか、前座じゃないですか。全日本のプロレスっていうのは一試合目からプロレスの型にはまって綺麗なんですよ。でもそれは僕らには出来ないんです。そういう部分でよく試合後に百田（光雄）さんとかマイティ井上さんに便所に呼ばれて怒られましたよ。

——お前のプロレスは、なってないと。

仲野　それで怒られた後に控え室に戻って、マサ斉藤さんに「こんな風に怒られたんですよ」って報告するんです。そうしたらマサさんが「何、バカヤロー！」って熱くなるんですよ（笑）。そうするとそのあとにマサさんと井上さんが試合があったりすると、もうマサさんはガチガチに井上さんを絞り上げちゃうんです（笑）。

——水面下でもイデオロギー闘争があったんですね（笑）。ジャパン勢はアマレスの強豪ばかりですもんね。

仲野　よく試合前にリングでマサさん、長州さん、谷津さんのオリンピック代表の3人がアマレスの試合をやってましたよ。「どっちが強いんだ」って（笑）。

——それは、ゼヒ僕も見たいですね（笑）。見ていて誰が強かったんですか？

仲野　みんな言い分があるんですよ。「俺は力を抜いた」とか（笑）。でもマサさん、長州さん、谷津さんの順でしたね。

——いい序列が出来てますね。

仲野　先輩後輩でね、これはしょうがないです（笑）。

——全日の選手と当たってみてどうでした？

仲野　僕がそのころ当たってたのは大熊（元司）さんとか（グレート）小鹿さんとかだったんですよ。全日本に若い奴なんていませんでしたから。タイガーマスク（三沢）は同世代でしたけど、もう上のほうでやってましたからね。だからあの頃は、たまに後輩の笹崎（伸司）と当たると凄く新鮮でしたね。

——新日の前座戦線と極道コンビじゃ、あまりにもイデオロギーが違いますよね（笑）。

仲野　だから全日本時代って印象があまりないんですよね。考えてみたら新日本より、全日本にいた期間の方が長いんですけどね。

——なのに印象が無いっていう（笑）。

仲野　でも新日本プロレスを離れてみて、改めて「僕はやっぱり新日本プロレスの人間なんだな」って思いましたね。

——新日の頃みたいに一緒に遊んだり、無茶するような面白さっていうのはジャパンとか全日にはなかったですか？

仲野　僕らより1年遅れて、俊二が平田（淳嗣）さんと（ヒロ）斉藤さんとカルガリーハリケーンズとして全日本に参戦してきたんですよ。だから俊二と遊んだりとか、その後に高木（功＝現・嵐）が入って、いつも3人で行動してましたね。

——実に言うこと聞かなそうな3人ですね（笑）。

仲野　だから決起軍ってありましたよね。あのメンバーがタイガー（三沢）、田上、高木、俊二、仲野じゃないですか。それで僕ら3人が常に一緒で、三沢、田上とは合わなかったですから。チームワークがいいわけないんですよ（笑）。

——それじゃ、決起するわけないですね（笑）。

仲野　だから決起軍は馬場さんが作ったんですけど、結局強制解散させられたんです。

——そのことを僕が原稿に書いたら、俊二さんから電話がかかってきて「俺は決起したんだよ。決起しなかったのは三沢だ」って言い張ってました（笑）。

仲野　確かにそれはありました。

——そうなんですか!?　決起しなかったのは、やっぱり三沢さんだった！

仲野　結局、僕らか三沢たちかどっちかが合わせなきゃだめだったんですよ。でも僕らはあいつらに合わせるつもりはなかったし、三沢は三沢でメインイベンターでしたから、全日本のシステムに染まってて、自分を壊せない部分があったんじゃないですか。しかも彼はメインイベ

聞き手／スモーノブ
interview by Sumo Nobu
撮影／松本崇

ンターで僕らは中堅、それでいて年代は同じじゃないですか。だから僕らから見たら「てめぇ、何カッコ付けてんだよ！」っていう部分があったんですよ。だから俊二と三沢がよく飲み屋で喧嘩してましたよ。

――その喧嘩も、ゼヒ見たいですね（笑）。

仲野　「三沢、コノヤロー」って俊二がつっかかるんですけど、三沢は立場があるんで言いたいんだけど言えないんですよ。それで僕に言ってくるんです「信ちゃん、喧嘩していい？」って。（笑）。俊二は俊二で「てめぇ、コノヤロー、早くかかって来い」って叫んでるし。

――あの人も酒癖が悪いですからね（笑）。

仲野　僕も全日本にいる立場だから「俊二、押さえて」って俊二を帰してね。三沢には「いいじゃない、俺も悪かったよ」って。

――仲野さんがいつも間をとりもってたんですか（笑）。

仲野　それで三沢はホテルに帰ったあと爆発しちゃうんですよ。夜中に菊池（毅）の部屋に入ってテレビを投げつけたりしてね（笑）。

――ガハハハ！　八つ当たりして（笑）。

仲野　「俺は頭に来た！」とか言って暴れて、そのあと三沢が非常ドアかなにかに寄り掛かったら、ドアが壊れて三沢はヒジをケガしちゃったんです。それが次の日になったら全部俊二のせいになってるんですよ（笑）。

――俊二が暴れたって（笑）。

仲野　だから俊二は馬場さんによく怒られてましたよ。あそこって馬場さんの色がもの凄く強いじゃないですか。馬場さんの言うことを聞かないと上に行けない感じもあったし。だから全日本の選手は可哀想な部分もありましたよね。

――ところで結局ジャパンプロレスはふたつに分裂してしまうわけですけど、その時はどんな状況だったんですか？

仲野　輪島さんが全日本に入団した時点で長州さんがだんだんおかしくなってきたんですよ。

――それが僕の中では凄く不思議なんですけど、輪島さんが入ったことでなんでおかしくなっちゃったんですか？

仲野　だっていくら名前があっても、現役じゃないし、もう入団する時点でおじさんだったじゃないですか。長州さんは猪木イズムっていうものを本当に知ってる人だから、輪島さんが上で試合をすること、その輪島さんと自分がいずれ試合をしなくちゃならないことが許せなかったんですよ。

――でも輪島さんが弱いわけはないだろうっていう思いが、僕の中にあるんですよ。

88年当時、全日マットで猛威を振るった天龍同盟に対抗するために、当時の若手が団結した伝説の軍団「決起軍」。結成当初は威勢が良かったが、仲野が語るとおりチームワークの悪さが災いしてか、徐々に尻つぼみとなり結局「全然決起しないので解散させます」という馬場さんの面白ギャグによって強制解散させられてしまった。

仲野　強い弱いは別にして、プロレスには向いてないし、やっぱりあの歳からはできないですよ！　だからあの頃は凄く雰囲気が悪かったですね。

――全日本に残る人と出る人は、どんな風に別れたんですか？

仲野　ジャパンプロレスの事務所で新日本に行くか、全日本に残るかを無記名で投票したんですよ。営業の人も全部含めてです。だけど営業の人は本当に可哀想でしたね。僕ら選手は新日本に戻ることも出来ますけど、フロントは無理じゃないですか。

――そりゃあ、そうですよね。

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

仲野　「ジャパンプロレスに命を懸ける」って言って40歳を過ぎた人たちが頑張ってきたのに、いきなり親方が「俺は戻りたいんだけど、お前らはどうするだ」なんてねぇ。

――旗揚げの時に「俺達は一蓮托生、揉め事があったら足を洗う」って言ってた人ですもんね。これは揉め事じゃないのかって（笑）。

仲野　そのとき長州さんは、みんなに「付いてこい」とは言わなかったです。「みんなで決めろ」って。それで僕は周りのことも考えて残ったんです。新日本に行ったら出戻りのまた出戻りになりますしね。

――二度目はきついでしょうしね。

仲野　「新日本を潰す勢いでやるんだ」って言っておいてまた戻るなんて、僕にはできませんでしたね。

――他の選手とは話したんですか？

仲野　僕が「全日本に残ります」って言ったら、小林（邦昭）さんとかみんなに「何で残るんだ」って言われましたね。逆に永源さんは馬場さんにピッタリでしたから当然残ったんですけど、全日本に残った永源さんまで「何で残ったんだ」って言うんですよ（笑）。

――自分で誘っておいて（笑）。

仲野　永源さんには「全日本の選手は練習もしないし、なまくらだからがんばれば上にいけるかなと思って」って純粋な気持ちで言ったんですよ（笑）。

――純粋すぎです（笑）。それにしても馬場さんにピッタリって、永源さんらしくていいですね（笑）。

仲野　「ハイ、代表〜」って馬場さんにいつもピッタリ付いてましたから（笑）。

――永源さんと荒川さんの調子の良さって凄いものがありますよね（笑）。

仲野　誰も真似が出来ないですよ。素晴らしいです（笑）。

――パッと懐に入りますからね。あのふたりが仲が良いのも凄い分かりますよね（笑）。

仲野　あの時は結局谷津さんと僕と永源さん、栗栖（正伸）さん、寺西（勇）さんが残ったんです。馬場さんも僕らが残って喜んでくれて、それで馬場さんの意向で谷津さんとコンビを組むことになったんです。そこからですよ、谷津さんと親しくなったのは。

――谷津さんも何度か取材しましたけど、あの人も面白い人ですよね。アマレス至上主義で（笑）。ただ、高田さんにだけはちょっと手厳しいんですけど。

仲野　でも（バーリ・トゥードを）やらない人間が言っちゃいけないですよ。

――谷津さんも「やる」とは言ってるんですけど、なかなかやらないんですよね。

仲野　とんでもないことですよ！　やる勇気もないくせにね、あんなリスクのあることやった

骨法は全局面打撃制という

人間に対して言っちゃいけないです。

——僕らは高田さんも最初は正直言ってやらないと思ってたんですけど、やるとなった瞬間に全面的に応援しましたからね。

仲野　高田みたいな選手がこれをやるって決めることは大変なことですよ。怖いことです!　その勇気は凄いですよ。

——それまでの全ての実績をリセットするような闘いですからね。

仲野　それを谷津嘉章がゴタゴタ言うなって!　アマレスが強かったのは過去のことであってね。今やって勝てるのかって!

——でも谷津さんは「今でも三沢、川田には目ぇつぶってでも勝てる」って言ってますよ。

仲野　そういう風に言わなければSPWFを守れないからでしょうね。そんなことは誰も信じないですよ。それは見てる人は分かります。ただプロレスの話はいくらしてもいいですけど、冒険をした人のことをやらない人が言っちゃいけないですよ。

——その谷津さんとタッグを組んでいた頃、仲野さんは鶴田さんの顔面にドロップキックを当てて、あの鶴田さんをブチ切れさせたっていう伝説がありましたよね。

仲野　あの頃はちょうど、僕らジャパンプロレスも全日本プロレスに染まってきちゃった時期だったんです。でも僕は意地を張ってリングの上の練習に参加しなかったんですよ。「コノヤロー」と思って、外を走ったり、スクワットしたりしてたんです。

——ひとりで叫んで、ひとりで練習して、「ひとりジャパンプロレス」ですね（笑）。

仲野　そしたら馬場さんに呼ばれて「そんなことしてないで、みんなと一緒にリングで練習しろ」って言われたんです。ちょっとカチンときたんですけど、そのあとで「お前は、コーナーからのドロップキックを練習しろ」って言われて、ミサイルキックなんてやったことなかったんですけど、やってみたら痛いんですよ。

——受け身も大変でしょうしね。

仲野　それから（ハル）園田さん（故人）にコーチしてもらって、毎日ドロップキックの練習をしたんです。そんなときに鶴田さんと当たったんで「ドロップキックを練習した成果を出すぞ」って思ったんですよ。

——そしたら成果がありすぎちゃったと（笑）。

仲野　普通はドロップキックって胸の辺りを狙うんですけど、僕の場合は三沢みたいにうまくないですから、飛んだらどこに行くか分からないんですよ（笑）。そしたら顔面に当たったんですよ（笑）。

——その一撃で怪物の目を覚まさせてしまったと（笑）。

仲野　それまで鶴田さんとは何回かやったことがあるんですけど、いつも余裕をもって、もて遊ばれてる感じだったんです。だから「思い切ってやってやれ」と思ってやったら、鶴田さんの口から血が出て人相が変わってるんですよ。「こりゃ、やべぇ」って思ってね（笑）。

——いままで見たことのない顔だったんですね（笑）。

仲野　案の定、とっ捕まってニーパットを食らって（笑）。そのニーもセコンドとして下で見てたのとは全然違うんですよ（笑）。その後のバックドロップもものすごい角度からね落とされて、「いつもはそんなんじゃないだろ!」みたいなのを食らいましたね（笑）。

——「死ぬだろ」ってぐらいのですね（笑）。

仲野　それで試合が終わって挨拶に言ったら、馬場さんが「いいんだよ、それぐらいやらなきゃダメだよ」って言ってくれて。鶴田さんにも「信ちゃん、それでいいから」って言われたんですよ。それで雑誌を見たら「鶴田を怒らせた男」って書かれたんですよ（笑）。

——それまでに「鶴田さんが強い」っていう認識は、もちろんあったわけですよね?

仲野　ありましたね。ああいう強さっていうのは鶴田さんだけでしょうね。いつも余裕を持って試合をしてるんですけど、あの余裕はいくら練習しても真似出来ないでしょうからね。それを初めて思ったのは大阪城での長州さんとの60分の試合でしたね。試合後、鶴田さんは平気な顔してましたから。

——そのまま飲みに行ったらしいですからね（笑）。別格ですよ。アマレスを3年練習しただけでオリンピックに行ったり（笑）。

仲野　だから僕は鶴田さんが練習してるのは見たことないですもん（キッパリ）。

——それも伝説ですよね。

仲野　試合前にチューブを引くぐらいで、あとは柔軟体操だけですから。やっぱり天才ですよ。

——練習は大学時代にしたからいいみたいな、そういう人なんですよね（笑）。全日本で強いなと思ったのは鶴田さんぐらいですか?

仲野　馬場さんも強いなって思いましたね。

——は?　馬場さんですか!?

仲野　体がでかいのは確かなんですけど、何をやっても効きそうにないんですよ。あの人は指の骨が折れてても普通に試合をしてましたからね。やっぱり馬場さんには勝てないですよ。負けはしませんけど（笑）。

——永遠に勝てない存在ですか（笑）。格とかのレベルを超えて何か違う、と。

仲野　そうですね（笑）。

——そのまま全日でずっとやって行こうという思いはなかったんですか?

仲野　「ずっと」っていうのは今まで考えたことがないんですよ。

——いつも行き当たりばったりで（笑）。

仲野　将来とか考えたことが無かったな。ただ、決起軍が解散したあとは刺激がなくて、毎日の試合が面白くなかったのは事実ですよね。自分も全日本の色に染まって「これからどうなるのかな」と思ってね。その頃にちょうどSWSの話を聞いたんです。

といったところで、今回はここまで。さて、次号はいよいよお待ちかね「帰ってきた!　S多重アリバイ」。谷津と共にSクーデターの首謀者と言われた仲野が、S分裂の真相を語る。さらにはその谷津と共にした、仲野の波乱の人生。福田雅一の思い出。そして昭和新日イズムを感じさせる数々のエピソードをお送りします。

次号まで、スクワット3000回やりながら待て!

なかのしんいち■S38年3月14日、神奈川県横浜市出身。S53年に新日本プロレスでデビュー。高田らと前座戦線をわかせた後、ジャパンプロレスに移籍。全日本ではアジアタッグ、世界ジュニアを獲得。その後、SWS、SPWF，夢ファクトリーを渡り歩く。団体が変わっても常に新日イズムを全面にだした闘いぶりで、現在、数少ないストロングスタイルを感じさせるレスラーである。185cm、85kg。

昭和プロレスの凄みに触れる
実録!　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

VTをやりもしない谷津嘉章が高田に対してゴタゴタ言うなって!

相撲多重アリバイ

戦国!! プロレス=相撲読本

聞き手／スモーノブ
interview by Sumo Nobu

撮影／松本崇
photographs by Takashi Matumoto

相撲とは
日本のプロレスの
ルーツである

相撲多重アリバイ

本誌・スモーノブが
国会に土俵入り!!

四日目 旭道山和泰 元衆議院議員

はぁ～、どすこ～い！　どすこい！　ビリーブ・イン・ザ・相撲パワー！　というわけで、プロレス界のスモー幻想を拾い集める「相撲多重アリバイ」が帰ってきたでごわす！　今回は、VIPこの上ない超大物！　元・小結で、元・衆議院議員というすさまじい肩書きの旭道山さんばい！　当然、今回は「プロレス入り」の噂を確認してきたでごわす！　チェケ！

レジャーニュース
旭道山 争奪
新日VS全日
直談判へ動く藤波 新日社長
馳使い急接近三沢 全日社長
「橋本引退」で一気スター候補の目玉に
金の使い方決まる長者の価値
コスモ メディア サービス
06(6367)5222
レジャーニュース 5月26日号

旭道山、プロレス入りか!? そんな報道が、新聞紙上を賑わせたのは5月の中頃だったばい。なんと、全日本プロレスと新日本プロレスが、熾烈な争奪戦を繰り広げているとの噂でごわす！ いろいろ噂はあるものの、まだ確実なことは何ひとつわからんばい。渦中の旭道山議員の生の声を聞けば、すべてがわかるはず！ というわけで、衆議院議員会館まで乗り込んで、直撃インタビューを敢行してきたでごわす！ 旭道山さんのことをあまり知らないプロレスファンも、これを読めば、きっとプロレス入りを熱望するはずでごわすよ。

——え〜、今日は『紙のプロレス』という雑誌の取材なんでごわすが……。

旭道山 知ってますよ（笑）。友人がプロレス好きなもんで。

——あっ、そうでごわすか！ ごっつあんです。嬉しいばい。で、早速ですが、今回、一部マスコミで「旭道山プロレス入り」という報道があったんでごわすが。

旭道山 まあ、今回は政界勇退ということで記者会見をしたんですよ。国会の中の記者会見で「次は何をやるんですか？」「何かあるから辞めらるんでしょ？」っていう聞かれ方をしたんで、「まだ白紙状態なんですよ」って答えたんです。で、その後に「でも、相撲をやってたんだから、プロレスもいいんじゃないですか？」って言われたので、「体を動かすと汗かきますし、血が騒ぎますね（笑）」って言ったら、「旭道山、プロレス入り！」ってなっちゃったんですよ！

——ハハハハ！ それで大フィーバーになったでごわすか。

旭道山 でもね、ほんとにもうビックリというか、ありがたいというか。でも、プロレスもプロの世界ですから。自分だって相撲ですけど、プロの世界の厳しさ知ってますし。ましてや僕は3年半のブランクがあるわけですから、急に転向できるなんて思ってないし、もう新弟子からやっていかないと思いますけど……。

——すでに、そういう心構えが出来てるばい。

旭道山 いやいや（笑）。まだ先のことは何も決まってないですから。

——あ、まだ決まってないんでごわすか？

旭道山 そうですよ。だから、今回は「旭道山、プロレス入り」なんて、書かないでくださいね（笑）。

——承知したでごわす（笑）。

旭道山 わきまえないとね。俺はプロレスラーをそんなに甘く見てませんし。オレも土俵んだ人間ですから。

——「土俵んだ人間」っていい言葉でごわすなあ！

旭道山 自分も、相撲の世界では序の口からずっと上がってきましたから。同じように、プロレスの世界にも序列があって先輩がいるじゃないですか。今回、こういう報道があって、ラブコールをもらったのはありがたかったです（しみじみ）。その反面、ほら、やっぱり現役の方が「急に来たヤツがプロレス出来るはずがない」って言われるのは当たり前ですよ。

——ばってん、先日出た『レジャーニュース』という新聞によると、「天龍（源一郎）さんが新日本の藤波（辰爾）社長の命で旭道山さんに接触した」という話が出てたんごわすよ。

旭道山 だから、ほんとに接触とかそういうことは全然ないですから！

——一方、全日本は「馳（浩）さんを介して接触した」と書いてあるでごわす（笑）。さらに、契約金の話まで載っていて、3千万とか4千万という数字まで出てたばい。

旭道山 ……とにかく明日、国会が解散するんですよ。そしたら、私は普通の人ですから。それから自分がお世話になった人に対する一宿一飯の恩義を返すために、応援演説で全国を駆けめぐらなきゃいけないんですよ。

——一宿一飯の恩義でごわすか！

旭道山 やっぱり政治の世界は、義理人情と貸し借りの世界ですから。だって、選挙ってのは戦争なんですよ。

——実弾も飛ぶわけでごわすよね。

旭道山 当然、飛びますよ。誹謗中傷もありますし。もうスキャンダル合戦というか、要はあら探しですよ。

——いま、ここ（議員会館）に来るときも、国会の前で「神の国」発言に対する抗議活動をやってたばい。

旭道山 あれもね……小さな言葉のひとつかもしれないけど、言葉で大きなものを消してしまってますよね。政策、法案、予算、いろんなもの通してますからね。だから言わせてもらえば人間は良いところも悪いところもあるし、間違いだってするけど、やったことに対する成果を評価はしてほしいなあ。言葉にも気をつけないといけないけど。

——どうでもいいんでごわすか！

旭道山 取り上げてもらえるのはありがたいんですけどね。そう簡単にプロレスラーにはなれないじゃないですか？ プロレスは甘いところじゃないんだから（笑）。私もトシなんだし。

——ハハハハ！

旭道山 私もヘマばっかりしてますからね。今回のプロレス入りっていう報道もそうだし（笑）。

——いま、35歳でごわすよね。

旭道山 そう。

——まだこれからばい！ 先日、

力皇関も31歳でデビューしたでごわす。

旭道山　そうですね、あれはビックリしましたよ。

——旭道山さんは、誰と同じ時期に相撲を取られてたでごわすか？

旭道山　田上（明）さんは、相撲教習所で1期違いなんですよね。同じ時期に相撲を取った維新力さんもいたし、もちろん天龍さんも先輩だし、それで一番上が力道山さんなわけでしょう。先輩もいっぱいいますよね（笑）。

——ずっとプロレスはご覧になってらっしゃるばい？

旭道山　ええ。昔から格闘技はずっと好きでしたから。俺は、プロレスにすごく夢をもらいましたよ。

——誰のファンだったんでごわすか？

旭道山　まあいろいろ……馬場さんも猪木さんも、藤波さんも坂口さんも、ハンセンからブッチャー、マスカラスとかねえ。みんな好きでしたねえ。

——では、会場に行ったりもしたでごわすか？

旭道山　中学校のときに行ったなぁ……タイガー・ジェット・シンが大暴れしてたときだ。なんか急にバ～ッと来て、ワァ～ッとやって、ド～ンとやって、去っていた（笑）。あんときは「すげえ～！」って思いましたね。やっぱり、相撲もプロレスも夢を与えてくれますよね。

——最近のプロレスはご覧になってるでごわすかね？

旭道山　たまに見てますよ。だいぶ変わってきましたね。

——では、バーリ・トゥードはご覧になったことはあるばい？

旭道山　……？

——乱暴な言い方をすると、顔面パンチも寝技もありのケンカみたいな競技なんでごわすよ。薄いグローブをつけて、寝技でも顔面パンチもあるばい。

旭道山　はあ、そうなんですか……昔、どれだけ血を吸ったことか（と、自分の手を見つめる）。ボクらの世界はグローブもないですから。

——じつは、その競技に大刀光さんが出たんでごわすよ。

旭道山　えっ、そうなの？　でも、ブランクあるでしょう？　たっちゃんもともと組み相撲だし、ワキ甘いし、元暴走族だし（笑）。同じ立浪部屋の一門なんで弱点よく知ってるんですよ。

——なるほど（笑）。残念ながらタチ関は負けたでごわす。

旭道山　たっちゃんはね、おとなしいタイプなんですよ。そんなイケイケの人間じゃないです。キレるとすごいんですけどねぇ、なにせ元暴走族だから（笑）。でも、キレるまでが時間かかるんですよね。

——そう！　よくご存知ばい（笑）。

旭道山　相撲教習所時代に同期でしたからね。

——そうだったんでごわすか。教習所そこでの同期のつながりって強いでごわすか？。

旭道山　そうですね。そういえば、たっちゃん！（と、テレコに語りかける）最近、連絡ないね？　寂しいよ（笑）。

——ハハハハハ！

旭道山　みんなもともとバラバラなんですけどね。絆というか……なびいてるわけじゃないですよ。不意にケガをして辞めた人間もいるし、逃げた人間もいるし、そこそこまで行って辞めるヤツもいる……でも期生番号って死んでもついて回るもんなんですよ。俺は136期ですから。入ってから半年間、そこで過ごすんですよ。俺は修了証書をもらいましたけど、もらえずに辞めていくヤツもいっぱいいます。

——そこでは何を教わるんでごわすか？

旭道山　一般教養、詩吟……。

——一般教養と、詩吟でごわすか！

旭道山　そう。あとは、生理学、書道、あとは相撲のことですね……。卒業したら、そこで期生番号をもらうんですよ。いまは、教習所の在り方は変わってきてるみたいですけどね。いまは学校みたいなもんですよ。

——昔は、どんな感じだったんですか？

旭道山　軍隊でしたね（笑）。まだ、蔵前国技館だった頃です。あそこの場内を手押し車で3周させられたりね（笑）。

——考えるだけで怖ろしいでごわすなあ。

旭道山　少しでもへばったり、ブ

蔵前国技館を手押し車で3周しました。ヘバってるとチャリンコで轢かれるんです

大型力士を相手に怯むことなく挑んで、果敢な相撲を見せた旭道山関。当然、現役当時は人気も抜群！　巨漢力士を相手に、張り手でKOの山を築いたのは記憶に鮮明に残っている読者の方も多いだろう。

ッ倒れたりすると、教官が後ろからチャリンコで轢きますからね（笑）。

――ムチャクチャばい！

旭道山　あとは「シコ3000回踏め！」とかね。

――さ・ん・ぜ・ん・か・い!?

旭道山　普通、踏めないですよ。

――スクワット3000回よりもキツそうでばい。

旭道山　キツいと思いますよ。スクワットは屈伸運動ですよね。シコっていうのは、体重移動もあって、なおかつ片足で全身を支えるわけですからね。今だから笑って話せますけどね。たっちゃんに、相撲教習所のことを聞いたらわかると思いますよ。「相撲教習所は厳しかったですか？」って。あそこで教わるんですよ、「長いモノには巻かれろ」って（笑）。「マジメにやれ」って。股割りひとつにしても、天国と地獄ですからね。

――どういうことでごわすか？

旭道山　足が広がってなかったら、お構いなしに3、4人が上に乗ってきますからね。筋が切れますよ。モモの内側が真っ青に内出血して……半年は相撲取れないですよ。

――半年でごわすか？

旭道山　あの当時の教習所は、10畳ぐらいの風呂に200人ぐらいで入ってましたからね（笑）。

――ええ～ッ!!　みんな、相撲取りだから身体はゴツいばい（笑）。それはムチャでごわすよ。

旭道山　そこで「いかに勝負をするか」を学ぶんですよ……自分の身は自分で守るしかないですよ。人を助けてる余裕なんかないです。で、連帯責任なんですよ、何でも。たとえば、大島部屋の俺が何かヘマをすると、「立浪一門は、全員やれ～」となるんです。タマんないですよ。部屋に帰ると、今度は親方に「お前のせいだな！」って怒られて（笑）。

――そんな苛酷なところで、タチ関も過ごして来たんでごわすなぁ。

旭道山　たっちゃんは、あのとき三軍だったかな？

――同期でも、いくつかに分かれてるんでごわすか？

旭道山　あの当時は、土俵が4つあったんですよ。一軍は建物の中の土俵、二軍はその側、三軍は建物の外の土俵で、四軍は、さらに遠い土俵で。たっちゃんは二軍か三軍ですね。

――旭道山さんは何軍だったばい？

旭道山　二軍でしたね。田上さんが一軍だったですよ。

――かぁ～、やっぱり、田上さんは凄いでごわすなぁ。

旭道山　そこを修了したときは「よく出てこれたなぁ」って思いましたよ。

たまに間違って「衆議院議員の力道山さんが来ました」って紹介されるんです

――そこで同時代を過ごしたら、もう戦友って感じですよね。先ほどは、「もしやるなら新弟子から」とおっしゃってましたけど。

旭道山　あ～、あれは厳しい（遠い目）。ハンパじゃないです。また、相撲を一からやれって言われたら、絶対やりたくないッスよ。

――旭道山さんのいた大島部屋は特に厳しいという話を聞いたばい。

旭道山　あの頃はね、まだ新進のバリバリのイケイケな部屋ですから（笑）。まあ、一言で言えば武闘派でしたね。

――一言で言えば武闘派！（笑）。

旭道山　朝と夜に二回稽古やってましたからねえ。スパルタ教育だったし。

――普通、相撲部屋は夜に稽古はしないでごわす。単純に考えて、普通の部屋の倍は稽古したばい（笑）。

旭道山　普通の稽古じゃ絶対強くなれないんですよ。あの当時の大島部屋っていったら少なからずみんな……凄かったですよ（笑）。上からいけば、横綱の旭富士がいて、自分、旭豪山、旭鷲山、旭里、旭豊……もう15年ぐらいしか歴史がないのに、何人も関取を生んできましたから。私はそこの特攻隊員だったんですよ（笑）。

――旭道山さんは、現役の頃はすごく細身でごわしたね。動けて、張り手が強烈なイメージがあるばい。じつにプロレス向きだなあと思ってたんごわですよ。

旭道山　フフフ。今でも老人ホームとか施設に行くと、たまに間違って「衆議院議員の力道山さんが来ました」って紹介されるんですよ（笑）。

――ハハハハ！　老人ホームに力道山がきちゃったら、マズいでごわす（笑）。お迎えに来たと思われるばい。

旭道山　でも、場内が沸くんですよね。しょうがないから、自分も「力道山です」って言ったりね（笑）。こっちは張り手で力道山さんはチョップなんですけどねえ。そこは「形が少し違うだけです」なんて言ってね。

――ハハハハ！　ホントにプロレス向きでごわすなあ。

旭道山　いやあ、それはないというか……もし俺が入ったとしても、やっぱりそこそこはいけるかもしれないけど、やっぱり上までは行けないでしょう。俺よりも実力ある選手はたくさんいますから。年齢のこともあるし。俺がもし10代から入って今の歳になってたら……もしかしたらトップを取れてたかもしれない。

――いまごろ、ベルトを巻いてたかもしれんばい。

旭道山　ねえ（笑）。でも、原点が違うわけだし、相撲やって3年半もブランクがあってっていう流れですから。

――でまあ、ぶっちゃけた話なんでごわすが、6月25日に選挙がありますよね。その後、今年の後半に「オマエらが予想もつかないことをするぞ」って、新日本プロレスの現場監督が言ってるばい（笑）。

旭道山　ガハハハハ！

――で、さっき撮影のときに気が付いたんでごわすが、そこに闘魂タオルが置いてあったでごわす（笑）。

旭道山　い～や、あれはほんとに友だちが持ってきたんですよ！　ビックりしましたよぉ。

（ここでカメラマンがタオルを撮影しようとする）

旭道山　あ、写真はよして。シャレにならないよ（笑）。その友だちにも「こんなときに待ってくるなよ」って言いましたけど（笑）。

――しかも、運悪く取材の日に見つかってしまったでごわす（笑）。でも、身体はずっと維持されてるばい？

旭道山　まあでも、たかがしれてますけどね。走るぐらいはやってますけど。

――それではまず選挙が終わったあとに何をしたいという希望はあるでごわすか？

旭道山　まず、ちゃんと議員生活を完結したいんですよ。勝ってほしいと思う人の応援に行きますから。とにかく25日まではそれに全力をかたむけます。で、これが終わってから……俺も生活しなきゃいけないから、何かやらなきゃいけないですからね。でも、とにかく色々なことがやりたいんですよ。商売だけじゃなく、ボランティアとかもね。

――タレントになるという道もあるばい。

旭道山　でもできることだったら、そういうこともやりたいですね。

――KONISHIKIさんは、すごい人気ですごわすなあ。

旭道山　舞の海さんもね。まあ、舞の海さんだったらかわいいっていう感じがあるし、小錦さんは、あのキャラクターじゃないですか。でも俺は、かわいいでもないし、すごく大きいわけでもないから。難しいですね（笑）。

――いやいや、かっこいいでごわすよ。とにかく、いろいろやりたいことは多いんでごわすね。旭道山さんは、プロフィールを見てたら趣味が多いばい。スカイダイビングのライセンスまで持ってらっしゃるでごわす。

旭道山　そうですね。あとは、車もバイクも好きだし。

――バイクも乗るんでごわすか？

旭道山　昔は好きでしたねえ。まあカミナリ族ですよ（笑）。写真を撮るのも好きですし。

――じゃあ、映画も好きでごわすか？

旭道山　好きですね。アクションとか戦争ものね。『プラトーン』とか『戦場の7人』とか好きですねぇ。あと、『連合艦隊』!!　これは見た方がいいです!!　何をどうすればいいのかわからない状況で、ヘマするヤツもいて、友情も裏切りもあってね。戦争を美化しちゃいけないけど、そういう極限の状況って人間の心理状況がよく出ますよね。

――じゃあ、ラブロマンスとかトレンディ・ドラマはいかがでごわす？

旭道山　ダメなんですよ。見てられないというかね（笑）。「好き」とか「嫌い」とかゴチャゴチャやりやがって、見てると「バカヤローッ！」ってなる（笑）。見るんだったら、相撲かプロレスでしょう！　筋書きのないドラマですからね。そういう意味で相撲もプロレスラーも一緒だと思いますよ。その上で勝ち負けがあるから、いろんな人間ドラマが生まれるじゃないですか。

――最近、元力士の板井さんは「八百長だ」と雑誌で発言してたばい。

旭道山　言いたいこと言わせておけばいいんですよ（笑）。よく「お相撲さんてお酒よく呑むでしょう」とか「歌うまいでしょう」とか言われるけど、そんなのごく一部の人じゃないですか。歌のうまいヤツもヘタなヤツもいれば、酒を呑むヤツも呑まないやつもいるから。もちろん良い人もいれば悪い人もいると思う。それを全部ひっくるめて相撲の世界ですからね。ただ、私は相撲にポリシー持ってますよ。俺の人生を作ったところですから。

――人生を作ったところ！

旭道山　だって俺は裸一貫で、カバンにパンツ2枚とシャツ2枚だけ詰めて田舎から出てきて、コレ（議員バッチ）まで付けた人間ですから。いま、学歴社会と言われる中の中卒で、ここまで這いあがりましたから。

――まさに成り上がりでごわす。

旭道山　俺は矢沢ですよ（笑）。

――ハハハハ！　当然、矢沢としてはこれからも成り上がり続けるわけでごわすな。

旭道山　でも成り上がっちゃったらダメですよ。まだまだイケイケです（笑）。

――最終的な目標というか、例えば矢沢永吉さんなんかだったらタバコ屋にリムジン乗り付けていくとか言ったりしてますよね。

旭道山　それおもしろいですね。昔、何かのマンガでハイウェイをキャデラックかなんかで走ってて、小銭をチャラチャラさせながらジュースを買いに行って、「俺はこれがしたかったんだ」というのがありましたけどね（笑）。まだ私はこれからですよ。

――旭道山さんは、ある意味大変な生き方を選んでるわけじゃないですか。それは誰かの影響なんですか？

旭道山　うーん、小さいときに親父と別れてね……まあガンで亡くなって。そのときに、いろいろ文面を残してたんですけど。

――遺書があったんですか。

旭道山　親父も母親と別れた後に、第二の家庭を築けば良かったんですけどね。それをせずに一人で突っ張って生きてたんですね。最後は男一匹で……何か、オヤジの血が流れてるのかなぁ。

――親の背中を見て、子供は育つとよく言うでごわす。

旭道山　ほとんど見てないんだけどね（笑）。オヤジが50歳のときですよ。

──旭道山さんが35歳ですよね。プロレス転向するには、ラストチャンスですよね。たしか、輪島さんが30代後半で転向したばい。でも、普通に考えれば旭道山さんのように出世したら、相撲の世界で何不自由なく暮らせたはずばい。

旭道山　たしかに私は親方株を買って、定年まで行けた人間ですよ。選挙のときも、みんな「どうせ相撲界に帰れるんだろ」って思ってたと思うんですよ。でも、それは相撲の業界をわかってないんですよ。相撲界は、一度でも外に出ると二度と戻れないんですよ。こっちは人生かけて、国のために何かをやりたいっていう気持ちで、いろんなもの投げ売って来てますから。ましてや、景気が冷え込んで、日本が沈没すると言われたときですよ。

──旭道山さんから見て、景気が悪いのは何が原因だと思うでごわすか？

旭道山　……とにかく、みんな危機意識持たないと。平和ボケしたらいけないですよ。政治家も、企業も、国民も、有権者もね。信用、安全、平和、全部崩れましたよ。みんなボケちゃったから。自分たちに全部降りかかりましたよ。その防衛ラインはここ（国会）ですから。でも、ここの人間を選ぶのは有権者の皆さんです。

──じゃあ、今後も国民の心に何かを訴えかけることをやっていくということでごわすな。

旭道山　そうですね。日本に熱い

粋（いき）に生きたいですね。背中を丸めて歩くのはイヤですよ。胸を張って歩きたいですから。

心を取り戻すために……「選挙に行ってください」と（笑）。

──ハハハハ！　旭道山さんは生きる上でポリシーは何かあるでごわすか？

旭道山　とにかく、粋（いき）に生きたいですね。

──粋！　いいでごわすなあ。

旭道山　傾く（かぶく）とかね。

──傾き者！　かっこいいばい。

旭道山　だって、背中丸くして歩くのはイヤじゃないですか。やっぱり胸張って歩きたいですよ。例えば、胸に銃弾打ち込まれても……。

──「倒れるときも前のめり」ばい。

旭道山　倒れた後もほふく前進で進むぐらいの心意気ですよ（笑）。

──ホントに戦争映画でごわす（笑）。

旭道山　そういう生き方は、したくてもできないじゃないですか。俺は、自分では多少やれてるって思ってるし。まず他の人はリスクから考えるけど、そこから考えたらできませんよ。自分の地位名誉を捨てて、保証があるわけじゃないですし。次は何やってるかわからないし。

──プロレスしてるかもしれないでごわすよ。結局、「プロレス入り」は否定も肯定もしていただけなかったでごわすが（笑）。

旭道山　ガハハハハハ！　でも人生はチャレンジすることですよ。できないって決められたら寂しいじゃないですか。だから、前に出続けますよ！

──じゃあチャレンジするんでごわすか？

旭道山　またぁ！　そっちに話を持ってかない（笑）。

──まあ、選挙前の微妙な時期でごわすからなぁ。

旭道山　昔、壊したところもありますし、爆弾抱えてますから。第一線に戻ろうと思ったらそれだけ時間かかりますよ。1、2ヶ月やそこらじゃあできませんよ。やっぱり、それこそ練習生からはじめていくとかね。でもまた土俵まなきゃいけないと思うと……ちょっと自信がないなあ（笑）。

──でもその土の味が恋しくなるっていうことはあるばい？

旭道山　うん。だからそれは血が騒ぐってことですよ。もともと持ってる血がありますから。

──ではその持っている血を……。

旭道山　ストリートで（笑）。ハハハ、冗談ですよ！

──アハハハ！　でも、ストリートファイトの経験なんてあるんでごわすか？

旭道山　あんまりないですね。

──あ、あんまり（笑）？

旭道山　…………。

──いまや国会議員ばい。そんなことはないでごわすよね。

旭道山　もう、キレイになったんですから（笑）。

──では、最後に本誌の読者にメッセージがあれば、ごっちゃんです。

旭道山　小さいときにプロレスを見てました。ホントは相撲が嫌いだったんです。

──えっ!?

旭道山　だって昔はバレーやってましたし、まわし締めるなんてことも考えてなかったですよ（笑）。俺はすごく夢をもらいましたから。そういう意味で俺は同じプロスポーツとして敬意を払いますし。国技の相撲と違って、プロレスは世界中でやってますしね。俺はこれからもプロレスを応援していきますよ。

【'00年6月1日、東京・衆議院議員会館にて収録】

インタビュー弓取り式■結局、最後まで旭道山さんの口から「プロレス入り」宣言は引き出せなかったでごわす。ばってん、今後については含みを残したということは、旭道山さんの中で何かが動いている真っ最中だということでごわす。旭道山さんの素晴らしき成り上がり人生の途中にプロレスがあってもいいと、ワシは思うでごわす。さあ、本誌を読んでるアナタも、旭道山さんが応援演説をしていたら足を止めて聞いて欲しいばい。そして必ず選挙に行くでごわす！　転がり続ける人生の傾（かぶ）きもの旭道山さんの今後の動向に注目ばい！

きょくどうざん■本名：波田和泰。昭和39年10月14日、東京都世田谷区生まれ。３歳から中学卒業までを母親の故郷である鹿児島県徳之島で過ごす。中学卒業と同時に、文字どおりの片道切符とパンツ２枚、シャツ２枚を片手に大島部屋に入門。この時、身長178センチ・体重58キロ。軽量力士として下積みの時代が長く続いたが、持ち前の努力と忍耐で、初土俵から９年目に念願の幕内昇進を果たす。南海のハブの愛称で親しまれ、最高位は小結。'96年10月、突如、角界を引退し衆議院総選挙で立候補し、いきなりの初当選。新進党の解党後は新党平和に参画、会派「平和・改革」所属を経て、現在は無所属と流転の政治人生を歩む。会派「公明党・改革クラブ」に所属。今後のことは未定だが、プロレス入りが熱望される。

グレイシー幻想続行ッ!!

船木誠勝、ヒクソンに負けて即引退となったが、これで闘いにピリオドが打たれたわけではなく、もちろん新たな闘いの始まりなのだ。

はたしてヒクソンの次なる対戦相手はサクか？　オーちゃんか？　田村か？　近藤か？

そこで本誌では、これからのマット界の行方を大予想する座談会を開催。

プロレスvsグレイシー続行ッ!!

チョロ　え～、『コロシアム2000』も終わり、発売時にはひと月あまり経ってますが、船木は負けましたけど『プロレスラー対ヒクソン』は、これからが始まりなんですよォォォォ！

山口　いくらターザン山本が"ビートたかし"になったからって、お前がターザンになることはねえだろ！　あのね、ただ一つだけ言えるのは、「プロレスというのは、一つの決着が次の物語のスタートを生んでいる」ということだよ。でも船木の引退にはズバリ言って次のスタートが見えない。

戦前は"ＵＷＦvsグレイシー一族の最終戦争"と騒がれたものの、終わってみれば、船木の完敗に終わった"グレイシー幻想"復活させてしまったこの試合。これによって、どんな新たな闘いがスタートするのか？

豪　でも俳優業はスタートしてるんですよね（笑）。

山口　実にいいスタートを切ったね（笑）。わかりにくい部分で、「次の世代が総合格闘技を背負っていく」とか、「パンクラスを下から支えていく」とか、船木やパンクラス内部での次のスタートは見えるんだけど、マット界全体のスタートにはなってないよね。ただヒクソンは次のスタートを生んでる。だから「ヒクソンの方が高級なプロレスラーである」というのが俺の結論！

豪　パンクラスは『コロシアム』内でも、続きを作ろうとしてなかったですもんね。

ノブ　まあ近藤が「田村とやりたい」って言ってるでごわすが。

チョロ　でも、すぐさま白紙撤回ですからね。

豪　リング上なりでどんどん煽ってかなきゃ、繋がるわけないんだよね。

ガンツ　でもなんか今回の近藤選手の発言って本心じゃないような気がするんですよ。全部上層部に言わされてる感がしますね。だから近藤選手には乗れないんですよ！

豪　ヒッドイこと言うなぁ（笑）。

山口　上層部が言わせてなかったらどうすんだよ、訴えられるぞ、お前（笑）。

ガンツ　言わされてる……み、みたいな気がします。

山口　ガハハハハ！　でもね、船木の引退っていうのは「清算主義」を感じる。個人的な精算、内部的な精算。

豪　個人で清算して、パンクラスで清算してって感じですよね。

山口　格闘家としての人生も清算して、次は俳優業に向かうっていう。

豪　だったら俳優業も、とっとと清算しろって感じですよね（笑）。

山口　キミも十分ヒドイね、相変わらず（笑）。でも"いわゆる本音ってやつの限界"船木を見てるとそれを感じるね。いままでの船木の発言を垣間見てみると、"いわゆる本音"ってやつを言うでしょ。「見たくない人は見なくていい」とかさ。でも、"いわゆる本音ってやつ"にも限界はあると思うんだよ。例えば、わかりやすく言うと、俺らだって何日も徹夜して会社に泊まりこんだりはしたくないよね。でも、その"いわゆる本音"っていう壁を突破しない限り、プロの芸として昇華していかないよね。

チョロ　そういう生き方してたら、20年出来るものが15年で終わってもやむなしと。

山口　でも選手生命を自分の中で決めてるもん、船木の場合は。漫画家だって、「もう連載は終わらせたい」と思っても、周りがやめさせてくれなかったりとかあるでしょ。それを「流れ」だと思えずに、自分の中での「物語」を自分で完結したわけでしょ、船木は。

「ヒクソンの方が船木より、高級なプロレスラーである」というのが俺の結論（山口）

座談会出席者

山口日昇
本誌鬼畜編集長。iMacを購入後、以前にも増して出社頻度が激減。最近メールにはまり、メル友の水道橋博士等に長文メールを送りまくる。それぐらい原稿も書いてくれれば……。

吉田豪
本誌スーパーバイザー。菜食主義者なのに野菜はあまり好きじゃない、という実に不思議な食生活を送る金髪鬼。現在は帰ってきたジャイ子に対して、絶賛虐待中。

スモーノブ
本誌編集力士。タマリンと会社の板挟みとなり苦心するが、その後のタマリンが自分の悪口を言ってることを知り、遅ればせながら牙を剥きだした『紙プロ』三バカトリオ1号。

松澤チョロ
本誌エロ編集者。「彼女との話が気持ち悪い」など、非難囂々の読者ページを『紙プロUFO』に乗っ取られるも、ダメージも受けず恋人レミと文通続行中の『紙プロ』三バカトリオ2号。

堀江ガンツ
本誌腹黒編集者。ここ数カ月、ジャイ子と共に『紙プロ』地下組織「反タマリン同盟」を結成し、闇で暗躍。現在は元タマリンの机を我が物顔で占拠する『紙プロ』三バカトリオ3号。

豪　船木が負けた瞬間、僕らの中では高田がヒクソンとやるって言った瞬間と同じで、何か一つ越えた感じがして、「これで素直に応援出来るな」ってモードに入りましたよね。

山口　うん。やっぱりグレイシーとは違うベクトルで『船木幻想』とか『パンクラス幻想』ってあるでしょ。そういう「幻想」の部分だけじゃなくて、「実」の部分で船木がようやくこれから勝負出来る、やっと生身の船木をこれから見れるかなって思ったんだよ、瞬間的に。だから、あの負け方でも、次からの展開を考えると瞬間的に光が見えたんだよね。

豪　〝鎧〟を捨てたと思ったら、〝鎧〟を捨てたまま芸能人になっちゃったという（笑）。

山口　ガハハハ！　俺が感じたのは、ビデオを何回も見るとね、船木はヒクソン戦の最中も、実に気持ち良さそうだったんだよね。もちろん肉体的、精神的には試合だから厳しいんだろうけど、マウント取られた瞬間に、「俺は、こんな凄い男と闘ってるんだ」っていう表情に見えたの。

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

「藤波さん、藤原さん、橋本選手の顔が見えたのが嬉しかった」と語っていた船木だったが、これまでこれらの選手とあまりにもリンクしていなかったのが問題だろう。

チョロ　「マウントを取られた瞬間、ヒクソンを感じた」と言ってましたからね、試合後に船木は。

山口　だから、ドームでヒクソンとやることが最終目標だっていうのが、そこはかとなく見えてしまったんだよね。

ノブ　ヒクソン戦は思い出作りだったでごわすか？

豪　こいつもヒッドイこと言うね（笑）。まあ、その最終目標の設定の仕方が非常にチンケというか。みんなが『グレイシー幻想』を捨ててきてるのに、船木が一番デカい幻想を持ってたというのがね。

山口　『BRAIN』（発行＝メディアワークス）っていうShow氏が作った本をパラパラ読んでたら、以前、船木は「ヒクソンに勝つには、ヒクソンになるしかないんです」って言ってるんだよ。

豪　あれはビックリしましたよね（笑）。

山口　俺の考えの方が単純なのかもしれないけど、ヒクソンになったら、ズッと長い間ヒクソンをやってるヒクソンに勝てるわけないよ。

ノブ　ヨガもそうでごわすが、相手の土俵に乗って、その上で勝てたら、それに越したことないでごわすな。どすこい！

豪　土俵ってお前、なんでも相撲に例えればいいってもんじゃないよ（笑）。ヒクソンになって勝ったとしてもヒクソンの勝ちだよ。あいつら大喜びするだけだよ。「これはグレイシー柔術の勝利だぁ！」って（笑）。

山口　だから俺は前から言ってるけど、グレイシーが「劇画」だったら、プロレスは「漫画」「劇画」よりも「漫画」のほうが劣るっていうのが格闘技ファンの見方だけど、桜庭は敢えて「漫画」の表現方法で勝負した。「表現方法はなんであれ、凄いもんは凄い」ということを如実に浮かび上がらせたんだよね、桜庭は。でも、船木は「表現方法」にこだわった。だから、あの着流しに刀なんでしょ（笑）。ヒクソンと同じ「劇画」の世界で主人公になれただけで終わりっていうのは、正直言っちゃうと腹が立ったよ。船木の美学は理解できるんだよ。でも、「劇画」の世界が好きなら好きでいいんだけど、それなら「勝つまでやれや、勝つまで！」って思っちゃうんだよね。

豪　一番腹立ったのが、「勝っても負けても引退する」っていうコメントでしょ。その前に「プロレスへの恩返し」って言っておいて、もし勝って辞めたとしたら、それがどういう恩返しになるのか、俺に詳しく教えて欲しいもんですよ。

山口　もし勝ってたら、〝グレイシー〟というのはプロレスの最大の敵だから、それに打ち勝ったということでマット界に恩返ししたってことじゃない。

豪　それじゃ単なる一人勝ちの勝ち逃げじゃないですか。業界のためには何にもならないから、その辺が腹が立って腹が立って。

山口　確かにヒクソンっていうのは凄い選手だし、グレイシーっていうのも目標に値する大きなものだよ。それにドームでやることだって確かに凄いことだよ。でも、それが船木さん、あなたの選手としての最終目標なの？って思うと、俺は15年応援してきたファンをも否定してるように思えるけどね。

豪　猪木さんを否定した時点で、世界レベルの巨大な野望っていうのも船木は否定したわけじゃないですか。それで等身大の夢を叶えて満足するのもわかるけど、やっぱりプロってそんなもんじゃないでしょ。オーちゃんなんか相当無理してますけど、やっぱり〝無理〟は必要ですよね。

山口　うん。それでさっき「清算主義」って言ったけどさ、昭和56年に、全日本から新日本が（アブドーラ・ザ・）ブッチャーを引き抜いたんだよね。それで当時、猪木さんは一応全日本のことを否定してた立場でしょ。「あんなのはプロレスじゃない、コミックショーだ！」とかヒドイこと言って（笑）。その全日のトップ外人であるブッチャーを引き抜いた時に、猪木さんは、「私に挑戦してきたブッチャーの勇気はおおいに評価します。だけど、いままで通りのやり方じゃ私には勝てません！」と言ったんだよね。これは凄い言い方でね、いままでのブッチャーや全日本を否定しつつ、今後に繋がっていく物語もそこで示してる。そういうのがその言葉に重層的に入ってる。それに対して、ブッチャーを引き抜かれた側の馬場さんが何て言ったかというと、「行くっていうもんは仕方ないだろう」って言ったの（笑）。

豪　馬場さんは本音派ですからね（笑）。

山口　そうそう。〝いわゆる本音の人〟だから。で、「ブッチャーは金で引き抜かれて行ったんだ」「これからは企業戦争だ」って言ったんだよね。これも〝いわゆる本音〟。じ

『コロシアム2000』で圧倒的な強さと巧さをを見せつけて、金ちゃん大ブレイクの皮算用を無にしたスペーヒー。正直言って、今大会で一番強く見えたのがこの男である。

ゃあ、金で引き抜かれた奴と、いままで死闘だなんだってやってきたのかってなっちゃう。本音に本音で対抗していくと、どんどん狭い世界に行っちゃうんだよ。だからさっき言った、〝いわゆる本音ってやつの限界〟っていうのは、そういうことを俺は指して言ってるの。これは村松（友視）さんとか糸井（重里）さんが言ってたことだけど。そのときの馬場さんの言ってる言葉は「清算主義」なんだよね。一回一回清算していき世界。「ブッチャーは金で引き抜かれて行ったんだ」って言った瞬間に、いままでの自分のやってきたことさえ否定してしまうことに気付いてない。だから船木の「15年間ありがとうございました」にもそういう空気を感じるんだよ。

豪 まあ、馬場さんに憧れた人ですからね。その馬場さんが言ってたのがね、「芸能人になりたい人が、ヒクソンとやってる」って。実は船木もそうだったんですよ（笑）。

チョロ うまいっ！

豪 ……って、吉田豪が言いそうだってネットに書かれてて（笑）。心外ですよ。確かに書かれる前から言ってたんだけど。

山口 ガハハハハ！ でも「清算主義」からは何も生まないと思うね。だって、誰が本音対本音の闘いを見たいのよ。本音を突き破ったところにファンタジーが生まれるんだからさ。そりゃ誰だって海に行きたいし、誰だってやりたかないもんは、やりたかないよ（笑）。

豪 誰だって早く引退したいし（笑）。

山口 ねぇ。俺らだって入校なんて嫌じゃん。でもそれを「やりたくないやりたくない」って言ってて誰が喜ぶんだっつーの。

豪 確かに面倒な仕事の横に映画スターへの道があれば、そっち行きますよ（笑）。

山口 あ、そりゃそうか（笑）。でも、プロっていうのは、〝いわゆる本音〟っていう壁を、いかに突き破るかしかなんだよね。猪木さんの場合、突き破り過ぎちゃう傾向があるんだけど（笑）。

豪 まあ、世間に風穴を開けたい人ですからね（笑）。

山口 試合内容云々よりも、そういうことを感じたな、船木対ヒクソン戦については。やっぱり田村（潔司）とか近藤（有己）とか、その辺の選手は凄く頑張ったと思うし、試合も面白かったしね。KOKルールはあの中では損したっていう声もあるにせよ。

豪 周りの試合がもっと膠着とかしてれば、ルールの違いも届いたと思うんですけどね。

山口 でも格闘技的に見れば、マリオ・スペーヒーなんてバカ強い選手には、金原（弘光）じゃなきゃ秒殺されてるよ、完全に。

豪 スペーヒーの強さは異常ですよね（笑）。

山口 ウマイよねぇ。ある選手が言ってたよ。「ヒクソンより強いんじゃない？」って聞いたら、「当たり前じゃないですか！ でも、このドームにいる人、何人がそれを気付いてるんですか！」って言ってたね。

チョロ でも、田村は「一番強いのは緑健児さんって思った人が多いんじゃない？」って言ってましたけどね。氷柱割りはわかりやすいですから（笑）。

豪 もしかしたら高田より強いかもしれないって（笑）。

山口 ダーーーーッ！（意味不明の叫び）。でも結局、ヒクソンっていうのはホントに一流の〝プロレスラー〟だって、その思いを再認識したな、俺は。ちゃんと結果出したうえで、次の物語のスタートを生んでるもんな。次の日かなんかに、小川の名前出してるしさ。

豪 「小川はサムライだ」って。小川のどこがサムライなんだって、ぜひともボクらにも教えて頂きたいくらいですよね（笑）。

山口 オーちゃんは自分で「俺はサムライじゃない、詐欺師だ！」って言ってたけどね（笑）。

豪 もしかしたら悪い意味で言ってるのかもしれないですけどね。「俺と一緒で相手を選ぶアイツはまさにサムライだ。橋本みたいに勝てる奴としかやらないし」って（笑）。

ノブ 通じるところがあるでごわすな（笑）。

豪 とはいえ、「サクとはやりたくない」ってコメントしてますよね。同じゼニだったら、『コロシアム』で危なげない相手とやった方がいいって思うような気もするけど。

山口 でもねぇ、オーちゃんとヒクソンは体格差もあるし、オーちゃんの方が組みしやすいからオーちゃん

〝いわゆる本音〟には限界がある。本音を突き破ったところにファンタジーがあるんだから。（山口）

前号のサクラバママスク・プレゼントは過去最高の応募数となった。また、『PRIDE・9』の会場や高田道場でも完売！まさにプレミアマスクである。はたして『PRIDE・10』ではどんな入場シーンをみせてくれるか。

森下社長から〝『PRIDE』プロデューサー〟就任を正式要請されたアントン。しかし、猪木さんのことだから、いつ『PRIDE』を破壊しにくるかもわからない。

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

入場ゲートでの炎の演出装置誤作動によって、火傷を負い出場中止になった不幸な男オリベイラ。それでも「火傷を治して『PRIDE』に帰ってきたい」というガッツは買える。

の名前を出したと短絡的に考えるのも、どうもいまいちピンとこないんだよね。まあ、オーちゃんはバーリ・トゥードの経験が少ないのは確かだけどね。

豪　だから隙があるように見えるんですかね。ブラジル勢と何回も闘ってるサクよりはイケるだろうっていう。

山口　かもね。でも逆に言えば桜庭の方がデータがあるわけでしょ、ヒクソン側にとってみれば。オーちゃんは（ゲーリー・）グッドリッジ戦だけじゃない。あと、1・4の破壊王戦、それと柔道時代。そう考えると、ヒクソンもやっぱり格闘技的な好奇心も持ってるのかなって気もするよね。カネの亡者のように一部では言われてるけど、「小川と闘ってみたい」っていうのは純粋な部分であるかもしれないね。

豪『コロシアム』で組める最高のカードってことなのかもしれないですけどね。

山口　だけどさ、ヒクソンは超一流のプロレスラーとして立ち昇ってるにも関わらず、何で日本のプロレスラーたちが、どんどんチンケな「プロレスラー観」になっていくのかが問題だよね。

豪　ヒクソンとやる時に必ず自分のプロレス性を消そうとしちゃうわけでしょ。だから、ヒクソンの方が株が上っちゃうっていう。

山口　何で桜庭がちゃんと「プロレスラー」に見えるかって言ったら、自分のスタンスをきちんと見せてるからでしょ。みんな誰かの真似なんだもん、最近の選手は。桜庭がニコニコ笑ってりゃ、みんなニコニコ笑い出したり（笑）。グレイシーが神秘性を見せれば、みんな神秘的に見せようとするし。なんかもっと、自分のスタンスはないのかよってところあるじゃん。

豪　今回の船木も高田と桜庭のやり方を学んだだけで、船木ならではの何かが全然なかったでしょ。

山口　そうだよ。（ガンツを見て）今日はダンマリだな、お前。

ガンツ　……ちょっ、ちょっと手洗ってきていいですか？

山口　何だよ、それ！「手洗ってきていいですか」って。新しいな、それ（笑）。「顔洗って」じゃなくて、「手洗って」。この手淫野郎っ！（笑）。

いまや『PRIDE』の2大エースとなったサクと藤田。『PRIDE・9』では試合をしなかったものの、会場の人気はこのふたりに集中。復帰の舞台となる『PRIDE・10』では、それぞれがシャムロック兄弟と対戦するプランが浮上している。特にサクは実現すればフランクとの「ミドル級世界最強決定戦」となる。見たい！

豪　やっぱりヒクソンとの試合を一番見たいのはサクっていうのが本音なんですけど、オーちゃんでもいいし、前田もやってもいいって言ってるし（笑）。

山口　でもヒクソンだったら誰と闘っても見たいなぁ、マジで。でも当然、ウエイト的にもホイスに勝った桜庭がヒクソンに向かっていくっていうのが自然だよね。

豪　まあベストでしょうね。でも、サクの拒絶の仕方とか契約的なことを考えても、ないだろうなって気がしますけどね。となるとオーちゃんかなって。

山口　でも、桜庭対ヒクソンでも、小川対ヒクソンでも、今度はゴールデンタイムで十分イケるよね。

豪　オーちゃんだったら、たっぷり煽りもやってくれるだろうし。

山口　盛り上がるよ！　だって、「柔術対柔道」でしょ。まあ「柔術対プロレス」なんだけどね。オーちゃんは「柔道世界一」っていう肩書きもあるわけだし。

豪　これで完全に木村政彦対エリオからの流れが出来るわけですよね。

山口　柔術は柔道に対してコンプレックスがあるだろうしね。そういう部分でヒクソンがオーちゃんを名指ししたならヒクソンは、ホント超一流のプロだよ。猪木さんがアリに挑んだっていうような部分も持ってるってことじゃない？　オーちゃんも右肩が治り次第、徹底的に練習して、1％でも可能性がある限り自分を追い込むって言ってるから。「2年前、3年前から、俺はずっとやるって言ってるんだよ！」って言ってた（笑）。

豪　あっちがやらないだけだろって（笑）。

山口　図らずも、大仁田対長州戦が決定したことで、長州対小川戦もふっ飛んだわけだし、もう新日本に固執する必要もないわけじゃない。だから、オーちゃんはこれから面白いと思うんだよな。でも、サク対ヒクソンも見たい！　2試合やってくんねえかなぁ（笑）。

豪　でもサク対ヘンゾって流れになるんでしょうかね。

山口　いまヘンゾの名前が出たから、カシン対ヘンゾの話もしたいんだけど。

ガンツ　ヘンゾは実はもうモノ凄い研究済みらしいですよ。

豪　カシンのことを「よく知らない」とか答えてるけど、どうも何者かが藤原組での試合とかもビデオ見せてるみたいで（笑）。

山口　藤原組長に関係のある人物か？　しかも、いまヘンゾと関係のある人物？（笑）。

『PRIDE.9』で一番の衝撃といえば、ケンドー・カシンこと石沢常光の突然の来場だろう。そのカシンと、リング上で挨拶を行ったヘンゾ・グレイシーがガッチリ握手。対戦はあるのか？

『PRIDE.9』では佐野、松井の相次ぐ敗戦、さらに豊永のドクターストップと、高田の表情も曇りがちであったが、高田自身の復活の舞台はいつ、どこで、誰との闘いになるのか？ 注目だ！

豪 もしかして前田日明が「殺す！」って言ってる、あの人？（笑）。

山口 その名はミスター……（笑）。

豪 ところでカシンが『PRIDE』の会場でマスク被ってなかったのは、契約の問題なんですか？

山口 でしょう。新日本の内部でも知らなかった人たくさんいるだろうし。

豪 辰っつあんも初めて聞いたらしいし（笑）。「絶対にやらせない！」って激怒してましたけど、ネットでも指摘されてたのは、辰っつあんが何かを言うと、必ず世の中の流れは逆になるって（笑）。「そんなこと認めない」って言うと、必ず認められちゃうから切ないんですよ。

山口 でも実際に契約上の問題から考えれば西武ドームは無理かもね。まあでも神風が吹くかもしれないし、全ては6月26日に帰国する猪木さんの発言にかかってるよね。なんか、それまでに猪木さんのコメントを聞くにはパラオまで行かなきゃならないらしいけど（笑）。

チョロ カシンが現れた6月4日の『PRIDE9』は、どうだったんですか？

山口 サクも藤田もアレクも出てないし、言ってみれば地方興行だから、いかんせん温度が低かったかな。都心との温度差がある。

豪 予備知識を持ってない人ばっかり来てるのに、そこにマニア向けのカードばかり並べてもね（笑）。

山口 『PRIDE9』でわかったのは、みんな桜庭を見に来てるんだよ。桜庭の試合を見にきてるというよりも、桜庭自身、それから桜庭周辺の話題という位置付けで『PRIDE9』を見に来てる。徹夜で並んでサクラバマスクを買いに来たり、桜庭が挨拶したら一番の歓声が上がったり。だから、桜庭のほうが『PRIDE』そのものよりも上位概念になってるね。あとは松井（大二郎）とやったボブチャンチン！ あのパンチの驚異は確実に届いてたね。それも桜庭戦があったからだろうし。だから、裏を返せば、それだけ〝グレイシー〟が世間に届いてたってことだよね。「グレイシーに勝った桜庭」っていうことで桜庭が認知された部分はあるから。その〝グレイシー〟は、「プロレス」に勝ったということで上がったんだけどね。グレイシーの届かせ方っていうのは、世間に届く届かせ方で正当的な届かせ方だったんだよ。

「純プロレス」じゃダメ、「純バーリ・トゥード」だけでもダメ。じゃあ何を作るかが課題。（山口）

TK対グレイシーというのも、いまいちピンとこないが、TKにはマット界の中心舞台にドンドン絡んでいってもらいたい。ネット上で成瀬との新団体説も流れたTKだが、TKはこれを完全否定。

豪 でも『PRIDE9』は『PRIDE』史上最悪のコケ方だったって、もっぱらの評判ですよね。

山口 あれはやっぱり、前回のサク対ホイスとか、藤田対ケアー戦の熱気に比べれば、メインが（ギルバート・）アイブル対ビクトー（・ベウフォート）だし。他も格闘技マニア向けのカードを羅列してるっていう部分でどうしても熱は低くなっちゃうよね。でも、その中で石沢が今度ヘンゾと絡むかもしれないって次のスタートを興行の中で生んでるから、興行的な努力はしてると思う。こんだけ怪我人が続出してる中で。

チョロ 怪我人といえば、会場の熱も温度も低かったけど、1試合目から高熱で怪我人も出てしまいましたけど。

山口 お前もヒドイな！（笑）。でも総合の見方っていう点では、地方興行にしては、ある程度沸いてる部分もあったし、見方もだいぶ浸透してるなって感じはするんだけど、いかんせん出てる選手に知名度がないじゃん。その中であれだけ客を入れたっていうのは凄いんけどね。

ノブ どすこ～い。確かにそうでごわすな。

山口 うるさいよ、お前。で、『PRIDE9』では、「純バーリトゥード（以下VT）」の興行でしょ、言ってみれば。プロレスラーの影はあるにせよ、プロレスラーが引っ張ってる興行じゃないから。その「純VT」だけでは業界を引っ張りきれないっていうのがわかったよね。で、新日も5・5福岡、6・2武道館は客入りも悪かったし、全日の分裂問題もあるし、「純プロレス」だけじゃ、やっぱり業界を支えきれないっていうのも、時代の波の中ではっきりしてきてるわけでしょ。「純プロレス」だけでもダメ、「純VT」だけじゃダメ。じゃあ、何作るのって話じゃない？ それに向かって本気で取り組んでいかないと。

豪 やっぱりUFOですか？

山口 UFOなのかなぁ（笑）。ウチは、暫定的に「新プロレス」って言ってるんだけどね。そこに中心人物となるべき小川直也が入ってないっていうのが、どうも寂しい部分ではあるよね。だから流れとして、オーちゃんが元気を取り戻してくれると、これから面白くなると思うんだよ。

チョロ ボク的にはヒクソンは田村とやって欲しいんですけど。田村はヒクソンとやる気あるし、イマイチ報われてないところもあるんで。

山口 あ、そうか。田村って可能性もあるんだな。

豪 でもやっぱり田村は流れとして

『PRIDE.8』のヘンゾ戦では敗れはしたもののプロ魂をしっかり見せつけたアレク。再び打倒グレイシーのチャンスはあるのか？ マルコ戦の感動はもちろん、そろそろ結果も欲しいところだ。

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

一つ落ちるんだよなぁ。
チョロ　でもよく考えたら、ウチには珍しく、その三人とも取材出来るんですよ（笑）。
山口　三人も取材出来るのか！　凄いな、ウチ（笑）。あとは近藤か。近藤は出来ないな、取材。あともう一人、大穴で前田日明！
豪　衝撃の「やってもええで」発言によって急浮上（笑）。
山口　ギャラの希望額が一億まで下がったからね（笑）。しかも30分の間に。最初二億だったのに、一億も。
チョロ　ロレックスの金額は15分くらいの間で、20万くらい上がりましたけどね（笑）。
山口　そう（笑）。でもね、前田は偉いよ。プロデューサーというか、団体の長として、「いまはとにかくカネがなきゃダメだ」って言い切るもん。あれだけのイメージを背負ってた人が、「ゼニゼニ」って言ってたら、イメージダウンになるから普通言わないじゃん。やっぱり自分の役割をよくわかってると思うね。みんなを食わしていかなきゃいけないっていう迫力が、時と場合によってうざったく思われるんだろうけど（笑）。そういえば長州も「オレが出てってもいいよ。喉元まで出かかってる」とか言ってたよね。
豪　猪木―アリ状態で長州のストンピングが出たらそれだけでもう十分ですよね（笑）。
山口　いま、ヒクソンの対戦候補として、小川、桜庭、田村、近藤、前田、そして長州と候補が6人いるよね。
豪　多分、そうなったら藤波もやりたいって言いますよ（笑）。
山口　ガハハハ！　まあ願望はともかく。でも、近藤は正直言って興行的に1枚落ちると思うんだよね。
豪　強いとは思うんですけど、やっぱり無理してでもアピールしなきゃ流れは生まれないですからね。
山口　で、田村対ヒクソンも確かに見たいには見たいんだけど、そうなると桜庭の方が先に行くのが流れだろうし。そうすると、桜庭と小川のデットヒートになるんだよな。
豪　つまり、『ＰＲＩＤＥ』だったらサクで、『コロシアム２０００』だったらオーちゃんっていうような感じですよね。
山口　だね。ほんと、ファンの空気を読んでいくしかない。本当はこっちから突き付けなきゃいけないんだけど。話が決まってないから難しいよね。煽り方も。
豪　オーちゃんの場合は『ＰＲＩＤＥ』とかでの試合を見たいっていうニーズがあるじゃないですか。サクのそういう試合は今後ずっと見れるけど、オーちゃんは今後やるかどうかわからないんで、いまこそ煽んなきゃっていう思いがボクには強いですね。
山口　オーちゃんの場合、サクと違って、誰でもいいってわけにいかないじゃん。だからオーちゃんにマット界の中心に来てもらうためには、ここでヒクソンとやるっていうのは、マット界全体の流れを考えた場合にそれはアリだなという部分だよね。それしかないというか。
豪　じゃあ、ウチ的にはオーちゃんにしましょう（笑）。
山口　でもね、もっと大きなテーマがあるんだよ。いま思ったけど、オーちゃんは、いま32歳、サクは31歳かな？　みんな残り時間あるようでないじゃん（笑）。これからどうすんだよっていう話だよね。
豪　船木も引退しちゃいましたし。
山口　田村もその世代でしょ。24～25歳って近藤くらいしかいないんじゃない。あと、小路（晃）、ヤマケン、坂田（亘）、美濃輪（育久）？　その辺が、いまの30前後の世代を追い越す勢いを見せつけないと。
チョロ　外人勢とかは、22～23歳が主流になってきてますからね。まあそれを言ったらスモーノブも23歳なんですけど（笑）。
ノブ　どすこ～い！　ワイは23ですたい！
山口　こいつと一緒にしたら失礼だろ！　でも猪木さんが東京プロレスを最初に作ったのは24歳の時だからね。団体を作るとかそういうことじゃなくても、やっぱり行動を起こさないと下の世代が出て来れない。
豪　きっとその辺のことも考えて船木は引退したんですよ。さすが船木！
山口　立派だね。でも、30歳前後の上の世代もより高い壁になんなきゃダメですよ。
豪　他にもっと辞めなきゃいけない奴がいるだろうって！（笑）。
山口　どうだいガンツ、何かないか？　時間も経ったことだし（笑）。
ガンツ　……関係ないですけど、船木の力道山の墓参りは何なんですかね？
山口　全然関係ないよ、お前（笑）。Ｓｈｏｗの本を読むと『コロシアム２０００』にリングス勢が出陣を決めた時の記者会見で、前田が「俺が作った業界だから、俺が責任持ちますよ」って言ってたでしょ。で、「前田さんがそう言ってました」ってＳｈｏｗが質問をぶつけたら、船木が「それは違います。この業界を作ったのは力道山です」って言ってたんだよ。「異種格闘技の歴史は力道山対木村政彦から全ては始まってる」って。そういう解釈らしいんだよ。いわゆる総合格闘技の芽を撒いたのも力道山だという解釈なんじゃない。
豪　でも、昔、ボクがインタビューした時、船木は「力道山はロクな人間じゃないです」って言ってましたよ（笑）。
山口　ガハハハ！　ま、人間の考えることはコロコロ変わるから。人間なんて矛盾してナンボですよ。矛盾を抱えながら成長していくもんです。一貫性やら整合性をつけることだけにこだわってるように見えるん

『ＰＲＩＤＥ.9』ではボブチャンチンのパンチで大流血、ドクターストップを喫した松井。サクに続け！　そして豊永の分も頑張れ！

『ＰＲＩＤＥ.9』ではＪ・レンケンから久しぶりの一本勝ちを収めた小路。ここからが新生・小路晃の第２章。ガンガン突き進めッ！

先のロシア大会でＶ・ハン相手に判定まで持ち込んだリングスの滑川康仁。今後のマット界でさらなる活躍が期待される１人である。

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

だよな、船木は。「勝っても負けても引退」って決めた、その「決めた」ことにこだわってるっていうか。それはわかるけど、やっぱそれは卑怯ですよ。矛盾をさらけ出しながら行かないと。アラーキーも言ってたじゃん、「男を張る、身体を張るの『張る』は、さらけ出すことだ」って。船木は失神KOされたとか負けたことをさらけ出すことだと思ってるかもしれないけど、そっからじゃん、ホントは。ヒクソンに負けて悔しくないのかって。勝つまでやりゃーええやんけ、勝つまで！

豪　会長（山口日昇のアダ名）は、本当に前田体質ですよね（笑）。

ガンツ　みんな、ホントは船木のことが好きなんですよ（笑）。

豪　でも前田は最近だいぶ認めるようになりましたよね。「あの頃は仕方なかった」とか。「ゴッチさんはずっとタックル重視で、キックなんかやっちゃダメだって言ってたじゃないですか」って言ったら「しゃーないやんけ。あの時はキックが格好いいと思ってたんだもん」って（笑）。

山口　素敵だよね（笑）。破壊王だってそうじゃん。「掻いて掻いて恥掻いて　裸になったら見えてきた本当の自分の姿！」っていうさ。「そういうのは、みっともないから嫌です」っていう美学はわかるんだけど、それを見せてナンボなんだよ、プロは。むしろ、そういう境遇になったときに、真の実力が見えるんですよ。

豪　本当に今回、船木に猪木さんのそういったセリフを全部あげたいと思いましたよね。恥も掻かず、歩みも止めてお前は何やってんだって（笑）。

チョロ　あれじゃ、プロレスを頼めないですよね（笑）。

豪　船木が負けて引退するって言った時に心から腹が立ったことで、ホントにボクらはどうこう言っても船木が好きだったんだなっていうか、凄い期待してたんだなって改めて思い知らされましたよ。ただ、船木がこういう結果出した以上、これまで高田の悪口言ってた関係者やファンは黙れってことですよ。

山口　いやホントだよ。高田の「もう一丁！」を見習えって！

豪　ついでにヤマヨシのヘタレ発言も禁止！

山口　ルールの違う中で1ヵ月近くの間に3試合もやってみろよ（笑）。まあ、船木がやってきたこととかさ、パンクラスをここまで作り上げたこととか、功績は確かに評価しなきゃいけないけどね。でも俺は「みなさん、みなさん、15年間ありがとうございました」っていうセリフ聞いた時に、怒りが沸点に達した！　それだけは言っておきたい。ダーーーーッ！

豪　同感です！　そもそも、ターザンの比喩でしかないドス発言にバスジャック犯まで持ち出して怒ったのに、自分が日本刀片手に入場したり、「ヒクソンを日本刀で斬ろうと思いました」って発言してたらおかしいですよ（笑）。挙げ句の果てには自分の思い通りにならないと「引退」って、むしろ船木の方が「病んだ10代」みたいに思えるんだけど、気のせい？

ノブ　……（無言で風で飛んだ書類を取りにベランダに行くスモー）

山口　あいつも「病んだ10代」だな。お前、そっから飛び降りろ！（笑）。

【00年6月8日、『ダブルクロス』にて収録／文中敬称略】

今回、船木には猪木さんのセリフを全部あげたい。恥も掻かず、歩みも止めて何やってんだ（笑）（豪）

サクの「手と手の皺を合わせて幸せチョップ」がヒクソンにブチ込まれる日は来るか？　それともオーちゃんのSTOが炸裂するか？　はたまた他の誰かか？ヒクソンの決断やいかに？

ありがとう。そして、お疲れ様
実録！“山ちゃん”一代記

紙のプロレス RADICAL

スーパースター列伝

驚愕！幻のヒクソンvs山崎戦発覚!! 山ちゃんがまた言っちゃった！

山崎一夫

おぇーす、山ちゃんだす（山ちゃん調）。“山ちゃん”と呼ばれ、みんなに親しまれたレスラー・山崎一夫が今年1月のドーム大会で引退してから約半年。引退直後に取材のお願いをしたところ「もうちょっと待って下さい」と小鉄さんばりにストップがかかっていたのだが、遂に解禁！　時は来た!!　満を持して山ちゃんの登場です。ちっちゃい頃の『紙プロ』には何度か出てもらっているが、『RADICAL』になってからは初登場！　現在は治療師として多忙な日々を送っている山ちゃんの話を聞きに『山崎バランス治療院』まで行ってきました。読んでちょ～（山ちゃん調）

聞き手／チョロ
interview by Choro

撮影／松本 崇
photographs by Takashi Matsumoto

山崎　（『紙プロ』最新号を手渡しそれを見ながら）あぁ〜、まだいるんでしょ？

――えっ、誰のことですか？

山崎　『紙のプロレス』ってアホターザンがいるんでしょ。もういないんですか？

――えっ、それは『SRS・DX』の間違いじゃないですか。ターザンは一回表紙になったことはありますけど、昔も今もウチの会社に山本さんはいません!!

山崎　ああいうのはあんまり使っちゃいけませんねぇ。「早くこの業界から手を引きなさい」って言っておいて下さい（苦笑）。

――ま、いまは山本さんは芸人なんで（笑）。そんなことはいいんですけど、山崎先生としての生活にはもう慣れましたか？

山崎　ええ、おかげさまで。ボチボチ復帰しようかと思ってるんですけど（微笑）。

――ボチボチ復帰宣言ですか！（笑）。まあ山崎さんのことだから復帰する気はサラサラないんでしょうけどね。

山崎　もう、どっぷりと浸かってますから（微笑）。「先生」って呼び方も最初は（喉元をさすって）この辺が痒くて気持ち悪かったんですけど、自分なりにアダ名みたいなものだろうと思って諦めましたねぇ。

――経営の方は順調なんですよね？

山崎　まぁ、ボチボチです。僕の人生はボチボチですから（苦笑）。

――ボチボチですか（笑）。最近は、他にも『SAMURAI!』のキャスターとか、あと、非常に評判がいいですけど新日本の解説もやってますよね。ウチの読者ハガキでもこういうハガキが来たんですよ（と言ってハガキを見せる）。山崎さんは、解説ではかなり熱くなってますよね（笑）。

山崎　一応、番組を盛り上げなきゃいけないから（苦笑）。僕はマサ（・サイトー）さんのように味のあることは言えないんで、普通の見たままトークですよ。マサさんにはどうやってもかなわないですからね。

Kazuo Yamazaki

――マサさんは解説者としては別格ですから（笑）。基本的に山崎さんは、小川対橋本戦であったり、UFO絡みの試合は新日寄りの解説をしてますけど、やっぱり自然とそうなっちゃうわけですか？

山崎　どうしてもそうなっちゃいますよね。元々、本隊にいたわけだから。

――やっぱりUFOにはあまりいい感情は持っていないということですか（笑）。

山崎　時々、感情が入って「コノヤロー！」ってなっちゃいますねぇ。まあ見てる人に臨場感が伝わるようにとか考えてるんですけど。でも難しいッスね、しゃべる仕事は。なるべく、マサさんよりはカツゼツ良くしゃべらなきゃとは思ってるんですけど。（マサ口調で）ありゃですれぇっていうんじゃなくてね（笑）。

――ヒャハハハ。マサさんはあれで味になってますからね（笑）。

山崎　そうそうそう（笑）。僕は（カツゼツ良く）きちんとしゃべることだけを気を付けてますね。まあ僕にとってはここが真剣勝負の場所ですからね。

――毎日が真剣勝負なんですね（笑）。

山崎　大変ですよねぇ（苦笑）。まあ他は息抜きです。気分転換というか。どうでもいいことしゃべってギャラも頂けますから、一番ありがたいですねぇ。

――しゃべりと言えば、山崎さんのギャグセンスはケロちゃん（田中リングアナ）に近いものがあるなって思ってたんですよ。

山崎　ケロちゃんは年は上ですけど、同世代ですから話は合いますよ。それにケロちゃんとは一番ボケツッコミができますからね。だからやりやすいですよ（笑）。

――「やりやすい」って漫才コンビじゃないんですから（笑）。

山崎　いやいや僕は普通のおっさんですよ。まあ『SAMURAI!』では好きなように工藤（めぐみ）さんをいじくって（笑）。とっちらかない程度にね。

――下ネタを連発しても誰も拾う人がいないんで大変だと思いますけど（笑）。

山崎　そうそう（笑）。ボクは「工藤さんのホッペを赤くする会」の会長ですから。

――そんな会があったんですか（笑）。でも『SAMURAI!』ではインディーの選手とか、山崎さんが知らないような選手と一緒になることが多いですよね。

山崎　ねえ？　知らないんですよ、ほんっとに（苦笑）。この前だって、（アレクサンダー）大塚選手しか分からなかったしね。

――その時はグレート・タケル選手とか、（仮面天使）ロゼッタの父親のファラオンとまで共演してましたからね（笑）。

前号の読者ページで掲載した青木雄大さんのハガキをを山崎先生に診断してもらった。結果は「（苦笑）」。さすがのG-EGGS中西学も山ちゃんには辻アナのようにアイアンクローはかけられまい。

僕もボチボチ復帰しようかと思ってるんですけど（微笑）

山崎　「マスク取らんかいな」って思ってたんですけど（笑）。

――ヒャハハハ。以前の山崎さんだと、インディーというか、例えば大仁田さんみたいなスタイルは同じプロレスラーとしては一線を引きたいという感じでしたけど、ここ最近、プロレスに対する考え方が変わってきたってところってありますか？

山崎　ていうか、自分のやってきたことには間違いはないと思ってるんですよね。その他にもプロレスラーを名乗る人がいて、まあ『SAMURAI!』に出ると、世間ではプロレスラーと呼ばれてる人達の試合も見るハメになりますけど（苦笑）。

――ハメになるわけですね（笑）。

山崎　まあ自分なりに言っていいことと、ここまでは言っちゃいけないなというのは区別はしてるつもりなんで。区別しないとボロクソに言っちゃいますから。

――ヒャハハハ。山崎さんなりに抑えるところは抑えてるわけですね。

山崎　プロレスっていうのは、一般の人が簡単に出来るものじゃないのに、自称プロレスラーが多かったりとかね。変なキャラクターを作ることで客寄せパンダになって、それが興行的に少しでも潤えばやっちゃったりとかって、プロレスラーってそういうものではないんですよね。まず自分の身を守るために練習しなきゃいけないし、それから今度は攻撃をどうしていくかとか、いろんなプロセスがあって出来ていくわけです。だからついつい「プロレスごっこはほどほどにしましょうね」って言っちゃうんですよ。リングに上がったことで人生が中途半端になることってありますし、そういうのを僕は見てきてますから。怖いことなんだよってことを分かって欲しいですね。

――実際にUWF時代もありましたし、先日は福田（雅一）選手が亡くなりましたよね。新日はマット界ではメディカル面でもしっかりした団体ですけど、そういうところでも事故は起きるわけですからね。

山崎　そうですね。新日本だって、たぶん全日本だってね、まず自分の身を守れるような体作りとか受け身とか一通りちゃんとやった上でプロデビューさせると思うんですよ。その辺の曖昧さが小さい団体になればなるほど怖いですよね。「誰が認めたの？」っていう。昔よりリングは良くなってるんでしょうけど、頭から平気で落としますしね。首なんかやったらすぐおかしくなっちゃいますから。プロモートする側はその危険性を分かってるのかなっていうのが、ちょっと怖いですよね。

――そういう意味では、今度西村（修）さんが復帰しますけど、ガンと闘いながらリングに上がる西村さんをどう思いますか？

山崎　これは福田の時に思ったんですけど、本人が退く勇気と周りが止める勇気っていうのをキチンと考えないと取り返しがつかないんで。西村の場合も本人と本人の身体の中の闘いでもありますけど、周りで見るべき人、藤波（辰爾）さんでも長州（力）さんでもいいんですけど、ピシッと止める時は止めて欲しいですね。まあ難しいとこではありますけどね。

――西村さんと言えば、前回の復帰の時に山崎さんとタッグを組んだんですけど、その試合後に、西村さんが独自のプロレス観を語りだしたら、山崎さんが「プロレス記者はそんな話は聞きたくないよ」って、引き上げていったのが印象的だったんですけど。覚えてます？

山崎　ありましたねぇ。も～う、ひっぱたこうかなと思ったんだけど（苦笑）、自分で自分の右手を押さえてたんですよね。

――いまは、西村さんのようなプロレス観を持つレスラーが少なくなってるんで、西村さんに期待する人も多いんですけどね。

山崎　西村の考えも分からないこともないんだけど、試合後のインタビューっていうのは試合の話をするでしょ。そこで「いまの子供がどう」とか訳の分からないことを言うから、「バ～カ！　そうじゃねえだろ」って。それは彼の個性ではあるんですけど、ちょっとポイントがずれてたりするんだよなぁ。まあどっちにしても自分の世界を持ってる奴っていうのは個性があるってことですから光りますよね。西村にはもっと自分を高めていくことへ執着していく方向で進んで欲しいですね。世間一般の批判をするんじゃなくて（苦笑）。

――西村さんも「最近のプロレスラーは安易に大技を使いすぎる」ということをよく言ってますけど、確かに最近はどんどん技がエスカレートしていってますよね。

山崎　いろいろ技が増えてきてるけど、基本はそんなに変わらないんですよ。関節技もそうだし、投げもちょっと形が違うだけで。基本がちゃんと出来てるかということが重要ですよ。ホントに見よう見まねでやっちゃう技っていうのは怖いんですから。僕から言わせると、そういう大きな技を使わないでも試合ができるのが一流ですよ。派手なことをやらないと試合が成り立たないのはまだまだですね。キック一発、チョップ一発でもいいんですよ。天龍（源一郎）さんのチョップとか、橋本のキックっていうのは、それだけで客が納得しますよね。それが本当のメインイベンターですよ。

――山崎さんは佐山さんの付き人をされてましたけど、タイガーマスクとして、最初はサマーソルトキックとかで沸いてたのが、さらにその上を行く動きをしないと納得しなくなってきましたよね。

山崎　まあ佐山さんはそれが出来ちゃう人ですから。だから特別なんですけどね。エ

スカレートしていく技っていうのは、僕は横で見てただけど非常に感じましたね。それは見てる側との追っかけっこだったりすることってあるじゃないですか？　大仁田の有刺鉄線だとかっていうのもそうだし。もう一段階上を見る方は望みますから。いまの格闘技ブームみたいなのも、バーリ・トゥードとか柔術、K－1とかも、手前味噌ですけど、いい意味でも悪い意味でもUWFっていうのが、その橋渡しをしたような部分がありますよね。

――手前味噌じゃなくて、それはそうだと思いますよ。前田さんもよく言ってますけど、UWFをやっていた頃に、いきなりバーリ・トゥードみたいなものをポンッと出されても誰も分からないと。

山崎　誰もわかんないでしょうね。

――やっぱり段階を経て、いまのスタイルがあるわけですよね。

山崎　そうそう。だから、もっと凄い試合が見たい、もっとシンプルな試合が見たいということと、それに対応する選手がいて、例えばグレイシーとかも日本人は知らなかったけども、ポンッと日本の経済事情が良くて連れて来ちゃったんですよ。

――グレイシーにとってはナイスタイミングだったわけですね（笑）。いまは『PRIDE』とか総合格闘技と呼ばれるものにプロレスが押されているっていう現状なんですけど、山崎さんは今後のマット界はどうなっていくと思いますか？

山崎　僕がいま思ってることは、この先また考え方が変わってくるかもしれないですけど、いまのままだと限りなくアマチュアに近づくと思うんですよ、自分さえよければいいと。見る側のことを考えない格闘技なりスポーツで、本人がその相手に勝てばいいっていうのは僕の頭の中ではアマチュアなんですよ。それで、お客さんがお金を払って見に来るのがプロの試合であると。アマチュアがやってるようなことは出来て当たり前っていうのがプロだしね。例えれば草野球とプロ野球の違いですよ。草野球っていうのは自分達が勝てばいいっていう自己満足の世界でしょ。

――まあ草野球を見に行って金を払おうとは思わないですからね。

山崎　そうでしょ。そういう意味でいうとアマチュアプロレスなのか、その正反対にある派手なプロレス、どこまでも自分を突き詰めていくプロレスとか格闘技、その狭間にあるプロレスっていうのは、お客さんがお金を払って見に来るという意味では、なくなることはないだろうし、大きな柱であることは変わらないと思いますよ。

長州さんから「ヒクソンとやらないか？」って言われたことがあったんですよ

Kazuo Yamazaki

――桜庭さんとかは、観客を意識した試合をしますけど、一方で藤田さんのように「いい試合をしたいっていうより、俺は勝利に向かって突き進みたい。その結果、お客さんが沸いてくれればいい」って言うような選手もいますよね。結果的にお客さんを満足させる試合をすれば、それはそれでプロフェッショナルではありますよね。

山崎　プロレスをやってるとそういうものが身についちゃいますしね。桜庭なんかは無意識に出来ちゃう奴だから、そういう面白おかしく、人が考えつかないことをしますけど、それは技術があっての上で出来ることですから。素人がパンツ脱がすのとは訳が違うんでね。そういう桜庭の自然に出

❶88年1月に行われた『トップ・オブ・ザ・スーパージュニア』に出場した山ちゃん。馳浩、山田恵一（現・獣神サンダーライガー）、船木優治（現・誠勝）、オーエン・ハート（故人）、高田延彦など、今では考えられないメンバーが一同に集結した。
❷88年3月19日後楽園ホール。この日、高田と組んで小林邦昭＆保永昇男と対戦した山崎は小林とケンカマッチを展開、両軍入り乱れ険悪なムードが漂った。この試合を最後に山崎は新日マットを離脱、翌4月8日新生Uの旗揚げ会見が行われた。
❸88年9月24日博多スターレーン。試合前、挨拶に立った山崎はメインで前田と対戦。新生Uでは、この日より「5ノックダウン制」「ロープ・エスケープ3回でダウン1回」という新ルールを採用。山崎は5ノックダウンでTKO負けを喫した。
❹89年11月29日東京ドーム大会『U-COSMOS』でクリス・ドールマンと対戦した山崎。この試合は、ドールマンサイドの強行なルール変更要望を山崎がのみジャケット着用ルールが採用された。山崎はキックや相手の御株を奪う送り襟絞めなどを繰り出し抵抗するが、道衣を着慣れたサンボ王ドールマンの強引な逆十字でタップ。

来るプロ意識と、藤田はいまは結果を出していくことの方が優先されてますから、そこまでの余裕はないでしょうね。やっぱりプロレスっていうのはお客さんが見て本当に感動したり、試合を見て選手のファンになろうと思った試合があったりとか、そういうものだと思うんです。娯楽っていえば娯楽なのかも知れないですけど、例えば一曲の歌とか映画で勇気付けられたりするじゃないですか。それと同じでね。

――映画と言えば、引退を表明した船木さんが映画に出るみたいですけど、船木対ヒクソン戦は御覧になりましたか？

山崎　ええ、テレビで見ました。あの～、船木（誠勝）も勝機はありました。2～3度チャンスはあったんだけど、それを活かし切れませんでしたね。船木にしても他の選手にしても、これまでヒクソンと闘ってきた選手っていうのは自分の勝ちパターンに持っていくことが出来なかったということですよ。ヒクソンが強いって言うのは、自分の有利なパターンに持っていくのがうまいってことだし。その辺のキャリアというか、そういうものを感じましたね。

――試合後、船木さんの引退発言があったんですけど、山崎さんはどう思いました？

山崎　う～ん、まあ引退云々っていうのは本人が決めることだし、自然に自分の口から出て来ちゃったんじゃないでしょうかね。まあ自分を甘やかす試合の仕方でプロレスラー船木誠勝っていうのはまだやっていけると思うんですけど、ここから先は船木はプロレスラーっていうことを名乗りたくないってことでしょう。

――試合後は「命懸けの試合は一回でいい」「格闘技をスポーツにしたい」と船木さんは言ってたんですけど、それについてはどう思いますか？

山崎　う～ん、その線引きがよくわからないんですけどね。見る人によって違いますから。その狭間にいるのがプロレスラーだったりするじゃないですか。そういうところがプロレスの面白さなのかもしれないし。

ありがとう。そして、お疲れ様
実録！"山ちゃん"一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

――ヒクソンは日本人の手で倒して欲しいという思いがあるんですけど、山崎さんはヒクソンと誰の試合が見たいですか？

山崎　自分も日本人として、早くヒクソンが日本人に負けるところを見たいですから、闘い方に関しても桜庭なんかは慣れてきてるし、確実に勝てる選手が出ていけばいいですよね。それとまた並行して、一ファンの立場から見るとね、桜庭対田村とか、藤田対田村とか、なかなか難しいんでしょうけど、日本人同士の力の競い合いも見てみたい気もしますけどね。別に高いギャラを外人にやることはないんだから。そういう技術を持ってる日本人同士が闘って、いっぱい稼いでくれた方が、元々やっていた人間としてはいいんじゃないかと思うんですよ。

――確かにそれは思うでしょうね。

山崎　でも実は、僕が新日本にいた時、長州さんが冗談で「山崎君、ヒクソンとやってみるか？」って言ったことがあったんですよ。「やっていいんですか？」って（笑）。

――それは衝撃の事実ですね（笑）。

山崎　こっちはやる気でいたんだけどね。

――やっぱりレスラーとしてヒクソンと肌を合わせてみたかったっていうのは当然あったでしょうからね。

山崎　だって宝くじみたいなもんじゃないですか。まずやれるという確率が少なくて、万が一ですよ、万が一勝った日にゃ、そりゃ日本の英雄じゃないですか（笑）。

――そりゃそうですよね（笑）。

山崎　ダメで元々だから、そりゃおいしいと思いますよ。まあ「俺は、こうこうでこうやって勝つ」って口で言うのは簡単ですけど、でも実際に試合するのは、そんなに簡単なことじゃないですからね。

――やっぱり、ヒクソンと闘いたいって人はたくさんいますからね。あと『PRIDE』での藤田さんの活躍は、山崎さんから見て想像通りって感じなんですか？

山崎　まあここだけの話（笑）、長州さんに言う前に、「実はこうしたいんですけど」

❺92年5月8日横浜アリーナ。山崎はこの日、Uインター初参戦となる北尾光司と対戦。ローキックで何度も吹っ飛ばされた山崎はKO負けを喫してしまう。
❻95年4月20日名古屋レインボーホール。山崎は現ノーフィアーの高山善廣と組み、桜庭和志＆田村潔司組とダブルバウトで激突。試合は田村が高山から逆十字でタップを奪い田村組の勝利。今となっては実現不可能の夢のカードである。
❼95年12月30日大阪城ホールでの『猪木フェスティバル』で山崎は藤原嘉明と組みアントニオ猪木、高田延彦組と3本勝負で対戦。1本目、猪木のスリーパーで落とされフォールを奪われた山崎だったが、2本目に猪木の顔面に強烈なハイキックを叩き込みカウント3。この試合で山崎は猪木から初フォールを奪った。
❽97年7月6日真駒内アイスアリーナ。小川直也のプロ3戦目の相手となった山崎。「小川にプロレスを教える」と宣言した山崎は道衣の袖を掴んで蹴りの連発から顔面へハイキック、立ち上がる小川をジャーマンで投げ捨てた。最後は初公開の三所絞めで敗れはしたが、小川にプロレスの怖さを十分に見せつけた。

っていう話を、藤田からドームの廊下で聞いたんですよ。「年齢的なこともあるし、近道して、どれだけ力を出せるかっていうのを試したい」って。「お前なら行けるんじゃないか」って言いましたけどね。

――藤田さんから「俺はプロレスに向いてないと思うんですよ」っていう相談もされたことがあったみたいですね。

山崎　ありましたねぇ。「お前はプロレスラーでしか生きていけないじゃねえか！」って。「そんな顔してネクタイ締めてる奴がどこにいるんだ！」って言ってやりましたけどね（笑）。

――ヒャハハハ。その通りです（笑）。

山崎　動物園の飼育係りをやったらどっちが動物か分からないですからね（笑）。

――ヒャハハハ。でも、ここ最近イキイキしている藤田さんとは対照的に、元気のないのが橋本さんなんですけど、いまの橋本さんについてはどう思ってますか？

山崎　まあちょっとね、マスコミがねぇ、自分が言い出したことなのかもしれないけど、「引退引退」って煽り過ぎちゃって、それで橋本が引っ込みつかなくなった部分があるじゃないですか。そういう意味でそれはどうかなっていうね。「ホントに橋本それでいいのか」っていう感じがしますね。

――やっぱり元気がないと破壊王じゃないですからね。「引退引退」言ってないで早く表舞台に戻ってきて欲しいですよ。

山崎　まあでも小川自身が一番ね、橋本の力が上がってきてるのを実感してるはずなんですよ。そういうものが顔に出てましたから。橋本が引退表明したって聞いて、小川がホッとしてるのか何も考えてないのか分かりませんけど、僕が見てる分には、ワンパンチ、一発キックが入ったらコロッと展開が変わってくる試合だっていう風に見えましたから。あれで終わりじゃないんじゃないかという気がしますね。

――小川さんのデビュー戦と2戦目の相手は橋本さんでしたけど、次に小川さんと対戦したのは山崎さんでしたよね。

山崎　そうでしたね。

――その時はまだ柔道が抜けきってなかったと思うんですけど、現在の小川さんは、どのように評価してるんですか？

山崎　まあ誰が糸を引いて、ああなってんだか知らねえけど、非常にゲリラ的な売り出し方というかね、ギャーギャー騒いで、それが記事になって、読む方は面白いんでしょうけど、もうちょっと違うやり方もあるんじゃないかなと思いますけどね。元々、柔道っていうバックボーンがあるんだしね。橋本との決着がこの間の試合でホントにみんなが納得してるのかなっていうところもあるし、小川はヘタ間違えると、相手によってはコロッと負けたりするんじゃないかなってところもありますよ。

――小川さんの師匠でもある猪木さんに対してはどう思われてるんですか？　新日本だけでなく『PRIDE』のリングとかにも顔を出してますけど。

山崎　ノーコメント。でも猪木事務所から届いた木が枯れなくて困ってて（苦笑）。水をやるなって言ってるんですけど、なかなか枯れませんねぇ。また新しい芽が出てきてるんですよ。しぶとさがなんか象徴されてるような気がしますねぇ。

――そうですかぁ。それで、時間が経ったいまだから聞きたいんですけど、昨年暮れに前田さんが安生（洋二）さんに殴られるっていう事件が起こったじゃないですか。あの事件はどう思いました？

山崎　あれもね、マスコミの方には失礼ですけど煽りすぎです。そこで大騒ぎして裁判だなんだってなっても誰もいい目は見ないし、誰も喜ぶわけじゃないしね。プロレス界も傷にはなっても良くはならないわけだし。あのすぐ後に聞かれたりしたんですけど、「あれはただの兄弟喧嘩だ」と（苦笑）。「バカな長男とバカな弟が一発殴って殴られたって、それでいいじゃないですか」と。問題を大きくすること自体が良くないと思いましたね。あの問題自体は別にどうってことないですよ。

――もし現場に山崎さんがいたら、どうしてました？

山崎　どうしてたって、そりゃ救急車呼んでましたよ（苦笑）。

――冷静に（笑）。そういえば、選手は行くって口では言ってても、実際治療に来た人はいないということでしたけど、いまだに誰も来てないんですか？

山崎　来てませんねぇ。この前、一回飯塚（高史）から「行ってもいいですか」って電話が来て「どこにいるんだ？」って聞いたら「平塚のボクシングジムに行ったんですけど、会長の用事で練習できないんで行っていいですか？」って言ってたんで「ついでだろ？」って断りました（笑）。

――ヒャハハハハ。

山崎　いきなり電話してきて「これから行ってもいいですか？」って「こっちは予約が入ってるんだからダメだよ」って言ったら「わかりました。また電話します」って。可愛いッスよね（微笑）。

――飯塚さんはボクシング特訓までしてるんですか？

山崎　アイツもクソが付いてる真面目ですから、ボクシングも一からやってますよ。後輩の中西とかに一からタックルとか教わってるしね。そういう地道な努力をやっていって、いずれチャンスが回ってくる時までにいかに自分の力を蓄えておくかなんですよね。橋本対小川戦の流れで飯塚にス

Kazuo Yamazaki

山崎一夫【やまざき・かずお】1962年8月15日、東京都港区出身。B型。ニックネーム＝山ちゃん。1981年3月に新日本プロレスに入門。翌1982年5月6日、福岡スポーツセンターでのブラック・キャット戦でデビュー。その後、タイガージム～旧UWF～新日本～新生UWF～UWFインターナショナル～フリー～新日本と、新日そしてUWFと名の付く全ての団体を渡り歩いた山ちゃん。そのテーマ曲とともに、ファンから「山崎、お前がUなんだよ！」と言われるほど、“U”を象徴するレスラーであった。2000年1月4日、東京ドームでの永田裕志戦を最後に現役引退。1月10日、神奈川県海老名市に鍼灸整体の治療院「山崎バランス治療院」を開業し、治療師として第二の人生を歩み出した。

中西も早くカミングアウトして欲しいよ。「俺はバカです」って（笑）

ポットライトがあたった時にそれまでの努力がパッと花開いたりするんでね。
――そういう意味では飯塚さんには期待してる部分は大きいわけですね。
山崎 僕は飯塚はどこに出しても恥ずかしくない選手だと思いますよ。あんまりニヤニヤしないようにするといいですけどね。でも凄くいい奴ですよ。レスラーとして凄い力を持ってる奴でも、人間的にどうなんだっていう奴もいますからね（苦笑）。おいおい、それで大丈夫なのかって。
――ファンからすると、リングを降りたレスラーの人間的な部分は見えないですけど、同業者としては人間的な部分が嫌でも見えちゃうワケですよね。
山崎 見たくないとこまで見えますねぇ。
――でも、ファイトスタイルにその人の性格が出ちゃうって言いますよね。
山崎 出ますねぇ。ホントに性格がそのまんま出ちゃいますね。でもね、レスラーっていうのはね、自分のことがどういう風に見られてるかっていうを一番わかってないのに一番わかった振りするんだよね。
――はぁ～、そういうものなんですか。
山崎 中西（学）なんかもねぇ、バカになりきれなくて中途半端なことやってたからね。最近はちょっと「俺はバカだ」って吹っ切れてきたけど（笑）。早くカミングアウトして欲しいですよ。
――「俺はバカです」と認めろと（笑）。
山崎 そうそう（笑）。この間、吉江（豊）が海外から帰ってきて試合したじゃないですか？ 控室で見てたんだけど、吉江が戻ってきてから言ってやったんですよ。「お前はまだ中途半端だから、開き直ってバカになりきれ！ こういう立派なバカになれ！」って、中西を指差して（笑）。
――ヒャハッハッ。中西さんはリングを降りてもプロレスラーって感じですよね。
山崎 でも本人は自分がわかってなかったんですよ、一切。普通だと思ってますからね。全然普通じゃないんですけど（笑）。まあホント個性が強いですからね、みんな。
――最後に、山崎さんの理想のプロレスラー像というと、もちろん師匠の（カール・）ゴッチさんは当然として、どんなレスラーになるわけですか？
山崎 理想っていうか、僕がなりたかったのは桜庭タイプですね。
――えっ、桜庭さんですか！ 後輩が理想のレスラー像になるわけですか（笑）。
山崎 普段はヘラヘラしてるあんちゃんですけど、試合になると……まだヘラヘラしてると（笑）。
――変わんないじゃないですか（笑）。
山崎 あっそっか（笑）。でもやっぱり、開襟シャツ着て、キンキラのネックレスジャラジャラ着けて、酒を豪快に飲んで、ステーキを何枚も食ってみたいな怪物的なイメージっていうレスラー像は、ボクは最初から非常に嫌だったんですよ。
――それは以前から言ってましたよね。

ありがとう。そして、お疲れ様
実録！"山ちゃん"一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

山崎 それで、理想だったのが柔道の山下（泰裕）さんとか斎藤（仁）さんみたいな人で、普段は礼儀正しくて普通の人よりも腰が低いぐらいの、人との接し方をする人、それで一度リングに上がるとスーパーマンのような選手が理想ですよね。普段はクラーク・ケントでいいんですよ。そういう意味では桜庭みたいな、普段は気の抜けたサイダーみたいなのがいいですねぇ（微笑）。
――気の抜けたサイダーですか（笑）。
山崎 そう（笑）。プハァ～っていう感じでいいんですよ。たぶん彼もそうだろうと思うんだけど、ボクなんかも集中するべき時、練習にしても試合にしても、その時に向かって集中できる集中力。やっぱり緊張と弛緩っていうね、リラックスしてることの方が自然なんじゃないかなと。どんな時でも肩に力入れてたら、肩に力入れるべき時に入らないじゃないかって僕はずっと思ってましたんで、桜庭の生き方は非常にいいですね。後輩ながらあっぱれ（笑）。実際に結果も出してるしね。
――でもプロレス界では、これまでは桜庭さんタイプっていうより、プロレスラープロレスラーした人が引っ張っていってた部分ってあったじゃないですか。力道山にしろ、猪木さんもそうでしたけど。やっぱり時代の流れということなんでしょうかね
山崎 たぶん時代なんでしょうね。昔のレスラーっていうのは、みんな近寄りがたいイメージを作っちゃうじゃないですか。芸能界もそう言えるかもしれないし。いまはその辺にいるようなお姉ちゃんたちがレコードデビューしたりとかね。宇多田ヒカルも見た目では分からないけど、実は歌がうまいし、実力もありますからね。桜庭なんかもその辺歩いてりゃ普通のあんちゃんですから。それでいいんですよ。そういう意味では桜庭なんかは時代にマッチしたメインイベンターって感じですよ。角度を変えて見ればスターですからね。
――逆にいまは開襟シャツにヘビ皮のブーツを履いてるレスラーは少なくなってきてるんで、逆にそういう選手を望んでしまうところがあるんですけどね。理想的なのは橋本さんですよ！
山崎 ハッハッハッハッ。橋本だけはそのままのスタイルで行って欲しいですね。

【00年5月30日、海老名「山崎バランス治療院」にて収録】

再編への序章か!?あるいは破滅への助走か!?

純 プロレス激震!!

全日本分裂!!三沢が新団体旗揚げ!! 川田、渕は残留へ!! 両団体がマット界に及ぼす影響とは!?

今年に入ってから、何度となく流れた全日本プロレス分裂の噂が、ついに現実となってしまった！ この動きに連動するように新日内部でも、様々な動きが出てきている模様。この動乱の世紀末戦国マット界の展望を大胆予想してみた（文・本誌特別取材班）。

全日分裂──何かが動き出しているのは間違いなかった。分裂の噂は何度となく飛び交った。それが公になったのは6月13日付けの『東京スポーツ』の一面。派手に踊ったのは「三沢辞任」「全日分裂」ショッキングな文字。ついに山が動いた。

三沢社長と馬場元子オーナーの衝突は、いまに始まったことではない。恐怖の名著『ねえねえ、馬場さん』によって多くの関係者、プロレスファンが、おぼろげながら知るところとなった。そして図らずも、その衝突は元子オーナーが本誌を除くマスコミ各社に向けて、6月14日に送付したFAXで三沢社長と元子オーナーの対立は公のものとなった。「憤りの念を禁じ得ない」と「三沢社長とその同調者」（原文ママ）を激しく糾弾している。

6月13日の役員会では、全日残留を噂されている渕正信を除く11人が出席した。その席で、三沢が取締役辞任を表明すると、決議を待たずに退席したという。三沢の強い決意が感じられる行動だ。この日は、取締役の辞任にとどまり、退団届は15日付けで内容証明で送付したという。翌16日、遂に三沢が初の記者会見を開いた。その席には、渕正信と川田利明を除く、全日本の全選手とフリー参戦していた池田大輔、さらに練習生1名も自分たちの意志で集結して、その決意を表明した。全日本に残留すると思われていた百田や永源、田上らも参加した。結果的に残留したのは川田と渕だけ。そして、三沢の口から未来の展望が発表された。「約1年間、全日本プロレスの代表取締役として頑張って参りましたが、全日本プロレスの持つ伝統と、私がやろうとする理想のプロレスの間にギャップを感じ、このままでは私のプロレスを貫き通すと、馬場さんの作った全日本プロレスという『プロレスらしさ』を壊してしまうんじゃないかと思い、退団を決意しました。その後の行動につきましては、ここにいるメンバーと新しい団体を作り、やっていきたいと思っています」新団体の概要は、6月16日現在まだ明確にはなっていないが、今後のマット界の台風の目となるはず。

あくまで噂の段階だが川田が新日本と接触したという説もある。混乱に乗じて、敵を取り込むのは新日本プロレスのお家芸ともいえるのだが、その新日本プロレスも大揺れに揺れている。ケンドー・カシンの『PRIDE』参戦によって、会社が真っ二つに割れているという情報まで入ってきた。カシン参戦は、一方的に決定した長州vs大仁田に対してアントニオ猪木が報復措置として画策したと言われている。これを口火として、猪木派vs長州派が6月の株主総会で激突するのは必至と見られているが、果たしてどうなるか？

さらに新日本の蝶野ら三銃士は、三沢と親交があり、両者が話し合いを持ったあった可能性もある。特に蝶野と武藤は、昨年からメガネスーパー（田中八郎オーナー：息子はプロレスファン）をスポンサーに据えた新団体設立の噂もあり、新日＆全日が各派入り乱れて、混乱を極めている。小川の参戦により、加速度を増しながら〝プロ格〟路線を爆走する新日本から〝アメプロ〟志向のT2000が離脱して、三沢の新団体と合体するということも考えられる。三沢も、「全日本プロレスの演出、その他諸々を私は今風に、若者向けにしたかった」と語っており、新団体は演出面もかなり強化されるはず。「当面は、自分のところをしっかりしないと」と三沢は語るが、今回の新団体設立で、交流戦の可能性は飛躍的にアップした。三沢社長の目には、きっと格闘技、『PRIDE』まで視野に入っているに違いない。

約30年続いた2大メジャー団体の時代は終わりを告げた。いままでの時代はテレビの問題が大きなネックとなって、交渉もスムーズに進まなかったが、いまや衛星放送、PPVという新しいメディアがプロレスに及ぼす影響も非常に大きい。この激動の時代の中、月刊誌である本誌は、刻一刻と変化する情報を追うことは出来ない。本誌の読者には、是非毎日の『東スポ』とプロレス週刊誌に目を通して頂くことをオススメする。ただし、本誌は今後も月々の事件を追い続け深く分析して、純プロレスの持つ可能性をこれからも継続して考えていく次第である。

6月16日の記者会見の席上、参戦メンバーからは自然と明るい笑みがこぼれた。何かが吹っ切れたような、非常に前向きな笑顔だった。

『relax』（マガジンハウス）でおなじみの爆裂キャラ、満を持して紙プロ登場!!

Jリーガーにもプロ野球選手にもいない
凄みのある顔の持ち主
世界のTK（a、k、a、髙阪剛）を産んだ

“おかん”

超ロングインタビュー
Part.1

TKのおかん

髙阪フミさん

撮影／善本喜一郎

聞き手／原タコヤキ君
interview by Takoyakikun Hara

写真提供／おかん
photographs by Okan

世界を股に掛けて活躍する日本のプロ・アスリートのかげには、偉大なる親が必ずいる。プロ野球のイチロー（オリックス）にはチチロー。ジュビロ磐田のゴン中山のゴンチチ。この親にして、この子あり。偉大な選手は、偉大な親から生まれるのだ！　そして、プロレス界で初めて「親」の存在がクローズアップされたのが、世界を股に掛けて活躍する“TK”だった。大反響だった前号の予告編ピンナップで、今よりもフケ顔だったTKの横に座っていたのが、「おかん」こと高阪フミさんである。TKが出場している大会に行けば、ほとんど毎回聞くことが出来る「ツヨシィィィィ〜！」のかけ声でプロレスファンにも、すでにお馴染みだろう。なぜか、オシャレ雑誌『relax』（マガジンハウス刊）でも、爆発的におもしろい人生相談を連載中の多才なお方だ。本誌9号で表紙を飾った、Jリーガーにもプロ野球選手にもいない、「ドえらい顔」のTKを生み出した偉大なる「おかん」に、TKの生い立ちを洗いざらいうかがってきました！　さらに聞き手は、TKともメル友の原タコヤキ君。滋賀県にある高阪選手の実家近辺まで足を運んで、直撃インタビュー敢行だ！

特別付録
TKのツッコミ付

——初めまして、原と申します（と名刺を渡す）。
おかん　あら、んまあ、ウチの長男と同じ名前！（タコヤキ君の本名は一博）
——そうらしいですね。以前、髙阪さんにも言われました。
おかん　なんか意味あるんですか、この名前に？
——さあ、万博の年に生まれたからちゃいます？
おかん　これカズヒロって読まなかったらイッパクとも読めるんですよね。ウチの一博には「ひょっとしたらこの子、俳句とか書くような子になるかも」って付けたんですわ。
——じゃあお母さん、今回の僕のペンネームはイッパクにさせてもらいますわ（笑）。
おかん　ホホホホホ。
——一博さんは今、何されてはるんですか？
おかん　もう純粋なサラリーマン。まあそのお陰で次男も三男も好きなようにやれてねえ。
——髙阪さんって何人兄弟の何番目なんですか？
おかん　男ばっかりの三人兄弟。で、剛は末っ子なんですわ。
——なんか末っ子っぽくないですよね、髙阪さん。
おかん　いやいやいや、それでね、写真を探す時にね、つくづくあの子は三人目やと思いましたわ。写真の数がありませんわ。もう余裕のない状況で育ててるっちゅうね。アッハッハッハ！
——それにしても前号のピンナップで使った写真は最高でしたね！　髙阪選手は今より老けて見えましたよ（笑）。
おかん　あ、そうですかあ？（笑）。
——ボク、髙阪選手がデビューしたての頃から取材させてもらってるんですけど、同い年なんで一方的に親しみを感じてて。デビューの頃から「この選手は絶対強くなる」って思ってましたよ。
おかん　あれはねえ、やっぱり私の応援の力で強くなったんですよ。
——ワハハハハハ！
おかん　いやホンマに。それでデビュー戦も勝ったんですよ。まあ90%は私のお陰！　相手がね、「勝ったらヒドイ目に遭わされるに違いない」って思ったんですわ。アッハッハッハッハ！
——デビュー戦からリングス名物の「ツヨシーッ！」って声が響いてたんですね（笑）。

TK秘蔵写真館 その1
七五三のときに撮影。左が幼き日のTK少年。

おかん　あのデビュー戦は家族ぐるみで行きましたわ。なぜかというとね、中学、高校、大学含めて、あの子は今までね、試合があっても親を呼んだことないんですわ。ところがデビュー戦だけは、あの子が自分から電話してきたんです。それで私はね、初めて自分から観に来てくれって言うてきたからには、きっと見せたい姿があるんやなあと思って行ったんですよ。ところが行ったはええけど、ファンの人らがね、どれだけ剛のこと知ってんのやろかと心配になってきてね。そんなん知らないの当然なんですけどね。知ってほしいんですよ、私は（笑）。それで、並んでる人にパンフレット見せて「この髙阪って人は誰でしょうね？」って訊いて、「この人今日デビューするらしいですよ」って言われたから、「じつはウチの息子なんですよ」って（笑）。
——ワハハハハ！　何やってんですか！（笑）。それをいろんな人に訊き回ったわけですか？
おかん　そうそうそうそう（笑）。
——凄いなあ、お母さん（笑）。でもナンボなんでも「この選手は誰でしょう？」って、白々しいにもほどがありますね（笑）。
おかん　アッハッハッハッ！　それで、ウチの長男と剛がよう顔が似てるんですわ。お客さんも間違えて声かけてねえ。「いや、ボク、兄貴です」って（笑）。
——お兄さんも身体はゴツイんですか？
おかん　はい。次男だけちょっとね、スマートでオシャレっぽい顔してるんですけどね。剛と長男はゴツイ顔なんですわ。もう歩いてても顔だけが注目されるみたいな。だから彼女もできませんでしたよ。なっかなかほんっとに。
——奥手ですか、TKは（笑）。
おかん　ウチの息子はみんなそう。だって長男の嫁だって私が世話したんですよ！　そのお陰で今、私は苦労してるんやけどね（笑）。
——嫁姑問題もあるんですね（笑）。髙阪さんのお嫁さん問題はどうするんですか？（笑）。
おかん　お嫁さん……アメリカに行っちゃった時はねえ、「金髪の嫁をもらったらどうしよう」って心配で。それで私もね、一生懸命英語覚えたりしてね（笑）。
——気が早いですよ（笑）。
おかん　嫁に負けたくないなあ思てね。次男にも「英語覚えなアカンで！」って言われて。でも剛なんかは、やっぱり日本人がいいみたいですねえ。「お尻見ただけでもういいわ」って言うてましたよ（笑）。
——アメリカには彼女はいないんですかねえ？
おかん　多分いないん違いますかあ。詳しくはわかりませんけどねえ。
——それでまあ、今日はお母さんに髙阪選手のことを洗いざらい語っていただくんですが（笑）。まず生まれた頃のことからお聞きしたいんですけど。生まれた時は大きいお子さんやったんですか？
おかん　も～う、おっきいおっきい‼　そんなんもうアンタ、鉄人みたいな顔して出てきましたわ（笑）。そんで死ぬとこやったんですよ、あの子。
——なんでまた？
おかん　あのね、お腹の中でヘソの緒がグルグル巻きになってましてね、呼吸を少～ししかしてなかったんですよ。それでお医者さんがね、心音聞いたら静～かな呼吸の仕方やから、「この子は絶対女の子ですわ」って言うてね。その頃はエコーとかなんとかありませんやん。お腹の中にいる時はわからなかったんですよ、どっちか。ほんで、ほら上の二人が男やったでしょう。
——「やっと女の子や」と。お母さんとしては女の子が欲しかったんでしょうからねえ。
おかん　欲しい欲しい！　そんでもう喜んでねえ、産着も真っ赤なやつ作ってたんですよ。もう全部新しいの揃えなアカンなあって、そんな感

じゃったんですわ。

——女の子と思ってたのに、あのゴツイ顔が生まれてきたのか（笑）。驚くやろなあ。

おかん ほんでアンタ、生まれた時に4750（グラム）ですよ！ 凄いでしょ。

——うわっ、デカッ！

おかん でねえ、出てくる時もヘソの緒を首に巻いてたから、うっ血して顔が真っ黒でねえ。お医者さんも「もう鉄男いう名前にせえ」って言うてね（笑）。ほんで、剛が産まれた時はね、ちょうど家も良くない状態やったんですわ。お父さんは普通のサラリーマンやってたんですけど、辞めて商売始めたんです。でも、それがうまくいかなかった時期でねえ。

——商売って何をされてたんですか？

おかん 電気屋さんやってたんですわ。でも、モノ売っても集金に行かへんのですよ。潰れなしゃあないやん、そんなもん！

——ワハハハ！ 集金行かなくて成り立つわけないですよね！（笑）。

おかん ホンマですよ！ 「何を慈善事業してんの！」って言うてね。そんなお父さんの姿がね、ウチの三人の子育てに影響してるんですよ。がめつく稼ぐっていう気持ちがないの。それで、剛なんかも六つぐらいの時から自分自身の主張を全然しない子でしたわ。もう自分のこと話そうとすると泣き出してねえ。もう泣きながら六年生までいきましたわ。

——泣いてるうちに小学校卒業（笑）。そんな髙阪さん、想像できないですね。

あの子は私の応援の力で強くなったんです。90%は私のお陰！

おかん もう近所の人なんかはね、今の剛の姿を見て、「宇宙人と入れ代わったんちゃうか」ってビックリしてますわ。

——その泣き虫TKが変わったきっかけは何やったんですか？

おかん 柔道ですわ。ウチの長男が中学で柔道部だったんですけど、長男が抜ける頃にはもう部員が足りなくてね、団体戦ができない状態やったんですよ。それでね、新入生を入れる時に、部の人たちが「身体の大きなヤツ見たら髙阪の弟やと思え」って言ってたらしいですわ（笑）。それで、入学式が終わって私と剛が外に出たらすぐに「お前は柔道部や」って言うんですよ（笑）。

TK秘蔵写真館 その2

小学校の運動会でのTK少年。太すぎる足に目を奪われろ！

——目をつけられてたと。髙阪さんって小学校の時は何かスポーツやってたんですか？

おかん いやあ、もう全〜然！ ホントにグズでノロマでハキハキしないしねえ、ダメなヤツだったんですわ（笑）。ですからね、小学校の高学年ぐらいからずーっとイジメられっ子でしたわ。

——世界のTKがイジメられっ子！ でも、お母さん的にはどうやったんですか？ そうやってイジメられて帰ってくる髙阪さんを見て。

おかん どうもなにも、私、知らんかったんですから。イジメられてるなんて。いつもケロッとして帰ってくるから。それを知ったのは、あの子の作文を読んだからですよ。「自分はいつもイジメられてたけど、良いこともあった。松本くんが助けてくれた」って書いてあって（**※TKのツッコミその1**）。それでね、「ウチの子、イジメられてたんや」って。もう全然気がつかんかったですわ。どういうんかなあ、ネクラになってなかったからねえ。家に帰るとすぐに自転車で出ていく子やったからね。真冬でもランニングに半ズボンで（笑）。だから、そんな観察してる暇なかったですよ。

——そんなイジメられっ子が柔道で変わったんですね。

おかん 変わりましたねえ。このまま社会人になって私の元から離れていったらね、絶対人に騙される人間になるって思ってね。それでね、剛が「柔道を始める」って言った時も賛成しましたよ！ もう食費も大変ですけど、私がどんなことしてでも食べさそう思うてね。高校の時なんかねえアンタ、二段の弁当持っていってたんですよ。下にご飯が入って上がオカズなんですけど、ホントこのぐらいの大きさの。

——高さ15センチぐらいですか。

おかん 縦横は30センチぐらいかな？

——それは弁当箱じゃなくて座布団ですよ！（笑）。

おかん それの他におにぎりを3個持っていくんですよ。それでね、朝のうちにその弁当は食べてしまって、昼におにぎり食べるんですけど、オカズがないもんやから、食堂でおつゆだけもらって食べてたみたいですよ（笑）。当時、ウチは2升釜でご飯炊いてましたから。

——二升釜！ ホンマですか？

おかん もう13、14年前ですけど、その当時でね、ほんとにオーバーやなしに食費に10万円かかったの。

——10万円って！

おかん それも米除いてオカズだけですよ。もう10キロの米なんて3日しかもたなかった。

——食い過ぎやで、TK！（笑）。で、ちょっと話を戻します。中学から柔道を始めたわけなんですけど、練習はマジメやったんですか？

おかん も〜うマジメ!! 寒い寒い朝に警察の道場に寒稽古に行くんで

あの子が、東の大学行ったときは「都会で、滋賀県の田舎者っていうて、バカにされるに違いない」って心配で……。

すけど、親の手も借りないで自分で起きて自転車漕いで行ってましたよ。その道場で教えてくれてた人がね、剛がデビューした時にね、出身地が出てたのを見て、もしかしたらそうちゃうかな思って、家に電話してきましたわ。なんでその人は剛のことがそんなに印象に残ってたかいうと、その人は大会で賞状に名前を書く役やったんですよ。そうするといっつも髙阪剛の名前を間違えるんですよ。「阪」を「坂」って書いてねえ。

——ありがちですね。

おかん それで私ね、「この子が賞状もらうのにどれだけ練習したかわからないんやからね、字ぃだけは間違えてほしくない！」って思うて、書き直してもらいにその人の家に行ったんですわ（笑）。

——そっか、中学校の時は大会で入賞してたんですね。

おかん そうなんですわ。個人戦で優勝したりしてましたから。強かったですねえ。あの子、もの凄い身体が柔らかかったんですわ。もう小学校の頃からね、TKシザースね、あれやってましたよ。

——小学生の時にすでにTKシザースをやってましたか！（笑）。衝撃の事実が発覚ですよ、それは。で、中学校の時から才能を発揮して、その頃、髙阪さんには夢とかあったんですかね？

おかん 夢なんか何もなかったでしょ（キッパリ）。だから私はね、電気屋にさせたかったんですわ。

——電気屋って（笑）。

おかん お父さんが凄い電気の技術屋なんですわ。その技術っていうのはね、滋賀県でも随分買われててね、もうコンピューターの設計からするんですわ。

——凄い方ですねえ。それで集金さえできてれば（笑）。

おかん ホンマにそうっ！（悔しそうに）。集金ができてたら、もうお金持ちで、剛なんかもヤンキーやなんやに走ってたと思いますよ。

——なぜだ（笑）。もし、お父さんが集金できてたら、格闘技界にTKはいなかったんや（笑）。

おかん それでね、高校受験する時も、柔道の実績が認められて、誘いがきたんですよ。奈良の正強高校いうところですわ。他にも滋賀の比叡山高校とか、愛知県からも誘いがきてたんですよ。でも、その高校にした決め手は、そこの学校に電気科があったからなんですわ。でも電気科は柔道する人が入る科やないんですね。普通、柔道しに来る子は、あんまり勉強しなくても単位が取れる他の科にいくんですよ。

——たしか髙阪さんって特待生なんですよね。

おかん そうそう。それで、電気科やない科に入るとこだったんですわ。でも私はね、「ウチの剛が欲しいんやったら電気科にやらしてほしい。それやなかったらヨソの高校に行かす！」って言うてね。でもね、剛も正強高校なんて行く気もなかったんですわ。そっから私の洗脳が始まったんですよ。「アンタはあの学校に行くべきや。私がいちばん喜ぶのはそれや」って言い続けて（笑）。それで、結局は正強高校の電気科に入って……。

——あ、入ったんですか。お母さんの思いのままやな（笑）。髙阪さんって滋賀から奈良まで通いやったんですか？

おかん 通い通い。柔道の先生は自分の家に住ませて通わせるつもりやったんですけど、私がそれ反対したんですわ。

——なんでです？

おかん やっぱりねえ、小さい頃の姿が頭から離れなくてねえ、「ヨソの家やったら絶対この子泣くわ」って思うてねえ（笑）。

——ワハハハハ！ 高校生なのに？（笑）。

おかん そうそう（笑）。だから、朝一番の電車で行ってましたよ。1時間50分ぐらいかかるんですけど。一回も休まずに行ってましたよ。

——はぁ〜、マジメやなぁ。高校時代に、髙阪さんの恋愛話とかはないんですか？

おかん も〜う、私もそういう話したいんですよ！ でもあのゴツイ顔で、頭は小学校からずっと丸坊主ですしねえ。それで学生服着て電車の席に座ると、横にいる女の子はみんな席替わるらしいですよ（笑）。

——まあ、怖いわなあ（笑）。

おかん それをね、私に自慢そうに話すんですよ。私、「なに自慢してんねんそんなこと！」って言うてね。「そんな無理矢理にでも横に座らせ！」って（笑）。ホントにあれはなんなんでしょうねえ。

——でも今はけっこうオシャレな格好してはりますけどね。でも、ここまでお話聞いてると、お母さんはやっぱりいろんな場面で口出されるわけじゃないですか。

おかん も〜う出しましたね！

——でも、髙阪さんにも当然、反抗期があったと思うんですけど、どうでした？

おかん ありましたよ、一回だけ。その一回だけっていうケンカはね、ウチはね、なんだか知らないけど序列がありましてね、長男が白を黒って言うたら黒なんですわ。でも剛がその長男に歯向かっていったことがあるんですよ。

——なにが原因だったんですか？

おかん 中学の時にね、学生服のボタンを全部閉めるっていう規則があったんですけど、あの子は胸板が厚いからボタンが閉まらないんですよ。

——ゴツイですもんね。

おかん でも学生服って何万もする

TK秘蔵写真館 その3
前号のピンナップも大反響だった……
今よりもTKが老けてみえるのは気のせいじゃない

モンやから、そんな買い換えられないですわ。それで、何度も先生に怒られるんやけど、閉まらないんやから悪いことしてるっていう意識がないんですよ、本人に。それで私が長男に、「前に着てた学生服を剛にやってくれ」って言うたんですよ。そしたら長男は学生服の裏にね、なんか模様入れててねえ（笑）。

――刺繍ですね（笑）。

おかん　そういうことで「お前は着たらアカン！」って剛に渡さなかったんですわ。でも、剛は再三言われるのがうっとおしいって思って、勝手に着て学校に行ったんですよ。そうして、やっぱりその刺繍を見せたらまた先生に怒られてねえ。でもまあ、それで私は長男が剛にちゃんと貸してくれたんやなって思ったら、それ、長男は知らなかったんですよ。それで口ゲンカですわ。それでその時はもう剛の方が身体が大きくなってるから、兄貴がちょっと引いたんですよね。それを、それまでのいきさつを知らんお父さんが見て「お前、なに兄貴に手ぇ出しとんねん！」言うて怒らはったんですよ。それはそこで終わったんですけど、その後に剛が便所に行って30分以上出てこおへんのですよ。それで私ね、「あいつなにを長いこと便所入ってんねん」思うて見に行ったら、便所の壁にズッボーンて穴空けててねえ！

――悔しくて壁殴ったんや（笑）。

おかん　そう！　出るに出られなくなってたんですよ。それで私が「またお金かかるやないの！　そんなとこ叩くんやったら外に出て石でも叩いとけ！」って言うてね（笑）。その一回だけでしたわ。

――反抗というよりは、ほのぼの話ですね（笑）。

おかん　ほんで、あの子が東京の大学に行く時は「またあの子が都会に行ったら、滋賀県の田舎者っていうて、バカにされて泣くに違いない。でも誰も助ける人が側におらへんのにどうするんのやろ」って考えたら心配で。やっぱり私、直接下見に行きましたわ。

――もうお母さん、北野さきさんばりに"子ども命"の人ですね（笑）。髙阪さんって専修大学やったんですよね。東京に行かすのは、お母さんはイヤやったんですか？

おかん　イヤでしたよぉ。私学やからお金もかかるし。それに近くの近畿大学にだって行けたんだから。でも本人が「ちょっとでも柔道のレベルの高い所に行きたい」って言うてね。ほんで専修大学を選んだんですよ。まあでもその後は、卒業して東レに就職も決まって、私からしたら万々歳やったんですけどねえ。（**※TKのツッコミその2**）がっちり側に置いて、お嫁さんもできるだけ遅くもらわせて、こっちに給料全部来るようにしようと思うてたんですよ（笑）。

――お母さんは集金できる人なんですねえ（笑）。

おかん　そう！（笑）。ところがね、そういう私の気持ちをあの子も読んでたのか、大学卒業したらまとまったお金を私に返したんですよ。

――どうやって？

おかん　もちろん「このお金どうしたの？」って思ったんですよ。実際ね、3年までは練習練習でバイトなんかする暇なかったんですよ。でもね、3年の夏からね、先輩がいいアルバイト紹介してくれたんですよ。夜間金庫の集金係。

――思いっきり向いてそうやなあ（笑）。でもなぜかお父さん以外はみんな集金したがりますね（笑）。

おかん　それがね、東京なんかの夜間金庫はけっこう地下にあるみたいで、階段の上り下りが、歳いった人には務まらんのですよ（笑）。もの凄く重かったらしいですよ。あとはね、皇居の護衛。（**※TKのツッコミその3**）

――へえ。そんなことしてたんですか。でもアルバイトは1年ぐらいしかやってないんですよね。よくそれで返済できましたよね。

おかん　それがね、もの凄く払いのいいバイトだったらしいんすよ。

――集金の袋、1個持って帰ったんとちゃいます？（笑）。

おかん　私もね、じつはそう思いましたけどね（笑）。かなりまとまったお金を持ってきましたよ。確か200万ぐらい。バイト代ほとんど残したのとちゃいます？（**※TKのツッコミその4**）。

――立派な男やなあ。卒業して入った東レでは、どこに配属やったんですか？

おかん　（滋賀県の）瀬田ですわ。だから一回実家に帰ってきて私の側に一年間おったんですよ。

――もうお母さんとしたら……。

おかん　万々歳ですわ！（笑）。その時ね、なぜ帰ってきたかというと、長男は京都の会社にいたんですけど、もし結婚しても、京都の社宅に入って暮らすんやろうなって、家族はみんな思ってたんですわ。それで次男はね、その時すでにミュージシャンしてたんですよ。ドラムやってて。今でもそれでご飯食べてますけどね。

――へえ。髙阪さんのお兄さん、ミュージシャンなんや。

おかん　そうなんですよ。ジャズバンドですわ。韓国では随分売れてますわ。ですからねえ、剛にしたら自分が親の面倒見なアカンて思って帰ってきたんですよ（**※TKのツッコミその5**）。

――それって髙阪さんらしい気がしますね。子どもの時からの「自分が我慢すればいいんや」って考えなんでしょうね。ホンマは卒業したらすぐに前田道場に入りたかったんですよねえ（**※TKのツッコミその6**）。

おかん　そうなんですよ。だから、迷いがあったんちゃいますか？　それで帰ってきて就職して一週間目ぐらいの時ね、黙って家からいなくなったんですよ。一晩帰ってこなかったんです。「まあ友達のとこでも行ったんちゃうかな」って思ってたんですけど、どんな時でも電話の一本でも入れるのに、全然ないんですよ。それで、どうしたんかなあ思ってたら三日後に賞状持って帰ってきて、「おかん、これどっかに飾っといたらいいわ」って言うんですよ。だから、「アンタどこ行ってたの」って訊いたら「名古屋に行ってた」って言うんですよ。なんかね、社会人柔道大会が名古屋であって優勝してきたんですわ。だから、勝ったもんやから1

TK秘蔵写真館 その4

ゴツく元気になったTK青年。おかんのグラサンもカッコいい!!

日で帰ってこれなくなったんですわ（**※TKのツッコミその7**）。

——やっぱり柔道が忘れられなかったんでしょうね。

おかん それで、その一年間の途中で長男の結婚話が決まったんですわ。そしたら長男は、お嫁さんもらったら「俺は親と同居する」って言うてね。

——そしたら髙阪さん、肩の荷が下りたんじゃないですか？

おかん そ、下りたの！　それからね、兄弟三人の作戦がはじまったんですよぉ。

——ワハハハ。高阪さんが会社辞めるための作戦ですね（笑）。

おかん そう。剛は9月に前田さんのとこに行ったんですけど、私は8月に、秋田の実家にお父さんと一緒に行ったんですよ。そしたらその間に前田道場に試験受けに行ってたんですよ、あの子！

——お母さんのいぬ間に（笑）。

おかん それでね、三人がガッチリ手ぇ組んで、おかんが何言うても相手にするなって（**※TKのツッコミその8**）。それで私が帰ってきてね、剛は9月1日に行くつもりやったんやけど、8月の25日ぐらいにね、「おかん、俺、また東京行くからな」って言うてきたんですよ。だから私は「東京行くて、アンタ休み取ったの？」って訊いたんですよ。そしたら「いや、辞めてきた」って言ったんですよ。

——お母さん、驚いたでしょう？

おかん そらもう、ビックリしましたがな！　ほんで、最初は格闘技やるって言わなかったんですよ。柔道のプロになるって言うんですよ。

——ワハハハハ、プロ柔道！（笑）。

おかん 「だけど、柔道のプロっていうのはないから、前田さんっていう人がおって、その人は柔道のプロのような人や」って言うんですよ（**※TKのツッコミその9**）。

おかん それで「前田さんていうのはどういう仕事をしてる人や？」って聞いたんですよ。その時に総合格闘技って言ったから、「総合格闘技いうたら相撲もあるんか？」って聞いたんですよ。

——ワハハハハ、いちいち最高ですね（笑）。

おかん そしたらね、「相撲はないんや」って言うんですよ。それでもうあの子も話すのがメンドくさくなってきたんでしょうなあ。私は、もうトイレ行くにも何にも後ろ付いていったもんやからね（笑）。だからあの子、「とにかくオカンな、俺は兄貴がちゃんと家を守ってくれるから、その分俺は思い通りのことをやらせてほしい。このまんま東レに行ってたら、自分は生きてるのに死んだ人間と一緒や」って言うんですよ。

——お母さん、それは高阪さんが子どもの時から考えても、初めての自己主張じゃないですか？

おかん そうそう、そうなんですわ！　でも、そっからがまた大変やったんですわ！（以下、衝撃の展開で次号へ続く）

「総合格闘技をやるって言ったから「相撲もあるんか？」って聞いたんですよ

ＴＫおかんプロフィール■ご存じＴＫ高阪剛選手の試合では、会場で「ツヨシィィィ！」と一人で100人分の応援をしてしまうスーパーおかん。何でも、地元・滋賀県では「高阪？　ああ、フミさん？」というぐらいの有名人らしい……ってホント？　雑誌『relax』（マガジンハウス）では、「困ったときはオカンに訊け！」という人生相談の連載中（これは面白いので必読！　というか、この雑誌自体、専門誌ではやらないようなプロレス＆格闘技情報も満載で、たまに本誌・スーパーバイザーの吉田豪も原稿を書いてます）。毎回、赤裸々な高阪家の実態を交えながらズバズバと答えているので、意外なＴＫ秘話が読めます。さらに、オカンは最近、フィットネス・ジムに通い始めたらしい。まだまだ元気なおかんである。　撮影/善本喜一郎

■この原稿を読んだＴＫが、なんとわざわざ、海の向こうからメールでツッコミを入れてきてくれた！というわけで、暴走するおかんの発言に本人が注釈を付けてくれたので、早速紹介しよう。

●初めに一言言うとかなあかんことがあって、ウチのおかんってかなりの天然なんやけど、それだけやなくてイメージで勝手に自分の記憶を書き換える人なんやわ。そやから、事実とかなり違ってるところがかなりある。

でも、それもおかんの持ち味やから、注釈って感じで受け取って下さい。

※TKのツッコミその1 そんな覚えはないし、松本くんに助けられたなんて作文に書いた覚えもない。大体松本くんて誰やねん。

※TKのツッコミその2 柔道のレベルが高いからではなく、学校間の付き合いなどによる複雑な理由で近大には行くことができなかったのである。「ちょっとでも柔道のレベルの高い所に行きたい」なんてことは言ってない。それと、卒業してからではなく、その後しばらくたってから東レ柔道部からの推薦で東レに入れてもらったのだ。

※TKのツッコミその3 夜間金庫の集金係なんかやっていない。これは現金輸送の間違い。皇居の護衛なんかできるか!?　一般人が。これもおかんの幻想。

※TKのツッコミその4 この金は、話すと長くなるのだが、要は学費を返しただけである。3年の夏頃になって大学でかかったお金はほぼ全額自分自身で返さなければいけないと言うことをおかんから聞かされたので、その時から必死で働いて返し出したのだ。ちなみにもちろんこれだけでは足りなかったのでその後、東レ時代に稼いだ給料及びボーナスを殆ど全額つぎこんでリングスの入門テストを受けるまでには耳をそろえて返済したのである。

※TKのツッコミその5 これも幻想。東レの柔道部が滋賀県にあって、そこにいる知り合いが自分を東レに紹介してくれたから自分は滋賀勤務になったのである。ま－、なんと言うか、幸せな人。

※TKのツッコミその6 こらこら、タコまでオカンのペースにはまるな。オレは柔道でトップを目指したかったんや。

※TKのツッコミその7 ここで合うてるのは名古屋ってとこだけ。「試合に行ってくる」とも言うたし、それが「東レの社内柔道大会や」とも言うたし、試合が終わったその日に帰って来たし。

※TKのツッコミその8 まあ、もうわかってもらえるとは思うが、そんなことはしていない。これはおかんの被害妄想。

※TKのツッコミその9 わけわからん。こんなことオレが言うたって思われたらもう恐いわ。そんなん言うてない。プロの格闘家になるってちゃんと説明した。

取材協力／マガジンハウス『relax』編集部

Millennium Combine III

8月23日(水) OPEN 17:00 START 18:00

大阪府立体育会館

入場料金

ロイヤルリングサイド ¥20,000／アリーナリングサイド ¥15,000
リングサイド ¥10,000／アリーナSS ¥6,000
スタンドS ¥7,000／スタンドA ¥5,000／スタンドB ¥3,000
学生特別優待席A ¥2,000／学生特別優待席B ¥1,000
※学生特別優待席はチケットぴあのみでの販売となります。
なお、高校生以下に限らせていただき、ご購入の際、学生証の提示が必要となります。

発売場所

チケットぴあ	☎06-6363-9999	ビデオショップチャンピオン	☎06-6645-5186
	(Pコード 594-030)	プロレスショップ・バディスラム	☎06-6645-1378
ローソンチケット	☎06-6387-1900	リング・ソウル	☎078-351-1550
	(Lコード 53082)	リングス大阪インフォメーション	☎06-6364-9115

●お問い合わせ●

リングス大阪インフォメーション06-6364-9115
WOWOW情報ダイヤル(24hテープ)045-683-8009
WOWOW先行予約　6月24日(土)午前9時～午後8時まで
TEL:045-683-8031
6月25日(日)午前10時より一般発売開始

KIYOSHI TAMURA

7月のUSA大会開催決定を記念して

ホノルル大会観戦ツアー開催

お問い合わせ:JTB海外旅行虎ノ門支店　tel:03-3504-3016
特典には前田日明や大会参加選手とのランチパーティーがあります。

「世界制覇」

FIGHTING NETWORK RINGS

主催
BS-5ch WOWOW
FIGHTING NETWORK RINGS

リニューアルして新発進!!

BEST OF THE スピーカム

JUNE.2000

みんなを楽しませるために、手を変え品を変えて観客を魅了し続けるサクに続けとばかりに『PRIDE』軍団がみんなでコスプレを始めたら……。みんなが控室で昼寝やファミコンを始めたら……。そんな緊張感のない『PRIDE』も見てみたいですな。そんな感じでこのコラムページも肩の力を抜いて、リラックスして新発進です!

★今号のラインナップ★

●花くまゆうさく
『リングの汁RADICAL』

●掟ポルシェ(ロマンポルシェ)
『業☆勝ちます』

●偏差値KGB・堀越日出夫
『凄　頭』

●井上義啓インタビュー連載
『井上用語の基礎知識』

●イナズマ★K
『実録　最狂プロレスファン列伝　村上 陸さん』

Title&Illustration/Jerry Ukai
(Antnio Desighn Service)

その名も

本誌『紙のプロレスRADICAL』がデジタル界に殴り込み!

BEST OF THE スパコラム

船木の出る映画は石井聰亙監督の新作だから当然、大注目です。

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL

『プライド』や『コロシアム2000』を見ると、小川が橋本と勝った負けただけやってるのは、実にもったいないなと思ってしまう。だが長州のことを「動きはカブトムシのメスに酷似」など、とてつもなく面白いセリフ（それでいて実に正確）が出てくるので、押し切られてしまう。実際に新日はUFO絡むと面白いしね。でも、こないだのゴールデンでの小川vs橋本戦と、プライドでの小川vsグッドリッジ戦、どっちがコーフンして、いかに面白かったかは明らかだ。ヒクソンみたく40過ぎたらもう遅い！　やれるうちにやってほしいのだが……。

『コロシアム2000』の数日前から僕が通ってる道場に、マリオ・スペーヒー、ムリーロ・ブスタマンチ、アンドレ・ペデネイラス、ジョン・ホーキ、サウロ・ヒベイロ、そしていかりや（長介）グレイシーことヘウソン・グレイシーといった一般人にとっては、単なるブラジル観光客の団体（でもなぜか首が太い）にしか見えないかもしれないが、マニアにとっては豪華なメンツがやって来て練習をしていた。

現役バリバリのトップ柔術家サウロ・ヒベイロの寝技をウットリして見ていたが、近藤戦を想定したスタンドの練習になったとたん不安になってきた。パートナーの打撃がとにかくしょぼい。そのしょぼい打撃を相手に組みつく練習をするヒベイロ。「近藤は国奥やフランクを打撃でやっつけてんですよ。それでいいんスか？」と忠告したくなったが、ペーペーの僕らが練習後のヒベイロに言えたのは「一緒に写真いいですか？」であった……。

ここ数年バーリ・トゥード（以下、VT）で柔術家が負け込んでいても、ブラジル人の頭の中は常に「寝技になれば大丈夫」とお気楽ムードが漂っているんだなと痛感しました。ヒクソンもきっとそうなんだろうと、ますます不安になってきた。

そしてコロシアム当日、私はヒクソンが負けるのを半分覚悟して会場へ向かった。別に相手が船木だからという訳でなく、今のヒクソンなら誰がやっても勝てる可能性は十分あると思ってるからだ。それほどもう今のヒクソンは年齢による体力の衰えがヤバくなっていると思う。いくら強くたってこればかりはどうしようもない、現にヒョードロフはVTで負けている。ヒョードロフはメチャメチャ強いと私は信じている。いや絶対強い！　エロ本の『スーパー写真塾』に「格闘タモリのイチバン強くていいとも！」という面白いコーナーがあるが、あそこのいいとも最強ランキングにもし私も投書するとしたら、高阪・桜庭・植松（体重の事は考えないとして）らと共にヒョードロフも入れるであろう。

そんなヒョードロフでも年齢には勝てなかった。対する船木は用意周到で、ヒクソン戦へ向け5年間も準備してるし、試合前の各媒体では高橋軍曹と共に自信マンマンの強気コメント連発である。5年前なら楽勝だぜと余裕で見に行けたかもしれないが、今回ばかりは船木が勝ってドームの天井が破裂するのを覚悟してビクついていた。

そんで試合はあのような結果だった。自分よりだいぶ若くて、この試合に5年も準備してきた船木を相手に、40過ぎのヒクソンはよく勝ったと思う。見事であり、カッコよかった。感動しました。

桜庭よりは下だが日本のトップグループの中にはいると思われていた船木を、あのようにキッチリ倒したのだから、もう引退してもいいのではないか。このままじゃいくら勝ってもキリがないぞ。10回勝っても11回目に負けたらすべてチャラにされ、ボロクソに言われんのは、どうも腑に落ちない。バリジャパで2連覇、安生、高田に2回、そんで今回の船木に勝利と、40過ぎの男にはもう十分ではないのか。このまま引退して「ブラジルに寝技が異常に強いおやじがいた」という伝説でいいじゃないかと思う。

「いまごろ闘えと言っていても、もう俺は歳なの！　そんなにやりたいんなら、なんでバリジャパに出なかった？　あれはオープンだし金もかからんし、ヒクソンとやりたきゃ1回戦で当てまーすって佐山も言ってたんだろ」って言えば話をかわせるし、実際あの時バリジャパなら金かけないで簡単にヒクソンとやれるチャンスだったはず。あの頃、様子うかがってた方が悪い。

個人的には、同じ体重の桜庭戦が見たいし、「桜庭とやる」と立ち上がるヒクソンが見たい。勝っても負けてもそれで引退となりゃ一番いいと思う。でも桜庭に負けて、いままでの勝ちをすべて消され「バケの皮がはがれた」とかボロクソに言われんのが、なんかイヤだ。だから、引退してほしいのと桜庭とやってほしいのが入り交じって複雑な乙女心なの、私は。まあともかく今回は、ヒクソンよくやった！　たいしたもんだ！　でシメたいと思う。

話は少しズレるが、「UWFがあったからこそVTが受け入れられたんじゃ」という意見がよくあるが、逆から考えるとどうでしょう。もし、グレイシーがVTと共に世界に出現してなかったら、日本はまだまだ高田最強帝国で桜庭はいまだに中堅レスラーで、その一部しか魅力が出せてなかったかもしれない。新日でも藤田は前座で小島のラリアットで負ける日々かもしれんし、リングスはエスケープいっぱい、高阪はTKと呼ばれてなくゴリラと呼ばれ、山本や成瀬の下の前座なのかもしれない。修斗も旧修斗ルール（今のKOKにそっくり）で細々と地味にやってるのかも。だからどっちがどうとかではなく、どっちも必要だったんじゃなかろうか。

はなくま・ゆうさく■グランド顔面パンチありのコンプリートファイティングに出場。一回戦は21秒で秒殺一本勝ち（自己新タイム）するも、二回戦でスタミナ切れズルズルと延長判定負けというコピィロフロードを歩む。

ながら別な次元での成功を見たわけである。いわば

おきて・ぼるしぇ■「めちゃイケ」での堀越

BEST OF THE スダコラム

掟ポルシェ（ロマンポルシェ）の 常☆勝ち申す

モー娘。昭和新日説の巻

シュートスレスレの緊張感をエンターテイメントとして見せつける——昭和新日＝モー娘。の影にドン荒川がいる!?

ケーキ作りの極意、日曜大工、2級ボイラー技士試験……日常生活の些末事の総てをプロレスになぞらえて考え始めたらそれは危険信号！　ウソつきは泥棒の始まり！　モチつきは新年の始まり！　プロレスキツネつきはプレッシャーの始まり!!　座敷犬の交尾すらグラップリングに見え出してくる……そんな経験、貴殿にはないだろうか？　俺はある！　もちろん!!

そんな投稿稲川会ことオトコラムプレッシャーズの人並ハズレて皺の少ない脳みその中は今、モーニング娘。のことでイッパイ!!　何故なら昭和新日の魂を最も継承しているプロレス団体はUFOでも、『PRIDE』でもなく、モー娘だからなんですよ～～!!（三十過ぎの大人が湿ったオムツ姿で号泣）。

ナニが言いたいのか全然わからないだろうと思うので、ここで幼稚園児でさえウォウ×4くちづさむまでにモー娘。が世間に届いたのは何故か？　その図式を説明してみよう。

まず「方法論としてのモー娘。はおニャン子クラブを雛形にしている」という前提を理解していただきたい。大人数でのユニゾン唱法は言うに及ばず、中澤がムリヤリ演歌を歌わされたりするのは城ノ内早苗のラインを踏襲させたものであるし、福田、石黒、市井の脱退は中島美春や河合その子の卒業を思わせる売りの手法だった。だが、過去にも乙女塾に始まり、SKIやらうらりんギャル（アレクと池田の金曜日！）など、終わらない夏休みの熱に浮かされた者達の亡霊が幾多のおニャン子フォロワーを生み出したが、全然世間に届かずボヤのまま鎮火したのは周知の通り。単なる焼き直しの域を出るものではなかったし、それは女の子のグレードを上げればなんとかなるものでもなかった。おニャン子をもう一度世間に必要とさせるにはどうすればいいのか？　下手すりゃAV嬢の方が全然かわいい今時分、アイドルという幻想商売を成立させるためには新たなリアリティを何らかの形で付加する必要があったのだ。

モー娘。がおニャン子と違っていた一番の大きな点は、メンバー間の和気あいあい感が表面上さえないところ。しかし、それはつんくにより意図的に導入された戦略的な不和によるものだ。「競い合わせればいいモノが出来る」という大義名分の許、メンバー各人への理不尽な注文を繰り返して、必要以上にライバル心をアオり、人間関係の軋轢にスリ減っていく様をそのまま『ASAYAN』の中でテレビ中継して見せる新種のドキュメンタリーが誕生した結果、モー娘。はおニャン子をフォーマットにしながら別な次元での成功を見たわけである。いわばアイドル歌謡曲という光輝く虚構に陰影をつけて、人間味を持たせたことがリアリズム重視の時代に呼応したということだろう。

敢えて団体の内部をギクシャクさせるようなデタラメな指令を面白半分で送り、いつ何時顔面襲撃事件が起きてもおかしくないシュートスレスレの緊張感をエンターテイメントとして見せつける商売——つまり昭和新日に抜群のリアリティを与えていたお家芸「焚きつけ」をおニャン子ブードゥーの儀式に取り入れたユニット、それがモーニング娘。の正体なのだ。……ということは、つんくは猪木であると同時にドン荒川であるのであって、その意味では荒川プロデュースでもモー娘。は十分ブレイク可能!!　と見るべきである。

最近、つんくがあまりにも多忙なため、モー娘。の楽曲は7HOUSEのメンツがゴーストで書いているといわれるが、音楽以外のプロデュース面についてはメガネスーパー・ワールド・スポーツ（＝SWS）が担当していると見るのが識者達の一致した見解となっている。『ピンチランナー』などというやたら全編走ってばかりのシンドイ映画にムリヤリ出演させられてしまうのも、TBSのバレーボール中継のイメージキャラクターに起用され、「眠りたい！」と呪文のように口々に連呼しながら、意味なくバレー特訓させられて無駄にスリ減らされていくのも、全部荒川の面白半分趣味半分のプロデュースのたまものなのである、多分。

昨年「メガネスーパーが、またプロレス団体を手掛ける」というまことしやかな噂があったが、それはガセネタでもJPWAのことでもなく、「ドン荒川がモーニング娘。を手掛ける」の誤報であったことが理解して頂けたかと思う。市井の脱退にしろ、「中澤みたいななんちゃってレディースは目ぇつぶって30秒!!　って市井が言ってたよ～」と荒川が焚きつけた結果の女子便所での鉄拳制裁が原因に違いないんである。

サマーナイトタウン　モーニング娘。

ハッピーサマーウェディング　モーニング娘。

デビュー以来、多くの試練とメンバーチェンジを経てモー娘。は鍛えられていった。

おきて・ぼるしぇ■『めちゃイケ』での堀越のりのジャックナイフ固めをビデオテープがスリ切れる程見続ける毎日。ホントに素人なのか？　ホリプロじゃなくて全女入ってくれ。頼む。

掟ポルシェがヴォーカルと説教を担当する"ロマンポルシェ"のCD『暴力大将』（¥1600・税抜／ch-68）は絶賛発売中!　メシがまんしても買え!!

今月の オトコラム プレッシャーズ

祝・藤波引退カウントダウン一時棚上げ！

5月5日福岡ドーム、客寄せのネタがあまりにもなさ過ぎるためにムリヤリスタートさせられたドラゴンの引退メモリアルロードが突如、というかやっぱり頓挫。「カウントダウンは100試合、いやそれ以上になる可能性もある」だの発言し続けて、往生際の悪さで逆・船木を体現し、周囲の思惑をまったく無視したうやむやな生涯現役宣言をしでかしてくれたドラゴン。

どう考えても、本人ヤメる気ゼロなのに、イヤイヤカウントダウンさせられてんだろ感がアリアリで面白すぎ!!　「橋本が復帰するまで引退ロードは白紙に戻します」と既に退社届すら出した橋本をダシにして一方的に自分の引退をチャラにするクレバーな一面を珍しく見せたのだった。これって多分、「橋本が新日に復帰することはない」と逆説的に言ってるようなもんじゃないのか？　もしK―1や『PRIDE』に橋本が参戦しても、藤波はカウントダウンを無視し続けるんだろうか……辰っつあん、もう気持ちはわかったよ。好きなだけ現役でいてくれ！　辰っつあんに引退の二文字は似合わないよ！　いつまでも、あの産気づいたような独特の呼吸音を聞かせ続けてくれ!!（但し、無我で）。

その名も

本誌『紙のプロレスRADICAL』がデジタル界に殴り込み!

有名人学歴KGB・堀越日出夫の 凄頭

新連載

偏差値を通してプロレスを語れ!

突拍子もなく始まったこの連載だが、学歴を通して「プロレスラーとは何か?」を考えてみようというわけで、苦しい大義名分のもと、つらつらと書き殴るつもりである。アイドルストーカーが本職のオトコが、むやみに蓄積してきたデータ群をいま放出する! 因みに、書いてない選手の学歴はわかんなかったと解釈してください。

そもそもなんで学歴にこだわるようになったかというと、アイドルの実家・自宅を追いかける上で「学歴」というデータがどうしても必要になってくると。

アジャ・コングをストークした市川選手のように、今まで約500人のアイドルをストークしてきたが、そうこうするうちに学歴データを収集することがひとつの快感になってきたので、元来興味のあったレスラーを含む著名人すべての学歴を追うようになって早8年。それらを一気にどばーっと放出するつもりである。

「レスラーに学歴なんて必要ないんだよ!」という反論が聞こえてきそうだが、そんなこたぁ分かってるんです。それでも、学歴を知ることで、「あぁ、山ちゃんって世田谷区民だったんだぁ」「マサ・サイトーってなんで転校したんだろ?」などと思いに耽ることもまた、プロレスに対するひとつのアプローチなのである。

さて、表の解説をしていこう。

ざっと一望しての感想は、「あぁ、意外と中卒が少ないのだな」ということ。

「プロレスラー」と「学歴」。ここからレスラーの過去と現在を読み解け!

レスラー自身が認めるように、一般的には「スポーツ選手は学がない」と思われがちで、そのコンセンサスはプロレスにも悲しいかな当てはまってしまうのだが、意外や意外、新日に限って言えば、大卒が多いのであった!

今回、調べのついた範囲でいうと、表にあげた53人中、大学のキャンパスライフを経験したことのあるレスラーは22人! OBやらUFOやらを含めての数字だが、なんと41・5%というハイアベレージなのだ。

現役選手に限定すると、所属36人中、なんと10人もの大学経験者がいる(27・7%)。

単純に、世の中の大学進学率は40%未満であるからして、新日経験者ってのは、実は高学歴集団なのである! 新発見だ!

でも、これは「高学歴」ということであって、「高学力」を意味するかというとこれは別問題であることを忘れてはならない。

もちろん、レスリング(藤田、カシン、中西、永田など)や柔道(小川、小原、ポーゴなど)に4年間打ちこみっぱなしで、授業に出るのは「先輩の代返のため」という選手が多いことは想像に難くないのが、ちとばかし惜しいところだ。

どうでもいいことで、こんなことを気にしているのは全国に何人いるのか分からないが、どうして「週プロ」「ゴング」の選手名鑑モノは学歴を明記してくれないのだろうか?

日本スポーツ出版社から出している「大相撲観戦ガイド」では、各力士の学歴が書いてあるじゃないか? なのに、なぜ?

もし、憧れのレスラーが自分と同じ学校のOBだとしたら、異様な親近感が沸いて、もっとプロレス熱も高まろうというものじゃないか?

あるいは、学歴を公表することでそれ以上のマイナスがあるのか?

そんな愚痴はこっちへ置いといて、左ページに書ききれなかったことを書きたい。

創設者=猪木は中学中退とばかり思っていたのだが、どっかの本に「ブラジルに移住した後、サンパウロ高校に通ってた」旨が書いてあったような気がした。

長州現場監督は高校卒業直前、早稲田や中央などからもスカウトの手が回ったのだが、当時最強だった専修大学レスリング部への進学を決めた。この時、早稲田にでも入学していれば、人間科学部(スポーツ推薦者が入学する)がなかった時代だけに、新日本最高学歴を勝ち取ることができたのに……。まぁ、本人にとってみれば、おせっかいか。

高校の表を見て調べてみると、意外とデキる高校出身者が多いことに気づく。地方は特に偏差値という概念をなくしていこうというムーブメントがあるので、大学進学者から類推するしかないのだが、飯塚、高岩、永田、ケロちゃん……、いずれも60弱はあるとみた。人気、実力だけでなく、学力までも他を圧倒しようというのか、新日本!

最後に、「同窓生情報局」のコーナー。

南築高校(坂口)は藤井フミヤ、鶴久政治も輩出している。

健介の三築中は武田鉄矢が大先輩で、花畑中は貴闘力が後輩にいた。

蝶野の永山高校の後輩はキックボクサー新妻聡。SBの中村ルミは武藤の小・中学のかなり後輩にあたる。

吉江の樹徳高校のOBはプロレスでも大先輩のグラン浜田だ。

以上、「著名人学歴本」上梓を目論むヒデ堀越がお伝えしました。

ほりこし・ひでお■『BUBKA』や『ホイップ』(ともにコア・マガジン)などで、絶賛活躍中のアイドルストーカー。昔からの『紙プロ』読者で、他誌でも「モースト・オモロな雑誌のひとつ」として本誌を紹介していた。本誌・吉田豪の紹介により、今回から連載をお願いしました。

学歴 PICK UP!

藤波辰爾
ある統計によれば、日本の社長さんの中でもっとも多いのは日本大学卒だという。ということは、辰っつあんの後継者は藤田? それとも三沢威? 大々逆転で輪島? 石川孝士の線もアリ? その興味は尽きない。

長州力
以前、ある大学の講演会で「勉強? ぜーんぜんデキなかったよ、あぁ。オレはカンニングの名人だったな」などとレスリング部伝統のカンニングテクを惜しげもなく披露したこともある現場監督の復帰戦に注目だ。

アントニオ猪木
自伝によれば、授業中は睡眠タイム。試験も白紙で堂々と提出し、中学時代は毎日が遅刻記念日だったという猪木。小学校から早くも落ちこぼれを自覚しつつも、国民的ヒーローに成長することができる良い見本だ。

坂口征二
マサ・サイトーと同学年で明治大に入学した荒鷲も当然のように柔道推薦。日本一に輝いたのだから、その腕たるや折り紙つきだが、学業方面はどうだったのか? 自伝を出版してほしいところだ。

マサ斎藤
その著書によれば、教育熱心な両親がつけてくれた家庭教師の話を聞き流し、受験勉強など一切やらなかったと断言する。ただレスリングをやりたくて入学したのが京北高校だった。ケンカのため転校を余儀なくされた。

KING OF SPORTS NEW JAPAN PRO-WRESTLING

新日本プロレス偏差値ランキング

高卒編

藤田幻想高まる! レスリング推薦じゃないことを祈る!

★偏差値ランキング(都内近郊ベスト5)★

1. 62 藤田和之→八千代松蔭高
2. 59 永田裕志→成東高
3. 57 マサ・サイトー→国士舘高
4. 57 小島聡→安田学園高
5. 55 マサ・サイトー→京北高

★出身校一覧★

飯塚孝之→室蘭市立本室蘭中→函館東高
エル・サムライ→専修大北上高(岩手)
大谷晋二郎→鴻城高(山口)
木戸修→国士館高
越中詩郎→狛江市立狛江小→狛江中→東京工業高
小島聡→安田学園高(東京)
小杉俊二→相川高(新潟)
権瓶直人→新潟工業高
佐々木健介→福岡市立那珂南小→三築中→花畑中→東福岡高
佐野友飛→苫小牧西高
佐山聡→下関市立豊浦小→長府中→山口水産高(中退)
ストロング小林→青梅農林高
大利博→都立蒲田高
西村修→錦城学園高(東京)
野上彰→幕張高
橋本真也→土岐市立泉小→泉中→中京商業高
藤原喜明→北上市立江釣子二小(岩手)→江釣子中→黒沢尻工業高
星野勘太郎→神戸商業高
山崎一夫→世田谷区立尾山台中→都立玉川高
吉江豊→樹徳高(群馬)

寸評 藤田よ、あんたはスゴイよ!霊長類最強の男に勝ったと思ったら、今度は新日本の偏差値最強の座をゲットするとは! ということは、高橋義生も62?見直しましたよ。逆に山ちゃんの玉川高校は40というデータがあるのだが、これは意外。「高校受験ガイドブック」(大阪進研)によれば、中西の宇治高(現:立命館宇治高)は入学には60以上が必要。山ちゃんよりも意外だ!「大学入試全記録」(毎日新聞社)によれば、もっと意外なのは健介。東福岡高は九州大に14人、慶應にも5人送り出すほどだが調査の結果、偏差値は46だった。呆然!!

専門学校編

大矢剛功→尾山台高(石川)→神戸21c体育専門学校
高岩竜一→亀岡高(京都)→日本ヘルスアンドスポーツ学院
武藤敬司→富士吉田市立下吉田小(山梨)→下吉田中→富士河口湖高→東北柔道専門学校

大卒編

推薦制度を利用したとはいえなんでポーゴがトップなんだよ!

★偏差値ランキング★

(70 / 60 / 50 / 40)

66 ミスター・ポーゴ→中央大・法・政治

63 棚橋弘至→立命館大(学部不明だが、これくらい)

61 坂口征二→明治大
マサ・サイトー→明治大
ケンドー・カシン→早稲田大・人間科学・スポーツ
小川直也→明治大・経営

58 藤田和之→日本大・文理
後藤達俊→名城大・理工

57 三沢威→日本大(学部不明だが、各学部ともこれくらい)
福田雅一→日本大(同上)

54 長州力→専修大・商
中西学→専修大・商
権平広光→専修大

53 小原道由→国士舘大
田中秀和→大東文化大・経済

52 井上亘→東京電機大
栗栖正伸→国士舘大・経済

51 斎藤彰俊→中京大

47 永田裕志→日本体育大・体育

45 金本浩二→大阪芸術大・芸術・環境計画

44 蝶野正洋→神奈川大・第二経済・貿易
保永昇男→拓殖大北海道短大

寸評 なんでか知らないが、ポーゴがトップになってしまった。もちろん、推薦入学者が多いので、こんな数字はまったく当てにならないことを予めご了承ください。だから、真の意味での学力は、推薦でなく、一般入試で突破してきた後藤とか蝶野に付いてるのかもしれない。ということは、「T2000強し!」という結論になってしまうが、ホントにこんな結論でいいのか? でも、蝶野が一浪の末に合格した神奈川大・第二経済は夜間で、入学式しか出てない。何のために受験勉強したのか、意味がわからない。

中卒編

高学歴団体=新日本において肩身が狭いかもしれないが、ガンバれば社長にもなれる!

★出身校一覧★

アントニオ猪木→横浜市立東台小→寺尾中(2年中退)→サンパウロ高
木村健吾→新居浜市立北中(愛媛)
キラー・カーン→吉田町立吉田中(新潟)
ヒロ斎藤→川崎市立川中島中
藤波辰爾→武蔵町立武蔵東小→武蔵中
安田忠夫→大田区立羽田中
小林邦昭→小諸市立芦原中(長野)

寸評 10年くらい前、「たけしのオールナイトニッポン」で、「天龍=中卒」ネタがハガキ職人によって書きまくられたことがあるが、角界入りするのならば中卒は全然OKだろう(だから、安田もOK)。それと同様、プロレスラーが中卒だっていいじゃないか。どうしてもプロレスラーになりたくてなりたくてしょうがなかった情熱的な人たちが左の7人なのだ。ただし、キラー・カーンは高校に多少通ったようだが。因みに、カンちゃんの実家は新潟県西蒲原郡吉田町にある「小沢薬局」で、自身は吉田町が生んだ一番の有名人だという。藤波にしてもキムケンにしてもヒロにしても、やはり昭和(アフター猪木)のレスラーは、思い切りがいいのか、卒業前から「オレは絶対プロレスラーになる!」という強烈な思いがあり、進学に意味を見出さなかったのだ。そして、実際にプロレスラーになったと。その意志実現能力に拍手を送りたいところだ。しかも、ドラゴンに至っては社長の座にまで到達することに成功したのだ。これは天龍にしても高田にしても同じ。「中卒だっつってバカにすんなよ!」というアピールが聞こえてきそうだ。ところで、平田の学歴がどうしても分からない。教えてください。

BEST OF THE スタピコラム

その名も

本誌『紙のプロレスRADICAL』が デジタル界に殴り込み！

大好評の井上節が今回も冴え渡る!!

爆発的大反響が巻き起こった ハイパー『喫茶店トーク』第2弾！

元週刊ファイト編集長　連載インタビュー

I元編集長 井上用語の基礎知識

みんな、『週刊ファイト』の名物連載「Y・INOUEのファイト直言」は読んでるかな？　当然、読んでるよね？　なにぃぃ？　読んでないヤツはいますぐ買いに行って、紙面がえぐれるまで読むべし！　読むべし！　最近の「活字プロレス」に物足りなさを感じてる人なら、絶対に読むことをオススメする。

そんなわけで、前号でこの連載を開始したらもの凄い大反響が来ましたよ。昔からの井上信者以外にも、若いファンから大反響が寄せられました。I編集長はすさまじい「幅」と気が遠くなるような「深さ」を同時に併せ持つマスコミ界の大巨人だからね。当たり前といえば当たり前の話。今からでも遅くない。さあ、キミも今すぐ井上ワールドに触れろ！

聞き手／原タコヤキ君（『紙のプロレス』の記者）

井上義啓プロフィール

1934年、岡山県出身。大阪発の新聞『週刊ファイト』の元編集長。単なる試合レポートではない、いわゆる「活字プロレス」の始祖。現在でも、『ファイト』の連載（絶対必読!）を始め、様々な媒体で執筆活動を展開中。

井上用語その1 「平成のデルフィン」って何？

——というわけで井上さん、大反響の2回目なんですけども、今回はまず船木vsヒクソンのお話からお訊きします！

井上　まあ、あれは船木が高田になってしまったということが最大の敗因ですよ。

——船木が高田になった？

井上　猪木になれんかったんだよな。相手を殺しにいくような殺気がなかったんだよ！　ヒクソンの闘い方に合わせてたら勝てませんよ、言うちゃ悪いけど。そういう意味で高田と同じと言うとるんだよ。

——真っ正直過ぎましたよね。

井上　猪木ならあんなことにはならんよ。桜庭だってホイスが考えつかんような闘い方しただろう？　そういう意味では船木は真っ正直なんだろうな。まあ、昔から船木はそうだったからな。猪木に怒られたら船木はムッとするだけなんだよ。だから殴られたりしたんですよ。武藤を見てごらんなさい。「猪木さん、調子どうっスか？」ってな具合にスッと懐に飛び込むのがうまかったから。じゃあ猪木もコロッと機嫌良くなるんだよ。

——そういうのって闘い方にも表れるんですよね。それでですね、前号で「ヒクソンなんか弱い！」と断言してしまった井上さんですが、結果的にはヒクソンが圧倒的な強さを見せつけてしまったわけですけども。そのへんはどうですか？

井上　だってヒクソンはそんなに強くないんだもん（キッパリ）。

——わっ！　それでも意見は変わらないですか⁉

井上　あの汗を見てごらんなさい！　あれが何よりの証拠だよ！

——確かにヒクソンの汗はハンパじゃなかったですよね。

井上　もうヒクソンには体力なんか全然残ってないわけですよ。あれはトシだからね。40歳を越えとるんだから。ハッキリ言って俺なんかも、若い時、どんなに暑くても汗をかかんかったからね。

——おお！　そのへんも猪木の影がちらつきますよ！

井上　トカゲかヘビかいうてね。「お前は両生類か！」って言われたもんだよ。ワハハハハ。

——それ、は虫類です、井上さん。

井上　それがトシとると、汗が10分経っても止まらんからね。ヒクソンが大して強くないっていうのはそういうことだよ。

——説得力あります。

井上　ハッキリ言って、船木とヒクソンが10回闘ったら船木の8勝2敗ですよ！

——8勝2敗！

井上　たまたまその2回が回ってきただけでね。桜庭や田村なら十分勝てるよ、言うちゃ悪いけど。

——ヒクソン恐るるに足らず！

井上　全然怖くないよ、ヒクソンは！　だいた

BEST OF THE スプコラム

い400戦無敗だとか、あんなもんは佐山が考えた幻想なんだから。俺が前回も言うたように、グレイシーの不敗神話なんてないんだから！ それはマスコミにしてもおかしいんだよ。神話って意味がわかっとるのかと言いたいわけだよ、俺は。こないだテレビ観てたら中が黄色のキウイが売り出されたってニュースで言うとったんだよな。

——へえ。そんなキウイあるんや。

井上 ほんでテロップ見たら〝新・キウイ伝説〟って書いてるんだよ。売り出されたばかりのキウイに伝説もクソもないんだから！

——ま、まあそうですよね。

井上 じゃあな、昨日初孫が生まれたら〝新・初孫伝説〟ってなるのかってことを俺は言いたいんだよ!!（ドンッとテーブルを叩く）。

——新・初孫伝説！（爆笑）。死ぬぅ～。まあ、要は伝説や幻想に惑わされるなということですね。井上さん的には船木の負けはショックでしたか？

井上 そりゃあ落ち込んだよ！ ほんで落ち込んでドームから出たところで6人くらいのデルフィンたちに囲まれたんですよ。

——さすが！ それが今回のテーマですよ！

井上 平成のデルフィンにな。ほんで「井上さんですか⁉ 『紙プロ』読んでますよ！」と言われて。

——おお！ このコーナーはデルフィンたちに届いてるんですね！ すげえ嬉しい！

井上 俺は「あんなもん読むな！ 俺の『ファイト』のコラムを読め！」って言うてやったよ。ワハハハ。

——ひどいなあ（笑）。さて、井上さん、「平成のデルフィン」とは何なんでしょう。

井上 俺はデルフィン本人にも会ったことがあるんだけど、非常に礼儀正しい好青年なんだよ。それで明るくてね。それですよ。だから「平成のデルフィン」というのは悪い意味で言うとるんじゃない。プロレスファンとしては中級クラスで会場でワーワー言うとるけども、礼儀をちゃんと知ってる連中のことを指して言うとるんだよ。

——決してネガティブな意味で言ってるんじゃないと。

井上 そう。

——でも昭和プロレスファンとは違いますよね。

井上 わかりやすく言うと、平成のデルフィンがおって、その上にはプロレス者という人種がおってね。

——村松用語ですね。つまり上級者のプロレスファン。

井上 ちなみに昔のプロレスには詳しくてちゃんと俺の原稿も読んで、でも最近のプロレスには疎い連中を「プロレス窓際族」と呼ぶ。

——プロレス窓際族！（笑）。そういうふうに分類できるわけですね。

井上 ファンだけじゃない。プロレスラー、マスコミ、団体関係者、グッズ売りの人、会場の窓口の人ぜんぶひっくるめて一万人おったとするだろ？

——はい。

井上 そのうち9700人は俺から言わせれば〝パフォーマー〟ですよ。

——パフォーマー！

井上 それで残りの280人は〝シューター〟というんですよ。

——次がシューター！ 残りの20人はなんていうんですか？

井上 〝フッカー〟ですよ！

——業界全部の頂点がフッカーなんですか！ 面白いなあ。じゃあ井上さんはどこに属するんですか？

井上 俺はそうだな、パフォーマーの一番上か、甘く見てもらってシューターの一番下だな。

——井上さんが？ どう考えてもフッカーでしょう、井上さんは。

井上 俺なんかまだまだだよ。そういう見上げるような凄い人はおるんだから。ただ、俺は見たことないけどな。

——は～。じゃあターザン山本さんは？

井上 あれはパフォーマーだよ。一番上の方だけども。キミのところの山口のダンナも上の方のパフォーマーだな。

——山口のダンナもですか！（笑）。ダンナになりかわって御礼を申し上げます。

井上 レスラーでも、フッカーと呼ばれるような人間は、恐ろしい裏技を持ってるんだから。言うちゃ悪いけど、試合中に相手の腎臓を突いたりするんだから。

——腎臓突いてどうなるんですか？

井上 二日くらいはなんともないんだよ。ところが、その後「どうも調子が悪い」って言うて入院して、それで最後は死んでしまうんですよ！

——そんな技があるんですか⁉

井上 ある！（キッパリ）。

——マジですか！

井上 まあロビンソンだとかテーズだとか、そういった連中でギリギリだろうな。もっと上の世代になると、本当のフッカーがゴロゴロおったからね。

——でもやっぱり井上さんはフッカーですよ。コラム読んだ後、頭がクラクラする時ありますから（笑）。

井上 まあしかし、こういった話をする時にキミはいつも遅く来るけども（前回も今回も夜の7時スタート）、これじゃあ全然足りないだろう？

——すいません。

井上 これだけのスペースしかないわけだから別にいいんだけどな。言うちゃ悪いけど。

——増ページするように担当者に言っておきます。

井上 ハッキリ言うて、俺が『紙プロ』に載ることに反対の人も多いわけだよ。「井上さん、なんで『紙プロ』なんかに出るんですか。『凄玉』ならわかりますけど」って言うて。

——『凄玉』が良くて『紙プロ』がダメってのもよくわからないですけど（笑）。

井上 ただな、俺はどんな雑誌でも話を聞きに来たければちゃんと出る。雑誌だけじゃないよ。デルフィンたちがよく水道橋の前のグリーンホテルで俺を待ってることがあるんだよ。

——なんと井上さんを出待ち！

井上 でも俺は誰であってもちゃんと話をするからな。どんなに忙しくても。そういった意味で俺は猪木だから！

——いつ何時、誰のトークでも受ける‼ 平成のデルフィンのみなさん、井上さんにトークのセメントを仕掛けろ！

【'00年5月31日、大阪・茨木市駅前の喫茶店にて収録】

【緊急決定!!】次号からこのページは大きい版型に移しての増ページが決定!! 心して待て!!

図解 一万人のプロレス業界ヒエラルキー!!

その名も

本誌『紙のプロレスRADICAL』がデジタル界に殴り込み!

BEST OF THE スパコラム

実録 最狂プロレスファン列伝

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

構成/イナズマ★K

PROFILE

No.5 現代美術界の革命戦士
村上隆(HIROPON FACTORY)

「91年から本格的に現代美術アーティストとして製作と発表の活動を始める。アニメやマンガといった身近なサブカルチャーを素材に、日本文化を批評 的な視点で表現しつづけ、海外でも高評価を受けて来た。 94年からはN.Yスタジオを創設、翌年に帰国した後、埼玉県朝霞市に 自身のスタジオと、若手アーティストの育成と活動の場を兼ねた『HIROPON　FACTORY』を発足。 現在は朝霞市のアトリエとN.Yスタジオにおいてアシスタントと共に作品 製作し、国内外における数々の個展及びグループ展において発表活動を 続けている。』以上、HIROPON　FACTORYのホームページに載っていたプロフィールでした。テレビ東京『誰でもピカソ』では審査員も担当してましたね。昨年末にはプロレス熱の高まりが剥き出しになったイベント、プロレスVSアート『最終回ーガチンコ0年ー』まで開催。今回、我々取材班はHIROPONのプロレス担当(!?)の真下クンにコンタクト。我々はHIROPON主催バーベキューパーティーに潜入したわけです。

アートと言うと、ついつい頭デッカチに構えてしまいがち。しかーし、国内外で高い評価を受けている村上隆さんの作品群はそういった堅苦しい印象をいとも簡単に吹っ飛ばすポップさに溢れてる。DOBクンをはじめとするかわいいキャラクターの数々を見れば一目瞭然。アニメキャラ的なモノも含めてアートなんです。それはまさに、格闘技も全部引っ括めたモノがプロレスだ、という馬場さん発言にも通じてるではないか。現代アートとプロレスという世紀末ミクスチャーぶりは全然関係無さそうで、実は繋がってたんですねー。思い出してごらん、僕らのアントンがUFOで目指したスローガンはまさに、格闘芸術だったじゃないか!? バンザーイ!!

さて今回登場の村上さんだが、本人曰く「**ボクは全然まだまでですよー**」といった感じで、プロレス&格闘技にドーップリ浸かっていたタイプの人ではない。しかし、その視点と洞察力はプロレス歴10年キッズも顔負けだ。まずプロレスに興味を持ったきっかけは?

「**大仁田だなぁ。高校生ネタで引っ掛かってでさあ。ボクは、『どうやって生き残るか』っていうのがね、常に人生の課題としてあるんですよ。『バカヤロー、こんなんじゃ生き残れねえぞ!』って、毎日言ってる(笑)。生き残るのは大変ですよ。高校生ネタならNHKも飛びつきそうだし、なるほど上手いアングルだなーって**」

「生き残れ!」という、サバイバル飛田的な鋭い切り口は、プロレス・ファンもビックリな着眼点だ。

「**まあ、ホントはそれだけの興味だったんだけど、1・4の小川・橋本戦で、『どうしたのこれ、マジじゃない!』って話で(笑)**」

2人のみせた危険なムード、それが村上さんの格闘ロードに火をつけてしまった。オーちゃんTシャツのDOBくんヴァージョンも作っちゃったし。そして初の生観戦はなんと『PRIDE.8』の桜庭vsホイラー戦だ。

プロレスファンは皆そうだと思うが、プロレスに自らの人生を重ねちゃったりするだろう。村上さんも桜庭選手の戦いを見て、共鳴してしまったそうだ。

「**アートの世界でも、ボクの前の世代まで『世界には勝てない』っていう幻想があったんです。ボクは現代美術でデビューした時、ギャグが基本で作品作ってたんですよ。それで海外行ってやって、そしたらアイツらやってるのはギャグじゃなくてパロディだっていうのも分かったんです。でもパロディって飽きる。だからボクはパロディじゃなくて、ギャグの破壊力を見せてやろうってチョットずつやってたら、『それも面白い』って皆言い始めたんだ。桜庭選手の戦い方を見てて、『あっ、これで良いんだよね、日本人』って思って(笑)。ヘラヘラしててイケイケって。そのくらいのゆとりあるぜって。ちゃんといろんな技を持ってて、しかもギャグもあるから、オレタチ最強じゃんって(笑)。そうなるとグレイシー一族の持ってる悲壮感が海外のアートシーンに見えちゃったりして。向こうは現代美術の歴史を守んなきゃいけないからね。ボクらは歴史しょってないから、全然関係ない。それで勝っちゃえば向こうは形無しでしょ? それが今なんだよね。格闘技とアートという違いはあるけど、時が重なってるなーと思ってさあ**」

そして船木・ヒクソンの『コロシアム2000』では遂に"俺プロ格"に然開眼してしまった。

「**『プライド』だと、ある程度戦いの流れに敬意を表さないといけないところがあるじゃないですか? でも、ボクは深く知らないからわかんない。でも『コロシアム』はダサダサで気が抜けてて、『ヤッター! 来たよ"俺プロ格"が来たー』みたいな。自分流の見方が許されるところがよかった。ヒクソンvs船木戦はホイスvs桜庭戦よりなぜかずっと引きずってる。桜庭が勝っても高田道場のホームページ見に行かなかったけど、パンクラスのHPに行ったモンね。文脈を読み込みたかったから**」

桜庭選手の闘い方を見てて、「あっ、これでいいんだよね、日本人」って思った(笑)

さらに『コロシアム2000』には語ることが尽きない。何かと物議を醸し出してる『アート指向』須藤元気には厳しいぞ。

実は村上さんとは過去に接点があったのだ。

「**須藤元気、アートをちょっとオチョクってるよね。入場のことが『前衛芸術だからと言ってこの手はないだろう』って何かの雑誌にリポートが書いてあったけど、芸術は奇人変人じゃないんだから。イレズミから何から演出のトータルなコンセプトがチグハグでしょ。彼は前、ボクが審査員で出演してた『誰でもピカソ』に作品出してきたんですよ。全然知らなかったから、格闘技やってて練習も大変なのに作品まで作っちゃやって偉いなって思って6点も上げちゃった。でもねー、オチョクられるとねー。そういうダサダサでダメダメなことがあったから、『コロシアム2000』はオレでも語っていいんだっていう感じがしたんだよね**」

お～っと、遺恨勃発かぁぁぁッ!?

「**いやー、でもプロレスとか格闘技は、ホント面白いよー。『SAMURAI!!』入ったら仕事になんないくらい見ちゃいそうだねー(笑)**」

最後までリスペクトと好奇心は失わない村上さんは、プロレス&格闘技にまだまだ深くハマっていきそうな勢いだ。

HIROPONのバーベキュー大会はすさまじいパフォーマンスが目白押し!「地中海」と呼ばれる5分間にも及ぶ決死の生き埋めパフォーマンスには、黒崎先生ばりの極真魂を見た! さらにHIROPONのスタッフはパンチパーマやカッパ頭で俗世間を捨てている点も、プロレスと同じ匂いを感じた。

たとえ「純プロレス」がこの世から絶滅しようとも

愛すべきプロレスバカたちの「不純プロレス」は不滅です!!

狂い咲きインディーロード

～本誌注目のミニマル団体観戦記～

純プロレスを標榜するメジャー2団体が大激震に見舞われているこの世紀末。老舗・全日本プロレスも遂に分裂して、プロレス団体総インディー化の様相を呈してきた。純プロレスの時代は終わった！　プロ格では満足出来ない！　これからは不純プロレスの時代がやってきます！　こんな時代やさかい、常日頃から激震に免疫のあるインディー団体はバリバリ元気だ！　芝刈機からビッグ・ファイアーまで乱れ飛ぶプロレス地獄絵巻の中から、ダイヤモンドの原石を拾い集めたのがこのコーナーである。というわけで独断と偏見で選んだインディーのニュースをお届けします！

DDT インディーマットも"格闘連鎖"（文・ジャイ子&チョロ）

【5月21日鶴見青果市場『DDT5月の遠足』】

イエ～イ！　待ちに待ったDDTの遠足!!　ってムリヤリ盛り上がってみたけど、遠足行くようなトシでもないし、しかも1人ぼっち（ションボリ）。遠足ということで、ジャイ子がバスガイドとして、鶴見大会をご案内しま～す。皆様、右手をご覧ください。一番大きく見えますのが……ジャイ子で～す。ま、そんなことはいいんだけどさ、この日は大事件続出！

まず最初の事件は第2試合終了後。リングに登場したDDT無差別級初代チャンピオンの折原昌夫が、そのベルトを一日3万円でレンタルしちゃったの。レンタル先は、な・な・なんと、みちプロのサスケ・ザ・グレートっていうからジャイ子ビッグ？　いやビックリ。サスケ・ザ・グレートの正体って折原じゃなかったのぉ？　いままで勘違いしてたよ。

折原いわく、レンタル中にサスケ・ザ・グレートが防衛したら、それも折原の防衛記録になっちゃうんだって。なんか複雑だけどナイスアイディア！　そこへ現れたのがラジカセ担いだ三四郎。なんでも三四郎は、正規軍を追放されテーマ曲もかけてもらえないんだって。悲しげだね。

ベルトを勝手にレンタルしまくる折原に対し、三四郎の「このオレ様がラジカセを持って客席にいたら危ないと思え！」と、みちプロ乱入？ってアピールもあって大混乱！　謎の白覆面の乱入→スリーパーもあるし、インディーマットでも格闘連鎖が続行してるみたい。

あと、DDTが「(有) ドラマチック・ドリームチーム」として会社組織になることと、6月22日から毎週渋谷のクラブで興行を打つことが発表されたの。え、クラブゥ？　ジャイ子顔グロで行っちゃおっかな？

そしてまだまだ事件は終わりません！　ひとりぼっちの三四郎は、次の大会でアッと驚く新戦力を連れて来ることを宣言し、そのままDDT名物の三四郎集会ーNジャスコ前へ民族大移動！　一般ピーポーに迷惑が掛からないようにショートバージョンでの集会を敢行。すると、三四郎をはじめとするDDT主力メンバーは、約2時間後に始まる大仁田興行の会場へと超ダッシュ！

気がつけばジャイ子はひとりぼっち（ションボリ）。私も次の大会は三四郎ばりにアッと驚く新戦力と一緒に行くことを勝手に宣言（あくまでも願望）。

……何のひねりもなく鶴見大会を案内しちゃいましたぁ。ジャイジャイ。

［上］セミの菊澤光信vs折原昌夫戦では、菊澤が謎の白覆面とともに、折原はオリ・トレイン（2両編成）でリングイン。［下］ジャスコ前からお行儀よく移動中の三四郎&観客のみなさん。

【5月28日　金町地区センター『y2D　CORE』】

『ホットドッグ・プレス』や『クラブアフター』など一般誌での露出も増え、さらに渋谷のクラブ『ATOM』での定期興行も決まるなど、DDTでは、三四郎が以前から言っている「プロレスに興味のない一般層も取り込みたい」との戦略が着々と進行している状態である。

ポイズン澤田がバイパレス（マムシ）ポーズを引っ提げ、クリスマスに三四郎とのマムシデスマッチ（もちろん会場は流山）をブチ上げれば、メインでは宇宙パワーの爆発的な強さと、それに対して見事なやられっぷり&攻めっぷりを見せるタノムサクも堪能でき、DDT金町大会にハズレなしを実証する形となった。

しかしながら、今回の金町大会成功の立役者は、ズバリ言って種市課長である。

この度、青森への転勤が決まり、残念ながら引退（三四郎いわく卒業）することとなってしまった種市課長。ヒクソンに敗れた船木（青森出身）の突然の引退発表はファンに悲しむ暇も与えなかったわけだが、二日後の種市課長の引退試合は実に感動的なものとなったのだった。

これまでの種市課長は「社長のバカヤロー！」などといった「課長キャラ」が空回りという印象が強かったが、この日は地元&引退試合ということもあるだろうが「♪サラリ～マンは気楽な稼業ときたもんだぁ～」とスーダラ節での入場、ネクタイをキュッキュッと締め直してからのピープルズエルボー風エルボーなど、やることなすこと大歓声で受け入れられいうことナス。ひとしきり「課長ムーブ」を披露すると、今度は突貫ファイトに切り替え対戦相手の高井憲悟に立ち向かっていった課長。文句なしに、これまでのベストバウトと言える内容であった。

引退試合を勝利で飾ることはできなかった課長だが、涙ながらに「DDT青森支部興行を何年かかっても実現させます！」とファンに誓うと「青森行っても頑張れよ！」という温かい声援が飛び交った。このことは課長にとって勝利よりも大きな財産となることだろう。

いつの日か再びDDTのリングで課長のネクタイ姿が見られる日まで、さようなら。そして種市部長としての復帰を気長に待ってるぜ！

涙、涙の引退試合を行った種市課長とともに、キムタクこと木村拓郎リングアナも、この日を最後にDDTマットを卒業することになった。

大日本プロレス 最狂団体CZWの参戦が火をつけた!!

（文・三浦店長）

5月14日新川崎大会 MVPは登坂レフェリー？

春、5月。全ての生物が成長するこの時期に、大日本も大変貌を遂げた。「インディー中のインディー」と言われ、キワモノ扱いされるデスマッチを「これでもか！」と押し進めながら、身体を張って力づくでサーキットをこなし続けて早5年。ようやく未来に期待を持たせる転換点がやってきたのだ。

ヤツらは海を越えていきなり現れた。そうだ、その名も「CZW」。BJW（＝大日本）のデスマッチ戦士たちも目を見張る、噂以上のクレイジーさを武器に、芝刈機の爆音と共に登場だ。前号でインタビューを初掲載したザンディグとワイフビーターのバカでデカくてカッコいい2人が、長い長いWEC（ワールド・エクストリーム・カップ＝デスマッチ世界選手権）シリーズに春雷を巻き起こしたのだ。

WECカップは、5月14日の新川崎大会でクライマックスを迎えた。シャドウWX、本間朋晃、クレイジー・シーク、ザンディグの4名がトーナメント形式で優勝を争うこととなった。

この日も親子でキャッチボールやタコあげをする平和な空間を通り過ぎ、フリスビー犬が舞うのどかな日常を無視しながら、いつもの広場へ向かって歩いていると、会場の手前100メートル程の空地にアートトラックが集合して駐車してあるではないか。山川選手のカミオン仲間かと目をこらして眺めてみると、トラッカーファミリーが橋脚の下で大宴会を行っているのを目撃。金髪も眩しいヤンママたちとやたらと走り回る生意気そうに後ろ髪を伸ばした子供たち、そしてリアル男樹を体現する野性の匂いプンプンのお父さんたちが大騒ぎだ。午後1時の太陽の下ですっかり出来上がった集団を横目に見ながら、青いシートで遮っただけの会場へと歩きつつ、「今日の新川崎のロケーションも素晴らしいぜ」と心の中でつぶやいた。

会場は、いつも通りに屋外ならではのヤキトリ、ヤキソバ等の濃厚な空気に包まれた別世界。CCレモンとCZWステッカーを抱き合わせた屋外会場限定のトンチグッズ、その名も『CZレモン』が販売され、売店も大混雑状態。余談だが、たぶん登坂レフェリーがプロデュースしている今回の新作Tシャツ（「妻殴り」等）は、どれも傑作なので早めに手に入れよう。

試合結果や内容は、すでに報道されているのでクドクド述べないが、BJWとCZWの絡んだ試合は、悲しいかなそのクレイジーさがライブでなければ伝わりきらない。

この日のMVPは選手以上にカッコ良かった登坂レフェリーに差し上げたい。ザンディグvs本間戦において、大型リングトラックの上で長時間殴り合う2人を見かねた登坂レフェリーが、「リングの中でやれ！」ととらしくない絶叫とともに猛ダッシュでトラックの運転席へ。そのままエンジンをかけ、2人を屋根に乗せたままトラックごとリングサイドへと無理矢理移動。ポカンとする選手2人を尻目に素早くリングに戻り、いつもの冷静な口調で「リングの中でやれ！」とは、登坂さん、カッコ良すぎるぜ！

最終章、メインのWX vsザンディグ戦は蛍光灯、有刺鉄線の両ボードとともに傷口に擦り込むための凶器・レモンと塩の山がリングの上に置かれた。これ以外にも、プロレス史上初の飛び道具アイテムのホチキス、燃える机、そして芝刈機まで登場し、混沌としたシリーズを締めくくるにふさわしい試合となった。

寡黙なデスマッチ・ファイター、シャドウWXの優勝によって一応幕を閉じたこのシリーズだが、BJWとCZWの世界戦争は、まだ始まったばかりだ。

5月25日後楽園大会 CZWが4人に増殖！

団体が充実してくると選手一人一人にも目的意識が生まれてくる。観ている側も分かりやすいし、その流れを日々追っていくのが楽しくなってくる。大日本は今、まさにそのいい流れの中にあって、目が離せない。

そしてその流れも、無理に作ったものでないところが重要だ。

新人離れしたブルファイトを毎日見せている関本大介は、いよいよ上位陣との絡みも多くなり、日々巨大化するその肉体と共に将来が楽しみになっていくばかりだ。その反面、身体が大きくならずに『東スポ』では「ヤセ男」とまで書かれてしまった伊藤竜二ではあるが、七番勝負も始まった。これから、どんどん揉まれていって、後ろ髪以上の個性を身につけていくことだろう。この伊藤と結託してNMC（ナイト・メアー・クルー＝直訳すると悪夢軍団）の加藤茂郎&怨霊との新局面を迎えたメンズ・テイオーにも目的が出来た。A・ブッチャーとの闘いがひとまず決着した後のこの展開では、是非KAIENTAI時代のガンガンと攻め込むスタイルを復活させて欲しい。

手薄な女子部も市来貴代子の社長超え（？）によってベルトを設立し（というか、スクランブル8メンのベルトが女子のベルトにスライドした）、中野知陽呂との対立姿勢、さらにはNEOの元気美佐恵とのタイトルマッチを希望したりと、ようやく先が見えてきた。市来と元気は『元気が出るTV』の同窓生対決が実現した際には、是非ともレフェリーに山本小鉄を希望する。マルセラも正式入団したので、メキシカン嫌いのチャンピオン市来には注目だろう。

そして、松永との再戦を希望しながら、会社側から「実績を作ってから」と却下された葛西は、日々「実績作り」を重ねている。デスマッチ・ヘビー級チャンピオンの本間（なのに危険なことが大嫌い）には対戦を要求するも逃げられたが、夏には山川とのファイアーデスマッチを行うようなので注目だ。葛西vs松永戦実現へ向けて、応援しようじゃないか。

この日、注目のチームが誕生した！　といっても、いつもタッグを組んでいたアブドーラ小林と大黒坊弁慶なのだが。ようやくチーム名が付いた。その名も……スキンヘッダーズ!!　ひねりなし!!　そのまんま!!　ちなみに、〝闘うJ太郎〟ことアブドーラは、『コロシアム2000』の2階観客席に出現！　試合後、「ヒクソン、強いですねぇ～」を連発する小林を見て、凶器シューズにフォークを仕込んで、ハカマ姿のまま『コロシアム2001』のリングにあがる姿をちょっと想像。もちろんセコンドはA・ブッチャーと小鹿社長。ボクは小林選手の試合が見たいです！（真鍋調）

さて、この日の見どころはシャドウWX、ジ・ウインガー、本間朋晃、山川竜司が初めて手を組んで、手の付けられない暴れっぷりを見せるCZWの4人と闘った8人タッグマッチだ。今シリーズを通して、血で血を洗う激しい抗争を繰り広げる両軍は、完全に全面戦争に突入した。団体同士、いや国同士の威信を懸けた闘いは一戦もないがしろに出来ない。

そのCZWは大日本と並行して'90年代デスマッチの開祖・大仁田厚とも絡み、話題を振りまいた。だが、ザンディグとワイフビーターのカラーが活きるのは、どちらかといえば大日本であろう。イキのいいもの同士をぶつけた方がいいと思う。

今回はニック・ゲージとジャスティス・ペインというニューカマー2人を従えて計4人となったCZW。この後楽園大会には全員、腰にベルトを巻いて登場した。やることがいちいちカッコ良すぎるぜ。ザンディグは髪を振り乱し、ワイフビーターは芝刈機を手に会場を走り回り、ペインは切れ味の良い飛び技を連発。だが、ファンの目を釘付けにしたのは〝ハードコア〟ニック・ゲイジだ。その体型からは想像もつかない俊敏な動きを見せたかと思えば、身軽に美しく飛んでしまうのだ。受けに回っても外道ばりのクレイジーバンプを取りCZWの奥深さを見せつけてくれる。ズバリ言ってオススメだ！　さらに、この風貌で19歳だという点が、にわかには信じがたいということも付け加えておこう。

hwoの旗を芝刈機で引き裂いた。

机3段!!　下には火!!　ここにトラックの上からザンディングが降ってくる!!

この4人が並ぶのは非常に珍しい!!　BJW4人衆がCZWに立ち向かう!!

右のフケ顔が…〝ハードコア〟ニックゲージ。下の童顔がジャスティス・ペインだ。

パワーボム・プレスon机!!　軽量ウィンガーが妻殴りに急降下だ。

キャプチャー
地下室マッチで全国行脚（文・ジャイ子）

5月28日　キャプチャー道場
観客40人で超満員!?
ジャイジャイ！

昨年とは打って変わって、東京近郊での興行が増えてるキャプチャーですが（去年は最長約6ヶ月、都内近郊での興行ナシ）、今回は初の道場マッチin百合ヶ丘。行ってみると以前、北原光騎代表に言われた「ウチは客入れるほど広くないんだよ」って言葉に大納得!!　超至近距離にマットが……危ねえっつーの。

たった40人のお客さん（それでも超満員）の前でも、いつもの危険極まりない打撃合戦を繰り広げたキャプチャー勢、最前列のお客さん（含、ジャイ子）はスウェーを駆使しながら観戦という、普段ではあり得ない、貴重な経験ができました。ありがとう、ジャイジャイ。

5月30日　キラメッセぬまづ
大型秘密兵器登場！
ジャイジャイ！

前号で「東京から結構近い」と、行ったこともないのに書いてしまいました。すいません。遠いです、沼津。でも、行けたもん、ジャイジャイ!!

でもね、この日は見逃せないカードがあったの！　タノムサク鳥羽vs岡本魂、もとい岡本衛の一戦。岡本と言えばバトラーツで「岡ヤン」の愛称で親しまれ、『紙プロ』から個人のTシャツを出した唯一の選手。バトラーツで「岡本魂」と改名した直後、首の負傷で欠場、そのまま引退となり、結局「岡本魂」の名前では一戦もしなかったアンラッキーボーイが本名に戻ってJPWAで復帰、なぜか今回キャプチャー参戦となりました。

こんな至近距離で熱闘を見れるなんて他じゃ考えられません。なにせリングもないからね。

久しぶりに見る岡ヤンは、バト時代より一回りデカくなったような感じで、タノムサクとの体重差は約20キロ。ま、タノムサクにしてみれば、「いつものこと」に過ぎないんだけど、岡ヤンにとっては復帰後初の他団体参戦、しかも地元だし、気を抜けるわけもない。試合前に女子ファンから花束貰ってたしね。

しかし「岡ヤン、人気者じゃん」と思ってたのも束の間、試合が始まると客席はタノムサクへの声援一色。やっぱり「弱い者イジメ」にしか見えないよな、普通。攻めてんのはタノムサクなのに。中盤、岡ヤンはヘビーなミドルキックで起死回生、なんとか勝利をおさめました。

岡やんvsタノムサクは凄い乱打戦。終わった後は2人ともブっ倒れたよ。ジャイジャイ!!

この試合後の休憩時間、タノムサクはいつものように悶絶しながらロビーを徘徊してました。これも彼なりのプロ意識なんだろうけど、お客さん、引きまくり。いいから寝てろよ。

ちなみにメインでは北原が大作に放ったパンチで、自らの拳を陥没骨折してしまいました。だから、みんな無茶すんなって。

そんなキャプチャーに、なんと女子選手が入団！　全国高校柔道選手権・準優勝の経歴を持つ久保田有希。ユウキだけに勇気あるのね。写真ではわかりにくいけど、ヅカ系のべっぴんさんです。現在はキャプチャー沼津支部でニーハオ指導のもと、打撃を中心に猛練習中。本人はVTに出たいんだって。ちょうどいい！『ReMiX』があるじゃん！

そのへん、ニーハオ先生に聞いてみると「根性、身体能力、体力、スタミナ、全て問題なし。あとは打撃と防御を覚えれば大丈夫。前回の『L─1』レベルだったら余裕！」とのこと。身長もジャイ子ぐらいデカイし、どうですか、篠社長？　ジャイ子、推薦しちゃいま～す。

本誌特選!!
注目選手

W★ING、またもや復活か!?
伊勢崎の英雄ポーゴ様の地元凱旋フィーバーに乾杯!!

個人的なことを言わせてもらえば、オレはまだウィングを忘れちゃいねーんデスってことだ。

青臭い!?　あぁそうだろうさ。でも何度も言うようだけど、ウィングって面白くてスゴーい団体だったんですよ。ひたすら暴走し続ける過酷デスマッチはもちろんのこと、キニョネスが連れてくるプエルトリコの怪しい選手やキャラの立ったメンツも揃ってた。またカッコ良いプロレスTシャツのスタート地点はやっぱりウィングTシャツから。

それに、何より凄かったのはエスカレートしていくお客さんの期待をいとも簡

W.W.S.を旗揚げした
ミスター・ポーゴ
の地元・伊勢崎大会レポート

【観客席からATOMIC BOMB】

イーンディーないかい？

なぜか今、リユニオン（再結成）の動きが目立ってきた。ＷＡＲの活動再開。ＷＷＳ（ポーゴ軍団）がＷ☆ＩＮＧ再興。そして、'96年に流山で散ったユニオンも帰ってくる。

たぶん、以上の団体はすべて本格的な団体として活動するのかどうかは疑問だが、以前みちのくが行ったユニバーサル同窓会とは趣を異にすることは間違いない。だが、この流れの早いマット界においては中途半端に懐古的に復活するよりも、思いきって業界再編成を視野に入れて再開してほしい。

天龍にはＷＡＲといわずに、ＳＷＳを復活するくらいのスケールの大きな発言をして欲しいし、ＷＷＳは外人も含めて黄金期のメンバーを揃えて欲しい。ユニオンもＩＷＡ流山とはいわずにレスリングユニオンの再開とまでいってほしい。

無理な話なのはわかっているけれども、団体のトップには我々が夢を見ることのできる発言をしてもらいたい。小さくプロダクション的にまとまるのであれば弱小インディーがまたひとつ増えたと思われるだけである。

一度、自分の団体を持ってしまったら、その地位は失いたくないのは人情であるが、プロレスファンという一定の市場をこれ以上分け合わずに、企業人としての勇気ある吸収合併で、誰か第三のメジャー団体を目指してくれませんか。観客として、これ以上団体が増えたら正直ツライです。時間もお金も足りません。文・三浦店長

それでも満足できないヤツはこれでも喰らえ プチ情報満載のゴッタ煮インフォメーション!!

つぼプロモーションに集う素晴らしき男たち！

つぼプロモーションが北沢タウンホールに帰ってきた。5月30日には、普段のインディーの会場とは明らかに違う〝いい空気〟が漂っていた。雰囲気は上々。久々に姿を見せた竹村豪氏（無我）が、一回り身体も大きくなり、強くなっていることにビックリ！ これも久々の仲野信市もふてぶてしく、強くてデカい。だが、セミに登場の嵐はもっとデカい。そのプロレスラーの肉体の説得力に納得！

（文・三浦店長）

裏『PRIDE.9』！ 小田原でNEW NOW炎上！

ケンドー・ナガサキ率いるNEW NOWの小田原大会が行われた。アンダーカードではIWA、JWP、DDT等が提供する好試合が続出。若手の熱い試合で会場を湧かせた。アジアン・クーガーも久しぶりに見たけど、まだヒザが悪そうでちょっと心配。会場もケンドーナガサキの地元筋に当たるようで、大興奮大会。メインも乱戦とともに観客のテンションも上がりっぱなし。しかし、こんないい大会なのに第1試合からメインまでカメラマンの姿は一切なし。マスコミの皆さん、見逃したことを後悔するよ。

当日、通路を共にする隣の会場ではなぜか大々的に社交ダンスコンテストが開催されていた。廊下を歩き回るコスプレのように着飾り、深いスリットと、背中を見せまくる大胆かつ不敵なおばさん達が大量発生！ そのペイントの様な化粧とキツい香水に辟易。もはや公害の域に達しつつある。似合わないタキシード姿にバレバレのヅラでキメまくったおじさん達と共にプロレス会場以上の異空間を演出していた。この日の小田原アリーナは、存在そのものがプロレスだった。

（文・三浦店長）

飛び込み情報！ ZIPANG次回大会

ZIPANGの7月大会が、ピンナップ裏のスケジュール入稿後に届いたんで、ここでご紹介します。7月19日（水）東京・板橋産文ホールで行われる。参加選手、対戦カードは決まり次第発表されるようなので、専門誌をチェックしてください。

インディーの聖地がひとつ消えてゆく……。

7月20日（祝）Jd'が行う興行を最後に、インディー団体の聖地・大田区民プラザからプロレスの大会が消える。某団体が床を破壊したのが原因らしい。だが、本誌は同会場でキャプチャー観戦中に転倒したジャイ子の仕業ではないかと睨んでいる。現在、ジャイ子に事情聴取中なので、詳しく分かり次第お伝えします（気が向いたら）。

復活！ ユニオン・プロレスが、チケットを10名にプレゼント!!

マムシに噛まれ「死にたくねえよ」と呟いた伝説の男・ポイズン澤田（小さい版型の本誌15号参照）がマムシデスマッチを解禁するぞ！ 主催の夢名塾プロモーションのご厚意により6月30日（金）板橋・産文ホール大会（18：30開始）のチケットを10名様にプレゼント。締切は6月25日必着。応募方法はP159参照。

夢名塾プロモーション主催興行第1弾
復活!!ユニオンプロレスVol.1
〜さちは青春の光〜
6月30日金 東京・板橋産文ホール
全席自由3,500円
P.M.6：00開場
P.M.6：30開始
（お問い合わせ）
夢名塾プロモーション
03-3815-6307

見ろっちゅうの！ 現在リハビリ中の上田馬之助ホームページ開設！

昭和プロレスで一時代を築いた大ヒールであると同時に、『山口昇と東京シュガーベイブ』の一員（会員NO．2）でもある上田馬之助のホームページが開設された。上田馬之助氏を支援する会・金狼会の米村祐一さんを中心に立ちあげたもの。馬之助さんの近況や考えていることなどを随時紹介していくというから必見である。アドレスは
http://www.pulse-net.co.jp/umatop.html

単に覆すアイディアの豊富さだ。崩壊に向かって走っているのに、それに気付かずメチャクチャ命懸け。言ってしまえば若気のいたり。でもそのメチャクチャさがたまらなかったのだ。現在デスマッチ・シーンをリードする大日本との最大の違いは、その殺伐としたムードだろう。『常識を覆すのがウィングだ！』って松永選手の発言もそうだけど、とてつもなくパンク的なムードだ。こんな小さいたった2年ぐらいしかもたなかった団体に、今だにフリークスがいるんだからその勢いはホンモノだったのだ。

そんなときウィングがネーミングに入ってる新団体が誕生した。言わずもがなの元ウィングのエース、ミスター・ポーゴのWWS（ワールド・ウィング・スピリッツ）が遂に旗揚げだ。最近は大仁田興行を中心に活動していたポーゴさん。しばらく休んで準備も万端。まさしくポーゴズ・ラスト・スタンド！ 果たしてあのウィングの頃の怖〜いポーゴが帰ってくるのか!? 5月29日、群馬伊勢崎市民体育館。そこにウィング・スピリットはあったのか!?

さて、いきなりだが結論から行くと！……当時の危険で殺伐としたムードは全く無しでしたー。まあ、トーゼンと言えば当然。時も流れてれば出場選手も全然違うんだからね。しかーし、『予想を覆す』っていう意味ではウィング的だったかも。とにかくポーゴさんの地元での狂ったような知名度＆人気っぷりはスゴすぎ。タクシーに乗れば「セキさんだっけ？ あぁ、関川さん。プロレスやるって言ってたよ〜」とか「関川さんねぇ。ここら辺の人は皆知ってるよ、有名有名。深谷に住んでるんだよね」。外でそんな感じなら体育館内では、もうホント大スター状態だもん。売店でのサイン会は長蛇の列。ポーゴさんが登場するミネラルウォーターのポスターの『闘いぬけるにはワケがある』のコピーも眩しいぜ！

酔っぱらいのオッサン（「ポーゴのサイン、欲しい？」と語りかけ、ホントに持ってきてくれた……）からポーゴメイクのチビッコに至るまでポーゴ・コールの嵐。ジミヘン（なぜに？）が流れる会場内は想像以上の大入り満員でビックリだったけど、『郷土の英雄』のタレ幕に偽り無し。

参加メンバーも島田宏、中牧昭二、荒谷信孝の元ウィング勢が駆けつけた。会場は、どんな試合でも湧きまくりのWWSじゃなくてWWF状態。こんな最高の状態で迎えられたメインは、『トルネードストリートファイトWWSルールスペシャル6人タッグデスマッチ』。3カウントなしの完全決着デスマッチ・ルール。ポーゴ＆闘龍＆トップ★ガンvs中牧＆青柳館長＆注目のウィングTM！誰かと思いきや、現在DDTに参戦しているNEOウィンガーと同じマスクマン。なるほど、〇〇・〇〇〇でTMか〜！ そんなこんなで、会場全体を使ったメチャクチャなエニイウェア戦は、ポーゴさん渾身のビッグ・ファイアー＆絞首刑で勝利！ コンディションばっちりで動き回るポーゴさん。キニョネスの殴り込みも何も無かったけど、とにかくその意気込みは買ったぜ。WWSに栄光あれ！

（文・イナズマ★K）

ポーゴメイクのキッズまで出現!! こんなにポーゴが人気ある会場、初めて見た!!

元W★ING勢も参戦!!

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――(ネール元インド首相の娘への手紙)

吉田文豪人生劇場
書評の星座 PART2

え〜、珍しいお客さんからの応援&タレコミメールが入りました。まず『週プロ』常連の蜷川マクベス新右衛門君からは、「『オーバーザ・シュート弐』のキャッチコピーは海援隊のパクリ」との報告あり。そして、花くまゆうさく先生からは「我王銀次ファンとして私も『魔女卵』をリクエストしたいです。山口さんと我王銀次はそっくりだと思いませんか?」という謎のメールが……って、これは『BURST』へのリクエストでしたね。失礼。そういうわけで、今後も読者の皆様から様々な情報を受け付けている書評コーナー。〈e-mail:go-go@pdx.ne.jp〉

ターザン山本　怨念のプロレス
(山本隆司/芳賀書店)

ブレーキの壊れた狂える暴走戦士・ターザンが、なぜか全編ローテンションで語り下ろす不思議な一冊。おそらく聞き手が大学時代からスポーツ文化の研究を始めた謎のスポーツジャーナリスト・乃木武(50歳)というのが全ての元凶なのだろうが、語尾を「です・ます」調にしたり「!」や「(笑)」を封印するオールドスタイルな編集によって、すっかりターザンの暴走ハリケーンな勢いが完封されているのが残念でならないのであった。

それでも要所要所にキラリと光るターザン・イズム(飽くなき「ごっちゃん体質」など)は感じられるのだが、何よりも『紙プロ』の青空プロレス道場でも明らかになった『東スポ』との揉め事が遂に活字化されたことこそ最大のポイントなのである。

まず、『東スポ』のM記者が書いた**「巌流島には底なし沼があって、試合の成り行きによっては危険極まりない」**との原稿を読んだ『週刊プロレス』のI記者が、わざわざ現地に乗り込んで地元の人々に「底なし沼はあるのか」とぶしつけに直撃。しかし**「そんなもんあるわけねえ」**とあっさり断言されてしまい、その後もさんざん島中を歩き回ったが底なし沼はなかったとキッチリ記事にしたところ、**「『週プロ』はプロレスの心がわからない。無粋なことを山本がやらせている」**と怒られたのだそうである。まあ、そりゃそうだ。

そのためか、**「東京スポーツのYさん、Kさんも私に対して"険"がありましたよ。ある時はちょっとしたことがきっかけで殴りかかられました」**とのことなのだが、この件に関しては『東スポ』側が断じて正しいとボクは思う。

続いて**「WCWの試合にしても日本の新聞には克明な速報が載っています。しかし、あれは現地の通信員連中が相談して時間を決めているんですよ」**と、勢いに乗って巌流島幻想のみならずWCW幻想までついでに破壊!

しかし、なぜか**「馬場がポツリともらしたことがあった。それ以後、私に対する態度が変わった」**と**『稽古中に力さんを決めたことがあった。』**の発言や、新日との交流戦で**「出場する全日本の選手を集めてゲキを飛ばしたんです。『相手が変なことをやってきたら、こっちも行け! 絶対に引くな!』と。要するに、"シュートで来たらシュートで行け!"と言ったんですよ」**と馬場が指令を出したことなどをいまになって暴露することで、馬場幻想だけはとことん巨大にしていくから不思議でならないのであった。

ターザン山本のマイナーパワー宣言
(インターメディア)

前書きの時点でいきなり**「やっと、言いたいことを吐き出せる。読者からの反論にも、本気で喧嘩を買ってやれる」「名もなきプロレスファンの一人として、ターザン山本は死に物狂いで戦い抜く」「ターザン山本は不死鳥のように、叩かれても蹴られても蘇る」**などとすっかり炎上しまくり、**「この本を読んで、私と激論を交わしたければ、ぜひともアクセスしてほしい。熱く、熱く、熱く、語り合おうぜ……」**とらしくもない発言で有料ホームページ『MINOR POWER』への加入を勧めていくターザンが抜群に面白い一冊。

しかし、ネット上の『MINOR POWER』は内容のみならず字が解読不可能なために続出する「マングル」などの誤字も含めて抜群に面白いのに、この本がイマイチなのはなぜなのか?

できることなら余計な編集もなく、「往生際日記」込みで発表順に並べた方がマット界の流れもわかってよっぽど面白くなったはずなのであった。**「このシリーズも続々と敢行されるので、期待してほしい」**と言われても、これではまったく期待できないのだから。

兄貴　梶原一騎の夢の残骸
(真樹日佐夫/ちくま文庫)

思えば小さな『紙プロ』誌上で連載されていた『書評の星座』が復活したのは、ラジカル2号の単発企画「男の必読書」で真樹先生の著書『兄貴』(有朋堂)を紹介したのが全てのきっかけであった。

ところが劇画王・梶原一騎急逝直後にリリースされた『兄貴』のオリジナル版『荒野に一騎咆ゆ』(日本文芸社)は絶版になり、そこに書き下ろしを100枚追加した『兄貴』は版元の社長がダイブしちゃったとの噂ゆえかあまり世間では流通しなかったのだから切ない限り。そんな調子でこれまで正当な評価をされずにきた名著が、遂に文庫化されたというわけなのである!

極真の用事でロスに行けば迷わず金髪のコールガールを呼び、**「ジャンケンで相手を決め、ベッドを並べての兄弟タッグと洒落こんだ」**上に、**「柔道の寝技を悪用し考えられる限りの体位をとらせて攻めたて、しっかりと締め括りをつけたところで、後戯はバイブレーターに委ねる」**しで、プロが金を受け取らず**「生気の失せた顔で腰を落とし帰っていった」**という普通なら追悼本でまず確実に出すわけもないエピソードを明らかにする姿勢には、男なら誰もが憧れるはず!

さらに文庫版では、著書『あさってのジョー』で梶原先生を取材した経験を持ち、**「目と鼻の先に真樹道場があり、いつか覗いてみたいと思っていた」**という猪瀬直樹の解説も追加! これは猪木の自伝同様に、オリジナル版を持ってる人も携帯用&布教用に持ち歩くべき男の必読書なのである!

喧嘩空手一代 東海の殺人拳・水谷征夫
(安藤昇/双葉文庫)

かつて雑誌『話のチャンネル』に連載され、82年にトクマドキュメントシリーズから単行本化された『東海の殺人拳』の文庫版。猪木に「1億円賭けて俺と闘え!」と鎖鎌片手に真剣勝負を挑み、気が付くと新聞に説得されて2人でケンカ空手・寛水流(猪木寛至と水谷をミクスチャーさせた名称)を作り上げた故・水谷館長の自伝的小説である。

まあ、オリジナル版のようにジャケに猪木の顔はないし、裏ジャケも猪木&新間&水谷館長というスリーショットじゃないし、あとがきは削除されてるしと不満は多々あるのだが、こうして読めるようになったことだけでも心から感謝する次第。なにしろ、力道山を脅したことで知られる渋谷系愚連隊・安藤組のボス・安藤昇が執筆しているという事実だけで、ボクはもう心から満足なのだ。

内容的には、やっぱり安藤昇の手による水谷館長の自伝的小説『野望』同様、猪木は巻末にちょっぴり登場するだけで水谷会長の「空手と酒と女と喧嘩」な若き日々を描いているのだが、**「拳闘家、武術家、相撲、プロレス、あらゆる格闘技家に対しての挑戦」**を繰り返し、挙げ句の果てには馬場にまで真剣勝負を挑んでいったのはどういう男なのか、理解するためには格好の資料だろう。

あとは、『やさぐれ必殺拳』(井上義啓・著、アントニオ猪木・協力/日本文芸社)と、「近所で花火が鳴れば力尽くで止めさせて、犬が吠えれば力尽くで黙らせる(反論されたら犬は撲殺!)」という証言を引き出した『紙プロ』本誌21号の寛水流二代目館長独占インタビューを読めば、もう完璧。

そうしたら寛水流出身の後藤達俊と松永光弘にも恐怖を覚えるようになること確実なのである。

激白プロレスラー列伝
(別冊宝島編集部・編/宝島社文庫)

これは別冊宝島のプロレスシリーズから**「反響の大きかったインタビューを厳選したアンソロジー」**とのことだが、もともと別冊宝島とはコクのあるルポルタージュを売りにした硬派な読み物だったはずである。

それなのに**「珠玉の激白の数々をこのまま埋もれさせてしまうのには惜しすぎる」**との思いから、中身が薄くなってすっかり業界誌化した『プロレス読本FILES』収録の時事ネタ・インタビュー中心に構成してしまうのは、逆に「惜しすぎる」ことなんじゃないかとボクは思う。

まあ、取材したことすら本人がすっかり忘れていた山口日昇の手によるインタビューで、ザ・グレートサスケ社長が**「プロレスラーは芸人のような存在」「芸人根性を持たないとダメ」**と当時から一本筋の通ったことを口にしていたりと、興味深い発言もないわけではない。

なにしろ、**「みちのく所属選手がもし団体離脱しようとしたら?」**という質問に対して、サスケ社長は**「何がなんでも引き止めますね、説得して」「デルフィンにしても誰にしてもリング上では敵ですけど、そういう根底での信頼というか絆というのは強いですから」**とキッパリ言い切っているのだから、もうたまらない。

こうして過去にユニバーサルの社長を務めた新間ジュニアが「親父見てて、裏切りって非常に怖いんで、信用できる人間で固めたかったから、完璧に身内で固めてますよ」と言った矢先にサスケ社長がみちプロを旗揚げした(それを『紙プロ』でネタにしたらボクが呼び出されてお膝蹴りを頂くことになる)過去を、再び繰り返していたことが発覚したわけなのである。まさに因果応報。

グレイシー秘伝　最強肉体改造術
(佐藤公一/徳間書店)

何故か**「全面協力」**という肩書でしかない平直行の名前が全面ならぬ前面に押し出されてしまった一冊。**「大道塾が世界最強の格闘技」**だと確信していた夢枕獏シンパな作者が、市原海樹がホイスに敗れたことによりグレイシー・シンパへとあっさり鞍替えし、我々にグレイシー・ダイエットの真髄を教えてくれるわけなのだが、感想は一言。ふざけるなグレイシー!

なぜなら奴等は**「炭水化物は1種類しか食べてはいけない」**と主張しているため、米と大豆の組み合わせも麦と豆の組み合わせも駄目ということになり、つまり納豆御飯や豆腐ハンなどの猪木イズム溢れた食料を否定しやがるわけなのである。ファッキン! 酒を飲んで煙草も吸ってる桜庭に一族が負けた

現在、もはや説得力に欠けつつあるグレイシー・ダイエット。とりあえず「体が軽くなって調子が良くなった」と証言する平直行を見る限り、体と言うより頭髪部分も軽くなっているようなので髪には効果がないと思われる今日この頃なのであった。

プロレス2001年を読む

（日本スポーツ出版社）

おそらく別冊シリーズに移動となった小佐野元ゴング編集長の趣味なんだろうが、従来のゴング勢に「プロレス崩壊」をブチ上げるターザンを加えた「他では絶対に揃えられない超豪華な10人の執筆陣！」による別冊ムック。

基本的には何度も流れた分裂説も無視して「三沢新体制の2年目は他団体によくある体制に造反行動を起こす反乱分子も出ず、内部からの批判や不平不満の声も聞かれずに、結束が一段と強まったようだ」と言い切る菊池孝先生に代表されるように業界的配慮が過ぎる原稿が多いものの、最近すっかり勢いに乗っているGK金沢現ゴング編集長の原稿がズバ抜けて面白いので文句なし！

まず、GKは89年の暮れに坂口社長が言い放った「来年度より興行のあり方を見つめ直し、変革していくことを考えています。一言でいえば大都市中心の興行形態に切り替えたい。もちろん、その合間に地方興行もやりますが、それはあくまで地方用の試合。そう言うと誤解を招くかもしれませんが、大相撲の地方巡業と思ってもらいたい。ですから、そういった地方試合はテレビはもちろん、新聞、雑誌にも取材していただかないという基本方針なんです」という知られざる爆弾発言を紹介していくわけなのである。

これはターザンが『週プロ』編集長時代の末期に「地方で手を抜く新日本」と書いたこと以上の問題発言だと思われるのだが、GKは「この10年、やはり新日本は静かにゆっくりペースながら、このプランを進行させてきたようにも感じる」とやんわり肯定してみせるのだから、さすがなのだ。

そして、「4・7ドーム大会に当初、WCWのアルティメット・ファイター、タンク・アボットの参戦が予定されていた」「プロレス志向の強いマーク・コールマンなど、いつでも出撃準備に入ることだろう」「DSEから新日本に対して、カシンの出場、さらに、飯塚、安田への出場打診もあったようだ」というインサイダーならではの情報力だってアピール！　飯塚ですよ、飯塚！

さらに「天山、小島をキャラクター・プロレスと揶揄する連中もいる」と前置きした上で、「レスラーとしての総合力でいうなら、私は天山がNo.1だと確信している」「小島の表現力の豊かさは、天才・武藤に迫るものがある」と言い切る姿勢も完璧だろう。往年のターザンに匹敵するほどの無闇な勢いを感じさせる、最近のGK。これが長州の復活でさらに勢いづくよう本気で願うばかりなのである。

南原清隆のリングの魂

（光文社）

雑誌『Ｒｉｎｔａｍａ』に関わった経験ゆえか、愛称で呼ぶことにも躊躇するほどいい印象のないナンチャン。『週刊宝石』に連載された「裏リンたま」も、明らかにゴーストライターが取材している感じが伝わってきて、好きになれなかったものである。

そんな連載をまとめたこの本を読んでも、予想通りボクの思いは一切変わることがなかった。

たとえば桜庭を「赤塚マンガのキャラクターみたいなトボケた顔」と表現するセンスは確かにいいものの、「高山選手は、新日の蝶野選手と並んでオシャレ。そのファッションセンスも全日に導入してほしい」と言い切るのには問題ありすぎ。やがて馳先生に「新日の武藤と全日の三沢を100点としよう。新日は、蝶野が98点、橋本が97点、健介が90点かな。全日は川田が99点、小橋が98点、田上が97点、秋山が90点だな」と選手を採点させたことで秋山準が激怒（『オーバー・ザ・シュート弐』より）するまでに至るのも、非常に納得できるわけなのであった。

それでも、単行本のために三沢と武藤の対談を実現させたことは素直に評価すべきだとボクも思う。内容はともかく、こういうことはとりあえず実現させることに意義があるのだから。

なお、個人的に印象深いのは「俺がライガーとか橋本とか健介の後輩だったら、すぐ辞めてるね」「先輩たちがみんないなくなっちゃったんで、だから橋本やライガーがイジメッコになっちゃったんですけどね、マジで（笑）」という武藤の新日内部いじめ告発と、「秋山は面白いですよ、どこに出しても」という三沢の他流試合進出宣言ぐらいのものなのであった。できれば秋山対馳のシュートマッチをPRIDEで見たい！

愚か者の伝説　大仁田厚という男

（高山文彦／講談社）

エロ本化する前の『宝島』で「オリンポスの箱船」という大仁田ドキュメントを連載した後、少年犯罪の実名報道で名を上げた大宅賞受賞作家による、コクに溢れた大仁田物語。

そういうわけで、「オリンポスの箱船」の頃から夫婦間の不和ネタまでキッチリ暴露していた著者が、過去にさんざんアピールしてきた「高校を三日で辞めた」という武勇伝も実は「悲しい作り話」で「高校へは進学していない」とあっさり暴露するのみならず、控室の中から病院にまでとことん密着する丹念な取材で、様々なことを明らかにしていくのであった。

つまり、小学校時代は「蝶ネクタイにスーツ」姿で高級レストランに連れていかれるようなボンボンで、「十四歳のとき、ドイツの独裁者の演説シーンに憧れた」という過去に始まり、FMW旗揚げ会見の「案内状にはわざわざ『乱入あり』と思わせぶりな添え書き」があったことまで暴露開始。

なにしろ、「リングの片づけもたまには手伝い、男子レスラーの額の傷を手当てしたこともある。女子レスラーに説教し泣かせてしまったこともあれば、悪役を演じる女子レスラーふたりが、口から火炎を吹き有刺鉄線をぐるぐる巻きにしたバットを振るうまでになって、よくぞ悪逆非道のかぎりを尽くせるようになったものだと褒め讃えながら、ふたりを前に泣いてしまったこともある」ほど内側に入り込んでいたのだから、その取材力たるや本当に尋常じゃないのである。

退団したフライングキッド市原に「バンディータをやるのがいやだったのか」と非常に聞きづらいことをズバリ直撃し、「違います。自分はバンディータをやることには誇りをもっていました。バンディータは自分にしかできないって思ってましたから」という名台詞を引き出したのも最高だ！

さらに、FMW荒井社長にも「小学生の頃からいじめに遭い、中学では校内暴力の嵐に巻き込まれた」という衝撃のカミングアウトまでさせてしまうのだから、もうたまらない。

「自分、もう死んだほうがいいって思ったりしたんですよ。小学生のころからいじめられっ子で、中学に入ってからはいじめられないようにいろいろと考えるわけですよ」

つまり、教師の側に立ってみたりワル側の言いなりになったりという自分の行動を恥じた荒井社長は、やがて「ボランティアサークルへの参加、身体障害者の生活訓練施設『アカシアの家』に就職、精神薄弱者の施設『ひまわり作業所』に就職」などのコク深い人生を歩み、そこでまた挫折してFMWに入ったのだという。かつて日本語を喋れないグレート・ニタが、なぜか唐突に荒井社長を通訳にして「いじめは止めろ！」と訴えた謎が、これでようやく解けた気がするのであった。

かくも深い絆で結ばれていた2人の仲も、大々的な引退ツアーを経てすぐに復活してきた大仁田と会社側の折り合いが悪くなったことでやがて決裂。しかし「俺は欲の深い人間だよ。みんなから無視される存在にだけはなりたくないんだ」「俺が怖いのは試合だけじゃない。プロレス界からサヨナラしたあとのことが怖いんだ」といった大仁田の生々しい台詞を聞くと、長州戦後に引退したところでまたいつか復活してきそうな気がしてならないのであった。大仁田ノット・デッド。

BRAIN　船木誠勝

（監修／"Ｓｈｏｗ"大谷泰顕）

船木が「スクワット2000回やったら本を出しましょうか」という条件を出し、Ｓｈｏｗ氏が3000回こなしたことで出版できることとなったという『スコラ』&『ＳＲＩＤＸ』再録インタビュー集（録り下ろしなし）。船木対ヒクソン戦の直前に発売されたためドーム横の山下書店では爆発的に売れたものの今後の売れ行きについては心配したくなるのだが、「100%勝つ自信がある」はずだったヒクソンに負けて船木が引退したいまになって読み直すと、いちいち矛盾が多くて逆に楽しめる傑作なのであった。

まず、94年の時点で「タレント業に進むということは考えませんか？」というＳｈｏｗ氏の質問に、船木は「タレントは嫌いです」と即答！

それ以外にも、今年から公式ルールがほぼ修斗同様「なんでもあり」になったというのにかつて、「今、時代は"なんでもあり"ですよね。でもかと言って、シューティングみたいにルールをそっちに変更させるようなことは一切しないです、ウチは」とズバリ断言！

自分もヒクソンにバックを取られてチョークで絞め落とされてしまったというのに、「（ビガロは）ハッキリ言って練習不足だと思います。知っていれば、絶対に後ろに回られないと思いますから」と、なぜかビガロを個人攻撃！

ヒクソン戦後には「今日のは格闘技です。スポーツじゃないんですよ」と語っていたというのに、試合前の取材では「昔の闘いだったら死ぬまでやってましたけど、レフェリーストップはアリだと思うんですよ。俺はやっぱりスポーツですからね」と、覚悟のなさを呑気に発言。

さらに、試合後のコメントでヒクソンを「強い選手です」「40歳を超えてあそこまで集中力があるっていう人はなかなかいない」と絶賛していたというのに、「勝てると思って（VTの世界に）入ってる人が負けた場合は、みんな口を揃えて『いや、あれはまぐれだ』って帰っていくし、『負けてもいいや』って売名で入っていく人は、『やっぱりヤツらは凄い』って言いますよね。それは人間の心理的な言葉だと思うんですよ。ホントに練習をして、『これだけ練習すればもういいだろう』って思って自分から技術をぶつけて、それでも潰されて帰ってくれば涙を流しますよね。心から苦しいから」とも過去には発言していたわけなのである……。だったら心から泣けよ、船木！　悔しくないのか!?　『スクール・ウォーズ』の滝沢先生ではないが、船木に対して最も腹立たしかったのは負けてサバサバしていたことに尽きるのである。

結局、この敗北は「ヒクソンに勝つには、ヒクソンにならなければいけない」「（他団体との技術交流は）なんで交流をしなきゃなんないの？って言いたいですね」などの頑なすぎる姿勢が裏目に出たということでしかないのだろう。別にヒクソンになる必要もないし、交流は大いにやるべきだとボクは思う。

それで「プロレスファンの在り方に嫌気がさした」ために引退するのもいいが、「近藤っていう人間は、アクがないですよね。だから悲しいヒーローなんですよ。ヒーローになれないヒーローなんですよ」と語る素材をエースに据えるのには無理があると自分でも思わないのだろうか？　本当に近藤をエースにしたいのなら、自分が近藤に敗れて引退していかなきゃ駄目だろ、絶対。

そして「別に、僕は『格闘家』ではない。自分にその『自覚』はないが、どうやら周囲の人は僕のことを『ライター』だと思っているらしい」「というのも、僕は自分でも『文才がない』と思っているからだ。だから『小学生並み』だと皮肉られても、思わずそれを認めてしまう。ところがその『小学生並み』の人間が、年に何冊も単行本をプロデュースし、出版しているのもまた事実」「ただね、ひとつ疑問があるのは『あの人の書いた文章は面白い』と言われるものを読むと、それは僕が『アマチュア時代』に書いてきたものと大差ないと感じることだ。僕はそれが嫌だったから『プロ』になったのである」だのと、後書きでいつも通りにさんざんボヤき続けるＳｈｏｗ氏にも、あえて言っておきたい。

もしライターでないのなら、一体キミは何のプロなのか？　肩書を見る限り、プロ「大衆芸術家」？　それともプロ「世迷い人」？

船木にとっての「プロレスラー」という肩書同様、それを名乗るだけの気概がないのならとっとと辞めろ、こんな仕事。とりあえず交渉事には長けているのだから、早くそっちに専念した方がいいと勝手にスーパーバイズさせていただく次第なのである。

ワシ掴め
サマードリーム!!
夏期限定連載
第1回

夏だ！ チューブだ!! ピーターだ!!!

紙プロ
お中元企画

新日本プロレス元レフェリー

ミスター高橋のチュービング道場

取材・文／中村カタブツ君
text by Katabutsukun Nakamura
撮影／村上厚志
photographs by Atsushi Murakami

やってきました夏が！ 夏といえばＴＵＢＥ！ プロレス界のチューブといえば、やはりミスター高橋をおいてほかになし！
　そういうことで、今回から３回連続でレスラーたちが実践する身体作りの方法を、紙プロ読者へのお中元としてお届けする夏期限定企画だ!

【今月のテーマ】

日本プロレス史上最高の腕回り（一尺八寸＝55㎝）豊登を目指せ!!

カッポン カッポン

カッポン

カッポン

〝怪力〟豊登といえば『プロレススーパースター列伝』の中では、金にだらしない〝日プロのダラ幹（だらしない幹部）〟として非常に印象の悪い男ではあるが、逆に言えば人の金だろうと、自分の金だろうと景気良く大判振るまいする、プロレスラーとしてはまったく正しい豪気な態度であろう。

実際、トヨさんの大ファンであり、崇拝していたと言っても過言ではないミスター高橋ことピーターは、巡業中、町でスレ違っただけで「メシでも食ってこい」と言われてポンっと当時の金で3万円も貰ったことがあるというのだから、しみったれた男であるはずもなく、ただ経営者としては向かなかったかもしれないだけなのだ。

一度は力道山先生が持っていた栄光のWWAのベルトを、デストロイヤーを破って、その腰に巻いたこともあるトヨさん。その55センチという太い腕っぷしは力道山先生をして「世界のレスラーの中でもこんな太い腕を見たことはない」といわしめたものだ。そんなトヨさんの『図太い腕』はいかにしてできたのか。この『ミスター高橋のチュービング道場』では、昭和のレスラーたちが自分の身体を実験台にして築き上げた、非科学的だが確実に効果のある身体作りの方法を、トヨさんらから直接聞いたピーターが後世に伝える意味も含めておくるものである。

第1回目はもちろん豊登の太い腕を目指せ！だ。

【あまりにも見事なケツだったので、おまけ】

リング上で腕を振るごとにカッポン、カッポンいわせていた、トヨさんの伝説の腕っぷしに憧れたピーターはある日、「どうしたらそんなに腕が太くなるんですか」と聞いたという。

その時、トヨさんはこう答えた。

「腕を太くしたけりゃ、足を鍛えるんだよなぁ」

運動科学的に言っても説明がつかない、このやり方だが、バカ正直にも実践したピーターは最高時に50センチ（小林邦昭・測定）もの太さにまでなったというから効果絶大！

トヨさんのアドバイスはさらに続く

「メシを食う時も『腕が太くなってください』と思って食うんだよなぁ」

なんて可愛いんだろう。

そもそもスクワットとは昭和30年代初めインド人レスラーのタイガー・ジョキンダーらが来日した時、実践していた練習方法であり、それを見た力道山先生が日本で初めて練習に取り入れたもの。つまり、スクワットそのものが日本プロレスの頑固な稽古と一体なのである。読者の方もその辺のことを味わいながら、改めてスクワットに取り組んでほしい。「腕が太くなってください」と願いながら。

腕が太くなる!! なぜか？
豊登直伝スクワット

来年、還暦で

この身体！！

どうだア!!

見ろこのケツ
大臀筋こそ強さの源！

彼女のためにも

男だったらゴムを使いこなせ!!

～腕編～

現在でも多くのレスラーが実践するチューブトレーニング。新日の佐々木健介、獣神サンダー・ライガーほか、実はハルク・ホーガン、アニマル・ウォリアーも行っている。生ゴムチューブトレの指導書を日本で最初に出し、30年の実績を持つピーターが集中的に腕を鍛える方法を伝授！

ツーハンズ・カール

上腕二頭筋を鍛えるこの運動は写真のように、ヒジを支点にして、手の平側を上に向けて水平に保ち、腕を上下させる。

ポイントは腕を下げる時に時間をかけてゆっくり行うこと。腕を上げる時よりも約3倍の時間をかけてじっくり行うことで効果は倍増する。

コンセントレーション・カール

これも上腕二頭筋を鍛える種目だが、こちらの方がよりハード。ヒジを支える太もも（写真では右太ももになる）を動かさないことが肝要。また、どの種目でも一緒だが、呼吸法は力入れる時に吐き、抜く時に吸う。もちろんこの種目もゴムを伸ばす時より、戻す時の方に、より時間をかけ、意識を上腕二頭筋に集中させる。

トライセプス・プッシュアウェー

上腕の裏側にあたる上腕三頭筋を鍛えるもので、ヒジを身体の側面につけて固定し、ヒジを支点にチューブを引く。人間のすべての動作は筋肉の収縮運動によって行われるゆえに筋肉はバランス良く鍛えなければ意味がない。内側を鍛えたら外側も鍛えるのは当然なのだ。

【スーパーセット】

この3種目にスクワットを加えたセットを行うことで見る見る腕は太くなる!!
「ツーハンズorコンセントレーション・カール10回＋スクワット30回＋1分休み」これを5セット。
「トライセプス・プッシュアウェー10回＋スクワット30回＋1分休み」これを5セット。
慣れてきたら負荷を増してセット数をアップだ！
・ポイント1
セットを行う時は1分間の休み以外は休まず続けること。
・ポイント2
腕の運動は、10回目がかなりキツくなるぐらいに負荷を調節する。

手に職を！ 整体で独立

日本古来の武道整体に現代医学を結合し、且つ30年の臨床経験を簡明に帰納した誰にでも理解しやすい理論と、安全で力を必要としない効果、抜群の技術を公開指導します。

●驚きました。難解な問題を本当に簡潔に整理された理論と技術のおかげで患者が急増しました。（針灸師　佐藤修さん）
●医学を勉強するのは初めてですが、スゴークわかりやすくて、これなら自分も「独立」できると確信しました。（高橋善明さん）

月2回10時間×6ヶ月の集中特訓で、まったくの素人をプロの整体師にまで責任指導します。
（10月～3月迄の第1、第3日曜日午後1時～午後6時）
終了後テストに合格した者は骨法整体師の免許証が授与されます。

又、希望により本会の支部長として開業することも可能です。
資格：高卒以上
詳しいことは下記に問い合わせ下さい！

日本武道傳骨法會
整体指導部

03-3362-0010
問い合わせ時間（PM7:30～PM10:00）
東京都中野区東中野4-3-2

ザ・検証

プロレス点と線

PRIDEを見に名古屋へと行って来ましたが、我らがミスタープライド・ショージ（村上ショージ）の出番も、期待のマイク（リングアナとして）もなし！
そういうわけで、いまだPRIDEの演出用花火の音のでかさに怯えながらも始まった、椎名&せきしろ（通称せき氏）のザ・検証。今回も「猪木も頑張ってるから」という理由だけで頑張って、わざわざ検証する必要の無いものをあえて、そしてわざと検証してみました！

ザ・検証

【今月の検証】

霊長類ヒト科最強軍団コラージュ　維震コラ

by せき詩郎

コーナーポストにかけのぼり、観客にアピールする越中。そして腰にベルトを巻くポーズ！　この写真がシートベルト着用を呼びかける交通安全ポスターに採用！

21世紀直前、相変わらずの妄想を形にするために、維震マニアたちはコラージュを作り始めた……。

我々の頭の中でいつまでも維震軍は維震し続けている。「ことが成ってもずっと維震し続けるわけだよ」という越中の言葉を忠実に守りながら、転がる石のように、はたまた転がるオムスビのように、そのオムスビを追いかけているうちに転んで自分も転がってしまう肥満児のように、それはとどまることを知らない。

本隊をぶっ潰す維震軍、ベルトを総ナメにする維震軍、遂に自主興行が海外進出（サイパンとかリバプール）をはたした維震軍……。維震マニア各々の維震軍は、ゲームのエディット機能で全パラメーターを最大値にして作られたような強さで、それぞれのパラレルワールドを作り上げる。もはや収拾はつかない。いまや維震軍は存在しないのに。いや、存在しないからこそなのか。

そんな維震軍の姿を実像化するにはコラージュという手段しかないのだ。

こうして出来上がった作品（僕の考えた維震軍）がいつしか私の元に集まり始めた。いつからなのか、どうしてなのかはわからないが（本当は私が募集したから）、その作品のいくつかを今回は公開しようと思う。この労力&技術力を他のことに使えばいいのに、そう思いながら見てもらいたい。

「フランダースの狂犬」
（寅ハンターさん作）

ネロとパトラッシュが最後に見た絵は、なんと維震の旗だったのです。死ぬ間際に念願の維震魂を注入され、安らかに眠るネロとパトラッシュ。きっと天国でも仲良く、本隊をぶっ潰していることでしょう……。

「慌てない、慌てない。ひと休み、ひと休み（試合ボイコット）」
（維震大好きっ子さん作）

小原でました！　小原の見事なトンチ。屏風に描かれた虎と戦うために気合いを入れる小原。この気合いにはさすがの将軍様もビックリとか。邦昭の跡を継ぎ、小原が二代目虎ハンターを襲名する日ももうすぐですね。

「選手権試合しかでなくていいとも！」
（維震命さん作）

起きるとやってる『いいとも』。お馴染みのオープニング。だけど良く見ると……!?　アレレ、タモさんが後藤になってるぞ！　「ビール持って来い、ビール！」と叫びながらタモさんが司会をボイコットする日も近いかも!?

維震コラ、通称アイコラ（“I”コラ）をＩの遺伝子を持つキミたちも作ってみないか？　一般的なアイコラと違って技術はほとんど不必要。必要なのは“勢い”のみだ。送り先は紙プロ編集部（kamipro@mail4.alpha-net.ne.jp）坂井氏宛、もしくは私のページ（http://home9.highway.ne.jp/ishingun/）までお願いします。それよりもどなたか私のためだけに、越中の入場テーマ曲（「ＳＡＭＵＲＡＩ」）で着メロを作ってください。機種はＳＯ５０２ｉです。もし本当に作ってくれる物好きな方がいましたら、ishingun@docomo.ne.jpまで連絡下さい。

「FIFAも越中も未公認」
（ミハイロビッチさん作）

モーションキャプチャーを使い、越中の動きをリアルに表現！　試合中じたばたしてみたり、チャンスでちょっと慌ててみたり、ケツを叩いてアピールしたりと、本物のサッカーを越えすぎて、サッカーでは無くなっているゲーム。

「昭和から平成へ」
（TEAMがちょんさん作）

長州率いる昭和維新軍を倒し（なんだかあやふやなまま）、時代を「平成」へと変えた瞬間をとらえた貴重な一枚。ところで写真の元ネタはご存知小渕元首相。ご冥福を祈り、合掌（そのあとパワーボム、は無し）。

ザ・検証

【今月の検証】佐山イズム

by 椎名基樹

「遠い昔、地球は丸いと唱え、大反響を呼びました」

掣圏道、アルティメット・ボクシング、横浜アリーナ大会の冒頭に、我らが佐山聡は挨拶に立ち、そう言い放った。そして、『PRIDE』は「過去に自分が通った通過点に過ぎない」と宣戦布告した上で、「アルティメット・ボクシングが地球は丸いと真っ先に叫んだ自分自身が確認した最先端技術だ」と宣言した。

最後に、自分がシューティング、UFO、掣圏道と放浪していくのは、「それでも、地球は丸いから、それでも格闘技だから」、さらに「自分の信念は曲げられません」と総合格闘技に殉ずることも宣言。死に場所は知らぬが、死に方は決めたという、人生の居直り発言とも受け取ることができ、そこに佐山らしいリベンジ魂も感じられ、力強い大会開催の挨拶であった。もちろん、挨拶の終わりには「押忍！（敬礼）」も忘れなかった。

猪木イズムとよくいうが、実際猪木にイズムなんて無い。「こだわりがあることが、強そうでいて実は弱い」と本人が言っているように、イズムの無さが猪木イズムの根本の姿だ。

かたや、佐山はその猪木の言葉が当てつけに聞こえるほど、イズムのみの男だ。「押忍！（敬礼）」という挨拶が示す通り、佐山は掣圏道をまず武道だと最初から定義付けた。それは、今までの佐山の行動を考えると180度の方向転換のように感じられた。それは、佐山がまんじゅうばっかり食べているからでは、もちろんなく、佐山がこれまで進めてきたことが総合格闘技のスポーツ化だったからだ。武道とスポーツは、講道館柔道とオリンピック柔道を比べてもわかるように相反するイズムがある。スポーツとは、つまりゲームだ。ゲームに対しては、それに勝つための合理性のみがあればいいハズだ。

そうすると、時に（もちろん必ずじゃないが）戦い本来の姿が失われたりする。佐山は今まで、合理性の鬼のようなイメージがあった。武道という響きは、タナケン先生がいうように、確かにイメージに合わない。少なくとも、佐山が作った修斗は今もっとも体系化された総合格闘技スポーツとなった。

しかし、佐山は武道を名乗ることを選んだ。掣圏道の格闘スタイルにも、最初からきっちりと武道らしい定義をしている。解釈を明確にしたイズムを用意している。掣圏道はストリート・ファイトを想定し、セルフ・デフェンスしいてはボディーガードとなることを目的とした技術体系である、というのがそれだ。では、なぜ佐山は武道という打ち出し方をしたのだろう。それは、冒頭の挨拶で示した通り、総合格闘技に殉ずることを強く決意したからではないだろうか？　そして、理想の総合格闘技を追い求めるには、プロスポーツの道では不可能だと悟ったからではないだろうか。理想を叶えるなら、完全に野に下り、グレイシーのような道場論の方法しかないと決めたのではないだろうか。

それでは、アルティメット・ボクシングの『PRIDE』への挑戦、早い展開のド派手なプロ興行と矛盾すると思う人がいるだろう。しかし、掣圏道の『PRIDE』参戦は、手っ取り早く強さを証明して、とっととプロスポーツの世界からおさらばし、道場の基盤を作るためのような気がしてならない。掣圏道の選手が全員ロシア人というところが、それを示しているようにも思える。シューティングの時のように、15年もかけて何かを作り上げようという気は、佐山にはサラサラないのではないだろうか？　15年かけて作り上げたシューティングも今では、自分のモノではないのだから……。だから、最強の格闘技がどうのとバカバカしいことを言ってる奴をあざ笑うかのように、最初から強い奴を用意し、早々と他流試合の場に出てきたような気がする。そして、強さを見せつけて、とっととおさらばするとすれば、それは猪木も含めた、佐山からみて総合格闘技を理解しないバカへの強烈なリベンジとなるだろう。あのロシア人たちは、くしくも北海道（旭川虎の穴！）で起こった、「YOSAKOI」とかいう鼻持ちならない祭りに向けられた、釘爆弾のように見えて、ゾクゾクとするのである。

と、ここまで書いたのですが、本当は今回、『PRIDE』、掣圏道、KOKと様々な総合ルールが出てきているので、僭越ながら俺が考える、理想の総合ルールを述べたいと思っていたのですが、佐山聡創始のことを書いているうちに長くなってしまい、さらに締め切りもとっくに過ぎていることもありこの辺で終わりたいと思います。非常に独りよがりな文章になってしまったことを詫びつつ、来月はもっと独りよがりに、素人の分際で総合ルールを提案したいと思っております。読者のみなさんで、俺もこんなルールを考えた、こんなルールで見たいという意見がありましたら、どしどし編集部の方にお便りをください。

コラージュ／尾崎貴春

CAT FIGHT WORLD

第3回目

「“マゾ”ファイトの魅力」

バトルビデオ企画・制作部　橋山さん

キャットファイトとは？

今回は、キャットファイトの一つ“マゾファイト”についてお聞きしたいと思います。今回インタビューに答えてくださるのは、バトルビデオ制作・企画部の橋山さんです。

今回は男が女に痛めつけられる「マゾファイト」の魅力に迫る！

――今回は、**マゾ代表**ということで（バトルさんに）ご紹介して頂いたのですが。

橋山　マゾ代表でですか。ははは……宜しくお願いします。

――まず、マゾファイトというのはどんなファイトなのか教えて下さい。

橋山　う～ん、難しいなァ。

――簡単にお願いします（笑）

橋山　バトルの中で、マゾファイトと言えば、「**ドミネーション**」と「**スムーザー**」ですね。

――え？　それって何ですか？

橋山　あ、「ドミネーション」というのは“**一方的にやられてしまう**”という感じで。「スムーザー」は“**窒息**”ですね。

――一方的に窒息？

橋山　基本的には、**男性が女性に痛めつけられてしまう**ファイトです。あくまでファイトなんですけど。そのファイト内容が“ドミネーション”で、“スムーザー”で痛めつけられると。

――男性が女性に一方的に窒息させられる。なるほどなるほど。

橋山　全部が全部そうではないんですが、そういうファイト内容が多いですよ。

――SMとは違うんですよね？

橋山　あくまで“キャットファイト”としての“**マゾ**”なんです。難しいですよね（笑）

――難しいです～。

橋山　本来、力で勝っているはずの男性が女性に痛めつけられてしまう“**屈辱感**”が良いという方もいますし。

――屈辱感ですか、あ～～なんとなく分かるな～～ッ!!

橋山　あとは“スムーザー”ですね。

――スムーザーって、**股間で顔面騎乗**したりするんです。

――こ、股間で顔面騎乗!?（ゴクッ）

橋山　あはは、女性の普段隠された部分、つまり股間や胸なんですけど、**そこで顔面を踏まれたい**って“欲求”があるんですよ。そこから性的部分を強調した“性的興奮”なんかも魅力ですよね。

――あ、あるかもしれません……。

橋山　元々男性の**八割**が、「本能のマゾ」って言いますからねえ。あとは、単純に“性的欲求”と、言うか。マゾ一つにも色々な願望があるんだと思いますよ。

――マゾファイト一つでもそれだけ深いんですね。深い、深いぞキャットファイト（笑）。

橋山　やられている男性の、**やられっぷりを観て興奮します**。

――やられる様を観るわけですか。では、女性のタイプとかには、こだわらないんですね？

橋山　まさか（笑）とことん、こだわりますよ。巨乳、巨尻はもちろんのこと、太った女性が良いって方もいますし、女王様のように厳しい目つきをする方が良いって方もいますし、逆に普通の女性、OLとか女子高生とか……（笑）。

――（前に登場して頂いた）木根さんが「**キャットファイトは十人十色だ**」って言ってましたが……凄い良く分かった気がします。

橋山　突き詰めて突き詰めて、それで自分が求めていた“マゾファイト”に出会えたら、本当に感動するんですって！（笑）。

――うーん、何だかとても勉強になった気がします。でも、きっと自分はマゾではなさそうです。

橋山　女優の江角まきこさん知ってますか？

――ええ、もちろんです!!

橋山　彼女のハイヒールで踏まれてみたくはありませんか？

――**踏まれたいです!!**　……あ。

今月のオススメビデオです!!

Step on Your Face

IBN―215

セクシー美女テイラーと、カワイコちゃんのケイトリーG、2人してガンガン男を踏みつける猛烈ヘッドストンピング編。男の頭に強烈なサッカーボールキックを見舞うテイラー男の顔をグリグリと足で攻めるケイトリン。痛烈なダブルトランプリングあり、足舐め拷問あり、最後にはホウキのワラを無理矢理食べさせる超クレイジーなトムが登場！

（約60分）￥10000

Princess of Punishment

IBN―216

テイラーとケイトリンは仲の良いルームメイト。そこにクリスが「オレは建設会社の者だが、部屋の壁に穴を開けにやってきた」と言いながら侵入。2人は奮闘の後、クリスをマザーボックスに閉じ込める。その後は、楽しいレッスンが開始された。まずはケイトリンがクリスの顔にドカッとお尻を乗せている隙に、テイラーが思いきりボディートランポリングを敢行！ダブルファイスシット、レッグ崇拝、などレッスンはどんどん厳しくなっていく

（約60分）￥10000

女子格闘技・キャットファイト・女子プロレス専門店『バトル』はこちらです

バトル上野本店
ワールド・バトル新規オープン
〒110-0005
東京都台東区上野2-8-7
永谷ビル１００１
●営業時間●
１２：００～２３：００
●ＴＥＬ●
03-3834-3869
03-3834-3873

バトルＵＳＡ新宿店
〒160-0023
東京都新宿区西新宿
７－１－７ダイカンプラザＡ館４０６
●営業時間●
１２：００～２３：００
●ＴＥＬ●
03－3360－0830

バトル渋谷店
〒150-0002
東京都渋谷区渋谷１－９－１４
第三石栄ビル３０１
●営業時間●
１２：００～２３：００
●ＴＥＬ●
03-5778-4080

関西地区・バトル大阪店　〒530-0018　大阪市北区小松原町1-2五えんやビル７Ｆ［営業時間］11：00～22：00［TEL］06-6363-3351

九州地区・バトル福岡店　〒812-0016　福岡市博多区博多駅1-3-8博多パールビル303［営業時間］12：00～24：00［TEL］092-413-7577

●通販でのお買い求めは下記店舗までお問い合せください。
●カタログは「オリジナル・ビデオカタログ1」、「オリジナル・ビデオカタログ2（各￥2000・税別）と「総合カタログリスト」（￥1800・税別）があります。
●通信販売でお買い求めになる場合、大変お手数ですが必ず上記店舗にて商品の在庫確認をお願い致します。
●ホームページもオープンしました。 http://www.catfight.co.jp

毎月が革命アニバーサリー（by 辻アナ）　RADICAL革命ぼっ発!

『紙プロUFO』が突如、飛来!

本隊（スモーノフ&チョロ&ガンツ）の不甲斐なさに風穴を開けるため

まずは 読者ページを乗っ取り!!

イラスト◎キャプテン名倉

度重なる発売日延期、テーマなき記事づくりの数々、些細なことがとんでもなく大きなトラブルとなる体質、開けた引き出しは閉めない、ゴミは捨てない、肉じゅばんは洗わない、食うことだけは一所懸命——「紙プロ本隊」というか、「紙プロ三銃士（スモーノフ、松澤チョロ、堀江ガンツ）」の不甲斐なさに、『紙プロ』創設者である山口日昇は遂にブチ切れ、前号の入稿中に作業をほっぽり出し、部屋を出ていったまま行方不明になってしまった。そしてそんなある日、編集部上空に未確認飛行物体が飛来した。アントニオ猪木のテーマ曲荘厳バージョンに乗ってタラップから降り立ったのは4人!　先頭に立っているのは、しばらくイギリス遠征に出ていたサミー・ゴーだ!　その後ろには謎の巨女と、やたらと叫びまくる中年男もいる!　そして、最後に降りてきたヒゲ&ハマキ姿の謎の男は、自らをミスター・ウォーリー・ヤマグチと名乗った。唾&ヨダレを吐き出しながら、その男が口を開く。「オレは久しぶりに怒ってる!　これからは『紙プロUFO』として、“闘い”の精神を忘れた『紙プロ本隊』をブッ潰してやるぜ!　（ここ何号かの『紙プロ』を手にして）ズバリ言ってこんなのは『紙のプロレス』じゃねえというか。奴らの目を覚まさせるために、まずは手始めに『読者ページ』から乗っ取ってやる!　マンセ———ッ!!」。ウォーリーなる人物が絶叫し終わると、未確認飛行物体は遥か上空へと消えて行った。風雲急を告げるとはまさにこのことである。毎号、松澤チョロが命を賭けている入魂（or 乳頭）の読者ページは、はたして『紙プロUFO』に乗っ取られてしまったのか?　そして姿の見えない大西タマリンはどこに行ってしまったのか?　この不穏な空気の正体を見たければ、これはもう急いでページをめくるしかな——いッッ。ヒャッホー——ッ!!（辻調）

を乗っ取る！「スモー、チョロ、ガンツ、お前らは死ねっ!!」

ウォーリー　元気ですかーーーッ！　え～、人は歩みを止め、闘いを忘れたときに老いていく。いまこそーッ、紙プロ・ロマンを突き進めーッ！　ジャイ子ッ、出てこーいッ！

ジャイ子　（薄笑いを浮かべながら）グフフフフフゥ。ジャイジャイ。

ゴー　いきなり気色悪いな、お前。なんでここにいるんだよ！

ウォーリー　ズバリ言って、ジャイ子を誌面に復帰させることにしたというか。

ゴー　あ、もしかして「紙プロUFO」の隠し玉って、これのこと？

ジャイ子　アタシ、か、隠れられない……。

ゴー　無駄にデカイからね。

ウォーリー　ガハハハ！　今回は、「紙プロUFO」のプレ旗揚げ戦として、まず読者ページ（「ハガキ劇場」）を乗っ取ろうと思ってね。ンムフフフフフ。

ゴー　押忍！（敬礼）。しかし、やけに小さいところから乗っ取りますね（笑）。まあ、確かにあいつは若い女子の投稿を優先させたりとか、いちいち姑息で腹が立ちますからね。それどころか読プレ用のグッズを優先的に送って、ついでに電話したりとか、本当にチンケすぎだし。でも、読者の女の子からは、「チョロをクビにしろ！　チョロはウンチだ」とかいう素晴らしいハガキが来てましたよ（笑）。

ウォーリー　だから、そんな半チクな読者ページは乗っ取っちゃえばいいんです。いままでのランキングとか似顔絵とか、今回は全部載っけない（笑）。あと、「前号で面白かった記事・面白くなかった記事」とかが、いつまでたっても主軸だったり、進歩がねーんですよ。毎号毎号変わり映えのしないことやってさ、流れ作業の工員じゃないんだから。そもそも読者なんて相手にしなくったっていいんです！（キッパリ）。

ゴー　読者ページなんだから読者は相手にしてもいいですよ（笑）。でもあんな、同人誌みたいに姑息なパイプの作り方はするなってことですよね。そもそも「面白かった記事」でボクがやったミスター高橋が二番人気だったのにそれは黙殺して、なぜか自分（読者ページ担当のチョロのこと）の記事を褒めるハガキばかり並べる根性も気に入らないし。

ウォーリー　ま、読者ページだけじゃなく、あの半チクな野郎どもに、オレは久しぶりに怒ってるというか！

ゴー　要するに「本隊」（スモーノブ、松澤チョロ、堀江ガンツ）の不甲斐なさに腹が立つから、創設者がアンチを唱えるってことですね。あいつらは企画は出さない、ロクなテーマもなく安直にインタビューを乱発する、「ものの見方」は備わってない。三拍子揃ったダメ「三銃士」だし（笑）。

ウォーリー　ま、「三銃士」と名のつくものはいつの世でも不甲斐ないというかね。ダーッハッハッハ。

ゴー　で、なんでジャイ子なんですか？

ウォーリー　いや、小川直也役をやらせようと思ってるんだよ。その本隊だか三銃士ってやつに"闘い"を仕掛けてほしいというか。

ゴー　でも、こいつ弱いですよ（笑）。

ウォーリー　でも、オーちゃんだって、最初は柔道時代のスリ足の名残りか、ドタバタしてたじゃない。

ゴー　じゃ、この巨人は、"すばる時代"のオーちゃんと（笑）。

ウォーリー　ガハハハ。目指すは"1・4事変"後のオーちゃんだね。で、オーちゃんは一部で"格闘フランケンシュタイン"っていう異名を取ってたこともあるでしょ。その「フランケンシュタイン」っていう部分と、そして「デカイ！」という部分。この二つの共通点と、いい年こいて、こんなアルプスの少女ハイジみたいな格好ができる身の程知らずな図々しさ。それを買ってジャイ子を"編集マシン"に仕立て上げようという戦略だね（笑）。

ゴー　ま、相当無理があるけど、フランケン・ロマンの道を突き進まそうと（笑）。

ジャイ子　フ、フランケンって……もっと可愛いのにしましょうよぉ（クネクネ）。

ウォーリー　お前、デカイのにクネクネするなよ、気持ち悪い！　そして、ジャイ子だけじゃ心もとないんで、格闘技側から、今日は珍しいお客さんが来ています！　勢いだけはある"中村上（なかむらかみ）カタブツ君"！　出てこいッ！

中村上　ウラウラウラ～ッ！　俺が中村上カタブツ君だぁ～ッ！　本隊なんてブッ潰してやるゾーッ！　特にスモーノブ！　お前、出てこい！

ゴー　これも相当心もとないんですけどね（笑）。あ、聞いて下さいよ！　ボク、ジャイ子にセクハラされたんですよ。こいつ、知能レベルだけはフランケンシュタインだから（笑）。いきなり真面目な顔して隣に来て「吉田さん、相談があるんだけど」って言うから何事かと思ったら、突然「………ボッキ……」ってボソッと言うんですよ。

ウォーリー　ガハハハ！　この世のものとは思えないね、どーも。

ゴー　「は？」って聞き返したら、「ボッキをソフトに言うとなぁにぃ？　海綿体が充血ぅ？」って、どうにかしてオレに恥ずかしい言葉を言わせようとしてるんですよ（笑）。

中村上　デヘヘヘ、強いなぁ。本領発揮すりゃ、強いんですよ、ジャイ子は。

ゴー　そういう意味では強いし、まさにシューターなんだよ（笑）。そんなジャイ子も本隊には腹立ってんでしょ？

ジャイ子　むぅ～、本隊っていうかぁ、もう……いなくなっちゃったみたい。

ゴー　（大西）タマリンのこと？　キミたち、仲悪かったよねぇ？

ジャイ子　仲悪くないもん。だって、あんなのと仲悪くなるほど喋ったこともないもん！（キッパリ）

ゴー　最初に負けたとき（「ルーザーリーブRADICALマッチ」のこと＝No.20参照）から腹立ってたんだよね？

ジャイ子　ううん（ちぎれるほど首を横に振って）！　最初にあの女が来たときから！（キッパリ）。

一同　ガハハハ！

ジャイ子　だってね、初めての取材に妹を連れてくんだよ～、おかしいじゃん！　最初っからそういうの許すから、調子こいて友だち連れて仕事行ったりするんですよ～！　あとさぁ、ジャイ子の下駄箱取られた！　ジャイ子が出かけてる間に、自分の靴入れてんの！　あ～、思い出したらムカついてきた！

ウォーリー　いいね、フランケン。その調子で迷わず言えよ、言えばわかるさ（笑）。

ジャイ子　（嫌味ったらしく薄笑いを浮かべながら）そういえば、タマリンはどうしたんですかぁ～？

ウォーリー　やめた。というか、やめさせたも同然（キッパリ）。

ジャイ子　（嫌味ったらしく薄笑いを浮かべながら）なんでですかぁ？　グフフフフゥ。

ウォーリー　あれ以上やったら、死ぬだろ！（99・10・11のアントン調）。

ジャイ子　「やったら」ってぇ……。グフフフゥ。なんで辞めちゃったんですかぁ？　なんかやらかしたのぉ？

中村上　ま、なんか、いろいろ噂はありましたからねぇ。デヘヘヘェ。

ゴー　「タマリンは風呂入らない」問題とかもあったしねェ。「自分の頭の臭さが我慢できないんですぅ！」って名言も残して。

中村上　俺はよく違う風呂には行くんだけどねぇ。デヘヘヘェ。

ゴー　そういえば巨人も、会社泊まってるときは風呂入らなかったよね。

ジャイ子　しょうがないじゃん！　会社にお風呂ないし、銭湯嫌いなんだから。でも1日とかでしょ？　タマリンは5～6日、ヘーキで入んないって、みんな言ってたじゃん！

ウォーリー　タマリンも会社に泊まって12時間寝るなら、家に帰りゃあいいのに（笑）。でも、そう言うけど、お前だって、パンツ3日間履き替えなかったことあっただろ！

ジャイ子　むぅ～。パンツは人知れず履き替えてました！（キッパリ）

ウォーリー　人知れずって、人に教えながら着替えてたら、変態だよ。

ゴー　「見て見て！　いま履き替えてきたの！」って、そんなこと言わねえだろ、バカ！

ウォーリー　お前は巨人症の上に露出狂か？（笑）。

ゴー　相当ロマンあるフランケンシュタインですよ、これ（笑）。

ウォーリー　オーちゃんっていうより、猪木さんが連れてくるって言ってた2メートル99センチの中国の山奥にいる大巨人だね、こいつは（笑）。あのね、タマリンがやめた理由は二つある。

ゴー　あ、二つ（笑）。

ウォーリー　一番はズバリ言ってギャグセンスが痛い！（キッパリ）。

一同　ダハハハハ。

ジャイ子　ああ～～。もう、それ思い出しただけで、虫酸が走る～。「モチのロン！」とか連発したり、文の語尾が「～でござる」とか「～～まする」とか、もう寒すぎまする～。

ウォーリー　ムキ出しだね、お前は。どーも（笑）。二番目はズバリ言って仕事が遅い。テープ起こしに1週間以上かかったらダメだろ。失敗した後、言い訳がすぐバレるような嘘だったりね（笑）。担当ページ数も圧倒的に少ないし、そんなこんなで三銃士とタマリンの間にかなり深い溝ができてたらしいしね。

ジャイ子　うっそぉ～！　チョロメ～ン（松澤チョロ）とデキてたんじゃないのぉ？　グフフフフゥ。

ウォーリー　最初はそういう疑いがかかるほど、仲よかったみたいだけどね（笑）。

ゴー　でも、チョロは「あれを下心と言われるのは心外だ。俺の下心はそんなもんじゃない！」って言ってましたよ（笑）。

中村上　ウヒャヒャヒャ！　でも、あの仕事の出来ないスモーノブが、タマリンのこと「写真整理すらできない」ってボヤいてたから相当なもんでしょ。オレはいまは仕事できるからね！（キッパリ）。

ジャイ子　頭にくるのは、あんなに仕事できないのに、泣かされたりしないでヘーキで会社にいたとこ。ジャイ子は、よくみんなにイジめられて泣いてたもん（クネクネ）。

ウォーリー　ま、ジャイ子はカワイクないからチヤホヤされなかったという証明だね、それは（笑）。おい、ジャイ子！　でも、そんだけ言うんなら、読者にも一目瞭然でわかるようにタマリンを超える仕事ができるんだな？　なんせお前、1回負けてんだよ？

ジャイ子　むぅ～。あれはタマリンが入ってきたばっかで、ちょっとカワイイからって、みんなも読者もチヤホヤしただけでしょー。ホントな

"編集フランケンシュタイン" ジャイ子復活!!

★ジャイ子（←now　↑early）
身長180センチ、体重2万トン。『紙プロ』では、その薄気味悪いキャラとデカすぎる身長で存在感を振りまいていたが、大西タマリンが入門してくると、その存在はグラつき始めた。本誌20号では、『紙プロ』に女は2人もいらないということで、当時新人だった大西タマリン相手に、同じテーマで取材&執筆し、読者投票によって負けたほうが編集部を去るという、「ルーザーリーブRADICALマッチ」を敢行。結果はジャイ子の圧敗！　その結果、編集部を石持て追われる身となったのだが、今回、『紙プロUFO』所属の"編集フランケンシュタイン"として、満を持して復活！　はたして『本隊』にシュートを仕掛けることができるのか？　ジャイジャイ

『紙プロUFO』、本隊を潰しに飛来！ 読者ページを

ら負けないもん、簡単に潰せるもん！ あんなの、ただちょっとカワイイ姉ちゃんってだけだもん！

中村上　デヘヘヘ。シューターだねぇ。

ゴー　っていうより、ヒクソンを「ただの柔術のオッサン」呼ばわりしたときの高田みたいですね（笑）。

ウォーリー　ジャイ子、やれんのかーーッ！

ゴー　オーちゃんみたいに、これからはワンマッチ参戦でインパクトを残していくわけでしょ？

ウォーリー　まず、今号は読者プレゼントのページをタマリンの代わりにやったんだろ？

ジャイ子　むぅ～。代わりじゃないもん！　タマリンが一時期ジャイ子の代わりにやってただけですぅ。

ゴー　本来は自分のページを短期間やらせてあげただけだと。それで、今回はエゲツない原稿書いたわけね。

中村上　ウヒャヒャヒャ。あれは、凄かったっスねぇ。

ジャイ子　うっそぉ？　あれ、ホントにソフトに書いたんだけど。そよ風のような原稿だよぉ。

ゴー　昔っから、こいつの書くものはプロレスにもならない牙剥き出しのものが多くて、前田vsアンドレ戦みたく、ボクらがお蔵入りにした原稿とかあったからね。まさに女アンドレ（笑）。

ウォーリー　嫌いなものに対しては、すぐ牙剥き出しになるからね、こいつは。いつ何時でも、ムキ出しにしかできない（笑）。

ゴー　要するに巨人が言いたいのは、「タマリンよりはできる」ってことなんでしょ？

ジャイ子　うん。読プレに載せるお店の電話番号とか、ジャイ子のほうが間違い少ないよぉ。

ウォーリー　間違い少ないって、そもそも少しでも間違えちゃダメなんだよ、この人造人間！

ジャイ子　むぅ～。でも、ジャイ子、お店とかには、間違えたら謝るし。

ウォーリー　ガハハハ！　それは重要だね（笑）。そう言えば、チョロに聞いたんだけどさ、タマリンって、脱いだパンツをチョロに借りてた上着のポケットに入れっ放しにしてたらしいじゃん（笑）。

ジャイ子　ケッ、だらしない女！

ゴー　そのパンツ、まだチョロが持ってるらしいよ（笑）。

中村上　凄ェなぁ、チョロ。ちょっと尊敬するなぁ（笑）。

★

ウォーリー　で、ナカムラカミ！

中村上　ウォーッス！

ウォーリー　本隊には噛みつきたいことが、いろいろあると思うんだけど、どうだい？　ズバリ言って遠慮すっこたぁねえというか。

中村上　あ、あいつらはぁ、「ラリアット・プロレス」しか覚えてないんだよォォォ！　弱いくせに大技ばっかり出すんだよォォォ！　ウリャーッ！（意味不明の絶叫！）。

ゴー　基礎やる前にラリアット覚えちゃったからね、やつらは。

中村上　座談会とかやってても、ギャグしか考えてないんッスよ！

ゴー　ずっと黙ってネタ考えて。会話に参加しようっていう思いがないわけでしょ？

中村上　もう、全然ダメ（キッパリ）。

ゴー　なにか大事なことを忘れてますね。

中村上　ボッコリ抜け落ちてんだよーッ！　オリャーッ！

ゴー　今回、なんで「紙プロUFO」なんていうアングルを持ち出したかっていうと、ぶっちゃけた話が本隊がダメなことで「『紙プロ』がダメだ」って言われることにボクらはいい加減腹が立ったわけですよね（笑）。

ウォーリー　ズバリ言ってそういうことです！　なんで本隊が勝手にやったことが、『紙プロ』とイコールにされなきゃいけないの？　というか。

ゴー　例えば「『紙プロ』のアメプロ特集はまったくダメ！」とか、「山口と吉田はアメプロをわかってない」とか言われますからね。オレらがやったんじゃねえよ！って（笑）。

ウォーリー　それこそあいつら業界用語で言っちゃうと、青焼きが出てくる日に原稿が入ってないなんてことしょっちゅうだからね。物理的にチェックのしようがねえんですよ！　アメプロなんて触ってねえですよ、そんなもん。

ゴー　あいつらと一緒にすんな！

それだけなんですよね（笑）。

中村上　『紙プロ』を改革しようっていうんじゃないんですかァッ？

ゴー　改革っていうかね、とにかく一緒にされたくないだけ。押忍！（敬礼）。

中村上　俺は改革しますよォォ！　あいつらの性根を叩き直してやりますよ！　ガンガン行きますよーッ！

ウォーリー　じゃあ、具体的に言ってこうか。

中村上　あのね、まず前号の佐山さんとタナケン（田中健一）の対談！　チョロは姑息なんだよ。あ～れは腹立って……（以下、「待ち合わせ時間がどーの」「打ち合わせと違うのどーのこーの」「言った言わないがどーのこーの」と、読者に言ってもわからない細かい文句を延々語り続ける）。

ウォーリー　おい、この村上一也役、やけに歯切れが悪いぞ（笑）。

ゴー　反省会じゃないんだから。プロレスわかってないね（笑）。

中村上　アウ～ッ。プロレスなんかわかんないッスよ！　俺はガンガン行きますよ！

ウォーリー　ナカムラカミ、お前は真っ白いキャンバスにどんな絵を描くんだい！

中村上　そんなこと一度も考えたこともなかったッスよ！

ゴー　まだ「見せる」ってことがわかってないんですよ。

中村上　オリャオリャオリャーッ！　わかってないッスよ！　それとね、ガンツも姑息な匂いがする。まだ新人のクセに。

ウォーリー　ガンツはキャリアを考えればよくやってると思うんだけど、まだ壁にぶつかったことがないから、底力がどれくらいあるのかわかんないからね。

ゴー　まだ恥を掻いてないですからね。そろそろ追い込みかけますか？（笑）。

ウォーリー　あと、掻いて掻いて恥掻いて、裸になっても一向に何も見えてこないスモーノブ！　スモーに対しては、ナカムラカミは言いたいことが山ほどあるだろ？　昔『バカ日誌』（別名『カタブツランド』本誌No.3～No.13参照）を書かれた恨みもあるだろうし。

中村上　それがねぇ、逆にいまはエールを送りたいぐらい。頑張れーッ！って言いたいくらい。どうにもこうにもヒドすぎ！　だいたい『バカ日誌』でオレはさんざん蹴られてたじゃないッスか！

ウォーリー　プロレスに例えればね。

中村上　昏倒するぐらい。

ウォーリー　ガハハハハ！　失神昏倒するぐらい（笑）。30枚くらい束になってる書類をホチキス止めたままFAXしようとするくらい昏倒してたと（笑）。

ゴー　もはや昏倒というよりもコントだけど（笑）。

ウォーリー　それでナカムラカミは一度逃げ出したからねぇ。

中村上　オレ、あの頃はホントに死ぬかと思いましたからねぇ（笑）。そのくらいオレはボロボロになってたのに、いざ心を入れ替えて『紙プロ』に帰って来て、「誌面で勝負しよう」「普段の会話でも勝負しよう」って思って仕掛けても、どうも乗って来てくれないんスよ！　まだ自分の力がオレより上だと思ってんスよ。あの頃はみんな、あいつが若くてキャリアがないから優しくしてくれてただけなのに。ったく、いつまでも甘ったれてんじゃねえよ！　ウォリャーーーッ！

ゴー　無駄にかけ声だけはデカイね（笑）。

ウォーリー　ところで、今回のテーマは、いまの『紙プロ』は、このままでいいのかってことなんだよ。

ゴー　でも、会長（ミスター・ウォーリー・ヤマグチのアダ名）が失踪中に作られた前号は売れてるらしいじゃないですか？　会長がまとめてない桜庭インタビューが大人気！

中村上　いや～。あれはまとめを担当した俺にしても不本意なんですよォッ！　サクの言葉とか言ってることはバツグンに面白いから助かってるんッスけど。

ウォーリー　うん。売れてるのはサク効果だろうね。ま、まとめに関しては、わかる人にはわかるレベルではまだまだなんだけど、でも、それを抜きにしてナカムラカミがよくやってくれたというか。

中村上　デヘヘヘェ（嬉しそうに）。

ゴー　でも、最近は全体的に見ても、「この程度で名勝負？」と言われる、いまの「平成プロレス」と妙にかぶりますよね。本来は「そんなもんじゃねえだろ！」っていうね。

ウォーリー　オレはズバリ言って、ここんとこ、『紙プロ』なんて読んだことねえですから（笑）。最近、面白かったページある？　オレがやったページ以外で。

ゴー　ボクのページは面白いですよ（笑）。

ウォーリー　豪ちゃんの、いや、サミー・ゴーのページは面白いとして（笑）。前回、オレは入稿時にいなくなって、パラオのイノキ・アイランドに行って静養してたから、よくわかんないんだよ（笑）。

ゴー　パラオでインターネット三昧（笑）。

ウォーリー　なぜかというと、前々号でも大幅に発売日が遅れたでしょ？

ゴー　遅れるっていうのは、プロレス的に例えると何なんですかねぇ。バスに乗る時間に遅れるとかでいいのかなあ？　三銃士はホントに寝坊でって（笑）。

ウォーリー　試合開始時間は過ぎてるのに、リングが届かないというか（笑）。発売日を延ばす度に、オレはしなくてもいい借金が増えていくというか（笑）。でも、オレは予告してたんだよ。「今度、1日でも予定より遅れたら、オレはいなくなるよ」って。それを本気にしてなかった本隊の不甲斐なさといったらないね。優しくしても怒っても、丁寧に言っても突き放しても、どんな手使っても、いつまでたってもできねーんだもん。そうなったら、最後はオレがいなくなるしかないじゃん。いつまでたっても、やつらの尻拭いをオレがやると思ってるからできねーんですよ。でも、それもワザとでね。オレがい

『紙プロUFO』選手紹介

★中村上（ナカムラカミ）カタブツ君（37歳）
日本全国を混乱の渦に陥れていたかつてのダメっぷりを払拭し、いまでは『SRS・DX』で記者として大車輪の活躍をし、『極真外伝』という立派な本まで出すようになった中村カタブツ君（37歳）が正体か？　現在の勢いは、ヘルスで本番しかしたことがないことで証明済み

★サミー・ゴー
『紙プロ』出身のフリー選手の立場から、いつも本隊に対してスーパーバイズしているセメント軍曹・吉田豪が正体という噂。好きな物は甘い物と他人の揉め事（&キャバクラ）。座談会での発言は、佐山聡のタチの悪さを重ね合わせて読んでいただけると幸いです。押忍！（敬礼）

★ミスター・ウォーリー・ヤマグチ
どうやら本誌鬼畜編集長・山口日昇が変装したらしい。「本隊」の不甲斐なさを見る度に「こんな会社やめてやる」といって外に飛び出す、藤波辰爾・札幌バージョンな日々に別れを告げ、『紙プロUFO』を結成。自分でつくった会社&雑誌を潰しにかかるのは何かのビョーキか？　ンムフフフ

お前らがその気でくるなら受けてやるぜ、この野郎ッ！

なくなったら、前号は発売予定日に出た（笑）。

中村上 ショック療法（笑）。ボクも見事にはまりましたね。いなくなったときは腹立って腹立ってしょーがなかったけど。

ウォーリー あのね、ダンディズムっていうのは、人にショックを与えることなんだよ。ショックを与えて脳みそのシワを伸ばすんですよ！ でしょ？（前田日明調に）

ゴー ちょっとキャラ間違えてますよ（笑）。で、やっぱり三銃士はいつもボヤいてるわけですよね。「オレらは会長に誉められたことがない」とか言って（笑）。

ウォーリー ズバリ言って、誉めるとこなんて1ミリたりともねえですよ！ ヤツらは〝闘い〟の精神を忘れてるというか（笑）。

ゴー その点、ナカムラカミは闘いというものをとりあえず念頭に置いてますよ、よくわかんないけど（笑）。

中村上 闘うけど、ボンボン潰されたりしてますからね。

ゴー それでいいんだよ、とにかくギラギラしてて、向かって行って負けてっていう（笑）。

ウォーリー ナカムラカミは『SRS・DX』他のリングで立派な闘いを展開してるし、外に出て闘ってるからね。ウチの連中は外に出て行けねえだろ、あれじゃ。どこに出しても恥ずかしいもん。ロクにしゃべれないし。

ジャイ子 でも、チョロメ〜ンはリングアナやってたよ〜。

ゴー リングアナって、それケロちゃんじゃん！ 三銃士のやることじゃねえよ（笑）。ギャグセンスもケロちゃん級だし。そういえば、タマリンも他団体のリング（他の雑誌）で仕事やってたらしいですね。

ウォーリー そうらしいね。オレの知らないところで外で仕事してたみたい。大したタマだね。

ゴー タマリンだけに（笑）。

ジャイ子 むぉ〜。なにそれ？ 社員のくせにアルバイト！ ジャイ子なんてアルバイトしながら『紙プロ』やってたのに。

中村上 デヘヘヘヘ。自分はそうまでしても社員になれなかったのに、あの女は社員に簡単になれた上にアルバイトまでしてる、と言いたいわけね。

ジャイ子 全然文章も書けないくせにさぁ。なに、あの『珍獣ナントカ』って！（『珍獣日記』＝タマリン執筆の読者ページの1コーナー。本誌No.21〜No.24参照）

ゴー また個人攻撃だよ（笑）。

ウォーリー その『珍獣ナントカ』っていうのはなんだい？

ジャイ子 『紙プロ』周辺の人間を面白おかしく書きたかったんだか、なんだか知らないけどさぁ、ジャイ子のこと〝巨女獣〟とか書いてあったけどさぁ、なんて読むんだよ！ 会長のことは〝のびぃ〜獣〟とか書いてあるし。ア〜ッ、気持ち悪い！

ゴー お前も結構気持ち悪いぞ（笑）。

ジャイ子 エッ……（顔面蒼白）。

中村上 紙プロUFO、早くも分裂（笑）。

ジャイ子 ……あと『桜井マッハ速人への道』？ マッハはもっと面白いっつーの！ あれじゃマッハが可哀想！

ウォーリー でも、そのタマリンは「最近の『紙プロ』には〝遊び心〟がない」って三銃士に対しても噛みついてたね。だから、本人は遊び心満載のつもりだったんじゃないの（笑）。

ジャイ子 じゃあ、『J-CUP座談会』（No.26参照）は遊び心満載だったんだぁ。グフフフゥ。

ゴー マスク被って写真撮ったりしてたからね（笑）。

ウォーリー ズバリ言って、UFO的に言えば遊び心を誤解してるっていうかね、ンムフフフ。

ゴー 「遊び心がない」っていうのは確かにわかるんだけど、だからと言ってタマリンの仕事に遊び心があったのかどうかは疑問だよね（笑）。

ウォーリー 最近のノブ、チョロ、ガンツのページは業界チックというか、そういうところはあるでしょ。うちは「プロレス雑誌内プロレス雑誌」じゃないはずなのに。

ゴー 本来なら対世間を考えなければいけないのに、三銃士は〝お仕事〟に徹してるでしょ。

ウォーリー いわゆるクリエイティブなとこがまったく見えない（笑）。業界チックになるならなるで、どこにも負けない情報を持ってくるとか〝特化〟するんだったら、まだいいんだよ。でもスモーは相変わらずボーッっとしてて、マット界全体の流れもわかってないし、なにが起きてるのかも把握してないし、試合日程すら即答できないし。もうサル以下。チョロはインディーにしか目が行かないとか、それこそ読者ページレベルの小ネタばっかりだし。インディーをやるんならやるで、その団体なりレスラーをどう見たら面白いのか、今後どういう渦を起こしていくのか、それを伝えないとね。ファンレベルのインタビューじゃ、もう通用しねえんですよ。

ゴー 本隊は視野が狭いんだよね。ジャイ子の視野は高いんだけど（笑）。

ウォーリー だから本隊は、ズバリ言って、小っちゃい版型の『紙プロ』も眺めてただけじゃないか。

ゴー 小さい版型の頃の『紙プロ』を「昭和プロレス」とするなら、「昭和が好きで入って来た」って言う割にはやってることが違うだろうという。

ウォーリー 「ボクはホントは昭和プロレスがやりたいんです」とかスモーも一時期言ってたもんな。お前のいまの実力じゃ無理だっつーの（笑）。

ゴー 小島（聡）選手とかが「猪木さんが好きで入りました」とか言ってるけど「好きでそれか？」っていう、それと同じですね（笑）。

ウォーリー 桜庭和志がなんで大一番でモンゴリアン・チョップやまんぐり返しができるか。それを考えてほしいね。

中村上 ウラウラウラウラーッ！ それですよ、オレの言いたいことは！ だってあいつら基礎もなんにもないのに、客ウケする技ばっかり出そうとすんだもん！

これが『紙プロ』本隊（三バカトリオ）だ！

●堀江ガンツ
特技：外人格闘家とフレンドになること。その笑顔の裏に隠された腹黒さは天下一品

●松澤チョロ
特技：キャットファイト＆リングアナ。その姑息さと弱火ギャグは一部だけ天下一品

●スモーノブ
特技：浅薄な知識と旺盛な食欲＆逆ギレ。そのだらしなさと無責任さは天下一品

ウォーリー 道場であいつらロープワークしかやってないもんな。ホントは基礎がないと遊べないということがわかってない。確かに雑誌はつくってる人間の顔が見えなきゃいけないんだけど、あいつらは考え方やら文章の間から〝顔〟を見せるんじゃなくて、ただ単に誌面に顔写真を出しまくったり、キャラを立たせることしか考えてなかったり、大事な部分がスッポリ抜け落ちてる。活字で表現するという本分を忘れきってるというかね。だって、スモーは肉じゅばん着てるし、チョロはチョロで、キャットファイトやってるときは編集部で見せたことのないような一生懸命さでやってるっていうし。みんな何がやりたいんだか、よくわからないもんね（笑）。

ジャイ子 みんな、出た……ながり……あれ？ 出た……ない？

ゴー なに言ってんだよ、この巨人！

ウォーリー 「出たがり」すらもスムーズに言えないのか、この人間山脈！

中村上 ウラウラ、ウリャーーーーッ!!（意味不明の叫び）。

ジャイ子 むぉ〜。ちょっと噛んだだけじゃない。それにスモーのあの肉じゅばん、ジャイ子が洗濯したんだよ〜。あまりにも臭いからってチョロメ〜ンが、ジャイ子ん家まで持ってきてさあ。

ゴー 巨人も三銃士に頭来てたんでしょ？「三銃士の（インタビューの）テープ起こしは今後一切やらない。会長と吉田さん専属になる！」とか言ってたじゃん。

ジャイ子 だって、（聞き手側が）何言ってっかわかんないんだもん。だいたい、スモーはものの頼みかたも知らないから、頼まれただけでムカつくし（キッパリ）。でもね、いまは三銃士はガンチューにない！

ゴー それ、ガンツに掛けたの？

ウォーリー ガンツはガンツーにないというか。なーんつってな、ダーッハッハッハ！……だから、三銃士のインタビューでも3〜4年前だったら、かなりのレベルっていう部分もあるんだよ。でもインタビュー手法にしたって広がっていけば飽きられるんだから。

ゴー これだけライバル誌が増えているのに、危機感もなくラリアート連発するなって。小さい頃の『紙プロ』の版型を他誌にパクられまくったからウチが版型を大きくしたら、またどこも大きくなったし。ウチがロング・インタビューという手法でレスラー個人にスポットを当てる手法を主体にしたら、あっちこっちが長めのインタビューだらけになったわけでしょ。

ウォーリー だから、同じインタビューするにしても〝「活字プロレス」ならぬ「対話プロレス」を確立してやる〟とか、そのくらいの大きなテーマをもってやれば全然違ってくるんだけどね。そういう部分でも、非常に〝闘い〟の精神が足りないというかね。

★

ウォーリー スモーがさ、（浅草キッドの水道橋）博士ん家に行ったらしいんだよ、こないだ。そこで何があったか、博士のHPの日記（「浅草キッドのネット寄席『Kid Return』」）を見たら、その活字の量と質たるや、凄い！ 現場の空気、その場で何を見たか、見たことについて何を感じたか。資料的価値はあるし、なにからなにまでシッカリ伝わるようにビッシリ書いてあるわけ。ブレット・ハートが主演の、舞台裏からなにから全て映してる向こうのドキュメント映画の貴重なビデオを見せてもらったらしいんだけどね。

中村上 ウリャーーーッ！ それ、しかも同時通訳の人付きですよ！

ウォーリー でも、スモーはそれをどう報告したかって言ったら、「日曜日に博士ん家に行ったんですよ。アメプロの裏ビデオとか見ました」って、たったそれだけ。

中村上 ホントッスか！

ゴー ボクには「ラー油のかかったポップコーンがうまかったです」って報告してましたね（笑）。

中村上 ウリャーッ！ もうバカすぎ！ この仕事やめちまえェェ！

ウォーリー だから、あべこべなんだよね。博士が編集者で、スモー・ノブが売れない芸人というか、ただ食うだけしか脳がないデブというか

スモーッ！ チョローッ！ ガ〜〜ンツッ！ お前

（笑）。スモーが本来やるべき仕事を博士がやってくれてる。

ゴー スモーはただ接待されただけで、しかもそこで不用意な発言を結構してたらしいですからね。「田中正志のインタビューやらなきゃいけないですねぇ」ってスモーの発言が博士の日記に出てたんだけど、「シュート活字」も何も考えたことのないお前が何を勝手に話を決めてんだよって（笑）。これまで「アメプロを語るなら田中正志の本をまず読んで、それと違うことをやれよ」ってさんざんスーパーバイズしてやったのに、あいつは「そんなの読む必要ないっスよ！」とか言ってたんだよ。

ウォーリー その田中正志の提唱する「シュート活字」にしても、うまく問題提起していけば、もしかしたら大きな渦になるのかもしれないっていう矜持を含んでるにも関わらず、「アメプロの裏ビデオを見てきました」、その一言で済ませる危機感のなさ！ もう、そんなの編集者じゃねえです（笑）。そういうこと普段から考えてて肉じゅばん着てるんだったらカッコいいんだけど、あいつは、ただ肉じゅばん着てるだけだもんなあ（笑）。この仕事3年半もやってるのに、いい加減目を覚ませって。

ゴー 目を覚ましてくださ〜い（笑）。なにを言っても聞いても「糠に釘」ならぬ「ブタに釘」ですからね、あいつは。

中村上 クズ野郎ッ！ ウリャーーーッ！

ウォーリー 「スモーノブ、お前は死ね」というかね。ンムフフフ。それから！ 基本的に本隊は「言語」っていうものを勘違いしてる！

ゴー は？ よくわかんないですけど、聞いてさしあげましょう。押忍！（敬礼）。

ウォーリー あのね、人間の「言語」はコミュニケーションの手段としてだけ発達したんじゃないんだよ。言葉がなくてもコミュニケーション取ることは可能でしょ？ アイコンタクトだけでもコミュニケーションは取れるじゃん。それに、動物同士では言語がなくってもコミュニケーションできるし。動物には動物のさまざまな言語があるらしいけど、それはコミュニケーション用の言語のみなんだよね。でも「言語化」するというのは、人間特有の作業でしょ。その特有の能力はなんで発達したのか。それは、自分の頭ん中の考えを整理したり、頭の中のいろんな回路を繋ぐためなんだよ。でも、スモーとかチョロは、コニュニケーションの手段としてしか「言語」というものを捉えてないでしょ。だから、「自分は人間関係をつくるのが苦手で」とか「シャイで」とかタワけた場所に逃げ込むわけよ。他人に対してしか言語を使わないの。

ゴー 自分に対して問いかける言語感覚がないと。

ウォーリー そう。自分と向き合うということがない。「言語化」できないっていうのは、自分の頭ん中が整理されてないし、聴覚や視覚との回路が繋がってないってことだから、なにを伝えていいかわかってないってことなんだよ。極端にいえばクリエイティブな部分で伝えたいことがないの。周りの流れに身を任せてるだけ。タマリンも言語化できなかったでしょ。そんな状態で不特定多数の読者に「伝わる」わけがない。

ゴー そういう意味では、ジャイ子も活字表現には向いてないですね。

ジャイ子 むぉ〜。ジャイ子もいま、そう思っちゃったぁ。ジャイジャイ。

ウォーリー でも、「言語化できない人」は、活字表現だけじゃなく、他の身体表現にしろ映像表現にしろなんにしろ、できないよ。レスラーや格闘家だって、強い人はちゃんと言語化できるじゃん。言語化できるってことは、自分の伝えたいことを持ってるってことだから。

中村上 確かに、どんな職業でも優秀な人は、自分の言葉を持ってますからね。オレも自分の言葉として叫ぶぞ〜！ ウリャーーーッ！

ウォーリー うるせーな、こいつ（笑）。なにも理路整然としゃべれとか、名文を書けって言ってるわけじゃないんだから、最低限「なにを伝えたいか」を整理することからしか始まらないんだよ。それを妙にウケを狙ってしゃべろうとしたり、カッコつけて書こうとするから、深い部分で届かなくなるんだよ。なんでオレらが、こんなことでベラベラ喋ってるかっていうと、つまり、ものごとを整理するために喋ってるんですよ。ここでは読者とか他人に向けて喋ってないもん（笑）。

ゴー 話してるうちに「あ、オレいいこと言うじゃん！」って思うこともありますよね、実際（笑）。

ウォーリー 自分で自分がなに言ってんのか、わかんなくなったりとかね（笑）。でも、そういう恥を掻きながら、人間は言語を発達させてきたんですよ。そういうことが奴らはズバリ言ってわかってないというか。

ジャイ子 むぅ〜。ためになりますねぇ。

ウォーリー これは養老孟司先生の受け売り（笑）。オレも漠然とそう思ってたことを養老先生が見事に言語化してくれた。でもホント、博士の家でのスモーの体たらくは、恥ずかしい！ 芸人である博士が、あれだけの言語を駆使してインターネットという媒体で伝えてくれてるにもかかわらずね。

ゴー わざわざマニアと交流までして。

ウォーリー なのに、編集者であるスモーが、あれだけ自分で「好きだ」と言ってるアメプロの魅力をオレらにさえも伝えられない。「言語化」できないっていうことは、「伝えたいことがない」ってことだからね。伝えたいことがあれば、なんとか頭の中で整理しようとするんだから、自然に。しかもさ、博士のはプロレスファン向けにやってるHPじゃないんだからね。

ゴー いろんなネットから引用した文章をプロレスファン以外の人に見せてあげて、裾野を広げようとしてるわけですよ。ハッキリ言って、一銭の得にもなんないわけじゃないですか。それに比べて、銭のためにやってるプロで、「プロレス」が本職のはずのスモーがなにもしてないっていう（笑）。

ウォーリー それからチョロはチョロで、取りあえず場外乱闘だけやってればいい、机だけ割ってれば客受けするというタカの括り方が見えるでしょ。

ゴー ターザン後藤みたいなスタイルですね（笑）。

ウォーリー もういい加減、そこから脱皮しろよって。いつまでたっても観客席にダイブして喜んでるからね。

ゴー 自分から観客の目線に合わせるんじゃないってことですよね。

ウォーリー 観客を手の平の上に乗せなきゃダメというか（笑）。

ゴー 高い位置から、いかにいいものを見せるかっていう。

ウォーリー まぁ、ウチもマニアばっかり相手にしてるわけにはいかねえんでね。

ゴー 「対世間」ですよ、ホントに。本隊はマニアしか相手にしてないような気がしますからね。

ウォーリー あとは、取りあえず、その場の客だけ沸かしとけばいいっていうね。

ゴー そのへんが、わかってないっていう。そのレスラーに興味ない人でも「面白い」と言わせるものを作る自信はありますからね、ボクらは。押忍！（敬礼）。

ウォーリー 興味ないやつの首根っこを捕まえてでも振り向かせる。何かを「伝える」には、そういうエネルギーが大事だということが、ズバリ言ってわかってない。ウチの三銃士は、なにやっても客が入るかのように錯覚してるし、非常に危機感がねーんです！

ゴー 危機感は一切ないですね。

ウォーリー ま、こんなこと言っても、読者のほうも何人が気づいてるか、わかんないけどね（笑）。

ゴー いま鳴り響いている非常ベルにね。でも新日と違って、ウチの三銃士は高いギャラに安住してるんじゃないのが、また不憫ですよね（笑）。

一同 ガハハハ！

ウォーリー まあ、ギャラ的にはうちは〈ピー〉レベルだから（笑）。あ、ということは満足いくギャラを払わないオレが悪いのか？ でも、あんな奴らに高いギャラ払えないもんな。開けた引き出しも閉められないんだから。

ゴー じゃ、ウチも儲けるために副業やりましょうよ。豆腐パン売ったりとか（笑）。

ウォーリー いいねえ（笑）。だから、早くオレを『紙のプロレス』から引退させてくれというか。オレも彼らに手取り足取り教えてあげたいけども、ズバリ言ってそんなヒマはねえというかね（笑）。オレもやりたいことがたくさんあるんで。

中村上 もしかしてミネラル関係ですか？

ウォーリー ガハハハ。オーラル関係（笑）。だから紙プロUFOとしては、今後の『紙プロ』全体がどうなろうと知ったこっちゃない（笑）。

ゴー UFO絡みの試合が面白きゃ、それで文句なしというか（笑）。あと、あいつらが変なマッチメイク組んだら、それを破壊したりとかはするけどね。

ウォーリー 紙プロUFOは、いつ何時でも本隊の挑戦を受ける！ 半チクなことをやったらいつでも舞い降りるというか。

中村上 ウリャーッ！ 今度はいつ試合するんスか、紙プロUFOは！

ウォーリー いつ来るかわかんないほうが面白ぇんじゃない？ ンムフフフ。な、ジャイ子？

ジャイ子 むぉ〜、お腹すきましたねぇ。

ウォーリー ダメだ、やっぱこいつは。ジャイ子をオーちゃんに改造するというのは失敗っ！ というわけで、『紙プロ』のオーちゃん、出てコーヒッ！（ファルセット・ボイス）。

ゴー ここで大々的に募集しますか（笑）。

ウォーリー でも、ここまで誌面で言えば、本隊も少しはピリッとするだろ。

ゴー いや、いまごろスモーはピリッと辛いもんでも食ってますよ、ポップコーンにラー油かけたりとかして（笑）。

※と言っていた数日後、スモーノブが故・J鶴田夫人の独占告白をスクープしてきた。スモー維新ぼっ発か!? 次号を待つでごわす

あの猪木スキャンダルを仕掛けたS氏が青春の大タレコミ！

「ハンセンは『ウィーーーッ!!』と叫んでるんじゃない！」

『紙プロUFO』特選情報！

マスクを被り、上機嫌な某・仙波記者。キャバクラでもマスクを被りカラオケを歌いまくる偉人だ

アントンが政治家だった93年、一時期大スキャンダルに巻き込まれたことがあったのを、マグナムTOKYO好きなギャルは知る由もないだろうが、その猪木告発を仕掛けたのが、大出版社Kの名物記者、某・仙波氏（けっこう偉い人）である。

その特異なキャラクターは『猪木とは何か？』（小社発行・絶賛品切れ中）を参考にしていただきたいが、その某・仙ちゃんから巨大なタレコミの電話があった。「分裂騒動で揺れる全日の……」。ナイス！ さすがは名物記者！ タイムリーな話題だ。さっそく続きを聞いてみると、「全日のエース外人、スタン・ハンセンが……」。再びナイス！ もうハンセンのコメントを取ってきてるのだ！ で、ハンセンがどうした？「いや、あのハンセンの『ウィーーッ！』っていうロングホーン」。は？ ロングホーンがどうした？「あれ、『ウィーーッ！』じゃなくて、『ユーーースッ！』って言ってるんだって」……ズコッ！ んなこたぁどーでもどうでもいいんだよ！ しかし、気になって調べてみると、「youth」とは「若さ」とか「元気」とかの意味。

ハンセンはロングホーンのとき、「オレは若いぜ！」または「元気だーー！」と叫んでいたのか？ すると、猪木vsハンセンの一連の名勝負は、猪木さんが「元気ですかーーッ！」と聞き、ハンセンが「元気だーーッ！」と攻防を通して会話してたわけか。そりゃ面白くなるはずです！ さすが仙波記者！ どうでもいいネタで、こんな素敵なことに気付かせてくれるなんて（ホントかよ）。マンセーーーッ！

トーク・イベント名言集

格闘笑点

ここ最近急増中の格闘トークイベント。そこで飛び出す格闘男（女）の名語録に焦点を当てるこのコーナー。その発言の真意を深く掘り下げることによって、あなたの格闘フィールドは拡張されること間違いなし！ 今日からキミもイベンター・ホリフィールド！（弱火）。今回は、毎回ハズレなしの島田裕二プロデュースイベントを2連発でお届け！

私はあの子のために働いてるの！【by浜田文子（アルシオン）】

5・19 ▶▶ 渋谷ロックウェスト
島田裕二プロデュース
『浜田文子とは誰だ!?』

この日は予想通り最前列には文子ファンのカメラキッズがズラリ勢揃い。文子の表情が変わる度に「カシャ!」立ち上がれば「パシャ!」と大騒ぎ。当然ジャンケンプレゼント（お前とやりたいTシャツ）大会もドゥー・ザ・ハッスル!

今回のゲストは、ここ最近、実の姉でレスラーのソチ浜田に似てきた文子バレンティーナ（メキシコ名）。

文子がプロレスラーになるため、メキシコから日本へとダイブしたのが14歳の時。現在19歳の文子は日本に来てからまだ5年弱、本人いわく「漢字も少しは読める」程度で、当然、島田さんのように流暢に日本語を操ることができるはずもなく、しかもトークショー自体も初めてとあって、さすがに百戦錬磨の島田さんでも苦戦が予想された。

いざ始まってみると、初の女性ゲストだからか「得意な料理は？」「好きなタイプは？」といったアイドルへのインタビューの様な質問を連発するご機嫌モードの島田さん。それに対し「料理は作れないんですけど、得意な料理はカレーライス！」「好きなタイプは、カッコいい人！ それにマッチョマンとか。でも顔がブサイクでも中身が良かったらいい！」と、いかにもな受け答えを連発する文子だったが、唐突に衝撃発言が飛び出したのだった！

それが見出しにもある「私はあの子のために働いてるの！」発言である。さすがラテン系、アッケラカンと交際宣言か？ 一瞬にして「シーン」と静まり返った観客に文子は追い打ちをかけるように「名前はデンジャーって言うんですけど」と、さらなるダメージを与えた。「えっ、外人？ それとも松永？」思わず観客から声があがると「ステーキ屋じゃないよぉ（笑）。デンジャーっていう犬！ いま犬の学校に入れてて、月に6万ぐらいかかるんですよ」とのことでした。

お後がよろしいようで。（チョロ）

「会長、いいこと言うなぁ〜。ボク、船木vsヒクソン戦の原稿、それで書こうっと」【byサダハルンバ谷川（SRS DX編集長）】

5・25 ▶▶ 渋谷ロックウェスト
島田裕二プロデュース
『コロシアム2000とは何か?』

なぜか、みんな冬服の3人。実はガンツが写真を紛失したんで違うイベントのものです。スンマソン。

お馴染み島田裕二プロデュース・イベント。今回は本誌鬼畜編集長・山口日昇、『SRS・DX』サダハルンバ谷川両編集長を招いて「コロシアム2000とは何か？」と題して行われた。

しかし、そもそもこの3人で『コロシアム2000』を語ろうというのに無理がある。なんせ、3人ともルールも知らなければ、試合順も知らない。そうなると内容は当然手探り状態で「『コロシアム2000』とは何か？」というよりは「『コロシアム2000』はなんだろう？」といった感じ。

しかしそんな中、ひとりハイテンションだったのが、入稿真っ只中で寝不足のサダハルンバ。

「えっ！ コロシアムって明日なのぉ？」「船木vsヒクソン戦の解説はヤスカク、シッシー、Ｓｈｏｗにやってほしいなぁ」など、らしい呑気発言から、またネットで波風立ちそうな発言まで、いつになく語りまくり場を盛り上げる。

そうなると山口日昇も負けず嫌いなところを発揮し船木とサクを劇画と漫画に例えたお馴染みの持論を披露。

それに対してサダハルンバは「会長、いいこと言うなぁ。船木vsヒクソンの原稿、それで書こうっと」と持ち前の揺るぎないノンポリぶりを発揮し、結局イベントはなかなかの盛り上がりとなった。

ちなみに『SRS・DX』の船木vsヒクソン戦リポートには、予告通りホントに山口の発言そのままのことを書いていたのであった。ビバ！ サダハルンバ。（ガンツ）

紙のプロレス RADICAL 主催イベント情報！

6・27（火）▼▼新宿ロフトプラスワン

『暗闇プロレス道場』（午後七時三十分スタート）

『紙プロ』のオールナイトニッポン！

マット界裏話を一挙に公開＆

『朝まで語ろうジャンボ鶴田』

～みんなジャンボが好きだった～

第1回目の高阪剛＆坂田亘、第2回目の八木淳子＆篠社長と大好評で終わった『暗闇プロレス道場』（進行のチョロは不評）。

3回目を迎えた『暗闇プロレス道場』は、なんとオールナイト！　しかも平日だぜ!!（客来るのか？）。やる前から客が来ないこと考えるバカがいるかーッ！　ということで、来れなかった人を必ず後悔させるようなイベントにします。

テーマは『みんなジャンボが好きだった！』と題して、ジャンボ鶴田追悼イベントを決行！　吉田豪所有のジャンボ秘蔵ビデオも大公開！　さらにマット界裏話、紙プロ秘話など、ここでしか聞けない話も一挙放出！　有名芸人から某レスラーまでゲストも盛りだくさん！　来い来い来い！

●**チャージ**　2000円

●**会場&問い合わせ先**　東京都新宿区歌舞伎町1・14・7林ビルB2（JR新宿東口徒歩4分／新宿コマ劇場横）03・3205・6864

7・22（土）▼▼池袋コミュニティ・カレッジ

復活『青空プロレス道場』（午後六時三十分スタート）

赤いパンツの頑固者
一発目のゲストは

田村潔司だ！

RINGS JAPAN

イラスト・俵俊司

『紙プロ』主催のプロレスファンのプロレス頭を徹底的に鍛え上げる「虎の穴」もしくは「蛇の穴」と言われる『青空プロレス道場』が帰ってきたぜぇーーー！

一発目のゲストはリングスジャパン田村潔司！

テーマは『田村、Uはお前なんだよ！』と言うことで、この機会にじっくりと田村潔司が考えるUWFというものを掘り下げてみようと思ってます。タムタムファンの来場を心より待ってるぜ！（特に女の子）

●**日程**　全3回
第1回7・22（土）
第2回8・26（土）
第3回9・23（土）
7月から9月の第4土曜日は『青空プロレス道場』！

●**講義時間**
18：30～20：30

●**受講料**
【3回通し券】会員9000円　一般9900円
【1回券】会員&一般とも3500円

●**お申し込み&問い合せ先**
03・5992・0496
〒171・8569東京都豊島区南池袋1・28・1西武百貨店池袋店イムルス8階

「ケビン山崎」セミナー情報

パーソナルトレーナーへの道

『紙プロ』読者には「イッツ、オッケー！」でお馴染みのケビンさんのセミナーが開催されます。

前田日明、山本宜久、佐竹雅昭、フランシスコ・フィリオ、モーリス・スミス、巨人軍の清原和博などの肉体改造を成功させたケビンさんのセミナーをキミも体感しろ！　イッツ、オッケー？

●**開催日**　第1回　2000年7月8日（土）9日（日）
第2回　2000年9月9日（土）10日（日）

●**会場**　財団法人スポーツ会館　東京スポーツトレーナー＆カイロプラクティック学院
東京都新宿区百人町2-23-25
JR中央線大久保駅より徒歩5分
JR山手線新大久保駅より徒歩10分

●**参加費**―第1回31.500円　第2回31.500円
両方58.800円

【お問い合せとお申し込み】財団法人スポーツ会館
TEL03-3364-0155　FAX03-3368-1466

桜庭和志トーク&サイン会情報

新星堂プレゼンツ「桜庭和志×ホイス・グレイシー～死闘1時間47分完全収録～」ビデオ発売イベント「桜庭和志が初めて語る～『PRIDE』激闘の裏側～トーク&握手会」

◎日時　**7月2日（日）13：00～**

●**場所**　川崎アゼリア中央広場（神奈川県川崎市川崎区駅前本町26-2-113）

●**参加方法**　全国の新星堂にて6・30発売の上記ビデオをご購入されたお客様に参加券を配布致します。

●**イベントに関するお問い合せ先**
メディアファクトリー　03-5469-4880

バトルトークライブVOL.30

◎ゲスト　**望月成晃（M2K）**

◎日時　**7月17日（月）18：30開場**

●**料金**　前売り2000円　当日2500円
（どちらも1ドリンク付き）

●**場所**　渋谷ロックウエスト

【お問い合せ】TEL03-5459-7988

島田裕二トークイベント情報

いつ何時誰のトークでも盛り上がると評判の島田裕二プロデュースイベント。7月分の日程です。

◎タイトル　**新格闘男とは何か!?**
◎ゲスト　**藤田穣（みちのくプロレス）**
◎日時　**7月11日（火）18：30開場**

◎タイトル　**柔術とは何か!?**
◎ゲスト　**平直行（RtoR　正道柔術）**
◎日時　**7月14日（金）18：30開場**

●**料金**　両日とも1000円（1ドリンク付き）

●**場所**　渋谷ロックウエスト　渋谷区宇田川町4-7トウセン宇田川ビル7F（渋谷東急ハンズ前）

【お問い合せ】TEL03-5459-7988

『猪木とは何か？』のPKO。Pは何だと思います？
Ⓟパーフェクト
Ⓚ完売
Ⓞ御礼です

『猪木とは何か？』は完売しました!!

我々はプロレスマスコミ界に
万里の長城を築く!!

紙のプロレス
本誌バックナンバーのお知らせ

第5号
★特集「たたかいグランプリ」
特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男／ロングインタビュー馳浩／デビル雅美vs氏神一番／脅威の連載陣! 高田文夫、ナンシー関、浅草キッド

第8号
★特集「さらば新日本プロレス」
ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た

第11号
★特集「狂気とは何か？」
怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里／プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記

第12号
★特集「色気とは何か？」
村松友視が前田日明を語る!／「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会／蝶野正洋も登場!／色気王A・猪木も登場

第13号
★特集「道場破りとは何か？」
安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場

第14号
★特集「神秘とは何か？」
佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!

第15号
★特集「インディペンデントの逆襲」
インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー

第16号
★特集「新日本凸凹大学校」
『紙プロ』的昭和新日総力検証 マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs由利徹対談

第17号
★特集「実況パワフル北朝鮮」
猪木×永島のナマハゲ対談(Ⓒ大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」

第18号
★特集「高田延彦さんへ愛をこめて」
引退宣言の読み方座談会／サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!／新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!

第19号
★特集「さようなら紙のプロレス」
『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー

第20号
★特集「劇的格闘技」
真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー／山口昇と東京シュガーベイブ結成記念 ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場

第21号
★特集「幻的格闘技」
古武道を通じてプロレスを考えよう! 前田日明も登場! スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場

第22号
★特集「この人が喝っ!!」
巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号

★猪木とは何か？
完売
スキャン[illegible]みれていた時期の猪木を直撃! [illegible]とねえ[illegible]松友親、立川談志、告発仕掛人・仙波[illegible]場! 新間のPKO発言を誌上再録

★パンクラス公式読本
～矛～
97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／なぜか突然、佐山聡が登場!／故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載

★パンクラス公式読本
～盾～
97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?／故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!

★極真とは何か？
不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー

★紙の前田日明
～インタビューという名のエネルギー史～
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!／完全保存版

伝説に触れたい人のための申込み方法

●現在は1号～4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』は完売しました。ノーダウト!!●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号～22号は780円となります。●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。●送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊～4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります。●10号、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留送り先】
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで

【郵便振替振込先】
00130-3-769154 (株)ダブルクロス
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。絶対おつりのないようにお願いします!

追悼企画

ぼくらのジャンボ鶴田回顧録

親しい人だけにジャンボが見せた愛すべき「素顔」をゆかりの人々が書き尽くす!!

怪物・ジャンボ鶴田が亡くなってから早くも1ヶ月が経った。

あの衝撃の死以来、さまざまな媒体が、こぞってジャンボの死を報じてきた。一般誌は、岐阜で入院していた病院やマニラにまで取材に赴き、こぞって壮絶な闘病の軌跡を追った。専門誌は、圧倒的な強さで一時代を築いた不世出のプロレスラー「ジャンボ鶴田」の栄光の軌跡を振り返り、志半ばにして急逝した「鶴田友美さん」の死を悼んだ。

ジャンボの死は、あらゆる媒体で語られ尽くした感があるのだが、本誌は別の角度で、ボクらが愛したジャンボ鶴田を語ってみたい。本誌は直接、取材することは出来なかったが、生前にジャンボと接触して縁も縁もある方々に原稿を依頼して、ジャンボが親しい人たちだけに見せた「素顔」を集めてみた。そこから出てきたのは、愛すべき、オチャメで、前向きで、最高に素敵な一人の男の姿だった。

構成／坂井ノブ

と生きていけない人だったんだと思う

We♥Love JUMBO!

鶴田さんが語る自らの半生は まるで他人事だった!!

中田潤・文

昨年3月、ジャンボ鶴田の現役引退を記念して、本誌周辺のジャンボ好きが集まって徹底的にその人となりを語りまくる座談会を行った。本誌16号に掲載されているので、まだ読んでいない人は、バックナンバーを買って必ず読むように！　中田さんはそこで、鋭い視点からリング内外のジャンボ鶴田論を披露してくれているのだが、今回は取材で接触したジャンボ鶴田の「素顔」を綴っていただいた。生き急いだ「怪物」の生涯から、見えてきたものは一体、何だったのだろうか？

奇妙な笑顔だった。

たまプラーザ駅ビルにあるガラス張りの喫茶店。プロレスを引退したばかりの鶴田友美さんは、取材を終えてお別れのあいさつをする私と編集者にこう言った。

「三沢たちを応援してください。三沢、川田、田上、小橋、秋山……彼らは素晴らしいプロレスをやっているよ」

セーターを重ね着した英雄は、巨体を折り曲げてお辞儀をした。

「奇妙」と表現するしかない笑顔だった。

鶴田さんと言葉を交わしたのは、それが最初で最後だった。だから、これは追悼文ではない。私ごときにあの偉大なレスラーのビッグハートを語れるはずがない。

鶴田さんと向かい合っている間、私は居心地の悪さを感じつづけていた。

どんな質問にもゆっくりと言葉を探し、丁寧に答えてくれる。終始笑みを絶やさない。取材者の苦労を必要以上にねぎらってくれたりもする。こんなに心優しいプロレスラーと対面したのは初めてだった。

しかし、居心地は悪かった。鶴田さんの笑顔を見ているのがなぜかつらかった。

浅はかだった。

私はその居心地の悪さを、鶴田さんのキャラクターとして理解しようとした。

白いギターが似合う地上最強の男。

寝返りで猫を圧死させて自らの強さに驚愕した少年。

公園の日溜りでセーターを温めながら、雑誌『ブルータス』を読むプロレスラー。

そういうイメージのなかで納得してしまっていた。奇妙な男は奇妙な笑顔を振り撒き、よって、私は居心地が悪かった。

違う。そうじゃない。

あのとき、鶴田さんは「終った世界」の住人だったのだ。

彼の壮絶な客死との対比で言っているのではない。おそらく、そのとき、彼がすでに自らの死を受け入れていたわけではない。悟りとか、そういうことを言いたいわけじゃない。

ジャンボ鶴田は、前を向いていないと生きてはいけない人だったんだと思う。

「ジャンボ鶴田はもういないんですよ」

引退直後のインタビュー。当然、現役時代の思い出を語ってもらおうと、私は大汗をかいていた。彼自身の言葉で。ニュアンスも聞き漏らさぬように。

自らの「生き様」を嬉々として語る中年男―私は、そんな陳腐なカテゴリーのなかに、あの巨人をも押し込めようとしていたのかもしれない。愚かなことに。

鶴田さんが語る自らの半生はまるで他人事だった。自伝を朗読しているみたいだった。

当然、そうなのだ。彼はすでに「終った世界」にいて、その居心地の悪さに呻吟していたのだ。語るべき言葉はすでに語られた。放出すべきアドレナリンはすべて放出された。

病に冒され、岐阜県の病院に入院していた鶴田さんに、ある女性患者が声をかけた。

「ジャンボ鶴田さんでしょう」

鶴田さんはこう答えた。

「ジャンボ鶴田はもういないんですよ」

おそらく、これも「死」との対比で語られた言葉ではない。寂しげにポツリと漏らした言葉でもないと思う。

天龍源一郎はこう語っている（『ジャンボ鶴田死す』週刊ゴング6月6日増刊号）。

「ジャンボは常に…俺たちが思う以上に前向きな男だったよ」

「俺は元気だったジャンボしか印象がないからさ。気持ちの中では一生懸命に試合して、一生懸命に遊んで、いつもニコニコしていたジャンボしかいないからね。だから……こんな言い方していいのか分からないけど、俺は幸せだよ」

おそらく、鶴田さんにとって、「元プロレスラー・ジャンボ鶴田」なんてどこにもいなかったのだ。そう呼ばれることが、おそらく彼には許せなかった。その幻影を追うことも追われることも、けっして幸福なことではない。天龍源一郎は、やはり、鶴田さんの最高の理解者だった。

鶴田さんはこう言った。

「心残りがあるとしたら、前田日明選手との試合ですね。最初は反感だった。あれだけプロレスをケチョンケチョンにって出ていった前田という男は何者なのか。一方で、あれだけのことを言い切れるんだから、それなりの実力もあって、セメントマッチも強いのだろう。そういう興味が湧いてくる。格闘技者の本能ですよ。強い相手に向かっていく。負けたっていいから、全精力をぶつける。最後の最後、アレキサンダー・カレリンという素晴らしいレスラーに向かっていって……

ジャンボ鶴田は、前を向いていない

負けても納得できたと思うんですよ。その心意気がいいじゃないですか。うらやましいですよ」

この言葉にだけ、なぜか、実感がこもっているように私には思えた。

ジャンボ鶴田は、引退試合で負けたかったのかもしれない。

そう思った。自分を完膚なきまでに叩き潰す男にはついにめぐり会えぬまま、鶴田さんはこの世を去った。それほどまでに、プロレスラー、ジャンボ鶴田は強かった。

「僕は世間のことを何も知らない幼稚園児のようなもんだ」

私が、「引退セレモニーのリングでライトを見上げていましたね」と言うと、鶴田さんは、もうひとりの死んだレスラーの名前を口に出した。

「武道館のライトを見上げていると、今でも鮮明に思い出すんですよ。僕のベストバウトは僕の負けた試合です。ブルーザー・ブロディにはパワーでもテクニックでも圧倒された。大の字になってライトを見上げていた。そのとき、『自分は完全に負けたな』と思った。ブロディはちょっとでも気にくわないことがあると平気で試合場から帰ってしまうような男だった。そのブロディが泣いている。あのブロディも泣くのか……」

私もまた、その試合を見て、ジャンボ鶴田信者になったひとりである。

「プロレスとはチェスのようなもの」と言い放ち、感情を殺し、リングの上では自分の仕事を

その強さはホントに怪物的だった。平成元年6月5日、東京・日本武道館で行われた鶴龍対決でも、敗れたジャンボがスクッと立ち上がり、握手を求めた。呆れたような天龍の表情が、鶴田最強幻想をかき立てる！

すべてこなさないと納得しない難儀なプロフェッショナル。相手の必殺技、たとえば、ジャンボ鶴田のバックドロップを受けるときも、その表情、一本の髪の毛の揺れ具合まで計算していた男（私はそう確信していた）。そんなリングのビジネスマンが、「大都会に迷い込んだキングコング」という自らのキャラクターも忘れ、コーナーによじ登り、ジャンボ鶴田ばりのダサいガッツポーズを繰り返し、泣いている。

ふたりとも、この地上からいなくなった。おそらく、ジャンボ鶴田が全精力をぶつけられた唯一の同時代のレスラー、アンドレ・ザ・ジャイアントも天に召された。

残っているのは世知辛い物言いばかりである。測定可能なルールを持つ格闘技者しか認めない。

なんでもありに対応するには、プロレスの技術を捨て、闘い方を一から学び直さなければならない。

あいつにはオーラがない。

サムライじゃない。

なにを眠たいこと、言ってるのか。

どんなにルールを厳密にしたところで、ジャンボ鶴田の強さを正確に測定するリングなんてどこにあるのか。なんせ、ジャンボ鶴田の強さは、鶴田さん自身、最後まで知らなかったのだ。

「強さを示すだけのレスラーは他団体にもいる。僕は、常に相手の良さを引き出そうという気持ちで闘ってきました。相手の力量に合わせて技の出し方を変える。怪我をさせるために試合をしているのではないですからね。このレスラーなら、どこまで受けられるのか。その判断には自信があった。相手の良さを引き出して、さらにそれを上回る攻撃を出していくのがプロレスラーですよ。いや、断定してはいけないのかもしれない。格闘技がいい、と言う人もいるでしょう。電流爆破がいい、って人もね。でも、少なくとも自分はそう信じて闘ってきた」

その判断が狂ったとき、天龍源一郎はカレリンズ・リフトを軽がると上回る角度で頭上高く舞い上がり、マットに叩きつけられると、泡を吹いて失神していた。

「そのとき自分の恐ろしさを知った」

おそらく、かわいがっていた猫を圧死させた

平成元年4月20日、大阪府立体育会館での鶴龍対決。そこで鶴田が一瞬だけキレたとき、天龍はパワーボムで、不自然な角度からマットにたたきつけられて失神してしまった。カレリンズ・リフトを見ているような、脅威のパワーがじつに怖ろしい一撃だった。

少年時代以来。

アンドレ・ザ・ジャイアントが死んだとき、前田日明はこう語った。

「彼と肌を合わせて本当によかった。実際に闘っていなかったら、アンドレはおとぎ話になってしまうから」

ジャイアント馬場、アンドレ・ザ・ジャイアント、ブルーザー・ブロディ、ジャンボ鶴田が徘徊していたリングのことを、どう伝えていったらいいのだろうか。私もまた、考え込んでしまう。

「PRIDEでも最近、打撃で決まる試合が増えたよね」

「グレイシー一族が進歩しないだけなんだよ。ボブチャンチンのフックを受けたら……」

そういう寒々しい会話を続けるヤングたちにとって、あの「怪物たちの時代」はすでに天上の神話、文字通りのおとぎ話なのかもしれない。

引退セレモニーを終えた鶴田友美さんは、保子夫人にこう言った。

「もうプロレスラー、ジャンボ鶴田じゃない。鶴田友美に戻った。僕は世間のことを何も知らない幼稚園児のようなもんだ。よろしく頼む。頑張れるところまでやってみようじゃないか」

鶴田友美さんは、最後の最後まで、過剰なまでに前向きに生きた。そして、全精力をぶつけて闘える敵、自分を完膚なきまでに叩き潰す敵と、生まれて初めて遭遇したのだろう。

中田潤■'59年、岡山県生まれ。フリーライター。本誌16号の「語ろうジャンボ鶴田」座談会で、ジャンボ鶴田を鋭く、そして暖かく語っていただいたジャンボ信者。

の人のために働くことが重要だと思う」

We♥Love JUMBO!

アメリカでの研究生活で味わった もうひとつの苦闘とは?

山根由里・文

ポートランド州立大学の客員教授としてアメリカに渡ったジャンボ鶴田だったが、そこで待ち受けていたのは日本以上にハードな日常生活だった。望んで飛び込んだ世界とはいえ、さすがの怪物も苦戦を強いられたようだ。そんな中で、ジャンボのアメリカ生活を色々とサポートしていたのが、ここで原稿を書いていただいた山根由里さんだ。アメリカでジャーナリストとして活躍する山根さんは、プロレスファンでもある。異国の地で、ジャンボは日本では見せなかった一面を見せていたようだ。

鶴田さんと会ったのは'99年4月、全日本を引退し渡米後、ちょうど1ヵ月が経った時だ。

当時、私はニューヨークの出版社に勤務していた。会社からロサンゼルス出張を打診されれば、本来自分が担当しているコーナーの取材より先に、猪木さんインタビューのアポを入れてしまう私である。やはり出張でシリコンバレーに来た私は、矢も楯もたまらなくなり、会える確証もないままにポートランドまで車を走らせた。事前の連絡も約束もなしにポートランドステート大学のオフィスまで押し掛けてきた私のインタビューを鶴田さんは快く受けてくれた。

「ホントに大変だったんですよ!」

鶴田さんは、言うまでもなく有名人である。渡米にあたっては、当然、誰かがいろいろと世話を焼いているものと思っていた。しかし、それは私の思い込みだった。鶴田さんは、すべて身の回りのことを自分でやっていた。できるものなら自分だけ先に渡米し、面倒な手続きを済ませてから家族を呼びたかったが、ビザの関係で家族全員が一緒に来なければならなかったそうだ。

「本当に大変だったんですよ、聞いてくれますか?」と、鶴田さんは、アメリカで奮闘してきたことをいろいろ語ってくれたのだった。

「(住居は)日本人がいないところ、いないところ、って探したんです。日本語だけで生活できちゃったら、わざわざアメリカに来た意味がないし、子どもたちにもこちらの人とコミュニケーションできるようになってもらいたいし」ということで、子どもたちの幼稚園や学校、土曜日に通う日本語補習校などの入学手続き、日米両国語を話せる家庭教師を探したそうだ。その手間たるや尋常ではないはずだ。

アメリカののんびりしたペースにも苛立っていたようだ。「車はどうしても必要でしょう。車を買うためには日本から大きなお金を送金しなくちゃいけない。送金のために(アメリカの)銀行口座を開きたいのに、銀行の担当者がくるくる変わったりなかなか手続きが進まなくて3週間もかかりました」

「『いつまでにやっておいて』と言ったことができていなくても、怒っちゃだめですね。『できるって言ったじゃないか』と言っても、平気な顔でなんだかんだといいわけをする」

「誰かに物を頼んでも、それこそ僕が給料でも払わない限り、何もしてくれない。1ヵ月過ごしてみて、自分でどんどん動かないと前に進めない国だということがよくわかりました」

「今週はオレゴン州の運転免許を取りに行こうと思って勉強してます。まぁ、やることが多くて大変です」

話の合間には「国際電話はどこが安いんですか?」「(インターネットの)プロバイダはどこがいいですか?」など、生活に必要な情報をいろいろと尋ねられた。

これがどれだけ面倒で大変なことかは、自分の経験からも痛いほどよくわかる。勝手知らぬ異国の地で、3人の子どもを抱え、落ち着くまでにどれほど苦労したことだろう。あれだけの知名度がありながら、しかも結構な歳になってから、これだけのチャレンジができる人はそういない。いくつになっても前へ進んで行こうとする姿勢に、心から感嘆した。

有名人らしからぬ有名人

鶴田さんはアメリカでも非常に気さくだった。大学内では、一度でも会ったことのある相手には、アメリカンも顔負けの陽気さで挨拶していた。ただでさえ大きな体なのに、長い両手を高く、さらに大きく広げる。よく通る元気な声。笑ったりおどけたり、明るい豊かな表情。声をかけられた誰もが、間違いなく鶴田さんに好感を持ったはずだ。私は、彼のとてつもない積極性や前向きさに圧倒されながらも、「怪物・ジャンボ鶴田」以上に、周りの誰もを幸せな気分にしてしまう「鶴田さん」の大ファンとなった。

鶴田さんは、本当に腰の低い、有名人らしからぬ人だった。突然現れた私を歓迎してくれたばかりか、自宅にも招いてくれた。帰り際、サンフランシスコの空港まで運転して帰る私に、道中のおやつを山ほど持たせてくれた。寒い夜だというのに、わざわざ外に出て車まで送ってくれた。

この時、鶴田さんからちょっとした調べものを頼まれた。夕食を食べながら、「僕は3人の師匠(馬場さんとファンクス)にプレッシャーかけられ続けて来たから、人にプレッシャーかけるのも得意なの。このご馳走も、プレッシャーかけてるんだからね」。

おやつを渡しながら「これもプレッシャーかけてるんだからね」。

見送りを「寒いから」と遠慮する私に、「い

「経済的な成功には上限がなく、世の中

や、いいよいいよ、乗って。これもプレッシャーかけてるんだから。じゃあ、気を付けてね。ちゃんと連絡するんだよ」

涙が出るほど有り難いと思っているのは私のほうなのに、私に恩義を感じさせまいとしたのか、お礼はすべて冗談で返されてしまった。

ある時、鶴田さんのインタビュー記事を読んだ読者から、鶴田さんと連絡を取りたいという手紙が舞い込んだ。

連絡の仲介なら気軽に申しつけてくれと言ったのに、「手間をかけては」と、見ず知らずの読者に鶴田さんが自ら連絡した。

あれほど「普通」な有名人をあまり知らない。単に礼儀正しいのではなく、心底から「自分が人と違う」とはみじんも思っていないようなのである。

鶴田さんとお会いした日、ふとしたことから永住権の話題になった。「2年の予定で来てるけど、本当はもうちょっと長くいたい。できれば永住権も欲しいんです。子供も、こっちの学校のほうがいいって言うんだよ」と熱心に語っていた。「猪木さんは10日で（永住権が）取れたそうですよ」と話すと、「猪木さんが10日なら、僕は14日かな?」と冗談を言って笑った。

同じように永住権を申請している私にとって、「永住権が欲しい」というのはあまりに当たり前のことであり、欲しい理由を鶴田さんに尋ねたことはない。

鶴田さんは、知名度を利用して商売しようと思っていたわけではない。どちらかといえば、永住権のことであれ何であれ、もう日本のメディアで話題にされたくない。鶴田さんは、名実共に「普通の人」として生活したがっていたように見えた。日本は、プライベートない、服のサイズない、つきともない場所であったのだろうか。

自分から動かないと進めない。誰も他人の面倒なんか見てくれない。逆に、自分で動いた分、前進できる。誰も自分を特別な目で見ない。エネルギー溢れる鶴田さんが第2の人生をアメリカに求めたとしても不思議ではない。

「ジャンボ鶴田」と表示されていた電子メールの差出人は、いつしかプロバイダの変更をきっかけに「Tommy Tsuruta」というアメリカンネームに変わった。

アメリカに来てしまえば、古いしがらみとも無縁だ。

去年の夏には、オフでニューヨークに戻って来ていたタイガー服部レフリーが鶴田さんに電話をかけた。服部さんと親しい、同地でレストランを経営するアマレス出身のM氏は、鶴田さんと自衛隊体育学校時代の同級生でもある。鶴田さんは、「服部さんといろいろ懐かしい話をして非常に楽しかった」と喜んだ。だが結局、ニューヨークに服部さんやM氏を訪ねる計画は、実現しないままに終わってしまった。

アメリカの自宅の書斎でくつろぐジャンボ。アメリカでの生活には、様々な苦労が伴うはずだが、最高の笑顔を見せてくれたのだった。研究生活でも、無敵のエリート街道を爆走しているように思われがちだが、水面下での努力はすさまじいものがあったのだろう。ホントにＤＮＡの研究に乗り出していたら、遺伝子工学の世界も一変していたかも知れない。

アメリカでの知られざる苦闘

鶴田さんは渡米当初、「短い時間で実際の運動に必要な筋肉を効果的に付ける筋力トレーニング法」を研究していた。具体的には、腕や足の付け根を軽く縛ってトレーニングする、という方法だったと記憶している。

「重いウエイトを持つ必要がないから、病気の人や高齢者も気軽にできる。怪我などのリハビリにも使えるんじゃないかと思う」

日本時代に講師を務めた大学の運動部員を対象に実施した調査では、週3回、20％の力で10分程度鍛えただけで運動能力向上に効果があるというデータが現れた。しかし、アメリカで学生を被験者に研究する場合は、担当教授の会議を経て許可を得なければならない。後に「人間の身体を縛るといったトレーニング方法は、アメリカでは大学のヒューマン・サブジェクト会議で認められない」と残念がった。

最近届いた電子メールには、「経済的な成功は上限がなく、世の中の人のために働くことが重要だと思う」と書かれていた。「残りの人生を考えて『ヒトゲノム』、全DNA遺伝情報が書き込まれている『生命の設計図』の研究をしたい」

鶴田さんがヒトゲノムを研究したいと思うに至った心境は、想像に難くない。

後輩レスラーのためにと運動生理学を学び始めた鶴田さんは、残りの人生を「すべての人のため」の研究に捧げたいと考えたのだろう。それは今年の2月のことだった。

鶴田さんは、ポートランドの綺麗な街が気に入っていた。犯罪も少ない。晴れた日には遠くの山を見晴らせる。星空もきれいだ。ポートランドは、アメリカ西海岸のかなり北に位置する。北国の夏の美しさは格別だったようで、「感動しました」と語ってくれた。

しかし、しばらく住むうちに、もう少し都会に移りたいという気持ちが沸いてきたのだろう。ロサンゼルス近郊の大学に移ることも検討していたようだ。去年の秋が終わる頃だったか、翌春にはロサンゼルスに移ると決めていた私に、「じゃあ、ロサンゼルスに集合しましょう!」と言った鶴田さんの元気な声が今も耳に残っている。

私は、未だに全部ウソだったのではないかと思っている。

そのうち、思い出したように連絡が来るのを待っている。

「ついに僕もロサンゼルスに来ました!」

山根由里■アメリカ・格闘銀座（ロサンゼルス）在住のジャーナリスト。同じ在米日本人として、鶴田さんの今後のご活躍を期待していたのに、残念でなりません。

We♥Love JUMBO!

史上最強のプロレスラー・ジャンボ鶴田は ギャグも最狂だった！

ラリルレ・ルンバ・文

「ジャンボさんのギャグについて原稿を書きたい！」と言って、本誌にコンタクトを取ってきた謎のライターが、このラリルレ・ルンバさんだ。実際に会って話を聞いてみると、生前のジャンボとも親しい間柄にあり、素晴らしいエピソードをいくつもお持ちなので、ご登場頂いた次第である。やはり、ボクらがジャンボを好きになる大事な要素の一つとして「呑気さ」というのはハズせない。アントンばりの脱力ギャグは、まさに「怪物」級の破壊力だった。美化するだけじゃ見えてこない、愛すべきジャンボの「もうひとつの素顔」を知っておいてもらいたい。

は？」ひと呼吸置いて「ババロア～！」

急逝されたジャンボ鶴田さんに哀悼の意を表し、リングを降りた・ジャンボ鶴田さんとの思い出を書かせていただきます。これまで、私がジャンボ鶴田さんと接してきた中で食らった数々のジャンボ・ギャグを紹介し、マスコミではあまり報道されていない私が愛してやまないジャンボさんの気さくな一面を残しておきたいと思うのです。そして、私以外にも、こういうジャンボさんの一面が好きだった人も多いと思いますので、賛同して頂けると嬉しいです。

世界のジャンボ鶴田です！

「もしもし？ "世界の"ジャンボ鶴田です」

ジャンボ鶴田さんからの電話は、いつもこれから始まった。

私が鶴田さんに書く手紙に毎回「世界のジャンボ鶴田さんへ」と書いていたため、ジャンボさんはそれが気に入ったのか、私に電話をかけるときにはいつも少し照れた口調で「"世界の"ジャンボ鶴田です」と話していた。

「怪物」と称されたその強さはあちこちで語られているが、リングを降りると鶴田さんは、気さくで愉快な人だった。

私はジャンボ鶴田さんがデビューした頃からのファンだった。テーマ曲「チャイニーズカンフー」に乗り、ジャンパーをはおってリングインするその姿、それまでプロレス界をおおっていた根性や忍耐という言葉とは無縁のスポーツマンを感じさせた姿に魅せられた。

はじめは単なるファンだった私が大学時代プロレス研究会に所属していた関係で鶴田さんと連絡をとるようになり、やがて仲良くさせていただくようになった。鶴田さんは親しくなるにしたがって垣根が取れていき、次第にこちらの力が抜けるような脱力ギャグを連発するようになった。いわゆる、ジャンボ・ギャグである。

クイズとダジャレがギャグの基本！

ジャンボ・ギャグとのファーストコンタクトは、電話で話していたときのことだった。ある日、上機嫌だったジャンボさんはいきなり、何の脈絡もなく「馬場さんが好きなのは？」と質問してきた。そして、一呼吸おいて「ババロア～(馬場さん口調で)」と話し掛けてきた。

「まさか、あのジャンボ鶴田が、そんな箸にも棒にもかからないようなギャグをかますとは⁉」一瞬、何のことかわからなかった。私が戸惑っていると、さらに追い討ちをかけるように「馬場さんが好きなのは？ ババロア～！ ババロア～！」と繰り返し畳み掛けてくる。

私はまるでバックドロップを受けたような衝撃を受けた。私はジャンボ・ギャグにただ沈黙して笑うしかなかった。この衝撃が忘れられず、以後はすっかりジャンボ・ギャグの虜になってしまった。とにかく、いろんな意味で破壊力がある。鶴田さんのファイトスタイル同様、素朴でナチュラルな力強さを感じさせてくれるものだった。

'97年秋、都内のホテルで全日本プロレス設立25周年記念パーティーがありに、私はジャンボさんに誘われ出席した。パーティーは立食形式でテーブルには料理が並んでいた。その中に肉じゃがか、すき焼きがあり、糸コンニャクを見つけ出すと、鶴田さんは「これは糸コンニャク、馬場さんの奥さんは？」と、またクイズを出してきた。こちらが必死に答えを考えているフリをすると、あの満面の笑みで、抜群の答えを教えてくれた。

「もとこンニャク～！」

私はどう反応していいのかわからず、呆然としていた。すると「これは糸コンニャク。馬場さんの奥さんは元子ンニャク」とジャンボスマイルで繰り返す鶴田さん。横ではハンセンが不思議な顔をして立っていた。

あの満面の笑みで、どんなくだらないギャグも押し切ってしまう。ボクらも、たとえギャグは寒くても、あの笑顔を見ていると幸せな気分になったものだった。

ジャンボ・ギャグは、まだある。喫茶店でお話していたとき、鶴田さんの会話に感心した私が「なるほど」というと鶴田さんは、条件反射のごとく小声で「ザ・ワールド」とかましてくれたこともあった。

だいたいTVで『なるほどザ・ワールド』の放送が終了してから5年以上経っていた時期だ。私は番組の存在自体も忘れていたのに、そんなことはお構いなしにぶちかました鶴田さんは、やはり笑っていた。

ご存知の方が多いと思うが、ジャンボさんの

引退式のBGM秘話

入場テーマ曲は『チャイニーズカンフー』、『ローリングドリーマー』、『TTバックドロップ』(昭和58年のブロディとのインター戦1回のみ使用)、『J』と4曲ある。そのなかで、2曲目

オフにはコンサートを開くなど、積極的にプロレス以外の世界にも取り組んだジャンボ。ギターを片手に歌うその姿は永遠の若大将！青春を謳歌させたら右に出る者はいないほどのハマりっぷりだった。

何の脈略もなく「馬場さんが好きなの

の「ローリングドリーマー」は、インストルメントと鶴田さん演奏歌バージョンの2パターンがある。鶴田さんが演奏し、歌う『ローリングドリーマー』。これは反則である。1番盛り上がる部分の「♪人は誰でもローリングドリーマー」だが、どうしても「♪びとば～　だで～でぼ～　ローリングディーバ～」としか聞こえない。一度聞いたら忘れられないファン必聴の曲だ。同時期に『妹に』と『明日があるさ』というレコードを出しているが、これも歌詞はいいのだが、鶴田さんが歌うだけで強烈に印象に残る歌に変身している。

以前、私が「ジャンボさん、『ローリングドリーマー』を聞かせてくださいよ」というと「やめてくれよー」と恥ずかしがっていたが、そのくせ笑いながら小声で「♪ローリングドリーマー」と口ずさんでいた。さりげなくファンサービスをしてくれる優しさもあった。

'99年3月、武道館で引退式が行われたが、その前にジャンボさんから連絡があった。

引退式にかける曲についての相談だった。そこで話し合って、最初に初代テーマ曲『チャイニーズカンフー』で入場し、次に『ローリングドリーマー』、退場時に『J』をかけることにした。

また挨拶をするときにフランク・シナトラの『マイウェイ』とエルヴィス・プレスリーの『好きにならずにいられない』の2曲をバックに流すというのだ。『マイウェイ』は「自分は自分の道を進む」というジャンボさんの生き方そのものを歌ったもので、ジャンボさんのお気に入り。また、『好きにならずにいられない』は、鶴田さんがエルヴィス好きで、アメリカ修行時代に「生で2、3回ライブを見た」のだという。そのエルビスの中でも1番好きな『好きにならずにいられない』をかけたいということだった。エルヴィスが好きだったのは初耳だったが、あまりにもハマったので納得した。

そして引退式当日、私は『マイウェイ』と『好きにならずにいられない』の曲を鶴田さんに渡した。その6時間後その2曲は武道館の会場に流れた。

しかし、なぜか最初話していた『ローリングドリーマー』はかからなかった。なぜ『ローリングドリーマー』はかからなかったのか？　これも謎であるが、小さなことは気にしないジャンボ鶴田さんらしい。ホントに小さなことは気にしないスケールの大きい人だった。

ある年、あて先に「等級と」と書いてあった年賀状が送られてきた。裏を見ると差出人は鶴田さんで、どうやら「東京都」と書くところをワープロ変換ミスで「等級と」となっていたのだが、そのまま私のところに年賀状として出したらしい。これは形を変えたジャンボ・ギャグなのか？　単なる間違いなのか？　今となってはわからない。また、ジャンボさんから同じ年に年賀状が2枚来たこともあった。

そして、最後のeメール

去年3月に鶴田さんがオレゴンに渡ってからは国際電話やメールでのやりとりをしていた。だが、細かいことを気にしない鶴田さんからは、こちらの話とは関係なく、ただ「オーオーオー鶴田」とだけ返事が来たこともあるし、いきなり明るい調子で「オーイ元気だよー」というタイトルでメールが来たこともあった。

メールの内容からは「鶴田さんが外国人に日本語で話し掛けている」などアメリカでもマイペースを崩さなかった様子などがうかがわれた。

また、ある時などは、いきなり、犬の名前を書いただけのメールと、オレゴンで飼っている犬の写真が送られてきたこともあった。そのメールには他には何も書いてなかった。あのメールは、いったい何だったのか。今となっては鶴田さんしかわからない。

そして、鶴田さんからのメールの文章はいつも「オーオーオー、ジャンボ鶴田」で終わっていた。どこにいても鶴田さんはジャンボ鶴田だった。

今年になって鶴田さんから、何度か電話が来た。だが、あいにく不在だったので、留守番電話に「こんにちは、世界のジャンボ鶴田です」と始まるメッセージが入っていただけだった。また「アメリカで肝臓病の権威の病院がわかりましたら、教えてください」とメールが来たこともあった。

そして、ようやく鶴田さんと電話が通じて話をしたときに「国際電話は大変でしょうから、こちらから電話をかけ直しますよ」と私が言っても、鶴田さんは「いやいや、大丈夫」と断っていた。あとから考えるとこの時期は極秘に帰国していて肝臓病の治療をしていた時期と重なる。鶴田さんは、'99年末から苦しい闘病生活が続いていたという。もしかしたら、私に気晴らしでギャグでもかましたかったのだろうか？　遅々として進まない治療に対し、やるせない思いがあっただろう。

そして、居場所を教えなかったのは、「日本にいること、そして病状が思わしくないことを知らせたくない」というジャンボさん最後の美学だったのかもしれない。

西暦2000年2月ごろから、何度もこちらからメールを送っても返事が来ない状況になった。オレゴンの自宅に電話しても、いつも留守番電話状態。「ひょっとしたら肝炎の具合が悪くなったのか」と不安がよぎった。

5月5日、鶴田さんから久しぶりにメールが届いた。「パソコンの調子が悪くて連絡遅れてすみません」。しかし、いつもの「オーオーオー鶴田」の文字はなかった。今思うにそのとき鶴田さんは移植のためにマニラに向かう途中だったのだろうか。

結局、これが鶴田さんとの最後の交信となった。

そして、5月16日――。悲報が届いた。

日本人のスケールを大きく超えた、大好きなジャンボさんはもういない。そして、まわりの空気を一瞬に真空にしたジャンボギャグももう聞けない。

それでも、私は今でも鶴田さんから電話がかかってくるような気がしてならない。いつものように陽気な口調が受話器から聞こえてくるような気がする。

「もしもし世界のジャンボ鶴田です。馬場さんが好きなのは？　ババロア～！　ババロア～！」

ラリルレ・ルンバ■プロレス研究会出身のサラリーマン。鶴田さんのアメリカ滞在ビザの保証人でもあった。鶴田さんからいただいた「筑波大学大学院の卒業論文」と「鶴田さんのコンサートを収録したカセットテープ」が宝物。今年山梨のジャンボ鶴田園への追悼ぶどう狩りツアーにいく予定。臓器移植を待つ人のために「ジャンボ基金」が設立されると聞きました。ジャンボさんの遺志を尊重し、今回の記事の原稿料は全額「ジャンボ基金」に寄付いたします。

ん」と負けて帰ってくるのが格好いいね

プロレスから遠く離れて、アメリカでプロレスを振り返った!!

ジャンボ鶴田が遺した言葉

聞き手／山根由里・構成／坂井ノブ

ジャンボは非常に頭のいいプロレスラーだった。その言葉には、常に「ジャンボ鶴田」というレスラーをわかりやすく伝えると同時に、常に本音を語っていたように感じる。じつは、P132で原稿を書いてくれた山根さんは、アメリカで何度もジャンボに会い、インタビューを行っていた。今回、過去に取材した原稿の中から、ジャンボが遺した言葉の数々を拾い集めてみた。発掘インタビューというほどまとまった量ではないが、言葉の端々から不世出のプロレスラー「ジャンボ鶴田」の偉大さを感じて頂きたい。

ジャンボ鶴田というレスラーには「エリート」「天才」「若大将」「怪物」と様々なキャッチ・フレーズが付けられた。なんというか、非常に優雅な感じがする単語ばかりだ。だが、怪物は1日にしてならず。ジャンボといえども努力なしに、あの地位と名誉を築いたわけではない。

入門後、ジャンボは片道のキップだけ渡されて、テキサス・アマリロのファンク道場に預けられた。ジャンボのプロレスラー人生はここから始まったのだった。

「アマリロの空港に着いてみたら誰もいないし、『どうしよう』と思って2時間ぐらいじぃーっとベンチに座ってたんです。これは大変なことになったなと思って。そこから僕の人生が始まった。みっともない格好してこのまま日本に帰ることは絶対にできないと、それでがんばりました」

「たとえば、砂漠の真ん中に放り出されたとしよう」というホリオン・グレイシーの言い訳のようなシチュエーションを実体験として味わったジャンボ。いきなりこんなところに放り出されたら、誰もがパニックに陥る。ここでジャンボは生き残るために目覚めた。

「大体、海外武者修行は2〜3年いくのが普通らしいんですが、僕は早くプロレスを学ぶためにいろんなことを考えました。自分は第1試合でしょ。試合会場に行くときは、最初は他のレスラーの車に乗っけてもらってたんですが、レスラーは自分の試合が終わると帰っちゃうんですよ。最後まで試合を見るにはどうすればいいか考えて、レフェリーの車に乗っけてもらうことにしました。レフェリーは最後までいますから。何というレスラーが何という技を使っていてとか、こういう格好になった時はこういうふうにロープから返ってきてこういう技を使うとか、メモを取りながら勉強しました」

こうした地道な努力のかいあって、日本でのデビュー戦でファンクスから一本奪うなど、すばらしいデビューを飾ったのだった。

「それで『ジャンボ鶴田というのは非常にいいレスラーだ』と評価されました。記者には、僕のこと『天才』なんて、努力しないみたいなこと書かれましたけどね。ボクは自分なりにものすごく努力してます。『坊ちゃんレスラー』とか、『若大将』みたいなことも言われましたけど、そうじゃない。ボクは苦労人なんです」

この言葉、決して謙遜で言っているわけではない。本音だろう。

「大学も、入学金だけ両親に出してもらって、あとは自分で働いて……。東京で建材業をやってる親戚から、仕事を手伝ってくれたら授業料も出してやるし、食事もタダにしてやるって言われてね」

文武両道＋アルバイトという三刀流はジャンボにしか出来ないだろう。そんな環境でもオリンピックにも出てしまうのだから怖ろしい。やはり、ジャンボは怪物だった。

昨年3月に引退を発表したときに、ジャンボが「対戦したかった選手」として名前を挙げたのは、藤波辰爾……ではなくて、前田日明だった。その意外なチョイスには、前田本人も驚き、「光栄です」と語った。

その怪物・ジャンボ鶴田といえばバックドロップ！　というぐらいに必殺技として定着したこの技は、同じグレコローマン出身のルー・テーズが伝授したものであることは広く知られている。だが、一方で新日本の源流にあたる人物とのつながりは、あまり語られていない。

「（カール・）ゴッチさんの家にも何回か行きました。あの時代は年に2回くらい海外で試合があったんで、タンパやマイアミビーチで試合があった時は、「帰りにゴッチの家にでも寄って行こうかね〜」って。そんなに深くはつき合ってないですけど、日本の雑誌に書かれてるような気むずかしい人じゃないです。誰でも来る人はウェルカム、という人です。」

あの当時、ライバル団体の象徴ともいえる人物に会いに行く鶴田も凄いが、それを受け入れるゴッチもビッグハート。世代的な隔たりはあるものの同じ時代を生きた者同士のつながりは、しっかりと持っているのだ。ジャンボも、コシティを振り回していたのだろうか？　全日

〜

と新日の政治的なゴタゴタなど、鶴田にしてみれば、トップ2人だけの問題だったのかもしれ

バー3、長州もナンバー3。ナンバー2ってのは、一番損するんです。だから藤波選手も、そ

は）なんと格好いいことばかりやってくれるんだろうな、と思って。

撮影／平工幸雄

6月9日、日本武道館で惜別のテンカウントゴング……。そしてジャンボ鶴田基金設立!!

全日本プロレスの6月9日、東京・日本武道館大会。武道館入口には祭壇が設けられ、アリーナにはジャンボの遺影がデッカく飾られていた。

第4試合終了後、保子夫人と共に3人の息子さんたちが見守る中、所属全選手とシリーズ参戦中の外人選手がリングサイドに勢揃いして惜別のテンカウント・ゴングが鳴らされた。ゴングが鳴らされる中、ジャンボの生き写しのような長男の裕士君が遺影を胸に抱き、立派な姿を見せていたのが印象的だった。ゴングの余韻が消えた後、場内に流されたテーマ曲『J』にあわせて、1万5000人の観客からはしばらくの沈黙の後、「ツ、ル、タ、オーッ！」の大合唱が沸き起こった。このしばらくの沈黙には、「ああ、もうジャンボはいないんだな」という実感がこめられていたように感じた。

この直後、会見を開いた保子夫人は、「臓器売買に関わった」「末期ガン」「手術の失敗」というマスコミ報道を強く否定。「主人は韓国、オーストラリア、フィリピンの3ヶ国で移植リストに載っていました。末期ガンなら載るはずはありません」と気丈に語った。

同時に保子夫人は、「ジャンボ鶴田基金」の設立も発表し、「5年後、10年後、50年後にでも彼の死が報われるように1人でも多くの移植の方が助かるように頑張りたいと思います」と語った。

ジャンボ基金とは？

「今回のジャンボの死に関する報道の中で、臓器移植が危険なものと誤解され、ドナーを待つ人々が希望を失うことがあってはならない」という保子夫人は、ジャンボ鶴田基金の設立を発表した。臓器移植を待つ人々が、一人でも多く臓器提供を受けられるようにするための基金である。6月18日（日）に行われた献花式での花の売上金の一部が、ジャンボ鶴田基金に充てられる。

(引退試合は)世界最高のレスラーとやってね「がちょ～

と新日の政治的なゴタゴタなど、鶴田にしてみれば、トップ2人だけの問題だったのかもしれない。リングを離れてからは、現役時代には考えられないこんな発言も残している。

「(日本のレスラーで) 印象に残っているのは、やっぱり同期の谷津だな。谷津は今、どうしてるのかなあ。あとは天龍。長州は、天龍と同じで、20分ぐらいガーッとやるタイプだな。僕は彼みたいな試合はできないだろうし、彼も僕みたいな試合できないだろうし……。僕も格好いい役をやりたかったなぁ。反体制派になってやったほうが絶対に格好いいもんね（笑）。だけど、ナンバー2ってのはできないんです。ナンバー3だからできたんですね、みんな。天龍もナンバー3、長州もナンバー3。ナンバー2ってのは、一番損するんです。だから藤波選手も、そういう点では非常に損してる部分があるかもしれない」

格好いい役をやりたかった――これは、間違いなく本音だろう。身体、才能、キャリア、あらゆる面でジャンボはズバ抜けていたのに注目が集まるのは、ナンバー3の選手ばかり。「他の同世代は3番。ボクは2番」という自負がモロに出た発言で痛快この上ない。藤波の対戦要求には、「マスコミを通じてやり取りするやり方が許せなかった」とキラー・モードで批判していたものだが、こと団体のナンバー2という部分では通じ合う何かを感じていたのか、共感している点も見逃せない。

ズバ抜けた実力をわきまえていたジャンボは、欲求があってもそれを決して口にすることはなかった。そして長い間、あたためてきた欲求が引退の際にポロリとこぼれ落ちた。「前田日明選手と闘いたかった」発言である。

「彼は引退試合にはカレリンを選んだでしょ。（前田は）なんと格好いいことばかりやってくれるんだろうな、と思って。グレコローマンのすごさも知ってるし……。僕らの時代には、アレキサンダー・メドビッチという（アマレスの）すごい選手がいたんですよ。ターザンみたいで、格好いいの。クリス・テーラーという210キロくらいの選手を投げたんです。自分もメドビッチと引退試合をしようかと思ってたんですよ。自分の体がこういう状態じゃなかったら、引退の時は自分より強い相手とやって、負けて当然だけど、正面からぶつかってね、「あ～、終わった」っていうのが一番いいなと。自分より弱い相手とやって終わっても納得できないし。どうせやるんなら世界最高のレスラーとやってね、がちょ～んと負けて帰ってくるのが格好いいよね。」

「がちょ～んと負けて帰ってくる」という表現が非常にジャンボらしくて、たまらない。人類最強の男に「がちょ～ん」と負けた前田のように引退したかったのだろう。

「(引退の時には) もう最後だからね、言いたいこと言ったほうがいいなあと思って（前田とやりたかったと）言ったんです。是非（前田と）やってみたかったな。僕らの時代には、他団体と交流しちゃいけないという不文律がありましたんでねえ。今にして思うと、それが良かったのか悪かったのかわかりませんけど、僕にしてみれば全日本を守ってきたという自負はあります」

ジャンボが守り通してきた不文律もいつしかなくなり、信じられないことに全日本プロレスは、いままさに分裂しようとしている（6月15日現在）。生前のジャンボは「形あるものは、いつかはなくなる」という言葉をよく使っていたそうだが、ジャンボが作り上げ、守ってきた「全日本」のプロレスは三沢たちの世代が確実に継承しているので、これからもさらなる発展を続けていくことだろう。

印象に残っているレスラーが谷津だったというのは、これまた意外！　アマからプロに転向する中で、共感する部分も多かったのだろう。アマレスでオリンピック出場を果たした2人の『五輪コンビ』は早すぎたカート・アングルというか、スケールのデカいRJWというか……2人揃ってバーリ・トゥードに参戦する姿も見たかった。

本誌独占

一連の死亡報道に保子夫人が重い口を開いた!!

故・ジャンボ鶴田夫人

聞き手／坂井ノブ・撮影／平工幸雄・取材協力／ラリルレ・ルンバ

今回、ジャンボ鶴田夫人である保子さんに話を聞かせて頂いたのは、「愛する夫の死について」その真実を明らかにしていただくためである。

ジャンボの急逝以後、様々なメディアが、この不世出の怪物レスラーの死を報道してきた。憶測や未確認情報の中で、諸説入り乱れた報道がなされてきたわけだが、いまこの『紙プロ』を読んでいる読者の皆様は、どのような印象をお持ちだろうか？

「肝臓ガンとの闘病生活の末の孤独な壮絶死」という印象をお持ちの方が大半ではないだろうか？　本誌も前号では、情報が錯綜する中で事実ではないことを引用掲載していた。ホントに申し訳ないと思っている。

だが、真実はここにある！

保子夫人が、愛する夫のために100％の真実をいま明らかにする。これは1人でも多くの方に読んで頂きたい。ジャンボの生き様はかくも前向きで、保子夫人の愛はこんなにも深かったのだ。合掌。

今回、手記の掲載をお願いするときに、保子夫人と初めて話をさせて頂いた。保子夫人は一連のジャンボ鶴田死亡報道に対して、いくつか訂正したいことがあるということを強調していた。愛する夫の最期の姿である、正確な報道をしてほしいという気持ちが痛いほど伝わってきた。

じつは主人が亡くなった当初は、死因を伏せておこうと思っていました。なぜなら、フィリピンで亡くなったというと、今回のような間違った噂が絶対に出ると思ったからです。

今回の件は「レスラーの死」というよりも、私にとっては「家族の死」なのです。マスコミにどう言おうということよりも、「なんで、死んじゃったんだろう？」という気持ちの方が強かったので、もう誰にコメントするとか、感情的にそういう次元の問題ではなかったというのが正直なところです。ただ、主人も立場が立場なので、私が最期の姿をしっかり伝えなければいけないと思いました。そこで間違った報道をされたというのは、非常に悔しいです。今まで彼がやってきたことを、すべて無にしてしまうような報道は、主人も悲しむし、私としても彼に対して申し訳がないので、できる限り訂正していきたいと思っています。

3つの訂正

今回の死亡報道で、最も早い段階で、大きなインパクトを与えたのは、5月17日付（死亡が明らかになった5月16日の昼発売）の『東スポ』だろう。一面に「悲報!!　49歳肝臓がん　ジャンボ鶴田　マニラで凄絶急死」とある。また、「点滴を拒否したときは1人だったと聞いています」というジミー鈴木氏のコメントを掲載。また、ある写真週刊誌には、フィリピンに詳しいジャーナリストのコメントとして「移植に関する法律が未整備で、事実上、臓器売買が野放し状態」と掲載し、断定はしないものの、ジャンボの死にスキャンダラスなフィルターをかけて伝えている。情報が錯綜する中での報道だったので連鎖的に誤報が発生したようだ。保子夫人は、こういった一部報道の誤りを強く否定した。

まず「末期ガンだった」という報道がありましたが、主人はガンではありません。なぜみなさん調べないのかなと思うのですが、末期ガンの患者は臓器移植が受けられないのです。移植の先生方も、これから先、生きる可能性がある人にしか臓器は提供しません。

臓器移植を受けるには、まず「移植リスト」というものに載る必要があります。主人は韓国とオーストラリアとフィリピンでその移植リストに載りました。倫理委員会というところがOKを出して、初めて移植リストに載ることができるのですが、そこに載るまでには大勢の先生方の前で、その後の人生や生き方についてまで質問されるのです。いくら外国に行って「臓器移植を受けたい」って言っても、簡単にはいかないものなのです。

■

「臓器売買に関わった」という報道もありましたが、これもあり得ません。

主人は焦って肝臓を手に入れるような状況ではなく、待つ余裕がある身体でしたから。

私たちは移植を受けようとしていたとき、既に「ジャンボ鶴田基金」（P137参照）のことが頭にありましたので、後に続かないような行動は、私も主人もしたくありませんでした。もし、そんなことをしたら「ジャンボ鶴田基金」を設立出来る立場ではなくなってしまいますから。絶対に臓器売買ではありません。

■

もうひとつは「フィリピンでレベルの低い治療を受けた」という報道ですが、これも正しくありません。主治医の方は、マル

愛する夫の死について 100％の真実をお話します

JUMBO TSURUTA

コス大統領を手術したことがある優秀な方でした。主人が入院したのもフィリピンで最高の設備が整った病院でした。外科医は誰で、麻酔医は誰で、心理学者がついて、という具合にそれぞれの専門分野のお医者さまがちゃんとつくのです。フィリピンでの臓器移植に望みを託している方も大勢いらっしゃいますので、その方々の希望の光を消してしまうような報道だけはしてほしくないと思います。

誤った報道が一人の人間の名誉を傷つける

情報が乏しい中での報道は、噂が一人歩きしてしまいがちである。だが、その噂が人を傷つける場合もある。保子夫人の心の痛みは、当事者ではない私たちが、完全に理解し得るとは思わない。だが、少なからず真実を知っておく必要はあるはずだ。ジャンボを必死に支えてきた保子夫人の憤りを少しでも感じて頂ければと思う。

こうした間違いがあっても、なかなか新聞には訂正の記事を載せていただけないのが現状です。

ジミー鈴木さんという記者の方はアメリカにいた頃や主人が岐阜で入院していたときに、お見舞いに来ていました。ただ、今回、『ゴング』のジャンボ鶴田追悼号に載った、病院で旗を持っている写真（編集部注：テキサス日本人会の人が激励の寄せ書きをした旗を持って、ジミー鈴木氏がジャンボの病室にお見舞いに行ったときのもの。保子夫人も写っている）を見て、私は訴訟しようかなというくらいの怒りを覚えました。あの写真を私が見たら到底、掲載を許可するようなものではなかったからです。主人は頭もボサボサで、お寝巻を着ている写真なんですから。ましてや、素人の私まで写っていました。彼が、あの写真を撮ったとき「私は『ジャンボ鶴田のファン』だから来ただけであって、記者としての仕事で来たわけじゃない」とおっしゃっていました。そう言って撮った写真をなぜ載せるのでしょうか?

彼のコメントは『東京スポーツ』にも掲載されていました。私はマニラから電話入れて、彼には「マスコミに一切しゃべらないでほしい」と言ったんですが……。『東京スポーツ』（5月17日付）に、彼が「点滴を拒否したと聞いています」と語っている記事を拝見しましたが、麻酔を打って手術していた主人が、自分から点滴を拒否出来るはずなどありません。その記事を見て、私は思わず笑ってしまったほどです。

■

私は『日本テレビ』さんにも撮らないで欲しいとは言ったのですが……たまたま私達が食事に行ってる間に撮影して裏口から出ていったようです。放送では「三日間も遺体は放置された」「棺の回りには誰もいない」「誰も記帳していない」といった具合に、「寂しい死」というイメージを強調したものでした。今までお世話になった『日本テレビ』さんが、そういう映像を流したということには、凄く私は残念で、凄く悔しい思いで一杯です。マスコミという立場もわかりますが、私に許可もなくそういった映像を撮ったことについては深い憤りを感じています。

そもそも「三日間放置された」という事実はありません。私は、亡くなった次の日には現地に飛んでいます。それと、どこの世界に自分の身内が亡くなったのに芳名帳に名前を書く家族がいるんでしょうか?

いいことと悪いことがあれば、悪いことをマスコミは伝えるのでしょう。そういう世界だなというのはわかるのですが……これから子供も社会の中で生きていくわけですから。どういうふうに亡くなったのかを間違って伝えられることによって、主人の名誉が傷つけられるようなことがあってはいけないと、私は思います。

手術は90％以上成功するはずだった

ジャンボの病状は決して芳しいものではなかったが、移植を早急にしなければならない、というものでもなかった。だが、ジャンボと保子夫人は生きるために、未来につなげるために移植手術に踏み切った。

主人は前向きに移植手術を考えていました。手術を決意したのは、アメリカでお医者さまに「元気なうちに肝臓の移植手術を受ければ?」と勧められたからです。実際、アメリカで頂いたお薬で、肝炎のウィルスは消えていました。けれども、肝硬変があり、決して機能は良くなかったので健康なうちに新しい人生を手に入れようということで移植を受ける決断をしました。報道されていたような悲惨な闘病ではなく、新しい人生を掴むための移植だったのです。私たちは韓国、オーストラリアと臓器提供者が出てくれるのを待ちました。実際、「臓器が提供出来るかもしれない」という連絡が入った5月12日も、マニラで買い物をしていたほど元気だったのです。

移植手術は90％～95％成功するだろうと言われていました。簡単な手術だからということで、主人は喜んで手術室に入っていったのですが、結局それが最後になってしまいました……。

■

移植手術の最中、肝臓の周囲の血管が固くなっていたので非常に結びにくかったようです。誰でもそうなんですが、肝臓の一部が他の臓器にちょっとくっついているそうです。それを剥がしたときの出血がひどく、通常20パックの輸血をするところを主人の場合は60パックもの輸血をしました。それでも出血の量が多く、どうしようもなかったそうです。死因は大量出血によるショック死でした。

そのときオーストラリアにいた私はフィリピンに飛び、一番最初に主治医の方に会いに行きました。「なぜ成功率が90％以上の手術で亡くならなければいけないのか?」を自分が納得するまでお医者さまに聞きました。主人も一番それを知りたがってるはずですから。

「こういう状態は予期せぬ出来事で、どこの病院でこの手術をしたとしても、日本でやってもオーストラリアでやっても、ヨーロッパでやってもこの症状、つまり出血が起きた場合は助かる見込みは、2、3％だった」と主治医の方はおっしゃいました。

無念でした。これは頂いた肝臓が悪かったとか、手術の失敗という問題ではないのです。出血が起こった以上、どうしようもなかったわけですから。

亡くなったときの顔は、凄く幸せそうな、笑っているようなニンマリというか、ニッコリした顔でした。苦しまないで逝ったから、私は救われたなと思いました。痛みもないままですから。だからこそ、今頃怒ってるんじゃないかなと思います。「オレ、なんで死んじゃったの?」って。「キミに任すんじゃなかったよ」と、怒られちゃうんじゃないかなと思っています。でも、最後まで主人は後ろを向かなかった。非常に彼らしい生き方だと思います。

ジャンボ鶴田基金が目指すもの

6月9日、全日本プロレスのリングでテンカウント・ゴングが鳴らされた日に、保子夫人の口からジャンボ鶴田基金の設立が発表された。それは、ジャンボの行動を決して無駄にはしないという保子夫人の強い意志の賜物だった。

主人は生きる可能性を求めて、臓器移植のための環境が整ったフィリピンで手術を受けました。もし、今回の報道で「フィリピンの医療のレベルが低い」「臓器売買」といったような誤ったイメージが付くと、助かる人まで助からなくなることも起こり得ます。だから、私は多くの方に真実を知っていただき、今回のことを未来に繋げていきたいと思うのです。

主人の死が報われるまで、5年後でも10年後でも、日本でスムーズに臓器移植が出来る環境を整えていくのが私の使命だと思っています。

※生前のジャンボは「脳死判定後、臓器提供するということは、人間として出来る最後のプレゼントである」という言葉を遺し、オーストラリアでジャンボ鶴田基金を設立した。今回はスペースに限りがあったので掲載できなかった闘病秘話やそのジャンボ鶴田基金について、次号で大々的にページを割いてお伝えする予定である。

三沢派新団体に入団決定！バトラーツ卒業直後の大ちゃんを直撃！

さらばバトラーツ!!
新天地（いざ）へ!!

池田大輔

Daisuke Ikeda

聞き手＆構成／坂井ノブ
text by Nobu Sakai
聞き手＆トンズラ／大西タマリン
tonzura by Tamarin Onishi
撮影／NAHOMIX
photographs by Nahomix

大ちゃん、バトラーツ卒業——創刊以来バトラーツを追いかけてきた本誌としては、じつに寂しい出来事だった。だが、大ちゃんもより大きな世界にステップアップするために退団という選択をしたわけだし、踏み出した勇気と行動力は素晴らしいものだった。それを快く送り出したバトラーツも素晴らしいと思う。ボクは「バトラーツは石川社長やアレクだけの団体ではない！」ということを伝えるべく、大ちゃんを何度もインタビューをしてきた。会社批判めいた発言も敢えて掲載してきた。常に「自分たちが良くなっていこう！」「バトラーツを大きくしていこう！」という気持ちが言葉の中にあったからだ。

今回、そうした発言は一切出なかった。当然だ。バトラーツという枠を飛び出した以上は、愛のある毒舌など必要ない。自分がステップアップすることが最大の恩返しになるのだから。そんな大ちゃんに未来の展望を語って頂こうと思ったのだが……まずはタマリンのインタビューをお読みください。（※）内の発言は、ボクのせめてもの罪滅ぼしです。（坂井ノブ）

（※どうやら、どこかのオカマバーのようだ。カランというグラスの音が響く中、店のママと雑談をしているところからテープは始まっていた。タマリンは会社では見せたこともないような浮かれっぷりである。）

——ウフフ！　まずは、卒業おめでとうございま～すって、言ってもいいんですかね？　ウフフフ。

池田　えっ、もうインタビューに入ってんの？

——「モチ」の「ロン」！　ギャハハハハ！（※1人でバカウケしてる場合じゃねえぞ）。入ってますよぉ！　ねえ、バトラーツを辞めた理由を教えて下さいよぉ。どうなんスかぁ、ねえ、ねえ？（目ェパチパチ）。

池田　それは言えないんだなぁ。

——そのことを聞きに来たんですよ。

池田　そしたら終わりじゃん。

——終わりじゃないじゃないですかぁ！　ギャハハハ！（※笑ってないで理由を聞け！）純粋に円満退社ってことで、いいんでしょうか？

池田　まぁ、そうだね。

——「まぁ」っていうのは、どういうことでしょうか。ギャハハハ！

池田　いちいち言葉を拾わない！

——ギャハハハ！　拾うのが職業なんですけどぉ（※違うと思うぞ）。

池田　う～ん、それは……すいません、言えません。

——ギャハハハ！

池田　笑うところじゃないよ。

——ギャハハハ！（※笑うところじゃないんだってば！）じゃあ、卒業するの会見の席上、公式コメントでおっしゃってましたけど、「方向性の違い」が一番の原因なんですかね？

池田　二番目の原因ですね。

——一番目の原因っていうのは？

池田　それは、言えないんだよなぁ。

——ギャハハハ！　具体的に言うと、「方向性」が一番ってことにしといて。その二番目の「方向性の……」

池田　一番目って言ってんじゃんか！　仕事できないねぇ、アンタ。

——なんでですかぁ、ウチにはスモーノブっていう、もっと出来ないのがいますから、ギャハハハ！（※キミの何倍もやってるよ）じゃあ、「方向性の違い」っていうのは、どういうことなんですかね？　まあ、わかるんですけっどぉ。（※ホントかよ）

池田　じゃあ聞くなよ！（※そうだ！）

ママ　フリーになったんだから、デカいこと言わないと。

——そうですよぉ！　ママはいいこと言う！（※キミが聞け！）……えっとぉ～、（突然）最後の試合がですねぇ。

池田　話、早いねぇ、アンタ。読者に伝わらないと思うけど？

——いや、大丈夫です！（大丈夫じゃねえよ）だって、池田さん、しゃべらないじゃないですか！（※キミもしゃべってないよ）

池田　しゃべれないじゃん！

——聞いとかないといけないこともあるじゃん！（※なぜタメ口？）この5年の中で、いろいろあったにしろ、「自分がバトラーツを変えよう」とか、そういう意識はあったわけですよね。

池田　もちろん！

5月20日、埼玉・戸田競艇場大会でバトラーツ卒業を発表。大ちゃんは選手全員と握手して、巣立っていった。「団体と自分の考えに違いが出てきたため」と退団の理由を説明した。あくなき上昇志向が大ちゃんを突動かしたのだ！　スター選手である大ちゃんの卒業を認めた石川社長のビッグハートにも感服！

立つ鳥、後を濁さず!!

本誌・大西タマリンも紙プロを卒業へ…

W卒業記念インタビュー

「大ちゃん（のインタビューを）をやったら辞めまする」というトンチンカンな発言を残し、インタビューを編集もしないままテープとともに『紙プロ』を巣立っていった大西タマリン。なんとかテープは回収したものの、中身を聞いてみたらほとんど表に出せない話ばかり。ただ、このインタビュー素材を捨てるのは、貴重な時間を割いて頂いたうえに、仕事の出来ないダメ・インタビュアーを相手に自分の気持ちを誠実に語ってくれた池田選手に対して失礼にあたる。もちろん、足りない部分も多いので、私、坂井ノブが追加取材をして、ケツを割った後輩のケツを拭かせていただいた。

一番大事なのは池田大輔というプロレスラーが、どういった考えを持ってステップアップしたのか、である。そして、巣立って行ったバトラーツに対してはいま何を思っているのか？　変則的な2部構成だが、しっかり読んで頂きたい！

――……ないのかぁ？

池田　なんでだよ！　あったよ！　内でも外でも一生懸命闘ったよ。

――それは見えると思うんですけっどぉ、そこで、もう一頑張りしようって意識がなくなってしまったってことなんですか？

池田　はい

――ゥワァ～オ～！　素直ですねぇ、今日は（笑）。

池田　いつもでしょ！

――はい、いつもで～す。（※なびくな！）

池田　俺、アンタにそんなに会ってないでしょ？　忘年会で会ったのと、ここでアンタがデートしてるところに俺がたまたま遭遇しちゃったことがあったのと、（※えっ、オカマバーでデート？　何、それ？）今日で会うの3回目じゃん。

――そうですねぇ……。

池田　なんでサラッと流すの？　受けが弱いね。

――私のことはどうでもいいんですよ、ね？（目ェパチパチ）。

池田　オレのインタビューって、原稿にしづらいんじゃないの？

ママ　あとはタマリンの実力次第！

――それもまた難しい話なんですけどね……食べよっと。（※ボクらもキミの扱いは難しかったよ）

池田　（ママと会話を始める）。

――（ようやく食べ終わり、突然）バトラーツの5年間とは、池田さんにとってなんだったんでしょうかねぇ？

池田　はい？

――思い起こせば旗揚げから……。

池田　魂を鍛える場所ですね。

Daisuke Ikeda

ハッピーターンを片手にグラスを傾ける。今回のバト卒業はハッピーな結果になるだろう。下の選手のことも考えつつ、会社に対して厳しいことを言う回数も多かった池田だがバトラーツ全体のことを思えばこそ。卒業後は、厳しい発言は一切出なかった。

――魂を鍛えたってことですか？（※そう言ってるじゃねえか）

池田　言っとくけど、俺はバトラーツは攻撃しないから。

――悔いはない？

池田　悔いはないです。一番最後の対戦相手が臼田勝美選手でよかったです。

――いまは夢とか、ないんですか？

池田　それがあるから独立したんじゃないですか！

――それ教えてくださいよ！

池田　それを聞かれるのが、一番困るよね。夢ってなんですか？

――ギョッ！　そんなの私に聞いてどうすんですか！　私は「車買う」でいいですよ。（※免許持ってないのに？）

ママ　お嫁さんに行くとかじゃないの？（※いいぞママ！　ナイス・ツッコミ！）

――もらってくれる人いないですよ。

池田　この前、この店でバッタリ会ったときに一緒にいた男と？（※誰？）

ママ　あり得ないね、彼はまだガキだもん。（※若いんだ？）

――私、もうオバチャンですよ！

池田　年下の男はダメなの？

――ダメですねぇ……。（※それは結婚がってこと？）

ママ　22、23だもんね、●●ちゃん。（※エ～ッ！　そうなの⁉　●●選手とデートしてたんだ⁉）

池田　いいんじゃないの？（※その通り。たしかに、誰とデートしようがいいんですけど、仕事出来ないからなぁ）

――その話題は置いといて……。（※何でインタビューしてる側がスキャンダルを暴露されてんだよ！）

ママ　野性の男を手玉に取るなんて、怖い女ね。（※上手い！）

池田　「タマリン」っていうアンタの芸名はそういう意味だったのか！（※これまた上手い！）

――どうしたらいいのかなぁ、このインタビュー（目ェパチパチ）。

池田　ナニ、目ェパチパチさせてんの？

――（無視して）何か、読者にメッセージとかありますか？

池田　最後に書いといて。「池田大輔のインタビューは載せられないことが多すぎる、でも私はわかった」って。

――ギャハハハ！（※ホンッツッツッツットに笑ってる場合じゃねえぞ！）

■結局、目ェパチパチさせて、バカ笑いしかしないタマリンの最後のお勤めは終わった。使えるのは、話しにくそうな池田選手の様子とタマリンの極小スキャンダル話ぐらいか。言葉を少なく慎重に語る池田選手から、バトラーツを退団した心境を察して頂きたい。今回、敢えてこの原稿を掲載したのは、ナメた質問を繰り返すタマリンの「ダメっぷり」を笑うためではなく、大ちゃんがどれだけの決意でバトラーツを退団したのかを読者の皆様にお伝えするためである。というわけで、改めて池田選手を6・9日本武道館大会の後を直撃した。

――前回はすいません。ウチのタマリンがケツを割っちゃったんで、再度インタビューです。

池田　タマリン、辞めちゃったの？

――そうなんですよ。池田さんの「インタビューをやったら辞めまする」って言って、テープを持ったまま雲隠れしてて。

池田　そうなんだ？　怖いねぇ。

――ま、そんなことは置いときましょう。今日の武道館大会を見た限りは、

すっかり全日本に馴染んでましたよね。武道館中が「イナズマッ!」ってやってましたからね(笑)。

池田 タッグを組んだ丸藤(正道)選手も、「今日は池田選手と組めるから、楽しくいきましょう!」っていうぐらい、のってたんで。

―2人のノリがあってるなって思いましたしね。チーム・タコ(池田と小野武志のタッグ)とかモハメッド・ボンバーズ(池田とモハメド・ヨネのタッグ)みたいでしたよ(笑)。で、ズバリうかがいますが今回の離脱の理由というのを池田さんから、ハッキリと語っていただきたいんですけど。

池田 まあ、ひとことで言っちゃえば会社の方針と俺が合わないってことなんだけど、バトラーツのファンには、すごくワガママに見えると思うよ。

―客観的に見ても、バトラーツという小さな貧乏団体から池田大輔という旗揚げからのスター選手が抜けるのは痛いと思うんですよ。そこらへんで心苦しさとかはないですか?

池田 ……俺ね、海援隊フリークなのよ。

―みちプロの海援隊?

池田 いや、武田鉄矢さんのだよ! こないだ、生まれて初めて、海援隊のコンサートに行ったんだ。同じ日に長渕剛さんもライブをやってたんだけど、そっちを蹴ってまで行ったから。

―好きですねぇ(笑)。

池田 『金八先生』の全盛期も、海援隊のライブ盤を聞いて、中学生の頃から珍しがられてたんだよね。それで5月16日にコンサートに行ったんだよ。そこで武田鉄矢さんが「『人(ひと)』の『為(ため)』と書いて、『偽(いつわり)』と読むんです」って言ったんだよ。

―ほう。

池田 それを聞いたときにゾクゾクっと来たね。なんか、自分の現状を言われた気がしたんだよ。

―なるほど。そこで、気持ちを偽って団体にいるよりも、自分を貫いてでもフリーになるということですね。

池田 だから、俺はカッコいい人とかいい人よりも、ああいうアクの強い人が好きなんだよ。「いいねえ、俺もこうなりたいな」って思うもんね(笑)。武田鉄矢は説教くさいイメージがあるけど、基本的にステージの上では笑いを取る人だからね。

―エンターテイナーですね。

池田 でも、そういうアクの強い人の側にいたくはないけどね(笑)。

―プロレスラーでそういう人はいませんでしたか?

池田 最近出会ったプロレスラーの中で「いいなあ」と思ったのは、ミル・マスカラスっていう人なんだけど(笑)。

―ハハハハ! リング上では、相当アクが強いらしいですからね(笑)。

池田 「この頑固さはいい!」と思ったね。やられて、メチャクチャ悔しかったんだけど。「こういうジジイになりたいな」と思ったね。

―他人にプロレスさせずに、自分のプロレスしかしないらしいですね。

マスカラスの頑固さはいい!! あまりにもムカついたから 顔を蹴ってやったけど(笑)

池田 俺がドスカラスを攻めようと思ってたのに、いきなりアイツに手を掴まれて、「え~?」と思ってるスキにロープに振られてクロスチョップが飛んで来るんだよ。あまりにもムカついたから顔を蹴ってやったけどね(笑)。痛そうな顔して、すぐドスカラスにタッチしてたもんね。

―凄い! マスカラスにそこまでする人は、他にいないですよ。

池田 もっとやって、「ごめんなさい」って言わせたかったんだけどね。まあ、感銘は受けたよね。

―池田さんもアクが強いですねえ。マスカラスもアクが強すぎてあちこちでヒートを買ってるって話ですけど、アクの強いままプロレス界で生き残っていくのは並大抵のことじゃないですよね。

池田 そういう生き様がいいなと俺は思うよ。どこに行ったって、「プロレスラーは1人だ」と思うからね。

―じゃあ、「全日本に入りたい池田大輔」っていう見られ方をするのは、池田さんも本意じゃないんですか?

池田 いや、そう見られてもいいよ。

―率直なところ、どうなんですか?

池田 フリーのまま、冷たい風に晒されるのもいいと思うし、入団して暖かいものに包まれるのもいいかなと思うし。よく「行き当たりバッタリの人」

いけだ・だいすけ■昭和43年2月13日、熊本県牛深市出身。平成5年12月5日、東京・後楽園ホール大会でデビュー。バトラーツには旗揚げから参加するも、今年5月20日をもって卒業。ちなみに純プロレスに進路を決めたキッカケは?「ハワイのグレイシー道場に出稽古に行ってるときだね。ワイキキのビーチに島田さんがやってきて、『今度、FMWのタッグベルトに挑戦しないか?』って(笑)。思えば、そこからだよなぁ」とのこと。グレイシーを体得しているときに、デスマッチのベルトに挑戦! 元祖・振り幅団体・バトラーツらしいエピソードだ。

「子供の頃、自分が感動したプロレスだから、いまでもみんな感動するんじゃない?」と思う

って思われがちだけど、これでも結構、考えてるんだよ（笑）。

―でも、順調にステップアップしてますよね。

池田　順調かどうか……毎試合、成長したいと思ってるからね。だから、スコーピオが来てるときは、毎日ブレイクダンスを習ってたし（笑）。それが中途半端で終わっちゃったのは残念だね。

―アハハハハ！　いまは全日本に参戦し始めた頃から比べると、成長してますよね。

池田　前のインタビューで言ったかも知れないけど、ジャンボ鶴田さんに言われた一言が、俺の中ではすごく大きいんだよ。（前回のインタビューでも教えてもらえなかった）一生胸の中にしまっておくつもりだけどね。

―そうですか……その鶴田さんも亡くなっちゃいましたね。

池田　ショックでしたね。

―何不自由なく完璧な人生を歩んでそうなイメージがあったんですけど。

池田　でも、それはイメージだけだよ。見た目と、ホントのところは違うんじゃないの？　誰でもそうだけど。

―でも、苦労してなさそうなイメージを見せるのが、すごく上手かったですよね。

池田　プロフェッショナルだよね。俺はどう？

―池田さんは……楽しんで生きてそうな感じがしますね。

池田　ホント？　俺は基本的に楽しくなきゃイヤなんですわ。

―誰でもそうですよね。

池田　自分が楽しかったら、「他人も楽しませよう」と思っちゃうからね。俺は小さい頃から、そうだったんだよ。小学校のホームルームでジュリー（沢田研二）の真似して唄ってたから（笑）。

―アハハハ！　そんなことしてたんですか？

池田　最初、オチャラケのつもりが、いつのまにか担任の先生にも「唄うたびに上手くなってるよ」って言われた（笑）。これは初めて語る過去なんだけど（笑）。『TOKIO』の衣裳は欲しかったね。今なら着れるかもしれない（笑）。どうかなぁ？

―話を戻しましょうか（笑）。人を楽しませたいというときに、観客は当然多い方がいいですよね。

池田　それは多かろうが少なかろうが、変わらないね。そこにいる人を盛り上げたいだけだから。でも、リングに上がるまでは照れ臭いからフード付きのガウンを着てるんだけどね（笑）。

―見ないでって（笑）。リングに上がって、ブォォッて水を吹くと観客も驚きますからねえ。うまいよなあ。

池田　うまいのかなぁ？

―うまいと思いますよ、びっくりするし。じゃあ、プロレスではうまい人になりたいですか？　強い人になりたいですか？

池田　それを併せ持ったものがプロレスラーなんじゃないの？　だって、お客さんに支持されて、強かったら最高だよね……俺の心の中の風景というか……。俺が子供の頃に見てたプロレスラーがそうだったから。だから、最近はこういうプロレスにこだわってるんだよ。自分が感動して、動いて、ここまで来たんだから。『PRIDE』を見て感動した人が柔術を始めるのと一緒で、俺は小さい頃からプロレスを見て、いまプロレスをやってるからね。「いまでもみんな感動するんじゃないか?」って思うんだよね。

―すごく幸せなことですよね。

池田　こないだ、子供の頃に見てたハンセンのラリアットを危うく食らいそうになったんだけど（笑）。試合してる俺はつらいよ（笑）。

―でも、全日は池田さんにピッタリなリングだと思いますよ。

池田　そうだね、おもしろおかしく生きていきたいだけだから。「わざとらしいことこそリアル」（by芳賀元太・バトラーツで数々の伝説を残した初代営業。本誌10号参照）っていうマンガみたいな人生を送りたいね。

―たとえるならば、どんなマンガですか？

池田　そうだね……いまは『ベルセルク』かな。その主人公は英雄になりたいっていう願望がないんだけど、巨大な「魔」に闘いを挑むっていう話でさ……。

―そういえば、全日本も「間」のプロレスだって言いますよね。

池田　……おい、山田ク～ン！　座布団全部取っちゃってくれ！

―おお、日テレネタですね（笑）。

池田　ちなみに『ベルセルク』も日テレなんだよ。『ベルセルク』の言葉を借りると、「因果の流れの中」って感じだね。

［00年6月9日、渋谷「ラ・ボエム」にて収録］

※このインタビューの1週間後、池田は三沢派新団体の旗揚げ記者会見に出席。所属選手として新たなるスタートを切ることとなった。これも「因果の流れの中」にあるのだろう。席上、「三沢光晴なる大人物に、自分は付いていこうと決心しました！」と胸を張って宣言。新たなステージに突入した池田大輔は新団体でプロレスの新たな可能性にチャレンジする。ガンバレ、大ちゃん！（※仕事は出来なかったけど、タマリンも次の仕事、ガンバレよ。）

Daisuke Ikeda

撮影／平工幸雄

「イナズマッ!!」という声とともに、日本武道館に集まった16000人が指を突き立てる！　全日本プロレスでの池田大輔の浸透度はかなりの高さ。新団体では、どのような闘いを見せてくれるのだろう。期待度はかなり高い！

CIMA多忙のため、急きょSDFが新連載開始
スモー・ダンディー・フジ二千の首投げごっつぁんです!!

え～、業務連絡、業務連絡！ 担当者のタマリンがトンズラするわ、CIMA選手は多忙でスケジュールがとれないわで、今回もCIMAの連載はお休みだ！ さあ、困ったぞ……そんなとき闘龍門の闘う広報・佐藤さんから「スモーを取り上げていただけませんか？」とのプッシュがあった。よっしゃ！ それ乗った！ というわけで、急遽、今回からスモーの連載となります。どーなる、CIMA!? ホントにこのままSDFが乗っ取るの!?

エロのことなら俺にまかせろ!!

SDF二千 PROFILE

スモー・ダンディ・フジ２０００■ご存知、クレイジー・マックスのエロ＆オヤジ担当。昭和45年７月６日、大阪府箕面市出身。大相撲・北の湖部屋で10年間過ごした元力士。今後、このページではＳＤＦが元・横綱の北尾光司氏よろしく、スポーツ冒険家ならぬエロ冒険家としてエロの世界に毎回首をつっこみ、首投げします（相撲用語）。かなりの年増園長。

Q

今回、ダンディに相談をしたいと名乗りを挙げてきてくれた女の子は、イズミちゃん（仮名・キャバクラ勤務・23歳）。好きな男のタイプは、シャドウＷＸとヨーブ・カステルというガッチリ系がストライクゾーンの女の子だ！

「男運がとにかく悪いんですよぉ～。去年、付き合った男には『何でお前は潮を噴かないんだ!? おかしいよ』って言われたんですよ。でも、女の子が潮を噴くのなんてＡＶの中の話でしょ？ 噴かないのが普通ですよ。だいたい、私ってめったにイカないですから。ホントにイクのは50回に1回なんで、普段はだいたいイッたフリだけなんですよねぇ。あとあと、最近、やった男、ヒドいんですよぉ。その人、フィニッシュのかなり前にいきなり抜いて、自分で手コキでフィニッシュなんですよぉ！ 悲しくなってきちゃったぁ。男運がない私なんですけど、どうしたらいい男をゲット出来るか教えて下さ～い―」

踏んだり蹴ったりの男性遍歴の持ち主に、ダンディはどんな福音をもたらすのか？

A

ホンマに男運ないね。今回から新連載やから、ワシ、自己紹介がわりに言っておくと、ＳＥＸはナマ派や。ガチンコやね。まあ、早漏なんだけど（笑）。それじゃ女の子に申し訳ないと思うんでね、とにかく前戯は長くしとる！ 言っておくけど、長いよ。前戯だけで平均1時間は超えるから。そんなワシの経験から言うとやね、女の子は潮を噴く！ あれは噴く！ とか言って、まだ1人しか噴かしたことないんやけどな（笑）。まだ、ワシは正味50～60人しか食っとらんのや。いずれ、これから2000人切りするから。そのあかつきには、「スモー・ダンディー・フジ二千人斬り」に改名する。「ＳＤＦ二千人斬り」になったら、「ダンディのヤツ、やりやがった！」と思ってくれたらええ。

それと、この子はイケへんみたいやね。まあ、女の子がイクっちゅうのは、体調も雰囲気も関係あるからな。でも、女の子は、あんまり好きじゃない男に、思わぬ攻めをされると、イッてしまうもんやで。「犯してほしい」っちゅう願望もどっかにあるからね。っちゅうか、ワシも犯して欲しい（笑）。最近、痴女にめぐり逢いたいな～。おっと、話が脱線したんで、土俵中央に戻そかいな。

しかし、その手コキの男は失礼やね！ もし、ワシが女やったら、ツッパリの一発や二発は絶対やってる。間違いない。でも、何で手コキなんやろうな？ ひょっとして、避妊ちゃうんか？ ワシ、中では絶対出さないようにしとるからね。それはエチケットでしょ。

ワシが、この娘の相手やったら、ホンマに舐め尽くす！ ワシは舐めて、舐めて、舐めて、舐めて……その後に、自慢のモノをブチ込むわけですよ。これは自慢やねんけど、ワシ、相撲部屋では一番デカかったからな。長さはコレぐらいあるよ（と下の写真のように自慢）。女の子には申し訳ないんやけど「痛い、痛い」って言われんねんから（笑）。今度、『紙のプロレス』の読者にも見せたろうか？ 見せられない？ そらそうや（笑）。個人的に、見たいっていう女の子はワシんとこ来てくれたらええ。見せたるかわりに、立たせてください（笑）。

しかし、この子はホンマに男運ないねぇ。いい人、紹介したろうか？ 太ってる人、好き？ ワシの相撲時代の後輩で、いいヤツ紹介しますよ。あっ、そうだ！ 次回は、両国のちゃんこ屋で合コンしましょう！

本日、結びの一言

前戯から舐めて 突いて 舐めまくる！

by スモー・ダンディ・フジ二千

さっそく次号で首投げが!? ご期待!!

お悩み大募集
Hな悩みはダンディーに聞け!!!!

Ｃ-ＭＡＸの変態担当ＳＤＦ二千が、貴女の性の相談に答えるフリをしながら、出会いのチャンスを狙っているぞ！ ダンディは特に痴女のハガキを待っているようだが、そんなのお構いなしにあらゆる女性からのお便りを待ってます！ 本誌編集部宛で送って下さい。

ワシの巨砲は二十センチ以上こんなもんや!!

横綱サイズのSDF二千の肩口を再現!!

豊永稔

「ボクはこの業界に

無念のリタイアとなった豊永稔があっぱれすぎる心境を激白!!

『PRIDE. 9』でカーロス・ニュートンとの試合が決まっていながら、急遽欠場した豊永稔。その欠場理由は非常にショッキングなものだった。「クモ膜脳胞」——高田道場が5月30日に流したリリースによれば、「医学的には格闘技をする適性があるとは言えない」とある。弱冠21歳という若さで、無念のリタイアを余儀なくされた豊永だが、この男の目は絶望の淵でも、しっかり未来を見据えていた！

聞き手／坂井ノブ

——あの名古屋での挨拶はホントに立派でしたね！（囲み参照）。あの残念な発表の後に「総合格闘技、格闘技界がますます発展することを願いまして、挨拶に代えさせていただきます」って、なかなか言えないですよ。

豊永　「格闘技は出来ない」って言いましたけど、「引退」とは言ってないんですよ。ニュアンス的に引退かもしれないですけど、引退という言葉をどうしても使いたくなかったんで。

——でも、クモ膜脳胞ということですから、危険なわけですよね。

豊永　まあ、元々あったんですよ。試合前に義務づけられている診断を受けたら、たまたま見つかっただけで。脳外科の偉い先生に話を聞いてみたら、けっこう普通の人でもこういう症状の人はいるみたいなんですよ。

——生まれつきそういう症状だったということですか？

豊永　そうですね。一種の奇形というか……そういう人って、結構いるみたいなんですよ別に、普通に生活するぶんには何の支障もないです。

——悪性の腫瘍とか、そういうものとは違うわけですね。

豊永　そうです。最初、「今度の試合は出来ない」って言われて、ウソだろ？　って思ったんですけど。段々と話が深刻になっていって、「格闘技が出来ない」と言われたときは……ホントにビックリというか、ショックでしたね。

——「はい、そうですか」というわけにはいきませんよね。

豊永　最初は、「やべぇな」って思ったんですけど、後から聞いてみたら生死に関わるようなものじゃないということなんで。格闘技をやるのも大丈夫なんでしょうけど……他の人になくて、ボクにはあるじゃないですか？　大丈夫なんだけど、事故が起

豊永稔、無念の『PRIDE.9』

名古屋のみなさん！　こんにちわ。高田道場の豊永稔です。当初、カーロス・ニュートン選手との試合が予定されていましたけれども、先ほど説明された通り、頭部にクモ膜下脳胞があるために出場ができないことになりました。ホントに残念です。カーロス・ニュートン選手とは、是非とも一度はやってみたいと思ってました。ですけど、今日はウチの道場の先輩の佐野さんがカーロス・ニュートン選手といい試合をしてくれると思います。ぜひ応援して下さい。よろしくお願いします（ペコリとお辞儀）。先程、言われました通り、これでボクは格闘技が、頭部に衝撃が起こると危ないということで、格闘技ができないことになったんですけれども……だけど、今まで短かった格闘技人生だったですけれども、格闘技で学んだことをこれからの人生でもいかしていきたいと思っています。また高田道場もますます発展していくと思います。『PRIDE』をはじめとする総合格闘技、格闘技がますます発展することを願いまして、挨拶に代えさせて頂きます。ありがとうございました！（ペコリとお辞儀）。

一世一代の名マイクを読めェェェ！

恩返しがしたい!!」

こる危険性が0%じゃないですから。でも、大丈夫だと思うんだけどなぁ……。

——今回のvsカーロス・ニュートン戦は10ヶ月ぶりの試合でしたよね？　今回、試合前の気持ちはメチャクチャやる気だったんですよね？

豊永　ええ。ここ最近は、自分でも強くなってるって思ってたんで、自信もあったんです。桜庭さんと、いちばん練習してたのは自分ですから！　高田（延彦）さんにも鍛えて頂いてましたし、技術的にも、肉体的にも上がってきてましたから。

——豊永さんは桜庭さんにダマされ、遊ばれながら、少しずつ強くなっていったわけですからね。

豊永　そうですね。藤田（和之）さん、佐竹（雅昭）さん、高阪（剛）さん、金原（弘光）さん、いろんな人とスパーリングさせていただきましたし。ボクがもっと強くなって、桜庭さんみたいに有名になれば、道場にも、格闘技界にも恩返しが出来たと思うんですよ。

——恩返しですか!?

豊永　それが出来なかったのが、悔しいですね。いま、桜庭さんはいろんな雑誌に出てるじゃないですか？　あれを見て、格闘技界に多くの人が注目しますからね。それで格闘技人口も増えるし、高田道場に入会する人も増える。桜庭さんがホイスに勝って以来、見学者が凄く増えましたから。ボクも、もっと強くなってそういうことをしたかったんですけど。

——でも、3年半のキャリアで、そこまでよく考えられますね。

豊永　今回の件があってからですけどね、こういう考え方になったのは。格闘技が出来ないんだったら、恩返しだけはしたいと思いました。高田道場はもちろんなんですけど、教えていただいた先輩方、金原さんや高山さんにも恩返しをしたいです。いままで、ずっとオンブにダッコで甘えていましたから。

——今後のことは、もう決まってるんですか？

豊永　まだです。早く決めた方がいいと思うんですけどね。

——指導者として高田道場に残るという選択肢は考えてないんですか？

豊永　いや……格闘技以外で、格闘技界のためになることは何かないかな？って考えてるんですよ。トレーナーやコーチという道も考えてるんですけど、この業界はやっぱり一番選手が大事ですからね。まだ漠然と考えてるだけなんですけど。他の業界で何か、格闘技に貢献できることってないですかね？

——マスコミなんてどうですか？　ウチはいま、社員募集してますよ。

豊永　いやぁ、ボクは文章書けないですよ（笑）。

——でも、豊永さんなんか、これからドンドン伸びていく世代なのに惜しいですよね。

豊永　そうですね、あまり同世代の選手は多くないですけど……リングスの滑川（康仁）選手、パンクラスの美濃輪（育久）選手、石井（大輔）選手、渡辺（大介）選手、窪田（幸生）選手、須藤元気選手、慧舟會だと高瀬大樹選手ですか。同じ世代の人たちには頑張ってもらいたいですね。いま、格闘技が注目を浴びてますから、それをもっと大きくして欲しいですね。ただ、本音を言わせてもらえば、生まれつきこういう症状なのに、いままで格闘技をやってきて何もなかったんだから、大丈夫だと思うんですけどね（笑）。そういうのは残念ですよね。ある意味、ボクは先輩方にボコボコにされてる方がいいんですよ（笑）。

——桜庭さんとは何か話しましたか？

豊永　少ししました。「これからどうするの？」って心配されました。

——最近はイタズラされたりしないんですか？

豊永　以前は、いきなり後ろからボコッと殴られてたんですけど、最近、打撃は一切やって来なくなりましたね（笑）。

——それも寂しいですね。高田さんからは何か言葉はありましたか？

豊永　「ゆっくり考えろ。未来を決めるのは自分だから」と言われました。「それを決めたら、完全にバックアップをするから」とも言って頂きました。「ここに残って新弟子を鍛えてもいい」と言われたんですけど、それじゃオンブにダッコですからね。

——それでは、納得できないわけですよね。

豊永　でも……「格闘技は出来ない」とは言いましたけど、「引退」とは言ってませんから！　2〜3年後に、いきなり覆面被って復帰しようかな（笑）。

——ハハハ！　いきなりサク・マシーンで出場したら、豊永さんだと思えばいいですね（笑）。

【'00年6月9日、東京・高田道場にて収録】

■6月14日現在、豊永の進む道は決まっていない。だが、それは、豊永自身が、ゆっくり考えて出した結論を尊重してあげたいと思う。今後のことは何一つ決まっていないが、ただ一つ決まっていることといえば、格闘技界に残るにしても、別の世界に羽ばたいていくにしても、豊永が格闘技界に大きな貢献をしてくれるのをファンも、関係者も心待ちにしているということである。

（上）桜庭には練習を通じて、非常にかわいがられた豊永。このままいけば、かなりの強豪選手になったはずだ。（左）じつは本誌・前号で豊永は表紙に登場していたのだ！　私生活でもサクにはかわいがられていた豊永は数々のイタズラに悩まされながらもハートの強さも鍛えられた。高田道場のオフィシャルホームページでは、その模様を垣間みることが出来る。きっと、サクが寂しい思いをしているに違いない。

とよなが・みのる■昭和53年6月12日、鹿児島県鹿児島市出身。旧キングダムで高田、桜庭、金原、安生、高山、松井らに揉まれ、平成9年11月3日東京・後楽園ホール大会、vs松井駿介でデビュー。リングスの超新星・滑川康仁のデビュー戦の相手を務めたり、パンクラスのネオ・ブラッド・トーナメント'99準優勝。決勝で敗れた美濃輪育久との対戦を熱望（泥酔して「勝ちます！」と断言したことも）していたのだが……。

押忍！（敬礼）でごわす。ワシ、スモー・ノブが行ってきたでごわすよ、タチ関の復帰戦……というか、掣圏道vs『PRIDE』の全面対抗戦でごわすな。この掣圏道のアルティメット・ボクシング部門は、佐山聡創師が、「立ち技でも総合格闘技に勝てる」ということを証明するために作った新格闘技ばい。この日は、まさにその試金石ばい。「他の人より10年早い」と言われる佐山関が見せてくれた立ち技（パンチ、キック、ヒザ、投げ）とニープレスは、この大会のいかがわしい部分に隠れてしまいがちでごわすが、しっかり総合格闘技の近未来型を見せてくれたばい。格闘技マニア層にも訴えかける部分が非常に多かったはずでごわす。会場には一見さんも多かったでごわすが、この日の観客席（苦戦が予想されたでごわすが約6割の入り）も大いに湧いとったばい。格闘技とエンターテイメントを極端にレベルの高い位置で融合して、そこに佐山テイストがふりかかった、素晴らしい大会でごわした。この10年後の格闘パラレルワールドを未体験の人は、マジで必見でごわす！

感じたら走り出せ
マット界に非常ベル
2000

6・11横浜アリーナ掣圏道VS『PRIDE』
佐山宇宙、大爆発（ビックバン）!!

ロシアンダンサーも踊り＆露出度アップ！『PRIDE』ガールズに判定勝ち!!（本誌独断で）

ジャイアント落合

爆笑と突撃のデビュー戦!!

合格

なぜだ!?　あの三冠王・落合博光の甥（落合選手の姉の息子）が大会１週間前に参戦を発表。しかも、怪獣王国所属で、リングネームが『ジャイアント落合』である。ただでさえ、血筋はいいのに、実績もかなりのものを持っている。'99年のアマチュア修斗で準優勝した（そのときの優勝は佐藤耕平）スーパールーキーだ。リング上での闘い方も、徹底的に「シバキあい」にこだわった突貫ファイト。試合には敗れたものの怪しさと実力が同居した貴重な人材であることは間違いナシ!!　マンガっぽさは、マット界でナンバー１だ！　かっとばせ、落合！

体系的には『がんばれ！　タブチくん』だが、血統書つきのサラブレッド。ノリは軽いが腰が低く、目標は高い。

入場曲では落合博光が唄う『サムライ街道』という大ネタを仕込み、入場時にはグラサンとアフロヘアを着用し、リング上でズラを取ったら、またアフロ（地毛）という小ネタも仕込んだ。

落合の前に向かっていく姿勢は素晴らしかった。「簡単に極めてしまうから」という理由で関節技を封印したサンボの世界王者ボリゾフ・イゴリに真正面から打ち合いを挑んでいった。

上に乗られて頭部をボコボコに殴られてレフェリーストップ負け。試合後、「（デブ）キャラが被るんで」という理由でタンク・アボットと破壊王・橋本真也に挑戦を表明した。

いかがわしさの中に最先端の技術! 現時点で最高の佐山聡ワールド出現!

※今回、原稿でこの大会が持つ総合格闘技の中での意味や、激動のマット界の中で掣圏道の位置付けなどを考えてみようかと思ったのですが、佐山の挨拶に「掣圏道とは？」のすべてが詰まっていたので、その挨拶を再録することにしました。一字一句漏らさずお読みください。では、どうぞ。

佐山聡の挨拶■（「デブ～」という野次が飛ぶ）遠い昔、「地球は丸い」と唱え大反響を浴びました。なぜなら、当時の地球は平べったい水平線で、どこまでも無限大に続く地上だという定説があったからです。まして、太陽の周りを地球が回るなどという理論は相当の異端児に見られました。ピサの斜塔から、コインを落とすように、打撃、組み技、極め技、すべての研究を開発し、格闘技を開発し、望遠鏡を開発したように、いま世界中で使われているグローブを開発し、円形のリングを開発し、ルールも開発し、すべてを把握するために、私は今日まで生きてきました。（場内拍手）なぜ？　なぜ、いろいろなところに変わるのか？　それは、「それでも地球は回る」からです！（場内拍手＆爆笑＆「お前がカラ回りだよ！」という野次が飛ぶ）それでも格闘技だからです！　私の信念は、曲げることはできません。掣圏道は、この私が理論立てている最先端部分を皆様にお届けするものであります。『PRIDE』という素晴らしい総合格闘技も存在します。それは、私が通り過ぎたところではございますが、（場内どよめく）いま素晴らしい選手層で成り立っている団体でございます。私の理論をルールで、ご説明いたします。渡辺、渡辺。（と、手招き。小さくどよめく中、渡辺優一大佐がリングイン）。

総合格闘技は、打ち合って、蹴って、タックルに入り、倒し、マウントを取り、殴ります（すべて実演付き）。これは、素晴らしい競技です。私が唱えるのは、総合格闘技の選手に、こういうような打ち合い（ヘナヘナパンチ）をしてほしくない、タックルに入ったときにすぐ倒れるような足腰になってほしくない。倒した場合に、ここまで（と、ニープレス）が掣圏道です。この技術を選手が試合に持っていけば持っていくほど、総合格闘技に強くなります。ですから、今回、掣圏道では関節技はすべてございません。立ち技になります。展開が早くなります。3分3ラウンドです。しかし、投げがあり、打撃がある非常に苦しい試合です。皆様、選手がいかに苦しく一生懸命なのかを見てください。（中略）

私が見出した中で、最も「この道だ！」と決めたものは、格闘技ではありません。人間の道です！（大きくどよめく）挨拶が出来ない！（場内を見渡しながら）こういうところでも常識がない！　そういったものを作りたくないんです。そして慈悲の心ですべてに貢献できるようなものこそが格闘技の道だと思います。本日は、チャリティー大会です。私と同じ環境のもとにある会社による、トータル・エネルギー・プレセンド・スーパーチャリティーファイト『掣圏道　アルティメット・ボクシング』旗揚げ戦を開催させて頂きます。押忍！（敬礼）

佐竹のドツキ合いでメインをしめた!!

佐山仕込みのロシアンフックを繰り出して、ロシア人とボコボコのシバキ合いを展開。大振りのパンチが飛び交うが見ていると、結構エキサイトする攻防が続く。

ローやミドルが何度も相手の身体をえぐったが対戦相手もタフ非常にタフ。普通ならダウンしてそうなところを何度も持ち直して、大振りフックですぐに反撃を開始する。

見事な勝利で大会を締めた後、マイクを握って「佐竹雅昭の空手を確立」すると決意を表明。最後には、掣圏道のエンディング・テーマ、名曲『スィ～ユ～』が流れた。

確実に成長を続けてきた佐竹がようやく結果を出した。技術的に見るマニア層と、単純に佐竹の試合を見に来たファン層で評価が真っ二つに分かれたが、楽しめるし、佐竹のハートの強さも見えたのでノー問題！

第一試合　グッドリッジ戦より 大刀光、3秒UP!!

タデ殿のリベンジ戦でごわしたが、またもや秒殺！無念！ただ、敗因のコメント「相手の顔が先代の高砂親方に似てたから、飲まれてしまった」は最高ばい！　勝つまで頑張るでごわす。でも、ホントあの顔は反則ばい！

冷血サイボーグ、D・フライ!! 少しサビぎみで復帰!?

ドンじゃなくてディックの方のフライが久々に日本のリングに登場。髪を伸ばしたせいか、すこし柔らかくなった感じ。身体も少し寂しい。

相手は掣圏道の王者・カフカス。仁王立ちの状態から、フッ倒れたフライをボコボコに殴り続け、わずか1分44秒で完勝。カフカスはバランスもいいし、かなり強そうだ。

ペレ、桜庭戦を熱望！

紅茶マッハ速人が推薦選手のペレが突然、来日。数日前にいきなりオファーする方も凄いが、出る方も凄い。

試合後、カーロス・ニュートンと握手。そして、「いずれは『PRIDE』で、サクラバと闘いたい」と注目発言！

プロレスラーは芸人MAX

サスケの芸人魂 爆発ダッー！

デビュー戦からプロの洗礼！
ゆーとぴあの得意技
ゴムぱっちんが直撃！

史上最強のツッコミ炸裂！

舞台の数日前、地獄の特訓を積むサスケ

歌舞伎町の某所でサスケが極秘特訓を行っているとの情報を聞きつけ現場に向かうと、そこには、ゆーとぴあの指導を受けるサスケの姿が。なぜか、石川雄規と村上一成の姿も。

サスケ、いやSASUKEの口から「プロレスラーは芸人なんだよ！」という名言が飛び出してから早1年半。マット界1の予言者サスケの言葉通り、その後のマット界は銀幕デビューの船木をはじめ、芸能活動真っ盛り！　今回は『紙プロ』特選の芸人レスラーをお届け！　みなさん、ゲイニンですかーーッ!!

「6・6北沢タウンホールにてザ・グレート・サスケ芸人デビュー！」という笑劇の情報は前号でも軽く触れたが、今号では晴れて芸人の仲間入りを果たしたサスケの芸人デビュー戦をプチ中継！

今回、サスケが出場したのは〝笑いは高齢化社会を救えるか？〟というゆーとぴあのホープ主催のお笑い興行で、ゲストもマギー司郎、斉木しげる、九十九一、翌7日にはスペシャルゲストとしてポール牧も登場したビッグイベントである。

内容はスペースの関係で上の写真から想像して頂きたいが、顔見せ程度と思っていたサスケの初コントは「寝耳に水とはこのことだ！」級の抜群の内容だったのだ。舞台ではなぜかアントン（ノット春一番）対サスケが実現したり、お笑い界史上最強のサスケスペシャルからのツッコミも披露、もちろん、ゆーとぴあの伝統芸「ゴムぱっちん」もサスケを直撃！

「10ｍは吹っ飛ぶから期待しててよぉ！」と舞台前、意気込むサスケだったが、さすがに10ｍジャンプは見られず。しかしながら、いつ選手生命が終わってもおかしくない気持ちいいバンプを見せ、デビュー戦から強烈なインパクトを残した。

初舞台後のサスケを独占直撃！

「お笑いもプロレスと一緒で、いかにお客さんを手のひらに乗せるかっていうことなんだけど、今日はなかなか手のひらに乗せきれなかったねぇ（苦笑）。でもプロレスに無縁のお客さんの前で、サスケっていう名前を印象づけただけでもまあいいかなと。お客さんも猪木さんは知っててもサスケなんて知らないでしょ。まあ俺はレスラーとして身体張るしかないんでね。ホントはゴムぱっちんでもっと飛びたかったんだけど、後ろ確認しなかったのよ。頭打ったら怖いなって思ってね。あっもう十分打ってるか（笑）。でも1回やったらもう病みつき。またやりたいよねぇ。最後に全レスラーに告ぐ！　そして今は亡き大西（タマリン）ちゃんにも捧げる！　みんな芸人になろうぜ!!」

サスケは、自らの〝プロレスラーは芸人なんだよ！〟発言を見事に証明してみせたのだった……もしかして続く？

新宿プロレス開戦！

7・10（月）東京大飯店大ホール　試合開始19：00

何かと気になる『新宿プロレス』の全貌が遂に明らかになった。なんといっても注目は、サスケ自作自演の『サスケ劇場』である。サスケは何をやるつもりなの？「基本的にはコントですね。お笑い芸人と絡んだり、あるいは私の1人喋り、時にはマジックショーと。新宿プロレスは21世紀のプロレス界の新たな実験場と言ってもいいんじゃないでしょうか。ウリは18歳未満お断りということで、キーワードはアダルトチックなプロレスですから。ガハハハ！」と自信満々に語った。肝心の試合は、みちプロ、バトラーーツ、アルシオン、そして小人プロレスの全4試合。当日は本誌エロ編集者チョロのキャットファイトが行われるという噂も？

【チケットお問い合せ】ロックウエスト03・5459・7988

芸人なんだよ

CLI

女子プロレスラーも、女優も、杉Jもディスコでフィーバー

『レッスル・ディスコ・フィーバー・デラックス』（TOCT−24379）6月28日発売。¥2500（税込）。オースチン・パワーズ、西部警察、北斗の拳など、踊って闘うためのテーマ曲満載！　今回も杉Jが凄いゾ!!

プロモーションビデオの撮影現場に潜入したのだが、お色気ムンムンの岡元さんと、宇宙人に扮した杉Jが、お立ち台の上でケツ相撲を取る、まさに「東南アジア系の元気が詰まってるね！」（by杉J）な超絶映像！　必見！

Part.2

前作の衝撃から1年——『レッスル・ディスコ・フィーバー』が帰ってきた！『DX』というだけあってパワーアップしているぞ！　今回は「闘い」をテーマに、選曲の枠を広げて、プロレス界のみならず世間をもターゲットに入れた内容となっている。岡元あつ子さんが『キューティーハニー』のコスプレで主題歌を熱唱！　アルシオンの爆裂娘2人組キャンディー奥津&藤田愛がキューテーハニー2000と名乗り『かけめぐる青春』を元気に熱唱！　しかし、このCD最大の聞きどころは、なんと言っても春一番！　なんと、春さんは『炎のファイター』にあわせて、往年のアントニオ猪木語録を熱唱しているのだ！　プロレスファンなら必聴の超名曲だ。お楽しみのブックレットは、今回も凄いです。本誌26号に登場してくれたHARU江川さん入魂の力作です！

見て、聴いて、1枚で2度おいしいCD。買えば幸せな気分になれること間違いなし！

ビューティーペア2000だけでなく、杉Jも、岡元さんも、春さんも、心も身体もさらけ出して、見事に男を（女を）張っている。そんな彼らは間違いなく心のプロレスラーだ！　さあ、いますぐCD屋にダッシュ！

Part.3

オリコン初登場43位となったキッスの世界のデビューシングル『バクバクkiss』。初回限定で4人の中の1人の特製トレーディングカードが入っているこのCDと宣伝用の特大ポスターをセットで2名様にプレゼントするでバクバク！　応募要項はP159参照

ハッキリ言って現在の女子プロ界は厳しい。一部団体を除けば観客動員は減少、更に女子プロに重要な要素のアイドルレスラーが育ってきていないのも厳しい現状の一つ。

がしかし、そんな現状をブッ飛ばしてくれそうな勢いなのが、全女発、つんくプロデュースでデビューした〝キッスの世界〟である。バクバク。

プロジェクト発表当初は、「名前を付ける事から苦労の連続。イメージが沸かない」と悩んでいた、つんくだったが、メンバーとの初対面で〝気づき〟を与えられたという。

「ウケなくてもギャグを連発する中西。何かずっと食べてる高橋。音痴なのに自信持って鼻歌を歌う脇澤。視力が弱く、メチャクチャ近づいて確認してから挨拶する納見。どれもこれも、モーニング娘。とか女の子のグループがやりそうな行動ばかり。なんて事のない普通の女の子じゃないか。ここに気づいてから早かった」と太鼓判を押しているのだ。

〝キッスの世界〟の活躍次第で、女子プロオーディションには何万人もの応募があり、その結果、かつてないほどのブームが訪れることだろう。女子プロ界の未来は明るい！（かなり強引）。全ては〝キッスの世界〟に懸かってます。バクバク！

キズだらけのアイドル キッスの世界バク^{2}進中！

CD発売日の5・24は新宿アルタ前、6・4には池袋サンシャイン噴水広場というアイドルキャンペーンの二大聖地に大観衆を集めたキッスの世界。こうなったら行くとこまで行っちゃってくれ！　バクバク!!

IWA浅野社長 ユニバーサルから歌手デビュー

プロレス団体の社長だってゲイニンなのよ♡

すてきな16才　浅野起州　あげる♡

デビューCD『すてきな16才』を2人にあげる♡　原曲の歌詞内容を社長の実生活と見事にオーバーラップさせ、独自のおねえヴォーカルスタイルで料理した、まさに2丁目クラシックとなり得る戦慄のデビュー曲。しかも会見用に急遽作ったジャケバージョン。かなりレアです。応募要項はP159参照よ♡

IWAジャパンプロレス 新宿2丁目劇場のすべて♡

CDだけでは満足できなかったのか、ビデオも発売決定！　しかもタイトルは『新宿2丁目劇場のすべて♡』だという。会見に命を懸ける団体IWAジャパンのすべてを見てね♡ってどんな奴が買うんだ？　いろんな意味で興味津々な一本。

やっぱり奴は現れた！　浅野社長と敵対関係にある猛牛軍マネージャーB太野とフレディーが会見に乱入し、強引に浅野社長のデビューCDのカップリング枠を強奪した。曲は「24.000のキス」に決定（即座に）。

Part.4

ホイラー、ホイスと立て続けにグレイシー狩りを果たしてからの桜庭和志の世間への届きっぷりはただ事じゃない。どこへ行ってもサクサクサクとサクフィーバー！　世の中みんなサクだらけだ（拳磁節）。

だがしかし、ここで紹介する浅野社長だって負けてはいない。新宿2丁目界隈での浅野社長の浸透度には、さすがのサクもかなわないはず（なぜか知りたい人は各自調査）。

そんな浅野社長が、6月7日に池尻にあるユニバーサルミュージック本社でCDデビュー会見を行った。

「あっそ」と受け流されそうだが、そのCDがどこから発売されると思っとるんや！　ユニバーサルやで、ユニバーサル！「ユニバってルチャ？」と半チクな事を言ってるアナタのために簡単に説明しよう。ユニバーサルとは、松田聖子、ルナシー、福山雅治、海外ではポール・ウェラーやボンジョビなどのレコードを発売しているビッグカンパニーなのだ。

そう、インディーの名物男？が形を変えてメジャーに転身したのだ。

この快挙を祝して、7・18IWA後楽園大会で浅野社長の桃色の歌声が披露されることとなった。文句があるなら見にいらっしゃい♡

団体の社長と言えども、やっぱり浅野社長はゲイニンなんです！

"落武者"から"影武者"へ——。

ターザン山本が"ビートたかし"になった日！

（ビートたけし公認 浅草キッド後援）

5・10「浅草お兄さん会」のリング上。大観衆の目前で、水道橋博士に"まんぐり返し"を決められたターザン（もちろん全裸）そのバーリ・トゥードな生き方を真っ当するターザンに、またもや大事件勃発！ な、なんとあのビートたけしの影武者コンテストの審査を勝ち抜き、殿直々に"ビートたかし"の名を頂戴したというのだ！ ナァニィ？ 一体どーゆーことなんだ、うらやましすぎるぞ、ターザン！ 読者にわかるように説明してみろォォォ！

6月12日、月曜日、深夜の午前1時（実際は6月13日）。TOKYO・FM「ビートニック・ラジオ」。私はその番組でビートたけしさんより"ビートたかし"の名前を頂戴した。この日から私は"にせビートたけし"、"にせ殿"になり、たけしさんが出演できないときは、私がたけしさんの"影武者"として「ビートニック・ラジオ」に出ることになった。

「21世紀のビートたけしを探せ！」というオーディションに、私は合格したからだ。これはてっきり浅草キッドが仕掛けた冗談だと思ったが、どうやら本当のようだ。

「いいですか、山本さん！ あしたからターザン山本を辞めて、ビートたかしになって下さいよ。わかっているでしょうね？」と私はキッドから強く念を押された。

例によってまたキッドから一杯食わされたのではと、私は半信半疑の状態。なぜならこれまで何回もキッドにだまされて、舞台で素っ裸にされてきたからだ。

まして"ビート"という名前は、たけしさんの弟子が襲名したくてもできないのに、なぜ私のようなド素人が、それをもらえることができるのか？ これはどう考えてもおかしい。変である。

でもこういう時、私は深くものを考えないようにしている。もともと性格がいい加減にできているので「まあ、いいか！」とビートたかしになることを、あっさりと心に決めた。

それでも私はまだ"事の重大さ"を全然わかっていない。だからとりあえずビートたかしの名刺を作り、既成事実にするしかない。『週刊ファイト』『サンデー毎日』『話のチャンネル』『レジャーニュース』『BURRN!』などの連載は、すべてターザン山本からビートたかしに変えてもらうことにした。

たけしさんは"足立区のたけし"として有名だが、私は"葛飾のたかし"になる。これまで葛飾の素浪人とか落武者と言われてきたが、今後は落武者から影武者にワンランク上がって、影武者になったということか？ なんだか運が向いてきそうな気がしてきた。

どうせ私の人生はピエロ。道化師として生きるしかないとしたら、これはいい転機になるかもしれない。そうだ、これは神が仕掛けたゴッドアングルかも。それなら私は運を天にまかせて"ビートたかし"になる。

俺はビートたかしだ！［ターザン山本改めビートたかし］

ビートたかし
（ターザン山本＆山本隆司改め）
〒124-0022 東京都葛飾区
携帯 090-

これが味も素気もない名刺。イラスト（たけちゃん調）とか「ビートたけし公認・浅草キッド後援」くらい入れるのが普通ですよォォォ。と言ったら、さっそく作り直した模様。次号堂々掲載（予定）。ついでに「ビートたかしになるのは是か非か？ セメント座談会を読めェェェェ」という記事も掲載（予定）

"ターザン山本"の遺作はこれだアアア！

野垂れ死に人間図鑑

山本隆司
野垂れ死に人間図鑑
オイ、糞ッタレ、ヒーローの死にザマを喰らえ！ ターザン山本

"ビートたかし"として蘇生した山本隆司の、"ターザン山本"としての"遺作"。馬場さん、大山倍達、渥美清、松田優作、黒澤明、梶原一騎、石田三成……"野垂れ死に"というターザンらしい概念を持ちだしながらも、凄絶な人生を送った人たちの"生"を描いた怪作！ 生きてる人まで「野垂れ死に期待図鑑」に入れてしまうのは、ボンバイエ。その中には、もちろん、猪木さんも入っている。"野垂れ死に"とは何か？ 絶賛発売中らしいので、いますぐ買って読めェェェ！ **定価：1500円（税別）**

発行／同朋社 発売／角川書店

博士に、まんぐり返しを決められ、恥辱を受けるターザン。男を張る、身体を張るの『張る』とは、さらけ出すことなのだ

5/15 ➡ 6/16 マット界の1ヶ月丸わかり

紙の新聞

KAMINO SHINBUN

(毎月22日発行)
発行所：(株) ダブルクロス

6月号

締め切り直前に起こった全日本分裂問題を始めとして、今月もいろいろあったマット界。しかし、一ヶ月を通してみるとドラゴンのニュースばかりだということに気がついた。編集長がよく変わるこのコーナー。来月からはタイトルも「月刊ドラゴン」に変わってるかも。

編集長／堀江ガンツ

次号、遂にユセフ・トルコ登場か!?
旧「紙プロ」ファンよ、
踊りながら待て!!

5/15

【リングス】　新東京国際空港

ブッカーK危うし!女子便所説教事件再び!?

いま、ひとりの男が命を狙われている。その男の名はK氏。『PRIDE』ブッカーにしてアイブル引き抜きの張本人と言われる人物である。このK氏を付け狙うはもちろん「住所を調べあげる！」でお馴染み、我らが日明兄さん。米WEF視察を終え、この日帰国した前田は報道陣の前で案の定怒りを爆発。K氏を「問題ありますよ！」とばかりに名指しで批判し、「絶対に逃がさん！」と宣言。これは第2の"女子便所説教事件"に発展してしまうのか。とにかく、不幸が続くマット界。K氏が無事であることを願うばかりである。

【新日】破壊王がドラゴンとの会談を健康診断でドタキャン！

5/16

【全日本プロレス】

ジャンボの死去明らかに

14日からインターネット等で噂では流れていた、ジャンボの死がこの日、明らかになった。末期の肝臓ガンと最後まで闘い、わずかな可能性を信じてマニラで肝臓移植手術を受けている途中、出血多量でのショック死。全力で闘ったことのないジャンボが、最後に全力を出しきった闘いだった。ボク個人的には、物心をついたときから大人になるまで毎週毎週テレビ見続けたジャンボが亡くなったなんて未だに信じられない。心よりご冥福をお祈りいたします。

【新日本プロレス】

ドラゴン、ジャンボの死に涙

「ジャンボ死去」の報に全国のプロレスファンが涙にくれたこの日、ドラゴンもやはり"永遠の恋人（片想い）"の死に無念の涙を流した。「引退カウントダウンの最後にという気持ちもあった」と、驚くべき事に、本当の最後の最後まで対戦を諦めていなかったドラゴン。その20年以上にも渡る一方通行の夢は遂にかなわなかったが、「生前、彼（ジャンボ）とも話していたことだが、早く統一機構、コミッショナー制度をつくりたい」と、もうひとつの夢「サミット開催、マット界統一」には相変わらずの意欲を見せたのだった。故人の意思を継いで（？）志半ばで倒れたジャンボの分まで、夢に向かって突き進め、ドラゴン！

5/17

【新日本プロレス】

破壊王、マスコミ各社にFAXで辞職表明!

進退問題が注目されていた破壊王が、この日マスコミ各社宛に、新日本プロレス辞職を表明する自筆声明文をFAXで送付した。15日の会談をすっぽかしておきながら、突然FAXでの意思表示をするというという、藤波社長をダーク・ドラゴンに変貌させようとしているとしか思えないこの行動。破壊王は何を考える？　そして藤波社長の出方が注目された。ちなみにこのFAX、当然『紙プロ』編集部には送られてこなかった。ハ〜、カックン。

【コロシアム2000】前田、ジャンボの死に哀悼の意
【IWA】浅野社長が6月28日『すてきな16才』で仰天CDデビュー決定！

5/18

【新日本プロレス】新日本プロレス事務所

ドラゴン、破壊王の辞表を破り捨てる!

12日の会見で破壊王の進退について「これ以上橋本がワガママを通すなら、即解雇だ！」と、いつもの優柔不断ぶりとはうって変わって珍しく毅然とした態度を示したドラゴン。それに対して破壊王はこの日、ドラゴン不在を見計らったように新日事務所に突如現れ、辞表を置いて逃げるように姿を消しすという、ワガママ以外の何者でもない行動に出た。これには蝶野の暴言に対し「クビだ！」と言い放ったダーク・ドラゴンのこと、当然12日の会見で言った通り、厳しい断を下すかと思われたが、よりによって辞表を破り捨て「どんな手段を使ってでも、橋本を橋本をリングに引きずり戻す！」と前言とは正反対の宣言。やっぱりいつものドラゴンぶりに対して、蝶野は「藤波はデブと子供に甘い」と、やはりこちらもいつものように、あまりにも的確なツッコミを入れたのであった。

【新日本プロレス】

武藤、WCW移籍暗礁に乗り上げる!

再三に渡って「バイバイ、ニュージャパン」などと言ってWCW移籍を表明しながら、いつまで経っても日本にいる武藤。5・5福岡ドームには金髪女性マネも来ず、なんだかおかしいなぁ〜と思っていたら、なんとWCW入りが暗礁に乗り上げる危機に直面していたのである。なんでもムタのWCW登場を進めていた幹部ポール・オンドーフが左遷されたとのこと。海の向こうのリストラ問題に悩むことになった武藤。これ以上頭髪が抜けなければよいが……。

5/19 【新日本プロレス】東スポ
怪情報！ アントンが新日会長に復帰!?

"ミスター特別立会人"我らがアントンの「鶴の一声」ならぬ「ペリカン野郎（byトルコ&アリ）の一声」で、破壊王の現役生活が「続行ッ！」される公算が高まってきた。この日、ロスから"来日"したアントンは破壊王進退問題について、「橋本が納得してるならいいじゃねぇか」と、「退団は認めん！」とばかりに辞表を破り捨てた「ドラゴン裁定」を例によって完全無視。社長の立場もあったもんじゃないが、アントンの会長職復帰の説もあると考えると妙に納得。

【全日本】斎場に「ローリング・ドリーマー」「J」が流れる中、ジャンボの告別式（密葬）が親族、全日本の選手関係者ら約100人が出席の下、しめやかに執り行われた。【新日本】後楽園・ベスト・オブ・ザ・スーパー・ジュニアいつのまにか開幕

【コロシアム2000】パワー・オブ・ドリーム
ヤマケン、またもや田村戦をブチ挙げる！

沈黙を続けていたヤマケンが、久々に記者会見を開き、当初は『コロシアム2000』の出場が予定されており、vsティト、vs美濃輪が候補に挙がっていたが、自らと対戦相手の体調不十分のため流れていたことが明かされた。その後、『コロシアム』に対していつものように青年の主張をした後「来年の大会で田村とやれるよう実績を作る」と宣言。はたしてヤマケンの言うとおり『コロシアム2001』で田村vsヤマケン、決定ですわ！となるか？

【UFC－J】ヤマケンの内弟子3人のウチひとりが、次回UFC－Jでオクタゴンデビューすることが発表された。【アルシオン】高崎・浜田シスターズ（文子&ソチ）初タッグ結成

5/20 【コロシアム2000】テレビ東京本社
田村が船木に、控えめに対戦表明！

4・20のアイブル戦で壮絶なTKO負けを喫し、『コロシアム2000』出場が危ぶまれていた田村がこの日、改めて出場宣言をした。この会見の中で注目発言が2つ。「ヒクソンより、負けた……いや、もし負けたとしても船木さんとやりたい」と船木戦を要望。これは船木の引退を予想していた田村なりの「やめるな」というアピールだったのか。そして「田村vsヤマケン、『コロシアム2001』で決定ですわ」というヤマケン発言には「全く頭にない」と拒否した。

【バトラーツ】池田大輔が退団　【全女】函館・ナベ&前川がWWWAタッグを返上。7・14～16お台場で新王座決定トーナメント開催が決定。

5/22 【新日本】新日本プロレス事務所
長州VS大仁田、7・30横浜アリーナ決定！

長州対大仁田戦が7・30横浜アリーナで実現することが突如発表された。すっかり時期を逸した感のもあるこの対戦だが、新日内部は大混乱。まず、長州が復帰を発表する前から「長州は小川に勝てない」と断言して復帰を既成事実としていた藤波社長が「復帰認めん！」と前言を翻す相変わらずのドラゴンぶりを発揮すれば、アントンも「俺は久しぶりに怒っている！」とばかりに反対。大仁田はこの逆風にも我関せず、堺屋太一経済企画庁長官を特別立会人に使命するなど、大仁田らしい話題作りをスタート。7月30日まで東スポ紙上で楽しませてくれそうだ。

5/23 【コロシアム2000】
船木「ヒクソンのクセ見抜いた」

いよいよ決戦3日前。尾崎社長は相変わらずヒジ攻撃を認めないヒクソン陣営に激怒中だが、当の船木は5ヶ月間の特訓も終了し、あとは朝のヨガ特訓を15分行うだけで休養につとめており、余裕の表情まで見せた。さらに「ヒクソンのクセをみつけた。こはもうヒクソンには修正不可能。これを突けば3R以内に勝てる」と必勝宣言。しかし結果はご存じの通り。いったいヒクソンのクセってなんだったんでしょう。

【新日】大仁田、7・30長州戦、爆破マッチを要求　【新日】越中選手の実父が他界

5/24 【コロシアム2000】京王プラザホテル
独走スクープ！ 前田とキム夫人が密談!?

船木、ヒクソンを除いた全選手が出席した大会直前記者会見終了後、ヒクソンに代わって出席したキム夫人と、前田総帥という驚愕のツーショットを発見！　笑顔で言葉を交わす二人。噂される田村vsヒクソン戦の前触れか!?　と色めき立ち、気づかれないように盗み聞きを開始。すると前田の口から衝撃の発言が飛び出した！　「あの日本刀が凄いんだよ」…なんと、単に日本刀仲間のヒクソンに伝えてもらうため、お馴染み日本刀自慢話をしているだけだったのだ！　素敵過ぎるぞ前田！

【全女】「キッスの世界」がデビュー。【レスリング】D・ヘンダーソン、パン・パシフィック大会優勝。五輪出場に王手。

5/25 【コロシアム2000】
策士・尾崎社長、してやったり！

結局ヒジ、頭突きナシに落ちついた船木vsヒクソン。さぞかし尾崎社長は無念かと思いきや「最後までルール問題で精神的揺さぶりをかけっることに成功した」と満足げ。ということは、ヒクソンを「チキン」呼ばわりしたり、「主催者はヒクソンの言いなりだ」と泣いてみたりしたのも、全て心理作戦に基づいた演技だったのか!?　さすが芸能部門に力を入れるパンクラスである。ところでこの作戦、どのくらい効果があったかというと「ヒクソンはルールは全てキム夫人まかせだった」（主催者）。どうやら少なくともキム夫人に揺さぶりをかけることには成功したようだ。

【大日本】後楽園・「トリプル摩周」あっさり破られる。

5/27 【掣圏道】ボディ・プラント六本木
大刀光、掣圏道出場決定！

1・30『PRIDE』でグッドリッジに秒殺され、「相撲最強説」を崩壊させてしまったタチ関が、今度は「相撲立ち技最強説」を証明するため、6・11アルティメット・ボクシング（掣圏道）旗揚げ戦の出場が決定した。そのタチ関がこの日、佐山に指導を受ける様子を公開練習。タチ関の衝撃のニーブレス写真を載せたかったのだが載ってないのはなぜか。実は「仕掛人N」こと本誌スモーノブが取材に行くのをすっかり忘れていたのだ。は～、カックン。

5/26 【コロシアム2000】東京ドーム
前田、藤波、坂田晶が連れション！

犬猿の仲であるリングスとパンクラスが同じリングに上がることで、バックステージでなにかが起こるのではないかと危惧されていた『コロシアム2000』。言うまでもなく一番何かが起こりそうなのは前田周辺。「前田の行くトコもめ事あり」と言われるとおり、前田がトイレに行っただけで安生の襲撃事件で疑惑のあったＵＦＣ－Ｊの坂田代表と鉢合わせ。そこにドラゴンまでが加わるという、豪華な連れションに多くの報道陣がトイレの出口でカメラを構える異常な状況となった。まさか中では「男子便所説教事件」が勃発し、それをドラゴンが橋本vs小川戦のレフェリングのようにオロオロと止められずにいるのか？　様々な憶測が飛び交ったが、この一部始終をトイレの中で偶然目撃した本誌チョロの話によると、中では前田が坂田代表をからかい（「俺のチ○ポ見てもええで」等）、ドラゴンが苦笑いしているという、実にその様子が目に浮かぶような展開だったそうだ。

【全日本】新潟・小橋が高山を破り３冠を初防衛。試合後控え室で小橋批判の急先鋒である秋山の顔面を張る。　【みちのく】ビーフ・ウエリントンが麻薬取締法違反で逮捕される。

【コロシアム2000】東京ドーム
破壊王、リングス入り!?

船木vsヒクソンを観戦した破壊王が、会場入りして最初に向かったのが前田の控え室。「橋本リングス入りか!?」と報道陣は色めき立ったが、破壊王、前田ともノーコメント。しかし控え室内にいた太田章氏の証言によると、前田「引退問題、俺が間取りもってやろうか?」破壊王「余計ややこしくなるからいいです」というやりとりがあったとのこと。最高。

5/28 【新日本】長野運動公園総合体育館
辻アナ鉄の爪襲撃事件勃発！

ヒャッホー！　暗いニュースが続くマット界にまたもや不祥事！　あの“野人”中西学が例によって実況席ではしゃぐ辻アナを突如アイアンクローで急襲したのだ！　犯行の動機は、辻アナが４・11での「橋本は家のローンがあります」発言に続いて、今度は吉江の若手時代のはずかしいエピソードを暴露。それに対しての報復のようだ。このような不祥事を起こした中西に一言いいたい。「よくやった！　ありがとう！」

【全日本】後楽園・元西前頭４枚目、力皇猛が秋山、森嶋組を相手にデビュー（パートナーは雅央）。【バト】ケニーがアーバン・ケンに改名。【紙プロ】タマリンに戦力外通告【パンクラス】安田拡了事務所・ヤスカク、船木が負けて公約通り丸坊主に

5/29 【読売巨人軍】都内ホテル
清原、ヒクソン入り！

今ＯＦＦには米シアトルのケビン・ヤマザキ氏の下で肉体改造を図りながらも、不振に苦しむ巨人軍・清原和博が、今度はヒクソンに弟子入りした。ヒクソンのホテルの部屋を訪れた清原は、その風貌からヒクソンを坊さんと勘違いしたか「自分はどうしたらいいのか」と説法を志願。それに対してヒクソンは「野球を楽しめ」と助言したという。ケビンさんに続き、ヒクソンに弟子入りした清原は果たして復活できるのか。もしダメなら今度はもうＰ'ｓＬＡＢに入門して、芸能界進出しか道はなさそうだが……。

【ＷＷＳ】伊勢崎・ボーゴが新団体を旗揚げ！【ＩＷＡジャパン】ジェイソン・ザ・テリブル巡業をすっぽかして永久追放

5/30 【新日本プロレス】新日本事務所
ドラゴン、遂に決断!?「引退式やるぞ！」

遅々として進まない破壊王引退問題。辞表が提出されたあとも「引退撤回しないなら、するまで待とう、ホホトギス」といった感じのドラゴンの家康ぶりに、蝶野が遂に切れた。「みんなカリカリきている。橋本も武藤も休みながらギャラは貰ってる。こんな楽なことはない。こっちは体がガタガタなんだ。いまどうやってギャラを貰いながら休むか、武藤流二重契約の結び方、橋本流辞表の提出の仕方、ついでに藤波流辞表の破り方も研究中だ」（蝶野最高）こんな周りからの圧力に遂に家康も「引退式をやる時期にきてるかも」と今頃気づいた様子。遅いよ。

【つぼプロ】北沢・つぼプロめでたく１周年。

6/1 北沢タウンホール
サスケ、ウイリーさん復帰プランを語る

タイから向精神薬5000錠を台車に乗せて（ウソ）密輸した、みちプロのウイリーさんが麻薬取締法違反で逮捕された。これに対してサスケはこの日、会社としての処分を発表した。「本人は不良外人に騙されただけなんですよ。それで弁護士用意したんだけど、自白しちゃったんでダメだこりゃ、と（笑）。でも、ウイリーさんはこれからも使っていきますよ～。囚人服着て「コンビクト２号」としてやってもらうから（笑）。社会的には人生と四国八十八カ所まわって懺悔すればいいでしょう（笑）。ガハハハハ！」（サスケ談）

【新日本】長州が「７・30以降、マット界に大変なことが起こる」と衝撃予言。

6/2 【新日本プロレス】日本武道館
西村修、遂に復帰！

「ボクはガンです」幻の雑誌『ケンファー』で衝撃のガン告白した西村修が、『無我』の世界を見せるべく、命がけでリングに戻ってきた。対戦相手のドラゴンは、最近すっかり社長キャラが板について、西村からも「藤波さん、『無我』をわすれてませんか」と突っ込まれたが、この日は西村の想いをしっかり受けとめて、コブラツイストで勝利。なにはともあれ西村の復帰は嬉しい限り。病気に打ち勝って頑張ってほしい。ちなにドラゴンはこのどさくさに紛れて「引退カウントダウン一時凍結」を発表した。なぜだ。

【新日本】健介、中西を破りＩＷＧＰ４度目の防衛。新日のリングでジャンボ追悼10カウント。

6/3 【PRIDE】名古屋レインボーホール
つーかお前、誰だよ！

『ＰＲＩＤＥ』に謎のアフロ男現る！　この日、リングサイドで佐竹と共に観戦したこの男。一切口は開かず一体誰なのかもわからない。鶴見五郎説、樹木希林説、パパイヤ鈴木説、極楽とんぼの太った方説などが出たが、正体は怪獣王国の隠し玉。その名も「ジャイアント落合」。名前が示すように、あの落合博満の甥に当たり、高専柔道、アマ修斗で好成績を挙げている逸材だという。そしてこのＧ・落合は６・11「アルティメットボクシング」でプロデビュー決定。はたしてどんな試合を見せるか!?　詳しくはＰ148参照。

【リングス・オランダ】山本宜久、セーム・シュルトの膝蹴りで流血ＴＫＯ負け。

6/4 【PRIDE】名古屋レインボーホール
演出用の炎で、オリベイラ火傷

『PRIDE』で不祥事発生。第1試合に陽気なラテンのテーマ曲が流れる中、ブラジルのオリベイラがガッツポーズで入場ゲートをくぐったその時、演出用の炎が吹き出す装置が誤作動。オリベイラは全身に熱風を受け、頭、胸、腹に"2度"の火傷を負い、救急車で運ばれ第1試合は中止となった（本誌スモーノブは「中途半端にWWFのマネするからこうなるんだ」となぜか激怒）。比較的軽傷だったのが不幸中の幸いである。それにしてもこのオリベイラ、前回UVF（北尾vsオタービオがあった日）で来日する前はバイク事故にあうなど、ついてない男だ。

6/5 【パンクラス】東宝本社
いやぁ〜、映画ってほんとにいいもんですね

「家の電気を消して、寂しい映画を見る」くらいの映画好きとして知られる船木の銀幕デビューが決定した。しかも石井聰亙監督の超大作ということで、本来なら喜ばしいことだが、ヒクソンに完敗を喫した直後ということでタイミング悪すぎ。案の定、ネット上では叩かれまくっていた。

6/6 【FMW】いわき
冬木、リッキーを拉致

この日、売店でサイン会を行っていたリッキー・フジを冬木らが拉致。しかも監禁されたリッキーの姿を、FMWのホームページで「今週のリッキーさん」として「リッキーフジ爆死タッグマッチ」が行われる6・16後楽園まで毎日更新された。

6/10 【パンクラス】
秒殺男・石井、アクションスターになる!

パンクラスの秒殺男石井アクションスターになる
太田プロで格闘技と二足のわらじ

船木引退に伴い「芸能面の強化」が掲げられたパンクラス。まさに全日本を目標に掲げながらも、馬場さんが感心しない団体に一直線だが、早速、船木の映画出演に続いて、今度は石井大輔がアクション俳優とレスラーの二足のワラジを履くことになった。所属事務所はなんと太田プロ。芸名はセンスがあるのか、ないのかわかりかねる改名をするパンクラシストらしく「DAISUKE」。当の石井は「現役はあと5年ぐらいしかできないと思う」と師匠船木ゆずりの早すぎる限界宣言。22歳の選手が言うことではないだろう……。

6/11 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
ドラゴン、アントンを「訴えてやる!」

藤波社長激怒
猪木背任行為
カシン引き抜きプライド出場認めん

現在、全日本プロレスの三沢元社長が権限のない雇われ社長だったことが明らかにされているが、新日本の藤波社長も負けていない（?）。常に「ドラゴン裁定」を無視して物事を進めてきたアントン。今回のカシンの『PRIDE』出場問題も当然のことながら、ドラゴンの知らないところで進められた話であった。これにはドラゴンも破壊王の引退同様「認めん！」と宣言。さらにアントンに対してはこれ以上選手に手を出したら「訴えてやる！」と上島竜ちゃんばりの警告を発した。

6/12 【新日本プロレス】
驚愕! 破壊王ジュニア戦士化計画

橋本よ小川に弟子入りしろ

夢の鶴田戦と同様、いつまで経っても破壊王復帰を諦めきれないドラゴン。今度はなぜか復帰を前提とした具体的なプランを提示。「ファンに忘れ去られないためにも、驚かせることが必要だ。例えば……体をジュニアの体重にするとか、減量に成功した小川に弟子入りするのもいい」と力説。アントンとの断食修行で減量に成功した破壊王に、さらなる減量を要求。これは「体を絞ったらオレは破壊王じゃなくなる」と公言する橋本に対して、明らかに逆効果。またもやドラゴンの作戦は失敗に終わりそうだ。

【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
ドラゴン、またもやサミット開催を提案

全日分裂騒動に新日の反応は…
藤波、三沢と直接会談も

マット界を揺るがした三沢全日本退団のニュース。ライバル団体のこの大事件に藤波社長は東スポを見て「エーッ、ホントなの?」と言ったきり絶句。例によって、社長なのに記者に言われるまでホントに知らなかったようだ。東スポを熟読して事件の概要を知ったドラゴンは、「前から言っている通りだが、こうなった以上は話しやすくなった」とここぞとばかりに、お馴染みのサミット開催を提唱。はたしてドラゴンの想いは遂に実を結ぶのか!?

【パンクラス】尾崎社長、告訴状完成

6/13 【Jd】後楽園ホール
『キッスの世界』がVTに出陣

1年前に伝説のVT60分フルタイムをしでかした薮下めぐみと中西百重が再戦。中西はVTから『キッスの世界』までという、異常な幅の広さが魅力。10分3Rで行われた今回の決着戦は2-1の僅差で薮下の勝利。薮下は『Remix』出場が濃厚。

【全日本】全日プロ事務所・全日本プロレス役員会で三沢、小橋、田上ら6人が役員を辞任。

6/14 【全日本プロレス】
川田利明、元子夫人派に残留決定!

大揺れに揺れる全日本。この日、以前から「全日本が分裂するとしたら、川田は元子夫人派」と言われてきたが、まさにその通りとなった。川田は「馬場さんの全日本を守る」と宣言し、ただ一人契約更改にのぞんだ。結局残った日本人選手は川田と渕のみ。どうなる全日本！

6/15 【パンクラス】P's LAB
柳澤龍志パンクラス退団

これまた以前から離脱がささやかれていた柳澤がパンクラスを円満退団。噂されたUFO入りではなくキックの前田憲作の「チーム・ドラゴン」の所属となり、K-1参戦をアピールした。また尾崎社長は前田の「尾崎はロスに愛人がいる」発言に「おかげで夫婦仲の危機ですよ」と発言。ご愁傷様。

【リングス】アイブルにリングス無期限出場停止処分（笑）

6/16 【全日本・三沢派】ディファ有明
三沢の新団体に全日25選手参加決定!

遂に三沢派が記者会見。川田、渕を除く25選手が秋に予定される新団体旗揚げに参戦することが明らかになった。これによって、ラッシャーによる渕の結婚ネタマイクは2度と聞けなくなった。

【バトル】マッハ純二がjunji.com（ジュンジ・ドット・コム）に改名。

なぜか帰って来たジャイ子PRESENTS

大西タマリン26歳即引退スペシャル

大ちゃんをやったら

たび重なる仕事上の不祥事にキレた山口日昇に去就を問われ「大ちゃんをやったら辞めまする!」という誤解を生みやすい言葉と、大ちゃんのインタビューテープを残し、オーチャンTシャツとともに『紙プロ』編集部から去っていった食いしん坊タマリン。なんなんだ? ……そういうわけで、今回は急遽ジャイ子が読プレ担当いたしまする(タマリン調)。モチのロン!(タマリン調、しつこい?)入手困難な商品から、「自分で金出すのはちょっと……、でも欲しい」って商品まで、集めましたので、みなさまにプレゼントするでござる(タマリン調、もういいか)。

『PRIDE.GP』の感動をもう一度!!

3名様

『桜庭和志vsホイス・グレイシー』
日本中を震撼させた5・1『PRIDE・GP』がビデオになります! 『桜庭vsホイス』(桜庭vsホイスをノーカット収録、モチのロン! 試合前後の二人の様子もバッチリ入ってます。2800円)と『PRIDE GRANDPRIX2000』(その他の試合収録・9500円)が同時発売。これは必見ですねぇ。今回は、発売を記念して『桜庭vsホイス』をプレゼント!
【メディアファクトリー提供】

1名様

海外版『PRIDE FC2000』Tシャツ
「海外版? どこで売ってんの?」と心配されたアナタ、大丈夫です。その他のPRIDEグッズ同様、通販で手に入ります。定価4000円。お問い合せ ドリームステージエンターテインメント ☎03-3552-6300
【ドリームステージエンターテインメント提供】

1名様

サクラバマシーンフィギュア
ついにサクフィギュアが発売! ってことではなく、読者の関口エミコさんの手作りフィギュアで〜す。ブタ小屋のような編集部にはもったいないので、お家のきれいな読者のかたにプレゼントしちゃいま〜す。なお、桜庭選手本人からのご応募があっても抽選です。
【関口エミコさん提供】

2名様

桜庭マスクTシャツ
ジャジャーン! 待望のサクマスクTシャツが登場です! 限定1000枚の中からM.Lサイズを各1名様にプレゼント(XLも作ってます)。こちらは4500円で絶賛発売中で〜す。商品のお問合せは高田道場 ☎03-5749-5030まで。
【高田道場提供】

8・6ビガロ興行開催!

チェーンTシャツ、ASK HIM Tシャツ、レッドシューズTシャツ
8・6北沢タウンホールで興行決定と、無茶きわまりないショップ、バンバンビガロさんからのプレゼント。当日は「紙プロ」提供試合もあるとの噂。どうしたいんだ、ビガロ! こちらの商品は各3900円で通販もやってます。お申し込みは☎03-3460-1145 か、HP・http://www.bambam88.com/まで。
【バンバンビガロ提供】

夏だ! 一番! Tシャツ祭り

各2名様

「LET`S WORK」Tシャツ、「RESET」Tシャツ

前号のプロディパーカーが大好評のグランドコブラの新作で～す。別名「ガチ禁止」Tシャツ、「原点回帰」Tシャツだそうです。トンチが利いてるね!　全7色、各2900円で絶賛発売中です。商品のお問合せは092-711-1021グランドコブラまで。

【グランドコブラ提供】

各1名様

格闘男Tシャツ

アラーキー激写の「格闘男」、当然みなさんもう買ったと思われますが、今度はTシャツも出しちゃいましたぁ。フロントは当然アラーキー先生の実筆、バックにもイカしたシルエットがプリントされてま～す。「どうしても欲しい!」って人はP112を見てチョンマゲ。

【メインキャスト提供】

各2名様

ダイエットブッチャーのステキなお洋服

「紙プロ」読者が知ってる唯一(?)の裏原系ブランド、ダイエットブッチャーさんからラブリーな象さんTシャツ(¥8500)、ショートパンツ(¥14000)を頂いちゃいました。マジ、かわいいッス(似合わなかったけど)。アレクTシャツ(¥3500)はバトの売店で絶賛発売中で～す。こちらは原宿のオクタゴン☎03-3486-5539で絶賛発売中で～す。

【ダイエットブッチャースリムスキン&バトラーツ提供】

各1名様

アンタッチャブルTシャツ、春一番Tシャツ、情念Tシャツ

こちらもIVYブックスさんで絶賛発売中! 春さんTシャツ(3900円)はサーファー仕様、インドア派のアナタは丘サーファーをきめこんでみるのもいいですね。アンタッチャブルTは3800円、情念Tは3500円で～す。

【IVYブックス提供】

各1名様

『あしたのジョー』&『タイガーマスク』Tシャツ

大好評、タイガーマスクシリーズの新作に加え、なんと今回はあしたのジョーTシャツも出ました!　ここは本屋さんじゃないのか?　Tシャツばっか売って大丈夫なのか?　と疑問は尽きませんが、いつもありがとうございます。各3900円で発売中。通販のお問合せは☎0568-31-0727　IVYブックスまで。

【IVYブックス提供】

フォーエバーUインター!!

各1名様

幻のUインターグッズ
キャーッ！ 凄いよ、マジで。Uインターのポロシャツは某所から入手した激レアアイテム。しかも新品。山ちゃん人形はUFOキャッチャーの景品と思われますが、ジャイ子が100円ショップで購入後、部屋に飾ってましたぁ。山ちゃん『RADICAL』初登場記念ってことで思い切ってあげちゃいます（タマリン調）。
【某関係者&ジャイ子提供】

衝撃映像がテンコ盛り

セットで2名様

『導夢衝激』1、2
「負けたら即引退」でおなじみの4・7新日ドーム大会を全試合完全収録！ オーチャン&破壊王の当日のドキュメント満載で〜す。各10200円で絶賛発売中！
【東芝EMI提供】

2名様

『ECWジャパン暴走！大パニック』
今年の2月から4月までの様子が手にとるようにわかる親切な一作。冬木&京子のFMWタッグ、性転換レスラー登場などなど、盛りだくさんでございます(タマリン調)。定価9500円、150分で見ごたえ十分です！
【東芝EMI提供】

よく見りゃ鬼レア多数!!

1名様

ミスターポーゴ・サイン色紙
WWS伊勢崎大会でスモー・ノブが、突然話し掛けてきた見知らぬおじさんにもらった一品。ポーゴ本人が書いたかどうかは定かではないが、きっと本物でしょう（楽観）。
【スモー・ノブ提供】

1名様

CZWステッカー&ホチキスセット
いま、ホチキスが熱い！（適当）。大日本プロレスから超限定アイテムが発売されました！ この世に50個しかないセットで〜す。このセットに惚れこんだノブが購入したものの、ホチキスなら会社にいっぱいあるということに気付いたため、放出で〜す。
【スモー・ノブ提供】

1名様

CZWサイン入りZIPPOオイル
いま大日本で人気沸騰中のCZWに本誌広告譲（大日本好き）のエミちゃんが決死の覚悟でサインを貰ってきたシロモノ。オイルが残ってて郵送は危険と思われるので、編集部まで取りに来てくださるかた限定でプレゼント。
【恵美ちゃん提供】

3名様

旭道山キーホルダー
超レアアイテムをスモー・ノブがごっちゃんしてきました ぁ。目立つとこにブラ下げれば、モテモテ間違いナシ！
【旭道山提供】

1名様

GAEAハンドタオル
クラッシュ2000の興奮がさめず、汗ダラダラかいてる諸君！ このタオルで拭け！ チェーンつきなので、超便利！頑張れば携帯ストラップにもなりま〜す。こちらはGAEAの売店で絶賛発売中！ 1200円です。
【GAEA JAPAN提供】

集めだしたら止まらない!?

セットで1名様

1名様

『FB WOMAN'S PRO WRESTRING 2000』
カードマニア待望の女子プロカードが発売されました！ こちらは1パック6枚入り400円、ボックス20パック入り、8000円。全288種類でスペシャルカードも盛りだくさんで〜す。今回は、こちらのボックスと、入手超困難の非売品の団体カード9枚セットをあげちゃいます(タマリン調)。
【ハドソン提供】

3名様

『ピーターパワー』バックル
激レア！ あの破壊王も新弟子時代に愛用した、ミスター高橋製作のバックル「ピーターパワー」です！ 知ってるぅ？ 「ピーターパワー」っていうのはスラングでぇ、グフフ、ボッキリョクで意味なんだってぇ。勉強になったぁ？ ジャイジャイ。
【ミスター高橋さん提供】

1名様

バトラーツネックピース
太いヒモに「これでもか！」って感じのロゴ入りネックピースが横行する昨今、バトからシンプルかつエレガンスなネックピースが発売されました。控えめなロゴが上品です。こちらは1000円でバト会場にて販売中で〜す。
【バトラーツ提供】

応募要項

ふぅ〜、久々の読プレは大変だなぁ。さて、希望商品が決まったア・ナ・タは、直ちにハガキに下の要領で記入の上、送って下さいねぇ。面白いハガキは、当たる確率ジャンプアップで〜す。よろしくね、ジャイジャイ。

応募券

1. 郵便番号・住所・電話番号
2. 氏名
3. 年齢・職業
4. 希望商品
5. 面白かった記事&その理由
6. つまらなかった記事&その理由
7. あなたの夢のカードは？
8. ヒクソンと闘って欲しい選手は？

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「食い道楽」係まで
※締切は7月20日です

紙のプロレス RADICAL
No.28
2000年7月25日発行

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
坂井“スモー”ノブ
松澤チョロ
大西タマリン(大ちゃんやったので辞めました)
堀江ガンツ
八木賢太郎(ポール師匠のライブで笑いすぎたため非番)

スーパーバイザー
吉田豪

広告営業
佐藤恵美

助っ人
中村愚乱
金田謙太郎
ジャイ子

アートディレクター
出田さん(TwoThree)

デザイン
ヒサくん
マツ
村松さん
セッキー
グッチー(以上TwoThree)

トメさん
はなえちゃん(以上さおとめの事務所)

古賀ゆきえ

出前
出前持ち入江(TwoThree)

カメラマン
斉藤ユーリ
遠藤政文
森鷹博
黒田史夫
戸成ぶつぞう
松本崇
吉場正和
村上厚志

試合写真
平工幸雄
乾晋也
片岡正行

お勘定
林ヘックション一枝

夏はチューブ!
中村カタブツ君(37歳)

フィニッシュ
ツー・スリー/さおとめの事務所

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元
株式会社ワニマガジン社
〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911(販売・営業)

発行元
株式会社ダブルクロス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188(編集・制作)

編集内容等に関するお問い合せは
(株)ダブルクロスにするでごわす。はぁ〜、どすこい!!

夏は目前!! 他人と違う着こなしを目指すなら、本誌の読者なら、そして……

モテたいならコレを着ろ!!

～紙のプロレス・Tシャツ通販カタログ2000～

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉

¥3,500 SorMorL

すっかりおなじみになったプロレスTシャツのNEWスタンダード！ 花くまゆうさく先生・画。

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉

¥3,500 SorMorL

最近、某団体も似た色のTシャツを出しましたね。こっちもカッコいいゾ！同じく花くまゆうさく先生・画。

SS Tシャツ長ソデ〈赤〉

¥4,500 SorMorL（SOLD OUT）

この春はこれを着てプロレス観戦に出掛けよう！ 花くまゆうさく先生・画。お買いあげの方には、もれなく特製ネックピースもプレゼント！

SS Tシャツ長ソデ〈紺〉

¥4,500 SorMorL（SOLD OUT SOLD OUT）

本誌のモットーであるスーダラ・スタイルを背負ってみよう！ 花くまゆうさく先生・画。お買いあげの方には、もれなく特製ネックピースもプレゼント！

リングおじさんトレーナー

¥5,500 MorL

バックのロゴに見覚えが……!? これからの季節、熱く燃えたい人はトレーナーを着てみよう！

ジャイ子Tシャツ

¥3,000 MorL ホワイトのMは売り切れ!!

ホワイトorアッシュグレー

スタイリストの伊賀大介さんもお気に入りの新作Tシャツ！ ハガキ劇場でおなじみの中川雅博画伯、入魂の作品です！

紙プロネックピース

¥1,200

首からブラ下げれば、みんなが振り向くこと間違いなし！ こんなにカッコいいネックピースはどこを探しても見当たらないぞ！ 長ソデでTシャツをお買いあげの方にはもれなくプレゼントします！

お問い合わせ先
(株)ダブルクロス
TEL03-3403-5188

通販方法

希望商品の代金＋送料¥500(何枚でも:ネックピースだけなら¥300)を現金書留で、下記住所まで送ってください。あなたの住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品(サイズとカラーをちゃんと書いてね♥)を明記したメモを必ず同封すること! これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。隣のページのバトTシャツと一緒に申し込みもOKですよ。通販以外では『チャンピオン東京店&大阪店』、札幌『リングパレス』、新たに仙台『スクワット』と岐阜県大垣市『バンザイ商会』で販売中なので、こちらもヨロシク! こちらで買っても長ソデTシャツにネックピースがついてきますので、ご安心あれ。

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
株式会社ダブルクロス「買っていいとも!!」係まで

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 142
2000 NO.28
「格闘リンク」続行ーッ!!
一つの決着は次のスタートを生んでいる!
平成12年7月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体800円＋税

バカを大まじめにやる!これぞエンターテインメントの神髄!!
東芝EMIはエンターテインメント・ショー・ビジネスの道を突きすすみます!

WRESTLE DISCO FEVER DX

あれから1年ー。信じられない衝撃が再び日本を直撃する!

「紙プロ」をご覧の賢明なるプロレスファンの方たちにはお馴染みのあの名盤『レッスル・ディスコ・フィーバー』の第2弾!!今回はとにかく内容がデラックス&ハードコア!

世紀末をぶっ飛ばせ!ダンス・ミュージック界に大問題発生!?
誰もが知っている"闘い"のテーマ曲が大和魂を揺さぶる強烈ディスコ・サウンドで超衝撃的に大登場!

◎"一芸入魂"春一番が己の存在理由を賭けて『炎のファイター』で"猪木語録"を熱唱!?
◎リングを彩った名曲『かけめぐる青春』が新ユニット『ビューティー・ペア2000』(キャンディー奥津&藤田 愛=アルシオン)で"デジタル"に"COOL"に復活!!
◎"セクシーグラビアクイーン"で格闘技ファンの岡元あつこと「トゥナイト2」「タモリ倶楽部」そしてFMWの問題実況でお馴染みの杉作J太郎が堂々のCD歌手デビュー!

レッスル・ディスコ・フィーバー・デラックス

TOCT-24379　¥2,500(TAX IN)

2000/6/28 IN STORES

1. 炎のファイター ～INOKI BOM-BA-YA～
(アントニオ猪木の入場テーマ)
HAL2000 MIX feat.春一番
2. 西部警察
FUNKY HOLLYWOOD 2000MIX
3. キューティーハニー
(キューティーハニーの主題歌)
GO-GO SEXY PUNCH MIX 歌：岡元あつこ
4. THE GAME OF DEATH
(死亡遊戯のテーマ)
CHINESE KUNG-FU SPARRING MIX
5. スピニング・トー・ホールド
(ザ・ファンクスの入場テーマ曲)
BIG TEXAS BEAT 2000 MIX
6. 仁義なき戦い
JINGI 2000 LATIN MIX
7. かけめぐる青春
TRIBAL TECHNO "COOL" MIX
歌：ビューティー・ペア2000
(キャンディー奥津&藤田 愛)
8. ENTER THE DRAGON
(燃えよドラゴンのテーマ曲)
HONG KONG GARAGE ROX MIX
9. 愛をとりもどせ!!
(北斗の拳の主題歌)
DYNAMITE SOUL "LOVE" MIX
歌：杉作J太郎&岡元あつこ
10. ゴジラ
CYBER MONSTER IN N.Y.2000 MIX

全曲 編曲・演奏：堀内太郎

NOW ON SALE!!
レッスル・ディスコ・フィーバー
TOCT-24154　¥2,500(TAX IN)

1 レッスル・ディスコ・フィーバー MEGA MIX
① オープニング～燃えよドラゴンのテーマ
② 炎のファイター
③ パワーホール
④ スカイ・ハイ
⑤ ワイルドシング
⑥ 吹けよ風 呼べよ嵐
⑦ スピニング・トー・ホールド
⑧ タイガーマスクのテーマ
⑨ キャプチュード
⑩ UWFプロレス メインテーマ
⑪ サンライズ
⑫ ロッキーのテーマ
⑬ アイアン・マン
⑭ 日本テレビ スポーツテーマ～エンディング
2 レッスル・ディスコ・フィーバー Radio MIX
3 炎のファイター AMAZON MIX
4 ENTER THE DRAGON 2000X

WRESTLE DISCO FEVER

★ 買ってからのお楽しみ
カラーブックレット8ページがまさに衝撃的写真館と化す!
これだけでも¥2,500の価値あり!

ご予約とお求めは全国のCDショップ、プロレスショップにて受付中!

TOSHIBA-EMI LIMITED　商品についてのお問い合わせは…東芝EMI(株)ST本部 映像部 ☎03(5512)1749

9784898296233
1929476008008
雑誌　69862-42
ISBN4-89829-623-8
C9476 ¥800E
印刷：図書印刷株式会社

TLINDEX

団体名	電話番号	住所
全日本プロレス	03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
新日本プロレス	03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15　ダヴィンチ下目黒6F
リングス	03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1　サトウビル202
WAR	03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23　萬豊ビル2F
みちのくプロレス	019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4　クロサキビル
パンクラス	03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1　四谷サンハイツ401
大日本プロレス	045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
バトラーツ	0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町2-158-1
DDT	03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
髙田道場	03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6　ワイルドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-50　K白金台ビル7F
大阪プロレス	06-6243-5131	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7　日宝東心斎橋ビル301
闘龍門JAPAN	078-362-0707	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り5-3-18
ダイプロデュース(大仁田興行)	03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-28-3　ハイラーク五反田505
世界のプロレス	093-203-5170	〒807-0054 福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6
掣圏道	03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14　恵比寿スカイハイツ607
レッスル夢ファクトリー	03-5828-8494	〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11
キングダム・エルガイツ	0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	044-959-3333	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1　横山ビルB1
国際プロレス	0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
メビウス	03-5382-6991	〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15
つぼプロモーション	03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1　アパルトマン青山2F-E
華☆激	092-522-1901	〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29　エステートピア薬院302
喧嘩プロレス二瓶組	044-244-8942	〒212-0055 神奈川県川崎市川崎区南町18-17　第5大昭ビル502
ZIPANG	0427-54-8851	〒229-0002 神奈川県相模原市渕野辺本町2-37-19 コスモハイグランド106
T.A.M.A	042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
CMLL・JAPAN	075-601-7816	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151
UNW	03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区4-4-5-311
日本プロ・レスリング協会(JPWA)	03-3351-2604	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-14-2F
栗栖ジム	06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	03-3552-6300	〒104-0033 東京都中央区新川2-3-9　新川第二ビル
K-1事務局	03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	03-3961-2704	〒173-0001 東京都板橋区本町34-4　石田コーポラス501
WK/Network(和術慧舟會、A^{3}GYM、RJW)	03-5200-3546	〒103-0021 東京都中央区日本橋石町3-3-11　山田ビル5F
シュートボクシング協会	03-3843-1212	〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8　ワコー花川戸ハイツ1～3F
UFC-J事務局	03-3343-2444	〒163-0430 東京都新宿区西新宿2-1-1　新宿三井ビル30F
怪獣王国	03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
コロシアム2000	03-3432-1682	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12　テレビ東京事業部内
全日本女子プロレス	03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10　大秀ビル502
LLPW	03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4　ビクセル文京105
GAEA JAPAN	03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3　COVAMOC BUILDING 2F
Jd’	03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-12-10　国際溜池ビル7F
アルシオン	03-5720-5217	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1　代官山島田ビル3F
NEO	03-5452-0344	〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-22-2-101

CUTIE HONEY
ATSUKO OKAMOTO

BEAUTY PAIR 2000
AI FUJIMOTO

BEAUTY PAIR 2000
CANDY OKUTSU

SUGGY STARDUST

WRESTLE DISCO FEVER

女優も女子プロレスラーも
杉Jも芸人なんだよ記念ポートレート

なぜ芸人なのかは
P151と表4広告を
見ろぉぉぉぉ!!

格闘芸術

「アントニオ猪木レッドバージョン」byヒロ杉山

AL CALENDAR

(18:30)
3:30)
ホール(18:30) ◆
(18:30)

15:00)

ー(18:30)

ZeppTokyo(17:00) ♠

抜水道橋店(16:00)お問い合

アリーナ(18:30)
2:00)

ーサブアリーナ(18:30)
:00)

8:30)

ル(18:30)

ンディ21(18:30)
0)

全女■神奈川・横浜市平沼記念体育館(18:30)

8 SAT.

新日本■宮城・古川市総合体育館(18:30)
全日本■栃木・小山ゆうえんちアメリカンビレッジ(18:00)
AAA■兵庫・神戸サンボーホール(18:30)
アルシオン■兵庫・高砂市総合体育館(18:30)
●トークライブ「通好みin新宿二丁目」■東京・ピプランシアター(18:30) お問い合せ☎0088-22-2503
●チャバリータASARIサイン会■福島・郡山「夢の星」(18:00)

9 SUN.

新日本■青森・青森県武道館(15:00)
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
AAA■大阪・IMPホール(15:00)
JWP&全女■東京・後楽園ホール(12:30)
Jd'■神奈川・クラブヘブン(16:00)
アルシオン■和歌山・大塔体育館(18:00)
●チャバリータASARIサイン会■東京・レッスル渋谷店(12:00)&東京・チャンピオン東京店(15:00)

10 MON.

新日本■秋田・秋田県立体育館(18:30)
新宿プロレス■東京・東京大飯店大会場

11 TUE.

新日本■岩手・岩手県営体育館(18:30)
全日本■大阪・大阪府立体育会館(18:30)
LLPW■東京・後楽園ホール(19:00)
みちのくプロレス組■東京・後楽園ホール(18:30)
●島田裕二トークショー「柔術とは何か?」ゲスト・平直行■東京・ロックウエスト(19:00)

12 WED.

新日本■青森・青森市民体育館(18:30)
全日本■高知・高知県民体育館(18:30)

13 THU.

全日本■愛媛・アイテムえひめ(18:30)
WAR■東京・後楽園ホール(18:30) ♠
DDT■東京・渋谷clubATOM(19:00)
JWP■東京・駒沢屋内球技場(18:30)

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇
◎ スモーノブ
♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江
♥ ジャイ子

14 FRI.

全女■東京・フジテレビ7F屋上庭園特設リング(時間未定)
●島田裕二トークショー「新・格闘男とは何か?」ゲスト・藤田稔■東京・ロックウエスト(19:00)

15 SAT.

新日本■北海道・函館市民体育館(18:00)
全日本■石川・七尾総合市民体育館(18:00)
大仁田興行■愛知・名古屋駅南旧笹島駅跡地(18:00)※雨天決行
全女■東京・フジテレビ7F屋上庭園特設リング(時間未定)
GAEA■静岡・アクトシティ浜松(18:00)

16 SUN.

新日本■北海道・江差町生涯学習センター体育館(15:00)
IWA■神奈川・横須賀臨海公園(17:00)
夢ファク■東京・北沢タウンホール(17:30)
全女■東京・フジテレビ7F屋上庭園特設リング(時間未定)
GAEA■大阪・IMPホール(17:00)

17 MON.

全日本■富山・富山産業展示館テクノホール(18:00)

18 TUE.

新日本■北海道・帯広市総合体育館(18:30)

19 WED.

新日本■北海道・旭川大成市民センター(18:30)
全日本■山口・海峡メッセ下関(18:30)

20 THU.

新日本■北海道・北海道立総合体育館センター(15:00)
全日本■福岡・博多スターレーン(18:00)
バトラーツ■大阪・IMPホール(13:00&17:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)
Jd'■東京・大田区民プラザ(時間未定)
LLPW■埼玉・本川越ペペホールアトラス(17:00)
GAEA■新潟・新潟フェイズ(15:00)

21 FRI.

全日本■岡山・倉敷山陽ハイツ体育館(18:30)
キャプチャー■東京・北沢タウンホール(19:00) ♥

22 SAT.

バトラーツ■愛知・名古屋レインボーホール第3競技場(17:30)
修斗■東京・北沢タウンホール
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
●青空プロレス道場■東京・西武百貨店池袋店イルムス館8F池袋コミュニティーカレッジ(18:30)

23 SUN.

全日本■東京・日本武道館(18:30) ◎
パンクラス■東京・後楽園ホール(14:00&19:00)
バトラーツ■東京・TOKYO FMホール(18:00)
イーグルプロ■栃木・小山市文化センター小ホール(13:00&18:30)

26 WED.

DDT■東京・北沢タウンホール(18:30)

27 THU.

みちのく■北海道・テイセンホール(18:30)
DDT■東京・渋谷clubATOM(19:00)

28 FRI.

みちのく■北海道・テイセンホール(18:30)
FMW■東京・後楽園ホール(18:30)

29 SAT.

JWP&全女■神奈川・川崎市体育館(17:30)
●コーセーアンニュアージュトーク 前田日明vs吉川晃司■東京・恵比寿ガーデンプレイス/ザ・ガーデンルーム(18:00) お問い合せ☎03-3464-0761

30 SUN.

新日本■神奈川・横浜アリーナ(17:00) ★
K—1■愛知・名古屋レインボーホール(時間未定)
Jd'■東京・北沢タウンホール(18:00)
NEO■東京・後楽園ホール(12:00)

格闘芸術ピンナップとは?

アントニオ猪木が提唱する21世紀の「新プロレス」の理想形を一番簡潔に表現した単語、それが「格闘芸術」だ。格闘が昇華して芸術になるならば、逆もまた真なり。芸術が昇華して格闘になる!! そんなわけで、闘うアーティスト作品を紹介していくのが「格闘芸術ピンナップ」である。今号登場してくれたのは、テイ・トーワのジャケット・デザインなどを手掛けるヒロ杉山さんだ!

ヒロ杉山■'62年7月9日生まれ。'86年に(株)フラミンゴ・スタジオに入社、湯村輝彦氏に師事する。'91年フリーとなり、'97年にデザイン事務所「エンライトメント」を設立。P104で登場していただいた村上隆氏がキュレーションを務めた『SUPER FLAT展』にも参加している。

RADICAL CAL

●はイベント情報です。

6 June

23 FRI.

FMW■愛知・東海市民体育館（18:30）
大日本■岡山・倉敷市水島緑地福田公園体育館（19:00）
アルシオン■北海道・旭川市大成市民センター（18:30）
●白鳥智香子CDキャンペーン■岡山・ぎんざやプレイガイド（18:30）お問い合わせ☎086-222-3244

24 SAT.

FMW■岐阜・古川町農業者トレーニングセンター（18:30）
みちのく■宮城・鳴子町スポーツセンター（18:30）
大阪■大阪・光明アムホール（19:00）
KKK■神奈川・平塚市南原タウンスクエア2F（12:00）
LLPW■千葉・ジャスコ大網白里店横特設リング（18:30）
Jd'■埼玉・戸田競艇場（9:50）
アルシオン■北海道・函館市民体育館（18:30）
●白鳥智香子CDデビューキャンペーン■香川・高松サティ（16:00）お問い合わせ☎087-823-1012

25 SUN.

新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
夢ファク■東京・板橋産文ホール（17:30）
栗栖ジム■大阪・刈田土地改良記念会館（13:00）
大阪■奈良・榛原町総合体育館（15:00）
全女■愛知・知立市福祉体育館（18:30）
LLPW■福島・原町公民館（14:00）
GAEA■大阪・IMPホール（15:00）
Jd'■神奈川・道場マッチ（14:00）
アルシオン■北海道・岩見沢スポーツセンター（13:00）
●白鳥智香子CDキャンペーン■徳島・フクタレコード（14:00）お問い合わせ☎088-652-7932

26 MON.

パンクラス■東京・後楽園ホール（19:00）
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ（19:00）
全女■兵庫・神戸サンボーホール（18:30）
FMW■群馬・伊勢崎市民体育館（18:30）
●Jd'スポーツ教室■神奈川・Jd'道場（19:00）コーチ：高橋洋子　お問い合せ☎03-5561-0522
●暗闇プロレス道場■東京・ロフトプラス1（19:00）

27 TUE.

新日本■新潟・長岡厚生会館（18:30）
大日本■兵庫・淡路勤労センター（18:30）
全女■岡山・岡山武道館（18:30）
●Jd'スポーツ教室■神奈川・Jd'道場（19:00）コーチ：ザ・ブラディー

28 WED.

新日本■栃木・宇都宮市体育館（18:30）
大日本■徳島・徳島市体育館（18:30）
全女■岡山・井原市運動公園体育館（18:30）

29 THU.

新日本■福島・ビッグパレットふくしま（18:30）
全女■岡山・備前運動公園体育館（18:30）
『P★MIX.GP』みちのく&バトラーツ&アルシオン■東京・後楽園ホール（18:30）
DDT■東京・北沢タウンホール（18:30）♥
●Jd'スポーツ教室■神奈川・Jd'道場（19:00）コーチ：ファング鈴木

30 FRI.

新日本■神奈川・海老名運動公園総合体育館（18:30）
バトラーツ■青森・青森体育館サブアリーナ（18:30）
ユニオン・プロレス■東京・板橋産文ホール2Fホール（18:30）◆
JWP■東京・JWPホール＜東天紅上野店＞（18:30）

7 July

1 SAT.

新日本■滋賀・滋賀県立体育館（18:30）
全日本■東京・ディファ有明（18:00）◆
大日本■新潟・新潟フェイズ（18:30）
バトラーツ■宮城・仙台市体育館サブアリーナ（15:00）
華☆激■福岡・天神ベストホール（17:30）
大阪■大阪・光明アムホール（19:00）
全女■栃木・矢板市農業者トレーニングセンター（18:30）
Jd'■東京・板橋産文ホール（18:00）
NEO■東京・金町地区センター（18:00）
WKネットワーク『コンテンダーズ2000』■東京・ZeppTokyo（17:00）♠

2 SUN.

新日本■岐阜・岐阜産業会館（16:00）
全日本■東京・後楽園ホール（12:30）
大日本■東京・後楽園ホール（18:30）◎
バトラーツ■岩手・一関文化センター体育館
大阪■大阪・光明アムホール（15:00）
全女■東京・ディファ有明（13:00）
LLPW■東京・ディファ有明（18:30）
Jd'■大阪・NGKスタジオ（15:00）
●桜庭和志サイン会■東京・フィットネスショップ格闘技水道橋店（16:00）お問い合わせ☎03-3265-4646

3 MON.

新日本■岡山・岡山県体育館（18:30）
バトラーツ■福島・福島市国体記念体育館サブアリーナ（18:30）
KKK■神奈川・相模原市相原いこいの広場（12:00）

4 TUE.

新日本■兵庫・高砂市総合体育館（18:30）
全日本■静岡・キラメッセぬまづ（18:30）
バトラーツ■山形・山形市総合スポーツセンターサブアリーナ（18:30）
●チャバリータASARIサイン会■愛知・IVYブックス（16:00）

5 WED.

全日本■山形・山形市総合スポーツセンター（18:30）
AAA■東京・後楽園ホール（18:30）

6 THU.

新日本■山形・米沢市営体育館（18:30）
全日本■山形・鶴岡市体育館（18:30）
DDT■東京・渋谷clubATOM
AAA■神奈川・横浜アリーナ　センテニアホール（18:30）

7 FRI.

K—1JAPAN■宮城・宮城県総合体育館グランディ21（18:30）
AAA■愛知・名古屋ダイヤモンドホール（18:30）

全女■神奈川・横浜

8 SAT.

新日本■宮城・古川
全日本■栃木・小山
AAA■兵庫・神戸
アルシオン■兵庫・
●トークライブ「通好み
せ☎0088-22-2503
●チャバリータASARI

9 SUN.

新日本■青森・青森
全日本■東京・後楽
AAA■大阪・IMPホ
JWP&全女■東京
Jd'■神奈川・クラブ
アルシオン■和歌山
●チャバリータASAR
東京店（15:00）

10 MON.

新日本■秋田・秋田
新宿プロレス■東京

11 TUE.

新日本■岩手・岩手
全日本■大阪・大阪
LLPW■東京・後楽
みちのくプロレス組
●島田裕二トークショ

12 WED.

新日本■青森・青森
全日本■高知・高知

13 THU.

全日本■愛媛・アイ
WAR■東京・後楽
DDT■東京・渋谷c
JWP■東京・駒沢

14 FRI.

全女■東京・フジテ
●島田裕二トークショ
ト（19:00）

15 SAT.

新日本■北海道・
全日本■石川・七
大仁田興行■愛知
全女■東京・フジテ
GAEA■静岡・ア

16 SUN.

新日本■北海道・
IWA■神奈川・横
夢ファク■東京・北
全女■東京・フジテ
GAEA■大阪・IM

17 MON.

全日本■富山・富

18 TUE.

新日本■北海道・

19 WED.

新日本■北海道・